

専門業者様向け

アイジーサイディング 施工説明書

木造新築用

SP-ガルスクエア

2025年3月版

施工説明書のご使用にあたって

- 施工説明書は、アイジーサイディングを安全に正しく施工をしていただくための重要な情報を記載しています。
 - 施工説明書に記載の基本事項をご理解の上、実際の現場に即した、安全で確実な設計と施工を行っていただきますようお願い致します。
-

- アイジーサイディングの保証には、施工説明書に記載された方法に従って取り扱いいただくことが必要です。
 - 施工説明書に記載している設計基準・施工基準を満たさない納まりや施工方法は、弊社では責任を負いかねますので、元請様や工事店様のご判断とご責任の上で行っていただくようお願い致します。それらの納まりや施工方法については、弊社は免責とさせていただきます。
 - 施工説明書に掲載している納まりや施工方法は、アイジーサイディングの機能や性能を確保するための代表的な例です。
 - 施工説明書は、掲載していない納まりや施工方法を制限するものではありませんが、アイジーサイディングの機能や性能を確実に確保できる方法を選定してください。
 - 施工説明書内で示す寸法値は、設計値です。施工においては、納まりの状況により前後することがあります。
 - 元請様と弊社が協議し、別に定めた施工説明書がある場合は、本施工説明書の定める限りではありません。
 - 施工説明書は、最新の見聞、検証により予告なく記載仕様の一部を改訂する場合があります。最新の施工説明書を参照ください。
-

目

次

1	取り扱い時のお願い.....	1
2	外壁材の維持管理について.....	6
3	本体・部材規格図.....	8
4	施工に必要な工具と材料.....	10
5	施工の手順とポイント.....	12
6	各部位の納まり図.....	33
7	部材の加工例とつなぎ方.....	61
8	シーリング軽減工法.....	69
	8-1. 施工前の確認事項.....	70
	8-2. 施工の手順とポイント.....	71
	8-3. 各部位の納まり図.....	79

9	防耐火認定.....	100
	9-1. 建築基準法の制限	101
	9-2. 防耐火構造認定	103
10	物性一覧	111
11	免責事項	112

1 取り扱い時のお願い

アイジーサイディングは壁材です。壁以外の部位に使用しないでください。

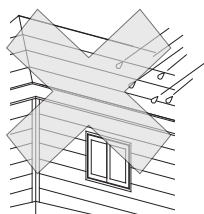
⚠ 警告：死亡または重傷を負う可能性が想定される場合の表示です。

1. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。風にあおられる、雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
2. 高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
3. アイジーサイディングは、電線に接触すると感電する可能性があります。電気配線に注意し、感電防止策を講じてください。

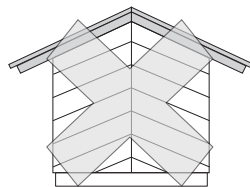
⚠ 注意：取り扱いをあやまると障害を負う危険や物的損害などの可能性が想定される場合の表示です。

●設計上の注意

傾斜のあるパラペットへ使用しないでください。
漏水の原因となります。



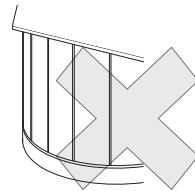
指定の張り方向以外では使用しないでください。
斜めに張る、またはたて張り専用の商品をよこ張りで張るなどは、漏水の原因となります。



乱張り施工をしないでください。
千鳥調に張るなどの行為は、漏水の原因となります。

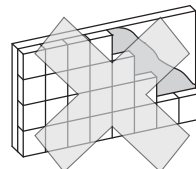


曲面壁へ施工しないでください。
曲面壁に施工すると、耐風圧強度の低下や、かん合部からの漏水を招くおそれがあります。

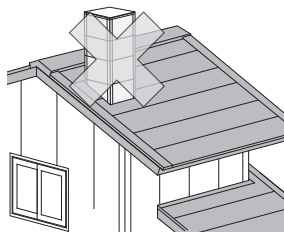


異種金属との取り扱いには注意してください。
銅屋根などの異種金属からの雨水が接触すると電食が起こる場合があります。また、ステンレス製の付帯物などの異種金属が直接接触すると電食が起こる場合がありますので、ご注意ください。

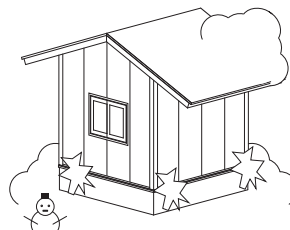
タイルなどの直張り、セメントスタッコなどの上塗りをしないでください。
剥離や脱落の原因となります。



常に高温の環境下にある煙突や暖炉などの部分に使用しないでください。
変形や反り、耐久性が低下する原因となります。防火のため、取り扱い部はめがね石などを使用してください。



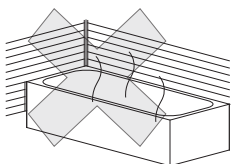
積雪を考慮した対処をしてください。
アイジーサイディングに雪が当たらないように対処してください。
特に積雪の影響を受けやすい土台部・下屋見切り部は、縦用スターター25が変形するおそれがあるため、縦用スターター 25の使用をお勧めします。



局所的に強い光が当たり、表面温度が著しく上昇するような環境は避けてください。変形するおそれがあります。

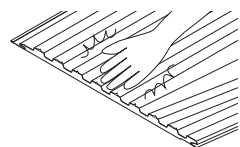
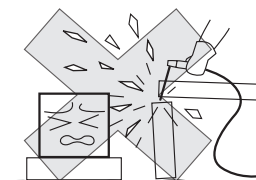
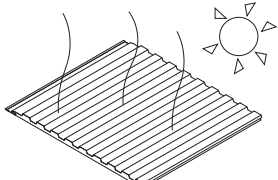
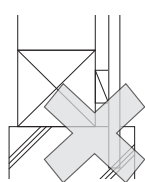
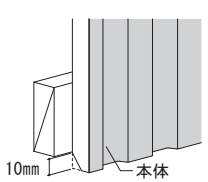
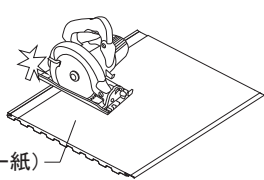
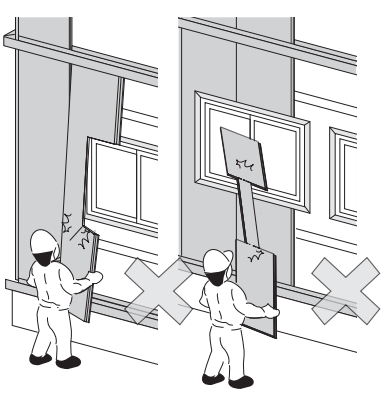
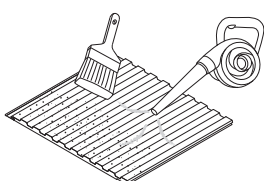
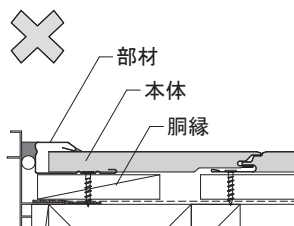
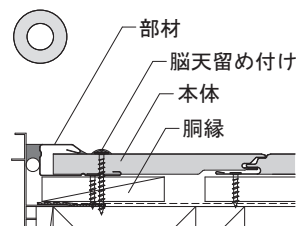
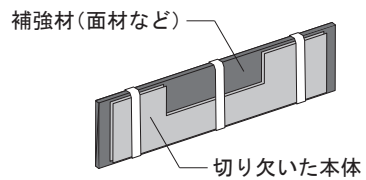
開口部下は雨垂れによる汚れが目立つ場合があります。必要に応じて窓下水切などの使用をご検討ください。

常時水や蒸気のかかる温泉地帯や風呂などで使用しないでください。
熱の影響により耐久性が低下する原因となります。



透湿防水シート、またはアスファルトフェルト 430 以上（通気構法以外）を使用してください。

建築基準法及び関係法規に適合した設計を行ってください。

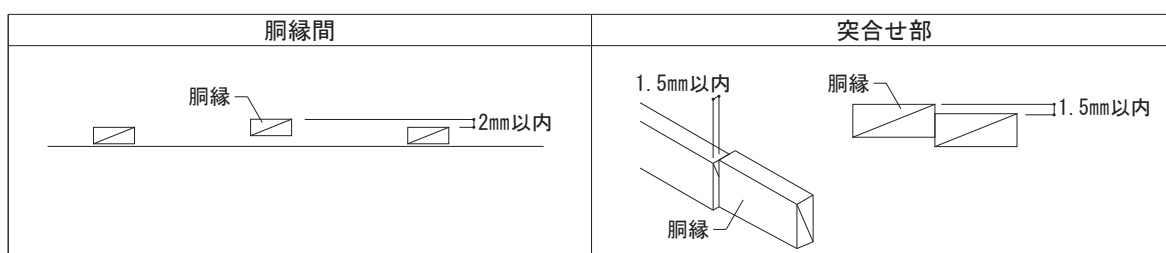
●安全作業上の注意	
取り扱いの際は、ゴム付き手袋や保護メガネなどの適切な保護具を着用してください。けがをするおそれがあります。 	現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。けがをするおそれがあります。 
溶接の炎、火花などが当たると商品を傷めたり、火災のおそれがありますので、養生するなど特に注意してください。 	真夏の日射が強いときは、表面鋼板の温度が高くなり、やけどのおそれがありますので注意してください。 
アイジーサイディングを安全に使用・取り扱いをするため、安全データシート（SDS）を事前に確認してください。SDSは、弊社ホームページに掲載しております。	
●施工上の注意	
基礎モルタルにアイジーサイディングを埋め込んで施工しないでください。モルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。 	土台部や縦継ぎ部等で本体の端部をあらわしで納める際は、しん材の吸水を防ぐため、本体の下部からしん材を10mm程度取り除いてください。 
表面鋼板のすりキズ防止のため、本体の裏面側を上にして切断してください。なお、本体形状に応じて、本体を安定した状態にして切断してください。  裏面(アルミライナー紙)	開口部などで本体を切り欠いて施工する場合は、本体を変形させるような無理なめ込みはさけてください。しん材や裏面材が破損した本体は使用しないでください。時間の経過とともに表面の変形が大きくなるおそれがあります。 
さびや汚れの原因になりますので、アイジーサイディングを切断した際に出る切粉は、ハケなどで必ず払ってください。 	
部材のみで本体を固定しないでください。本体の脱落の原因となります。必ず留め具で留め付けてください。   部材 本体 胴縁 部材 胴天留め付け 本体 胴縁	本体を切り欠き加工すると強度が低下して破損しやすくなります。本体を切り欠いて使用する場合は、本体がゆがまないように、切り欠いた部分に補強材（面材など）を当てて運搬してください。また、しん材や裏面材が破損した本体は使用しないでください。  補強材(面材など) 切り欠いた本体

アイジーサイディングの施工後に、電気機器や縦樋などの後付け部材を施工する際は、アイジーサイディングに直接取り付けず、必ず下地材に固定してください。脱落や破損する可能性があります。	本体は、働き幅で施工してください。働き幅より広い幅で施工すると、水密性や耐風圧強度などで十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります。
---	---

- キャップ系部材はそれぞれの専用下地または捨板に正しくはめてください。正しくはめられていないと脱落のおそれがあります。また、建物の高さが13mを超える部分にキャップ系部材を使用する場合は、脱落防止のため脳天ビス留めをしてください。

キャップ系部材：出隅キャップ、止縁キャップ

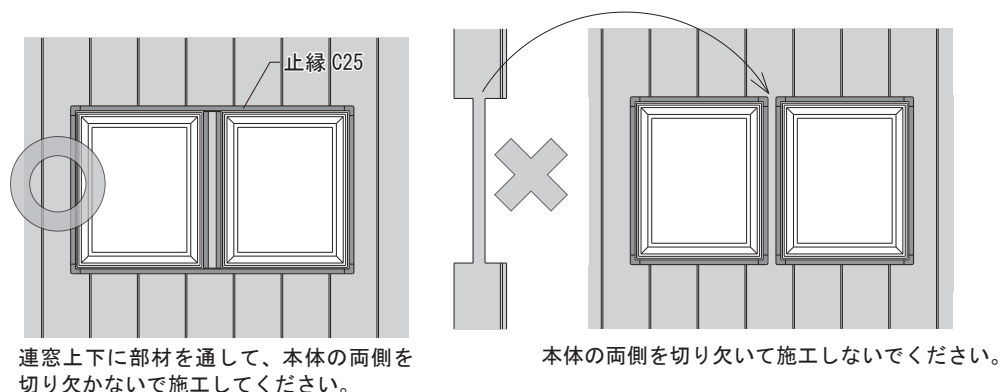
- 本体を施工する前に、胴縁の不陸を確認し調整をしてください。木胴縁は、胴縁間は2mm以内としてください。SP-ガルスクエアは、表面がフラットです。下地の跡が強調される可能性があります。突合せ部は1.5mm以内としてください。



●SP- ガルスクエアの施工上の注意

SP-ガルスクエアは、表面がフラットです。光の具合によって、表面のゆがみや下地の跡が強調される場合があります。下の注意事項を確認いただき、取り扱いには十分に注意してください。

- ①本体を取り扱う際は、きれいな手袋などを使用し汚れやキズがつかないように注意してください。
- ②本体を運搬する際は、無理な力がかからないように丁寧に運搬してください。
- ③本体を施工する前に、胴縁の不陸を確認し調整をしてください。木造2mm以内。突合せ部1.5mm以内。
- ④本体を施工する際は、割り付けを行って本体に無理な力がかからないようにしてください。無理に押し込むと、ゆがみの原因となります。
- ⑤本体の強度が著しく低下し、変形するおそれがありますので、本体の両側からの切欠き加工は行わないでください。詳細は、P25を参照ください。
- ⑥開口部など、本体を切り欠いて施工するときは、本体の裏面にしわが入ったり歪んだりしないよう、切り欠いた部分に補強材を当てて運搬してください。また、しん材や裏面材が破損した本体は使用しないでください。
- ⑦本体のかん合部を切り欠いた箇所では、下穴をあけてから脳天打ちをしてください。留め具は、打ち込みすぎないでください。
- ⑧キズを補修する際は、純正のタッチアップペイントを薄く重ね塗りすることを推奨します。補修部分は目立ちますので、できるだけ丁寧な取り扱いをお願いします。



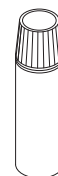
●シーリング工事について

- ・純正のアイジーシーリング「エコシーリング」、または推奨品を使用してください。推奨品は、P37を参照ください。
- ・エコシーリングホルダーは、エコシーリングを施工する際に必要です。エコシーリングホルダーは、繰り返し使用できます。
- ・本体と部材のすき間から雨水の浸入を防ぐため、必ず指定の位置にシーリング材を施工してください。(各納まり図参照)
- ・シーリング材はしん材には接着しません。切断面にシーリング材を施工する場合には、必ず表面材に箱折加工を施してください。
- ・接着不良の原因となりますので、気温5℃以下でのシーリング工事は避けてください。
- ・環境の厳しい地域では、シーリング材の接着強度を上げるため、プライマーの使用を推奨します。
- ・樹脂サッシプライマーを施工する際は、サッシメーカーに施工可能かお問い合わせください。
- ・推奨プライマー以外の使用は、商品の表面塗装を傷めるおそれがあります。
- ・シーリング材の被着面以外にプライマーが付着しないように注意してください。商品に付着したプライマーの除去作業により、表面塗装を傷めるおそれがあります。
- ・シーリング材が薄い箇所は劣化が早く進みシーリング切れの原因となります。シーリング材のこまめな点検、補修をしてください。
- ・降雨・降雪時の施工は行わないでください。また、シーリング材が硬化する前に水に濡れないようにしてください。(接着不良、意匠不良の原因となる恐れがあります)

●補修上の注意

■タッチアップペイント（純正品）による補修について

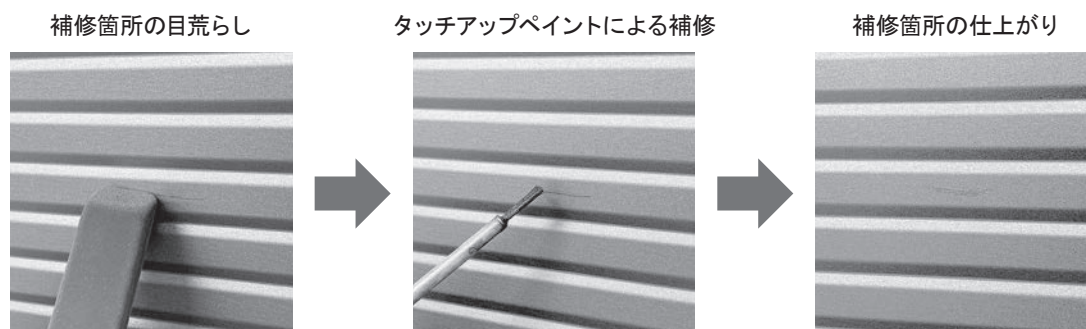
タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なキズの補修に使用します。
本体や部材の変形を伴うキズや広範囲にわたる塗装には使用しないでください。



(1) 補修手順

- ①補修箇所に汚れ、ほこり、水分などがある場合は、布などで拭き取ってください。
- ②遮熱性フッ素樹脂塗装ガルバ鋼板の商品にタッチアップペイントを使用する場合は、密着性を高めるために砂消しゴムなどで補修する箇所の目荒しを行ってください。
- ③タッチアップペイントは使用前に容器を振り十分に攪拌してください。容器を振る目安は、カタカタという音が聞こえてから30秒以上です。
- ④商品の端材や目立たない箇所で試し塗りをを行い、色調を確認してください。
- ⑤補修する箇所にタッチアップペイントを薄く重ね塗りしてください。補修箇所は塗料の性質上、色調に差異が生じる場合がありますので、できるだけ丁寧な取扱いをお願いします。

補修例（SF-ガルステージシャイン Fシルバーメタリック）

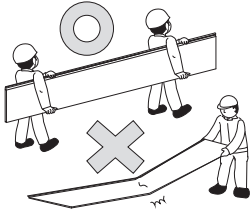
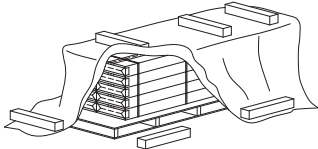
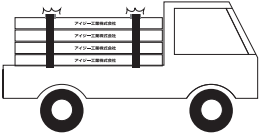
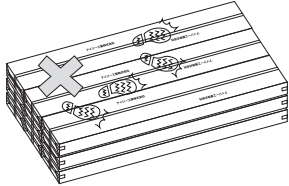


(2) 注意事項

- ・タッチアップペイントは常乾タイプの塗料で、本体、部材は塗料タイプが異なります。このため、色調や艶などに差異が発生し補修箇所が目立つことがあります。
 - ・塗装場所の気温が著しく低い場合（5℃以下）、雨や露などにより被塗面が濡れる場合、換気が十分でなく結露が考えられる場合は、補修を避けてください。
 - ・補修した部分に水が関与すると、白化や艶の低下の原因になりますので、作業の際は以下の注意事項をご確認ください。
- ①塗装後、降雨、積雪、結露が予想される場合や高湿度時の塗装は避けてください。
 - ②気温が低くなると乾燥が極端にしにくくなります。夕方までに表面が乾くように作業時間を調整してください。急ぎ作業の際は、ドライヤーなどで補修部分を完全に乾燥させてください。

■アルミライナー紙の補修について

- ・尖った物などでアルミライナー紙が損傷した場合は、必要に応じて市販のアルミテープなどで補修してください。

●運搬・保管上の注意	
・1ケースあるいは開梱した本体を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。運搬に必要な人数は、6m未満は2人以上、6m以上は3人以上を目安にしてください。	 ・屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。 
・ロープの締め付けが強すぎるとアイジーサイディングの破損につながるおそれがありますので、過度の締め付けを避けるとともに角部には当て板を入れてください。	・アイジーサイディングの上に人が乗ったり重量物を載せたりしないでください。  
・長尺品は現場の状況により配送できない場合がありますのでご注意ください。	
●その他	
・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合などからまれに音が発生する場合があります。 ・本体の裏面（アルミライナー紙）にしわや凹凸が発生している場合がありますが、商品の性能に影響はありません。 ・サイディング本体裏面に現場発泡ウレタンなどを吹き付けすると、吹き付けた現場発泡ウレタンなどの硬化収縮の影響でサイディング本体表面に凹凸が発生する場合があります。現場発泡ウレタンなどはサイディング本体に影響が出ないように、面材などを施工してから吹き付けてください。	

2 外壁材の維持管理について



安全に関する ご注意

- ・お施主様ご自身で高所作業を伴う点検やお手入れは絶対に行わないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・点検は、外壁を目視で確認できる範囲にとどめてください。高所作業の場合は、専門業者様に相談してください。
- ・再塗装などの補修工事はお施主様ご自身では絶対に行わないでください。
- ・ハンゴや脚立などはサイディング面に直接立て掛けしないでください。キズ・へこみが生じるおそれがあります。

維持管理の目的

住宅のロングライフ実現に向けて適切なメンテナンスが必要です。

大気中にはアイジーサイディングの表面基材の腐食の原因になるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海岸地帯の海塩粒子、凍結防止剤など、多種多様な要因があります。近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性の低下やさびの発生に至る場合があります。住宅の長寿命化を実現するためのひとつとして、アイジーサイディングの適切なメンテナンスが重要であり、外壁の性能を維持するために定期的な維持管理をお勧めします。

メンテナンススケジュール(モデルケース)

		施工後年数					
		5年	10年	15年	20年	25年	30年～
クリーニング		年数回					
日常点検		年1回程度					
定期点検		■	■	■	■	■	■
メンテナンス	遮熱性フッ素 インクジェット塗装品※1						■
	遮熱性フッ素樹脂塗装品					■	■
	ポリエステル樹脂塗装品※1				■	■	■
	シーリング		■	■	■	■	■

■…塗り替え※2 ■…張り替え※3 ■…部分補修・打ち替え

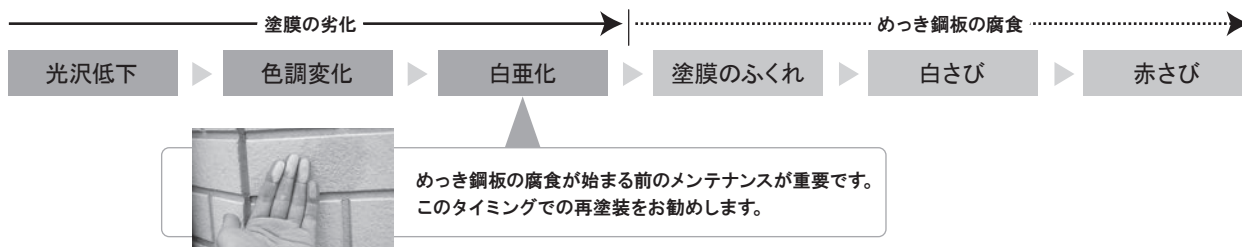
- ・塗り替えは、表面状態を確認の上で判断してください。変色が著しく、白亜化が現れた状態が塗り替え時期とみなせません。
- ※1 遮熱性フッ素インクジェット塗装品、ツートン塗装品に上塗り塗装した場合、初期の風合いを再現することはできません。
- ※2 2回目以降の塗り替え時期は塗料タイプにより異なります。使用される環境、耐用年数などを検討の上、専門業者様とご相談ください。
- ※3 張り替え時期については、専門業者様に建物全体の躯体状況を確認の上、総合的に判断してください。

注意

- ・メンテナンススケジュールは目安として活用してください。住宅の地域や環境により表面劣化の進行状況が異なります。
- ・メンテナンス時期を保証するものではありません。

塗膜の耐久性について

塗膜は、太陽光線、雨（水）、大気中の酸素、腐食性因子（塩素イオン、酸性イオンなど）により劣化します。その過程において塗膜の白亜化が発生します。白亜化（チョーキング）とは、塗膜表面の樹脂が無くなり顔料が表面に粉状に現れ、触ると手に粉が付く現象をいいます。白亜化の後に、めっき鋼板の腐食が始まります。劣化の経時変化は下記のように進みます。



クリーニング

外壁を美しく保つために、年に数回の水洗いをしてください。

アイジーサイディングは、めっき鋼板の中でも耐久性に優れたガルバ鋼板を使用しております。しかしながら、汚染物質の長期付着により数年で表面にシミや白さび・黒さびが発生した例が報告されております。これらの現象は外壁材の機能上支障をきたすものではありませんが、外観が損なわれるため表面塗装の塗り替え時期を早めてしまいます。外壁表面に付着している大半の汚染物質は水洗いで落とすことができますので、立地条件に合わせた回数のクリーニングを行う事で、美しい外観を長期間保つことが可能となります。

■クリーニング回数の目安

海岸地帯

年 4 回

工業地帯

年 3 回

市街地

年 2 回

田園地帯

年 1 回

大気汚染の状況に応じて、さらに年間の洗浄回数を増やすことをお勧めします。

■アイジーサイディングのクリーニング方法

1 水洗いにより、塵や汚れを洗い落とし、
柔らかいスポンジや布で十分に水洗いしてください。

2 水洗いで取れない汚れなどは、
中性洗剤（1～2%の水溶液）を使用し、
最後に水洗いしてください。



【注意事項】

- ・強くこすったり、固いブラシ、研磨性のあるスポンジなどを使用すると塗膜表面にキズが付き腐食を招くおそれがあります。
- ・水切部や、下見切り部、窓上などのサイディング本体を切断してシーリング材を施していない場所には、ホースなどで下から直接水をかけないでください。
- ・クレンザーなどの研磨剤入りの洗剤や、酸性やアルカリ性の洗剤は、塗膜を傷め変色・褪色を招くおそれがありますので、絶対に使用しないでください。
- ・シンナーなどの有機溶剤やタイル洗浄剤などは塗膜を破壊するおそれがありますので、絶対に使用しないでください。
- ・中性洗剤を使用した後は十分な水洗いを行い薬剤を洗い流してください。
- ・洗浄後は、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。

■クリーニングのポイント

塗膜の劣化や鋼板の腐食は、塵やほこり、酸性雨や酸性雪に含まれる自然からの汚染物質と、車や給湯器・暖房機などの排気・燃焼ガスによる汚染物質が、雨や水蒸気などにより外壁に滞留して進行します。よって、雨水が当たりにくく汚染物質が流れにくい部分や過度に汚れがひどい部分（右記参照）を重点的に洗浄すると効果的です。



重点洗浄箇所

- 1 軒下
- 2 バルコニーや出窓の下
- 3 アルコーブなどの内部に入り込んだ所
- 4 庇の下
- 5 給湯器・暖房機などの燃焼ガスの発生する所
- 6 外壁下端部

日常点検

目視にて確認できる範囲で、年1回程度を目安にお施主様ご自身で行ってください。

本体の点検

商品本体にキズ、へこみ、浮きなどがいないか目視で点検してください。

部材の点検

部材にキズ、へこみ、浮きなどがいないか目視で点検してください。

塗膜の点検

塗装表面に白亜化、変色、さびなどが発生していないか目視で点検してください。

シーリングの点検

シーリングに剥離、亀裂などが発生していないか目視で点検してください。

- ・地震や台風の後には随時外壁材の点検を行ってください。
- ・気になる不具合を発見した場合は、早めに専門業者様に相談してください。（費用はお施主様負担となります。）

定期点検

5年に1回を目安に専門業者様による点検を実施するようお願いします。（費用はお施主様負担となります。）

※点検項目は、日常点検の項目を基本としたものになります。

次のような場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

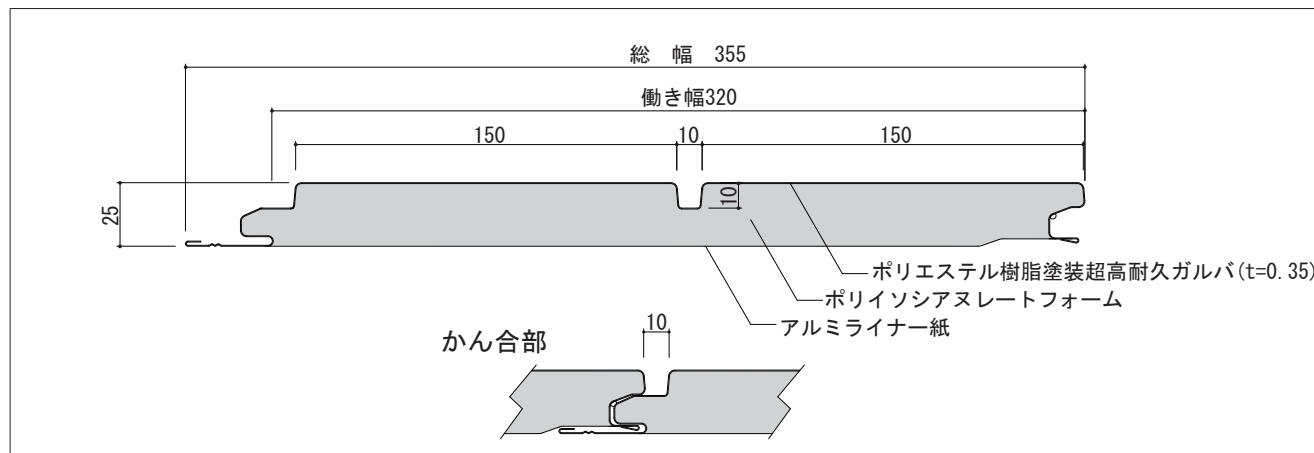
- ・施工店様による施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
- ・所有者、入居者、管理者の維持管理の不注意・装置の取り付け・改修・改築により不具合が生じた場合。
- ・所有者、入居者、管理者または第三者の故意・過失などにより不具合が生じた場合。
- ・天変地異・周囲環境・大気汚染・塩害などの特殊環境下で不具合が生じた場合。
- ・通常の経年変化による変色・汚れなどが生じた場合。
- ・建物の構造体に起因した変形・変位が原因で不具合が生じた場合。
- ・シーリング部、及び現場塗装により不具合が生じた場合。
- ・サイディング本体、及び部材に付着した切粉・加工屑・落ち葉・動物の排泄物・粉塵などが原因で不具合が生じた場合。
- ・水が滞留する部分の塗膜損傷、及び電食作用が原因で不具合が生じた場合。
- ・くぎ部のさびまたはもらいさび、及びカビによる汚染などが生じた場合。
- ・建築基準法、及び関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
- ・本来の目的以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。

3 本体・部材規格図

SP- ガルスクエア

1. 本体形状断面図

単位：mm



2. 本体規格

働き幅	320mm
総幅	355mm
厚さ	25mm
重量	18.4kg/3.3㎡
入り数	6枚
張り方向	たて張り

	長さ	入り数面積	発注単位
標準品	4,000mm	2.33坪(7.68㎡)	1ケース
受注生産品	2,780mm~8,000mm (10mm単位で設定可)	—	1色、1回のご注文につき 1サイズ5ケース以上

・「受注生産品」の納期・配送・引き取り方法などにつきましては、事前に必ずご確認ください。

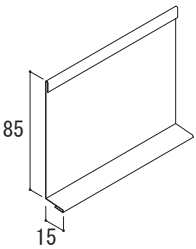
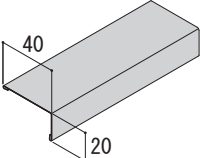
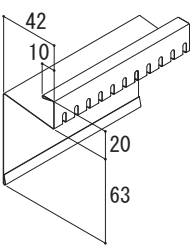
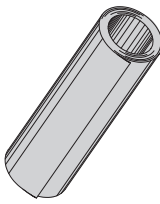
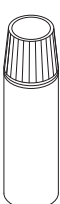
3. 部材規格

部材の材質は、ガルバ鋼板（t=0.35）です。

商品名	水切25	縦用スターター25 ^(注1)	アルミ縦用スターター25	止縁C25	ワンタッチコーナーキャップ15-25
商品図			材質：アルミ押出品 積雪地推奨 		
梱包単位	10本/包	10本/包	10本/包	10本/包	50個/箱
適用部位	土台部・縦継ぎ部	土台部・縦継ぎ部・下屋見切り部	土台部・下屋見切り部	軒部・開口部・入隅部	開口部
商品名	止縁キャップ25	止縁捨板	3M出隅キャップ15-25	4M出隅キャップ15-25	出隅下地25N
商品図					
梱包単位	5本/包	10本/包	4本/包	4本/包	4本/包
適用部位	軒部・開口部・入隅部	軒部・開口部・入隅部	出隅部	出隅部	出隅部

3. 本体・部材規格図

単位：mm

商品名	捨板(15×85)	アングル(20×40)	通気軒見切15-25	10Mコイル	タッチアップペイント ^(注2)
商品図	 L=3,030	 L=3,030	 L=3,030	 W=914 L=10m	 内容量：15ml
梱包単位	10本/包	10本/包	10本/箱	1本/箱	—
適用部位	開口部	—	軒部	現場加工用	補修用
商品名	エコシーリング ^(注3)		エコシーリングホルダー		
商品図	材質：変成シリコン  別売りホルダーが無いと 使用できません。 内容量：320ml				
梱包単位	10本/箱		2本/箱		
適用部位	—		—		

・超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板です。

(注1)・土台部、下屋見切り部に積雪の影響(雪の負荷)のある地域では、縦用スターター 25は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター 25の使用をお勧めします。

(注2)・タッチアップペイントと商品は塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

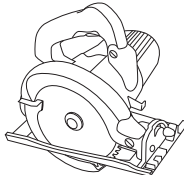
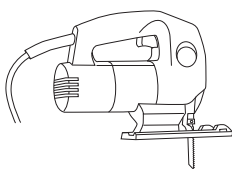
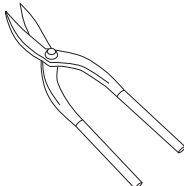
・タッチアップペイントの使用上の注意に関しては、P4をご覧ください。

(注3)・環境の厳しい地域では、シーリング材の接着強度を上げるため、プライマー(推奨品：サンスター技研株式会社 品名US-5)の使用を推奨します。

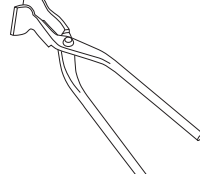
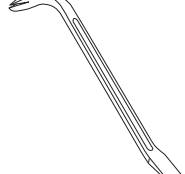
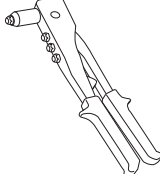
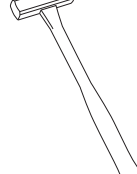
4 施工に必要な工具と材料

1. 施工に必要な工具

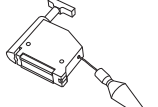
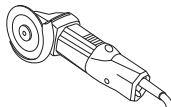
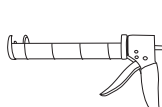
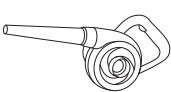
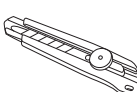
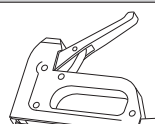
1) 切断に使用する工具

電動丸のこ	ジグソー	金ばさみ
		

2) 取り付けに使用する工具

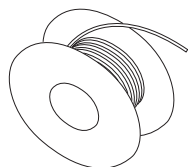
インパクトドライバー	つかみ	釘しめ	釘抜き	リベッター	ハンマー/プラスチックハンマー
					

3) その他の工具

墨つぼ	下げ振り	水系	スケール	グラインダー	はけ	シーリングガン
						
矩尺	ブロワー	保護メガネ	カッター	タッカー	水平器	
						

2. 施工に必要な材料

- ・バックアップ材
- ・マスキングテープ



- ・推奨シーリング材

純正のアイジーシーリング「エコシーリング」以外に、下記シーリングが使用できます。

メーカー名	商品名	備考
サンスター技研株式会社	ペンギンシール2550HM	1成分形、変成シリコン系
コニシ株式会社	ボンド 変成シリコンコーク	1成分形、変成シリコン系
	ボンド マルチコーク	1成分形、変成シリコン系

- ・環境の厳しい地域では、シーリング材の接着強度を上げるため、各メーカー推奨のプライマーをご使用ください。

3. 施工に必要な留め具

1) 取り付け留め具対応表

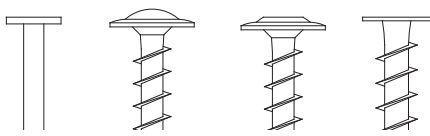
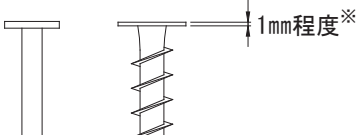
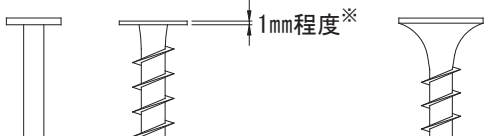
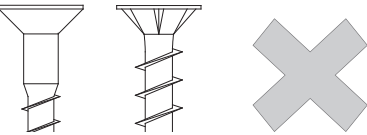
留め具の長さは防耐火構造認定に従ってください。

防耐火構造認定を必要としない場合は下の表に従ってください。

材質は、ステンレスまたは亜鉛めっきを推奨します。

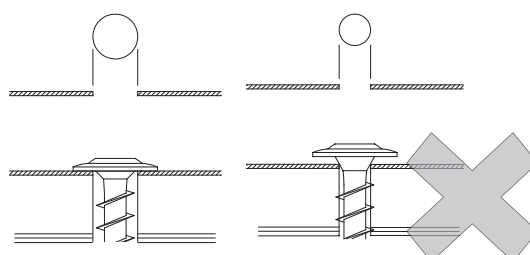
留め具の種類	サイディング本体取り付け	サイディング本体脳天打ち
スクリークぎ	φ2.15×L38mm以上	φ2.75×L50mm以上
木ねじ	φ3.1×L25mm以上	φ4.1×L50mm以上

2) 取り付け留め具の形状

留め具の施工箇所	留め具の形状
本体留め具 本体脳天留め具（キャップ類で隠れない場合）	
本体脳天留め具（キャップ類で隠れる場合） ※ 推奨品：株式会社ヤマヒロ品番NCB45	
部材留め具	
施工に適さない留め具	

3) 脳天打ちの方法

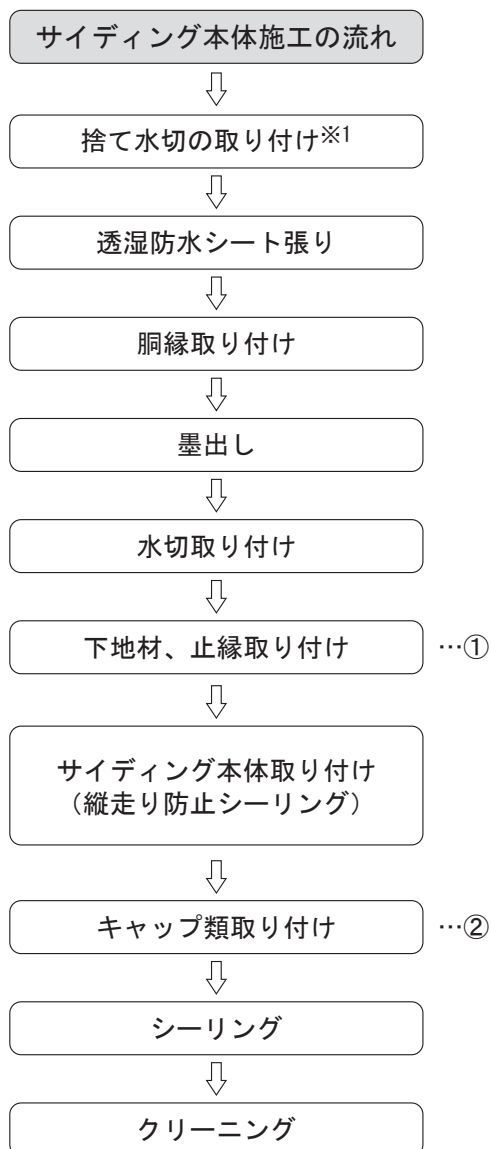
- ・本体の表面鋼板を金属用ドリルで下穴をあけてください。
- ・ドリル刃の直径は、脳天打ちに使用するくぎ、木ねじの胴部直径より0.2～0.5mm大きいものを使用してください。くぎ、木ねじの頭と胴の接続部分にテーパが付いているものを使用するときは、テーパ径より大きい下穴をあけてください。
- ・ドリル刃を本体の表面鋼板に押し付け、ドリル刃が滑らないようにとドリル後部を叩く行為は、力の加減次第で本体の表面鋼板が凹むのでやめてください。
- ・下穴をあけた後、くぎ、木ねじをサイディング表面鋼板が凹まないよう慎重に打ち込んでください。木ねじの場合、途中で電動ドライバーで打ち込み、手回しのドライバーで仕上げることも有効です。



5 施工の手順とポイント

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 施工の流れ | ・ ・ ・ ・ P13 |
| 2. 下地の施工 | ・ ・ ・ ・ P14 |
| 3. 本体、部材の施工 | ・ ・ ・ ・ P17 |
| 4. 連窓の施工について | ・ ・ ・ ・ P25 |

1. 施工の流れ



※ 1 水切25を使用する場合。

① 先付け部材

② 後付け部材

部位	必要部材	手順
土台部	水切25 縦用スターター25 アルミ縦用スターター25	① ① ①
出隅部	〔 出隅下地25N 3M出隅キャップ15-25 4M出隅キャップ15-25 〕	① ② ②
入隅部	止縁C25	①
縦継ぎ部	水切25 縦用スターター25	① ①
軒部	通気軒見切15-25 止縁C25 止縁捨板 止縁キャップ25	① ① ① ②
見切り下屋部	-	-
笠木部	水切（現場加工） 縦用スターター25	① ①
下がり壁部	下がり壁水切（現場加工）	①
開口部	上	捨板（15×85） 止縁C25※2 ① ①
	左右・下	〔 止縁C25 止縁捨板 止縁キャップ25 〕 ① ① ②
	隅角	ワンタッチコーナー キャップ15-25 ②

注）部材の〔 〕内はセットで使用してください。商品毎に対応部材が異なります。
各商品の部材規格をご確認ください。

※ 2 水抜き穴（Φ5@300mm）の現場加工が必要です。

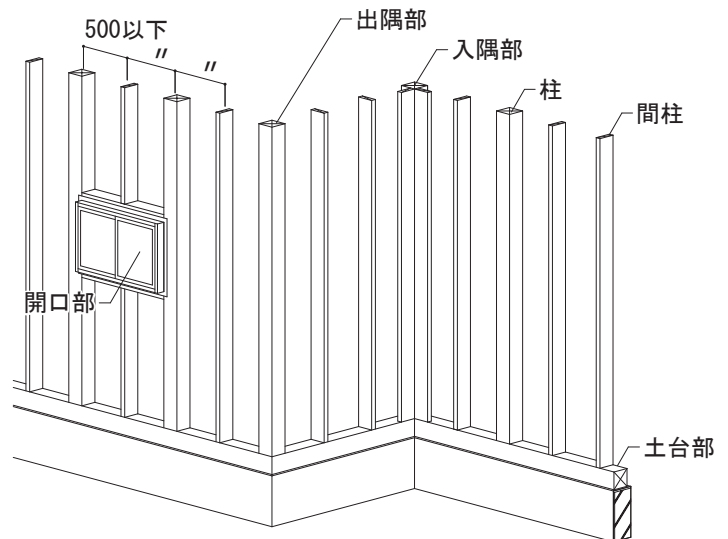
① 先付け部材

② 後付け部材

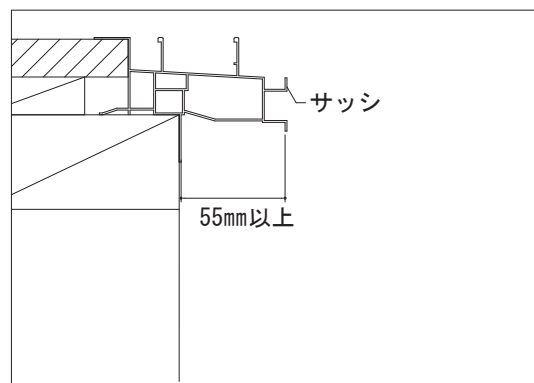
2. 下地の施工

①柱・間柱・サッシなどのチェック

- ・デザイン、作業効率、材料のロス、開口部の位置などを考慮して、本体のジョイント位置を決めます。
- ・本体が極端に短くならないよう注意してください。
- ・各取り合い部には予め複数の部材を用意しています。デザイン性・施工性を考慮し選択してください。その際、キャップ類と捨板類の組み合わせについて間違いがないか確認してください。

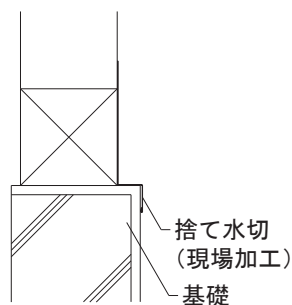


- ・サッシは、下地表面からの出幅が55mm以上を使用してください。

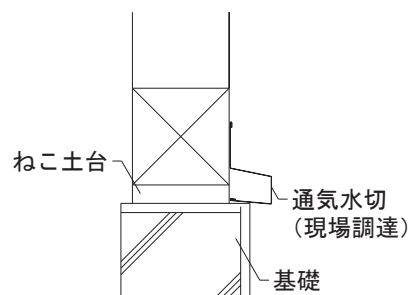


②捨て水切または水切（現場調達）の取り付け

○水切25を使用する場合



○水切（現場調達）を使用する場合

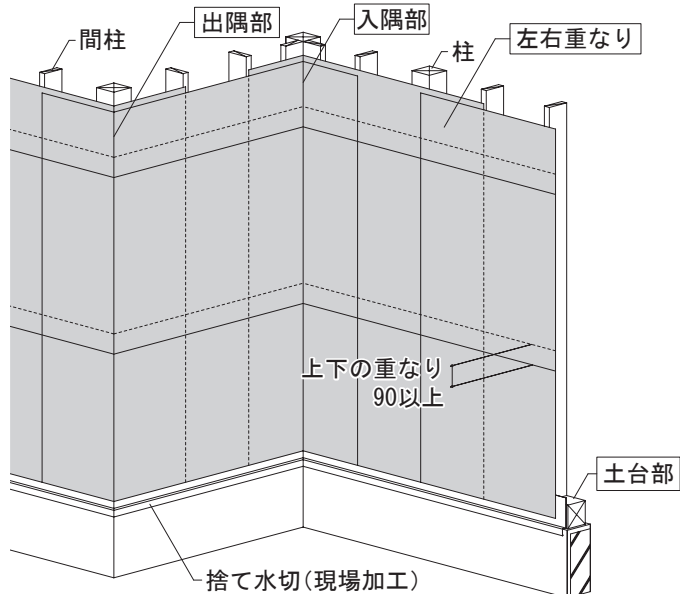


2. 下地の施工

③透湿防水シート張り

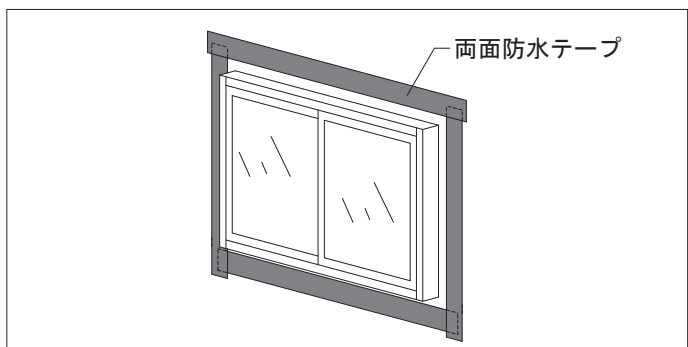
1) 一般部

- 透湿防水シートは横張りを原則とし、下から上へ張り上げてください。重ね合わせは鉛直方向で、90mm以上、水平方向で耐力面材のない場合は、間柱（柱）と間柱の間とし、耐力面材のある場合は150mm以上としてください。
- 換気口、配管回り、その他の壁貫通口などの周囲は、防水テープを貼り、すき間ができないように透湿防水シートと密着してください。



2) 開口部

- 開口部では、サッシ枠周囲に両面防水テープを貼り、すき間ができないよう防水紙を密着してください。



④胴縁の取り付け

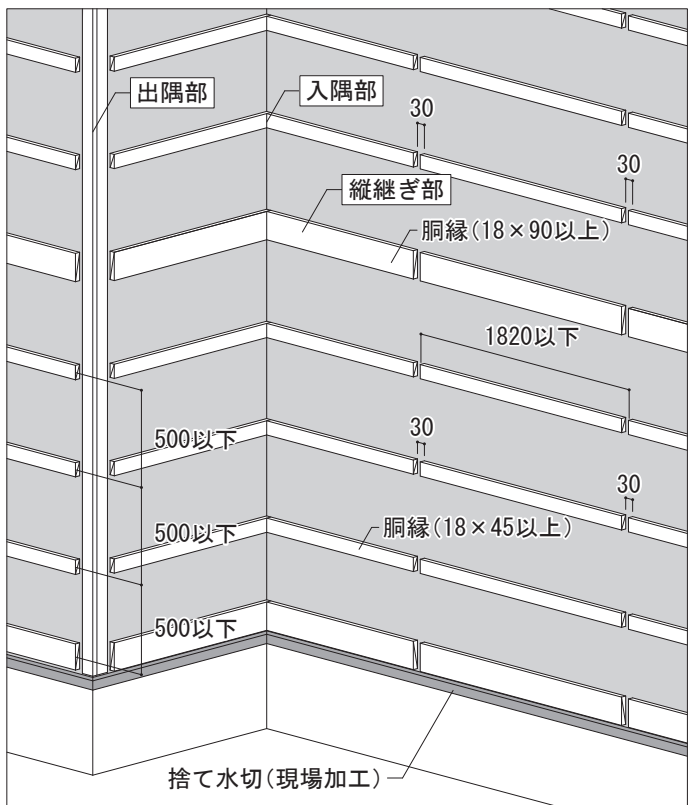
次の胴縁を施工してください。

胴縁間隔：500mm以下

部位	胴縁サイズ※1
一般部 出隅部	18×45mm以上
土台部 縦継ぎ部 軒部 開口部	18×90mm以上、 または18×45mm以上（ダブル）

- 積雪地域では、雪の積もる高さまで、胴縁間隔を狭くするなどの対処をしてください。

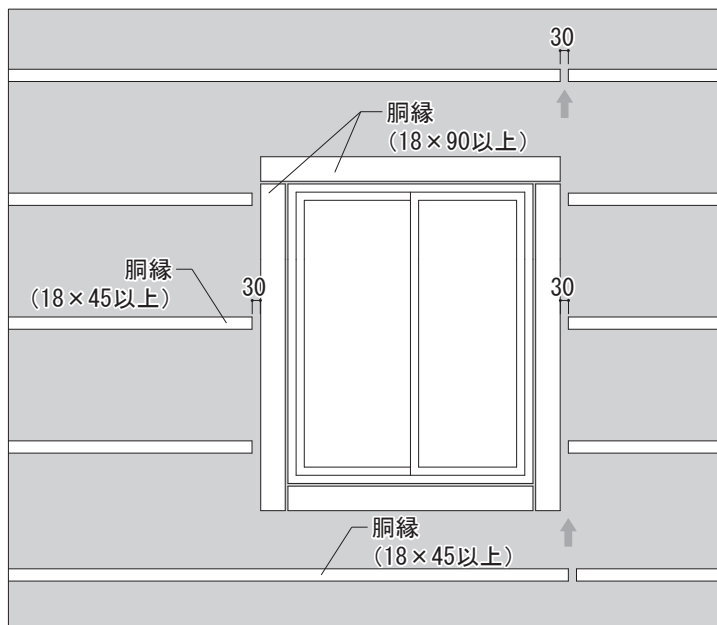
※1 横胴縁は、直接商品を留め付けるため、十分な強度が必要になります。防耐火構造認定では、15×45mm以上を取得していますが、厚さ18mmを推奨しています。



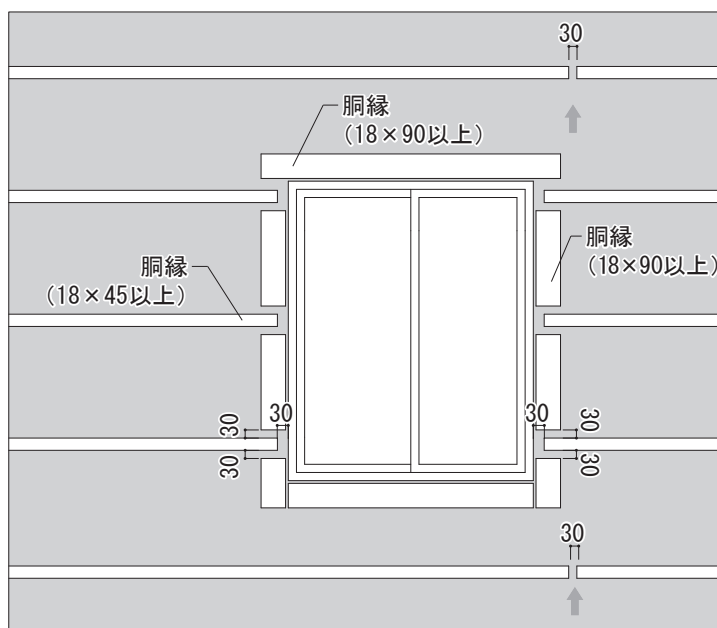
2. 下地の施工

・開口部

開口部周囲の胴縁は、30mm程度のすき間をあけ、通気を妨げないように施工してください。



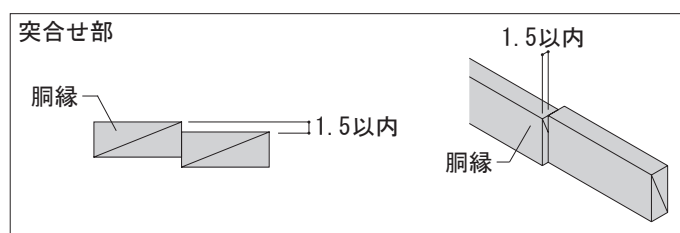
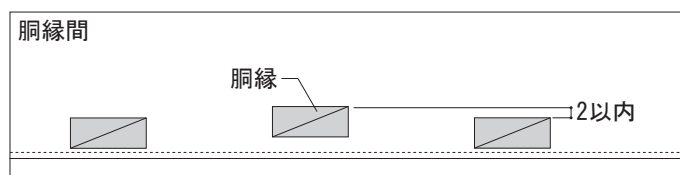
横胴縁がサッシ左右に留め付けられない場合は、右図のように配置してください。



・胴縁の不陸

本体を施工する前に、胴縁の不陸を確認し調整をしてください。

胴縁間の不陸は、2mm以内、突合せ部は1.5mm以内としてください。SP-ガルスクエアは、表面がフラットです。表面のゆがみや下地の跡が強調される場合があります。



3. 本体、部材の施工

①先付け部材の施工（1階部分）

1）部材の施工順序（縦継ぎを設ける場合）

施工順序	部位	部材名
1	土台部	水切25
2	出隅部	出隅下地25N
3	入隅部	止縁C25または止縁捨板 捨板（現場加工）
4	土台部	縦用スターター25 または アルミ縦用スターター25

2）部材の施工順序（縦継ぎを設けない場合）

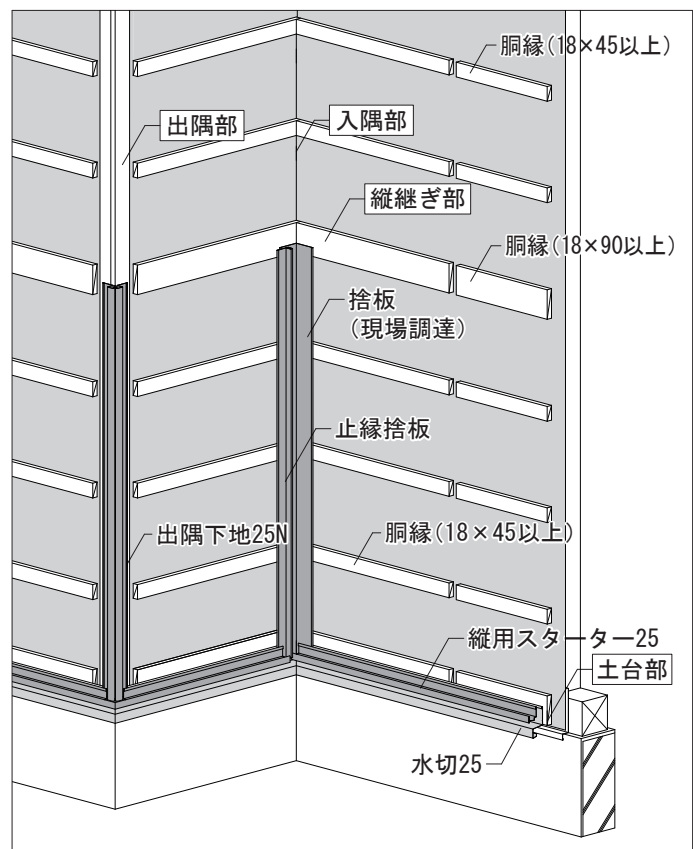
- ・ 準標準品などの長尺を使用し、縦継ぎを設けない場合は、次の順序で施工してください。

施工順序	部位	部材名
1	土台部	水切25
	軒部	止縁C25または止縁捨板
2	出隅部	出隅下地25N
3	入隅部	止縁C25または止縁捨板 捨板（現場加工）
4	土台部	縦用スターター25または アルミ縦用スターター25

- ・ 7. 部材の加工例とつなぎ方を併せて参照ください。
- ・ 縦用スターター25を土台に施工する場合は、部材の加工方法によって施工順序が異なる場合があります。

3）墨出し

- ・ 墨出しを行い、先付け部材を水平、垂直に施工してください。



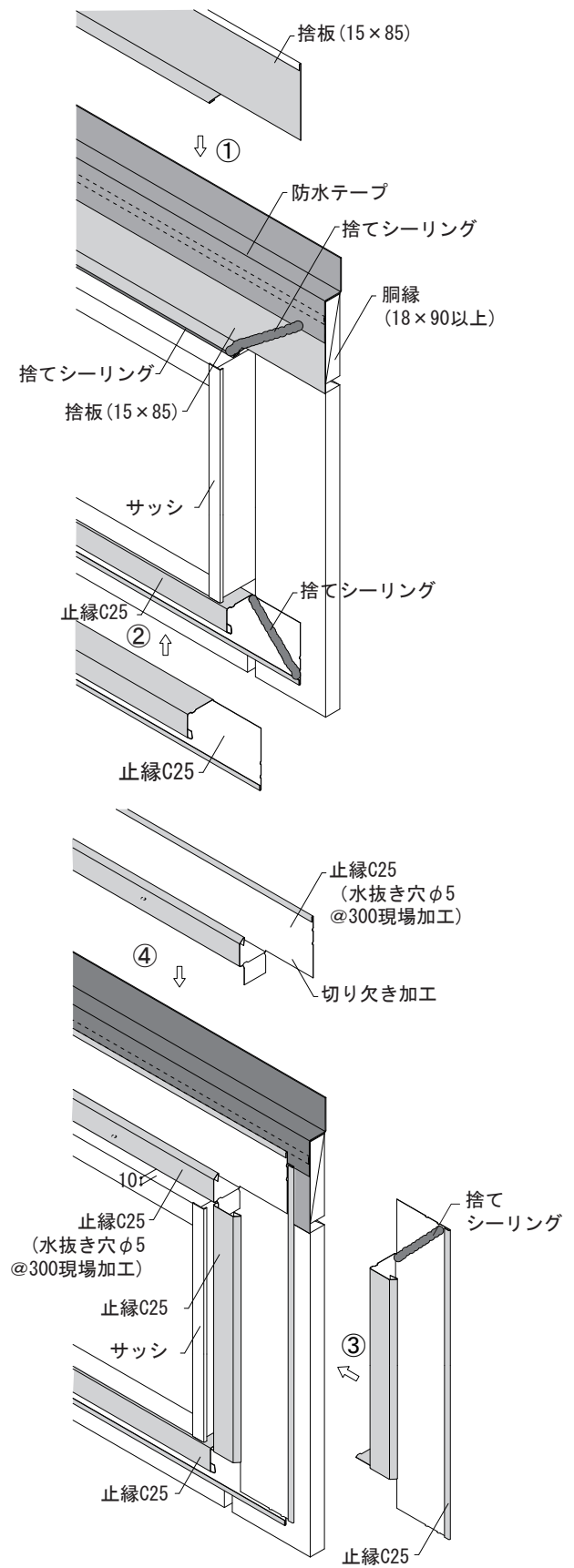
3. 本体、部材の施工

4) 開口部：部材の施工順序

・次の順序で施工してください。

施工順序	部位	部材名
1	開口部上	捨板(15×85)
2	開口部下	止縁C25または止縁捨板
3	開口部左右	止縁C25または止縁捨板
4	開口部上	止縁C25（現場加工水抜き穴）
5	隅角部	ワンタッチコーナーキャップ15-25

・複数の部材を準備しています。デザイン性、施工性を考慮して選択してください。詳細は、6. 各部位の納まり図を併せて参照してください。

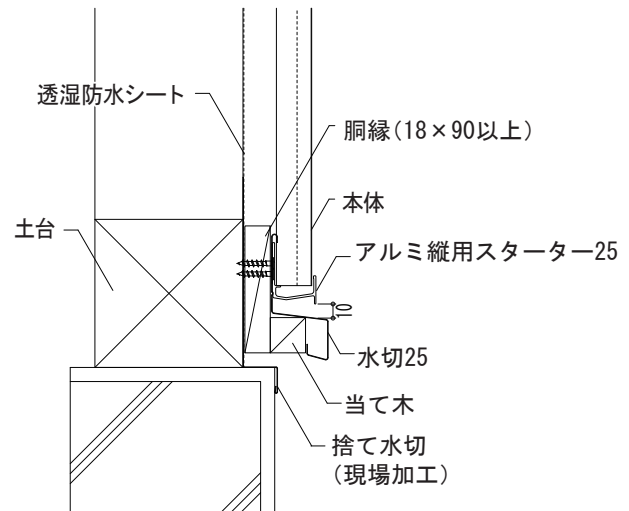


3. 本体、部材の施工

5) 積雪の影響（雪の負荷）のある地域

土台部や下屋見切り部では、雪の重みで本体や部材が変形するおそれがありますので、次の対処をしてください。

- ・雪の積もる高さまで胴縁の間隔を狭くするなどの対処をしてください。
- ・水切25には、図のように当て木を入れるなどの対処をしてください。
- ・本体と部材は、積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。
- ・縦用スターター25ではなく、アルミ縦用スターター25の使用をお勧めします。



②本体の施工（1階部分）

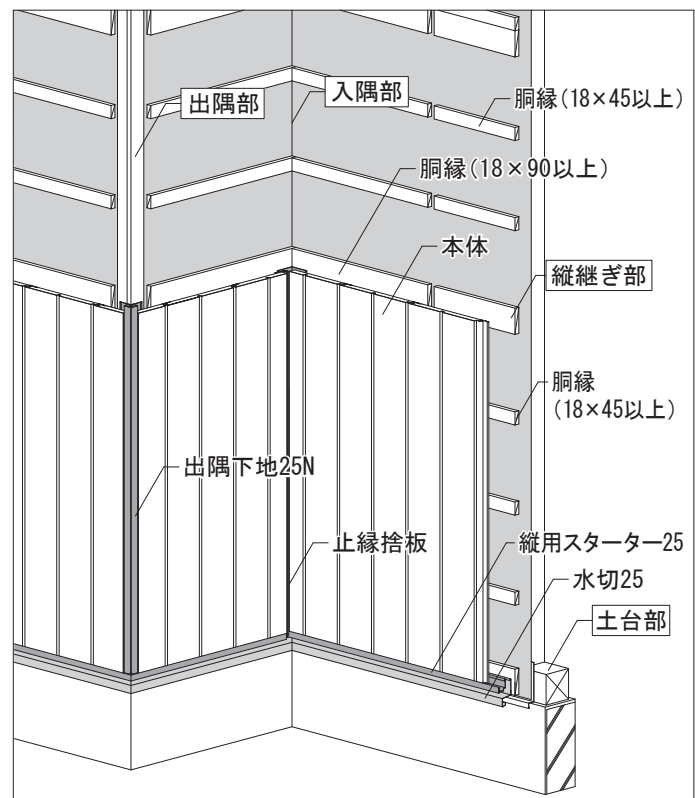
6. 各部位の納まり図を併せて参照してください。

1) 墨出し

働き幅に合わせ墨出しを行ってください。

2) 本体の施工

本体は、働き幅で施工してください。働き幅より広い幅で施工すると、水密性や耐風圧強度などで十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります。

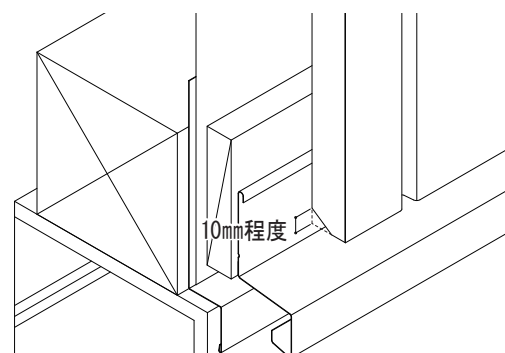


・ 本体の切断

各施工箇所に合わせて、本体を切断してください。

切断時に発生するバリや切粉を放置すると、さびや汚れの原因になります。速やかに除去してください。

本体を切断して納める際は、本体下部からしん材を10mm程度取り除いてください。

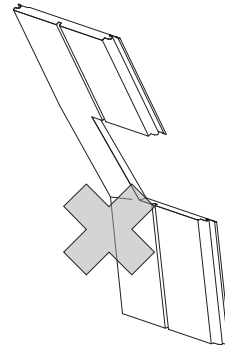


3. 本体、部材の施工

3) 開口部：本体の施工

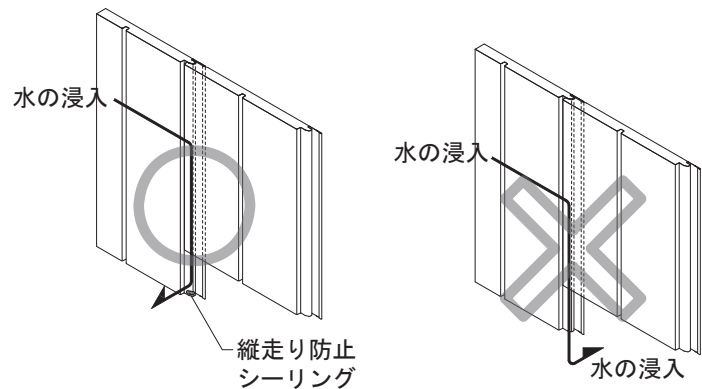
・本体の切断と施工

割り付けを行って無理な力がかからないように施工してください。無理に押し込むとゆがみの原因になります。しん材が破損した本体は使用しないでください。



・縦走り防止シーリング

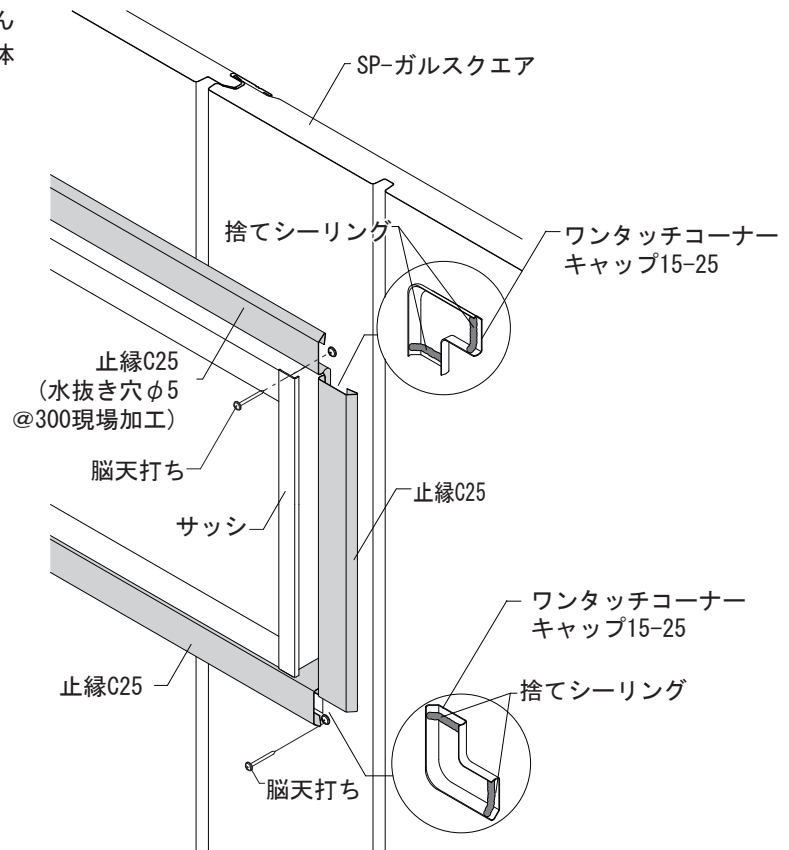
開口部上の止縁C25を使用する場合は、本体端部からの雨水の浸入を防ぐため、本体一枚ごとに縦走り防止シーリング材を施工してください。



・縦走り防止シーリングは、本体の施工後に部材と本体の間に行うシーリング材とつながるように施工してください。

・本体の留め付け

本体は、必ず胴縁に留め付けてください。かん合部を切り欠いた場合は、脳天打ちをして本体を胴縁に留め付けてください。



3. 本体、部材の施工

③後付け部材の施工（1階部分）

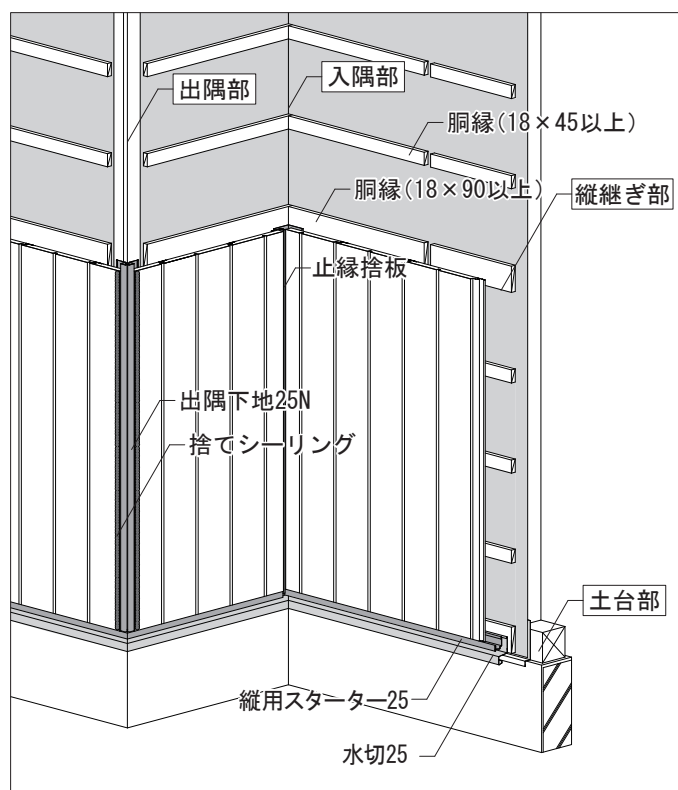
1) 捨てシーリングの施工

- ・指定箇所に捨てシーリングを施工してから、後付け部材を施工してください。

施工 順序	部位	部材名
1	出隅部	3M／4M出隅キャップ15-25
2	入隅部	止縁キャップ25

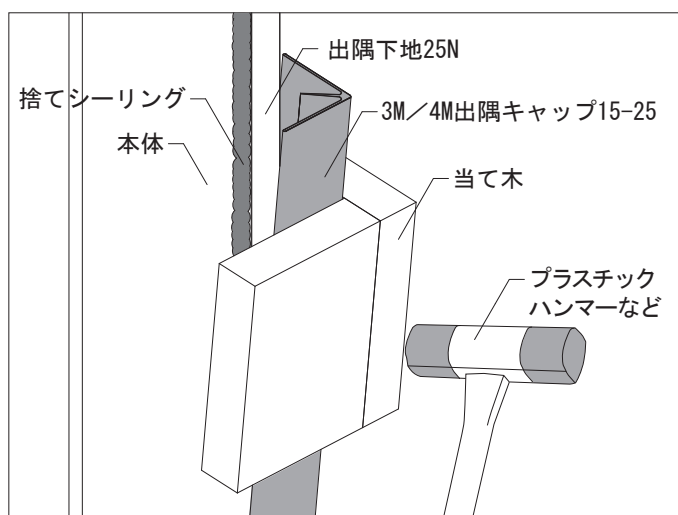
2) 部材の加工方法

- ・各部位に合わせて部材を加工してください。部材の端部には、切り欠き加工がされています。
- 7. 部材の加工例とつなぎ方を参照してください。



3) キャップ部材の施工

- ・出隅キャップが出隅下地25Nにはまりにくい場合は、当て木の上からプラスチックハンマーなどで出隅キャップを下から順にたたいて、はめてください。はめた後は、出隅キャップを軽く引っ張り、がたついたり出隅下地25Nから抜けたりしないことを確認してください。止縁キャップも同様に確認してください。



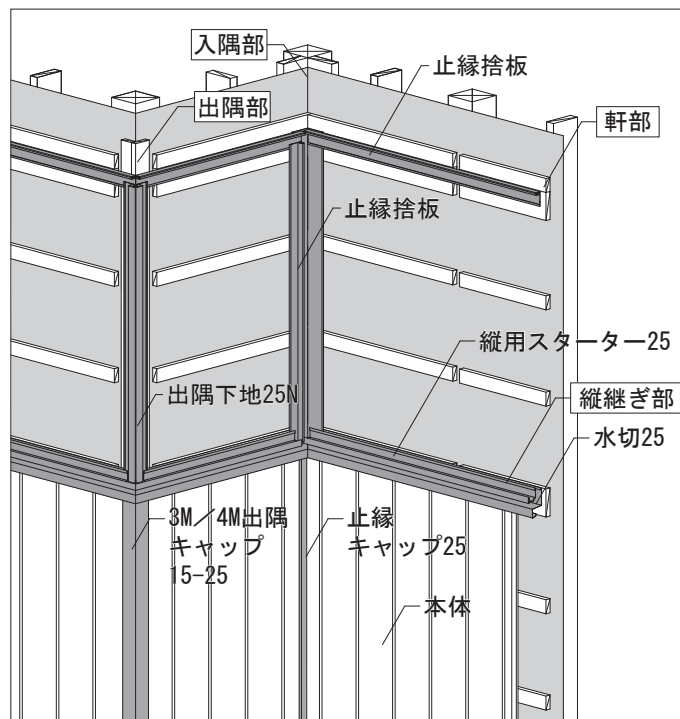
3. 本体、部材の施工

④先付け部材の施工（2階部分）

1) 部材の施工順序

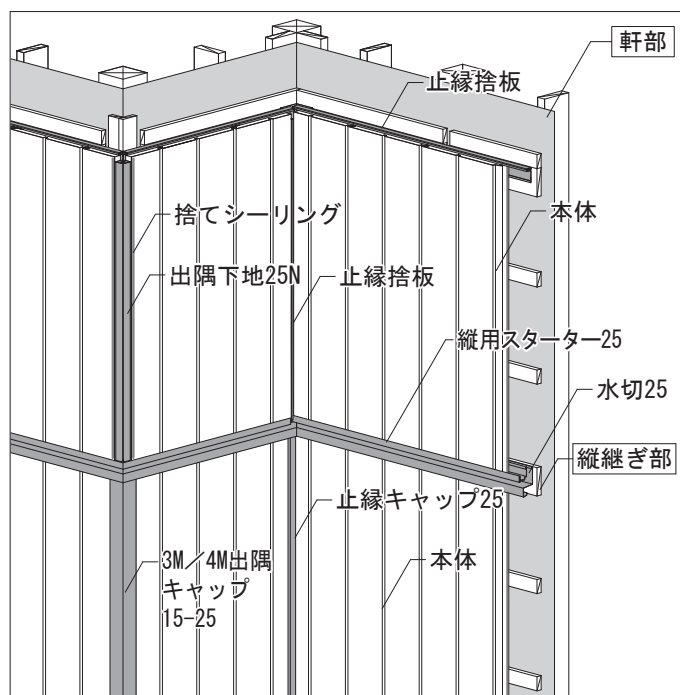
- ・ 本体の高さに合わせて、下から順に張り上げてください。

施工順序	部位	部材名
1	縦継ぎ部	水切25
	軒部	止縁G25または止縁捨板
2	出隅部	出隅下地25N
3	入隅部	止縁G25または止縁捨板
4	縦継ぎ部	縦用スターター25



⑤本体の施工（2階部分）

- ・ 各部位に、先付け部材が施工されていることを確認してから、本体を施工してください。
- ・ 施工方法は、②本体の施工（1階部分）と同様です。
1階部分の本体と2階部分の本体のかん合目地がそろるように、墨出し線に合わせて施工してください。



5. 施工の手順とポイント

単位：mm

3. 本体、部材の施工

⑥後付け部材の施工（2階部分）

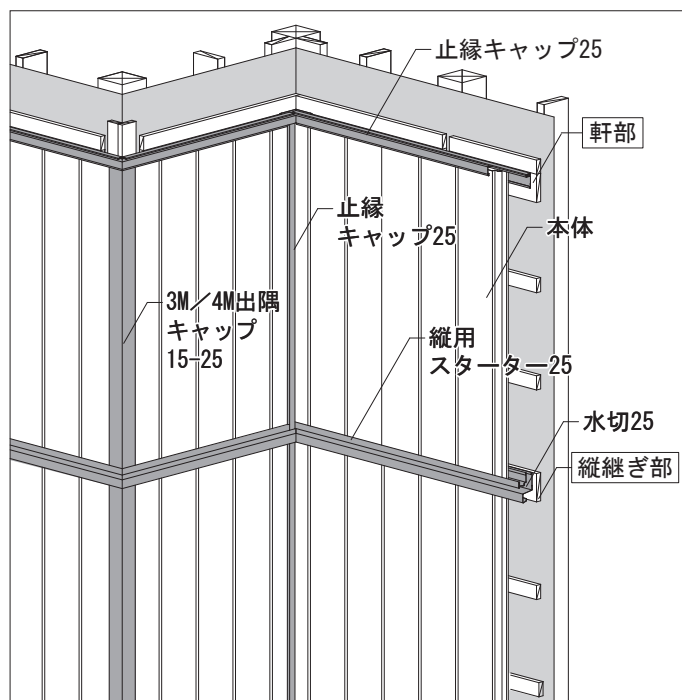
1）部材の施工順序

- ・ 本体の高さに合わせて、下から順に張り上げてください。

施工順序	部位	部材
1	軒部	止縁キャップ25
2	出隅部	3M／4M出隅キャップ15-25
3	入隅部	止縁キャップ25

2）捨てシーリングの施工

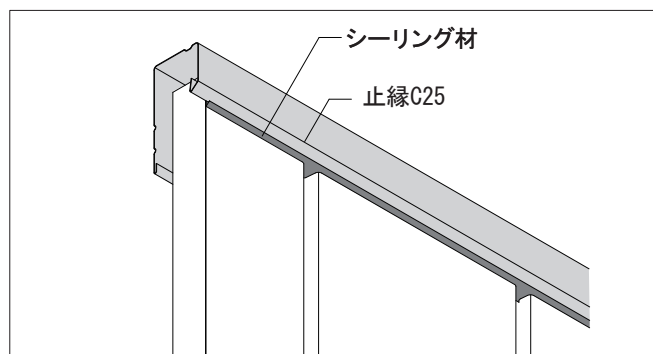
- ・ 指定箇所に捨てシーリングを施工してから、後付け部材を施工してください。



⑦シーリング材の施工

1）シーリング材を施工する位置

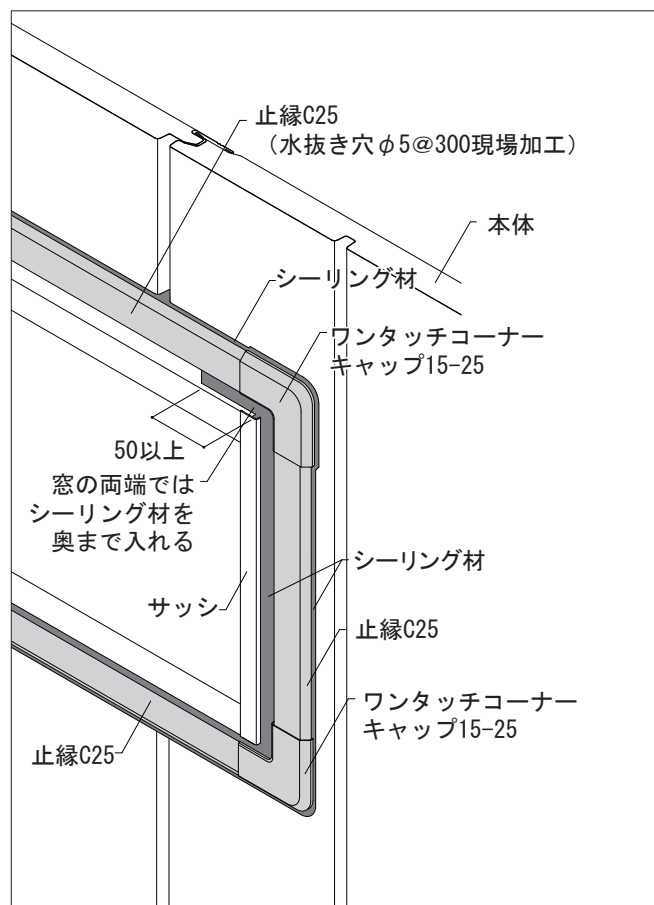
- ・ 本体と部材の間
雨水の浸入を防ぐため、6. 各部位の納まり図を参照しシーリング材を施工してください。
- ・ 脳天打ちしたくぎやねじ頭には、シーリング材の施工またはタッチアップペイントで塗装をしてください。
- ・ シーリング材を施工する際の注意
シーリング材は、接着面が乾燥している状態で施工してください。接着面が高温の場合には、施工を控えてください。また、水分、油分、ほこりなどにも注意してください。



3. 本体、部材の施工

2) 開口部

- ・ 部材とサッシの間、本体と部材の間
すき間から雨水の浸入を防ぐため、6. 各部位の
納まり図を参照し、シーリング材を施工してく
ださい。
- ・ 止縁C25とサッシの間（開口部上）左右両端50
mm程度にシーリング材を奥まで入れてくださ
い。

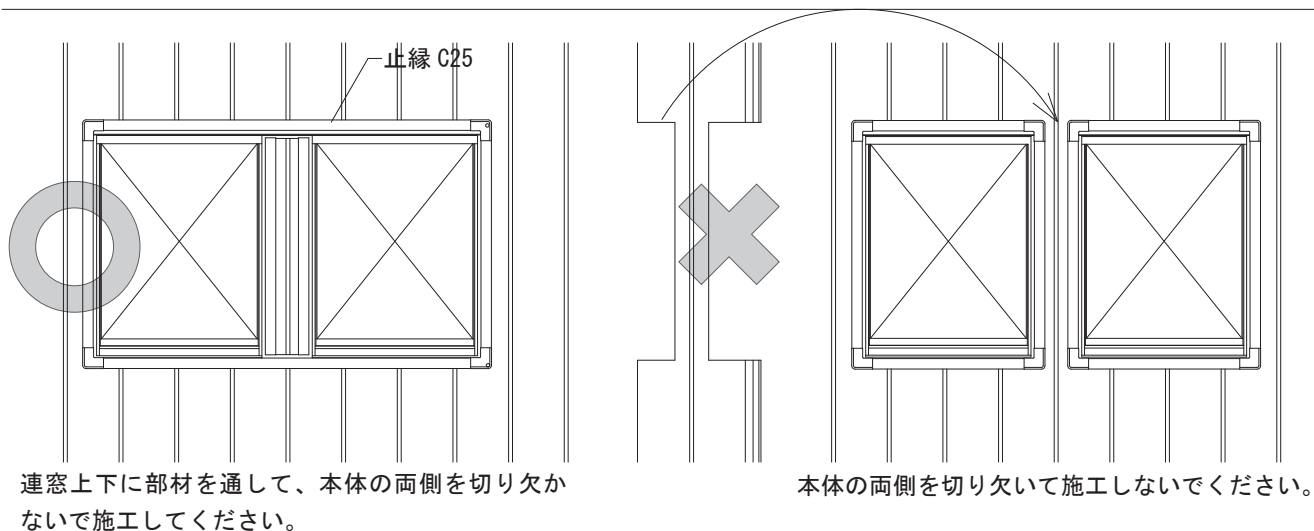


⑧補修・点検・片づけ

- ・ キズがあった場合は、タッチアップペイントで補修してください。
- ・ 後付け部材が先付け部材にはまっていることを確認してください。

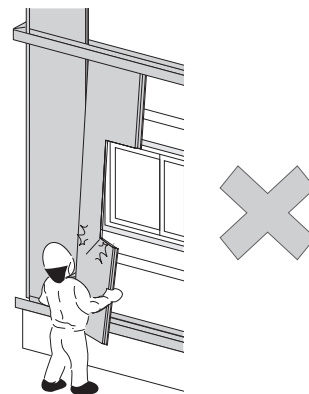
4. 連窓の施工について

① 本体の切り欠き方の制限



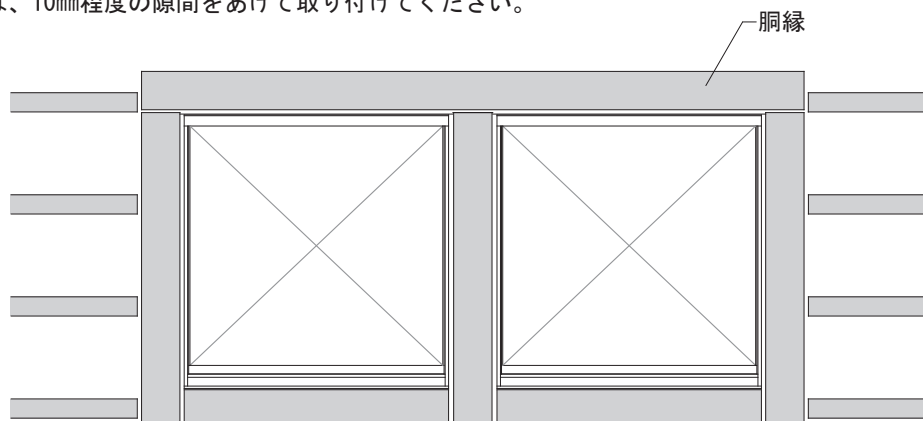
② 開口部での部材の施工

- 開口部に切り欠いた本体を施工する場合、部材は止縁キャップ25と止縁捨板を使用してください。止縁C25を使用した場合、たて張りの窓脇では、止縁C25に差し込むために本体を変形させるか止縁C25を広げる必要があり、歪の原因になります。



③ 連窓の場合の胴縁の配置

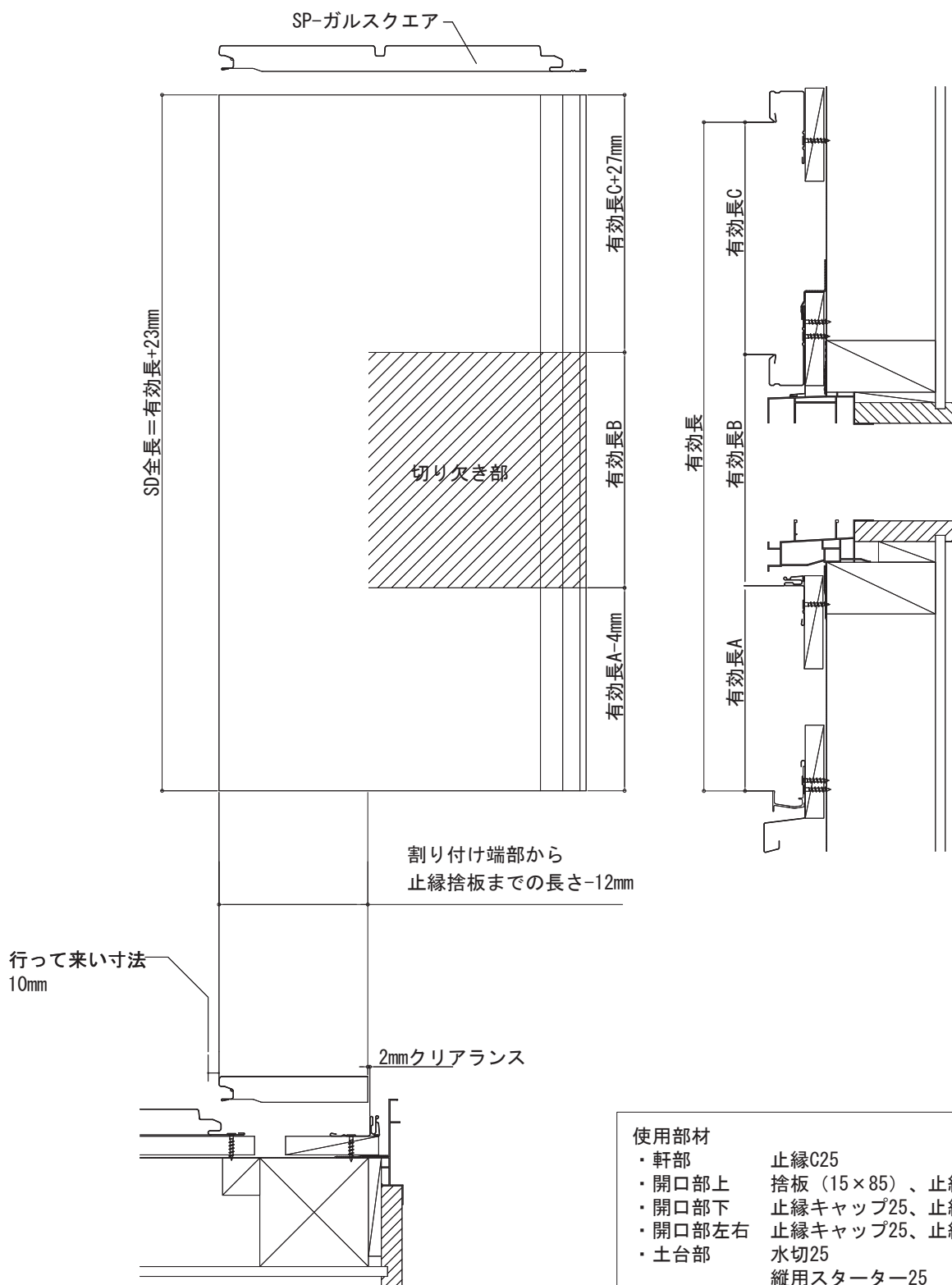
- 開口部の胴縁同士は、10mm程度の隙間をあけて取り付けてください。



4. 連窓の施工について

④本体のくぎ打ち部を切欠いて施工する場合の寸法取りについて

- ・本体のくぎ打ち部側を切り欠いて開口部左右に施工する場合、次の寸法で加工してください。
寸法を確認し本体をひねったりねじったりせずに部材へ納めてください。



使用部材

- ・ 軒部 止縁C25
- ・ 開口部上 捨板 (15×85)、止縁C25
- ・ 開口部下 止縁キャップ25、止縁捨板
- ・ 開口部左右 止縁キャップ25、止縁捨板
- ・ 土台部 水切25
縦用スターター25
アルミ縦用スターター25

4. 連窓の施工について

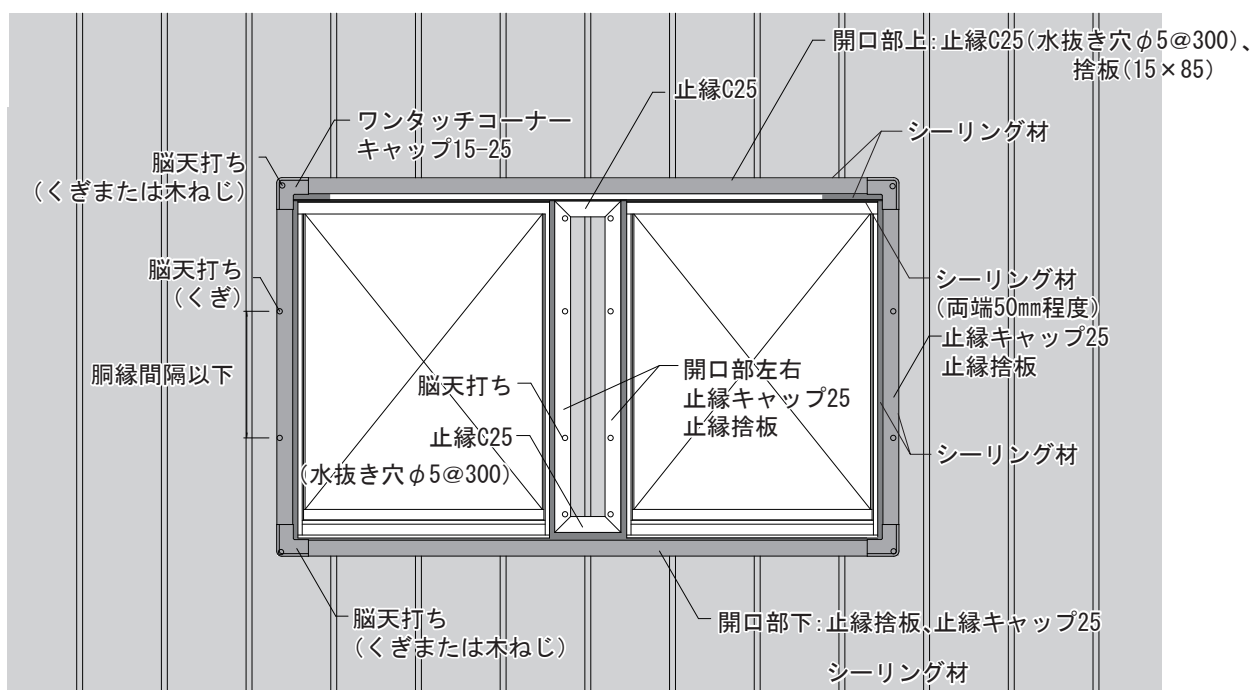
⑤連窓中間部の納め方

- ・サッシに標準部材として目板がある場合は目板を取り付けてください。または次のように本体と部材を加工してください。脳天打ちは、スクリーク（ $\phi 2.75 \times L50$ 以上）または木ねじ（L50以上）を使用してください。

1) 部材で納める場合

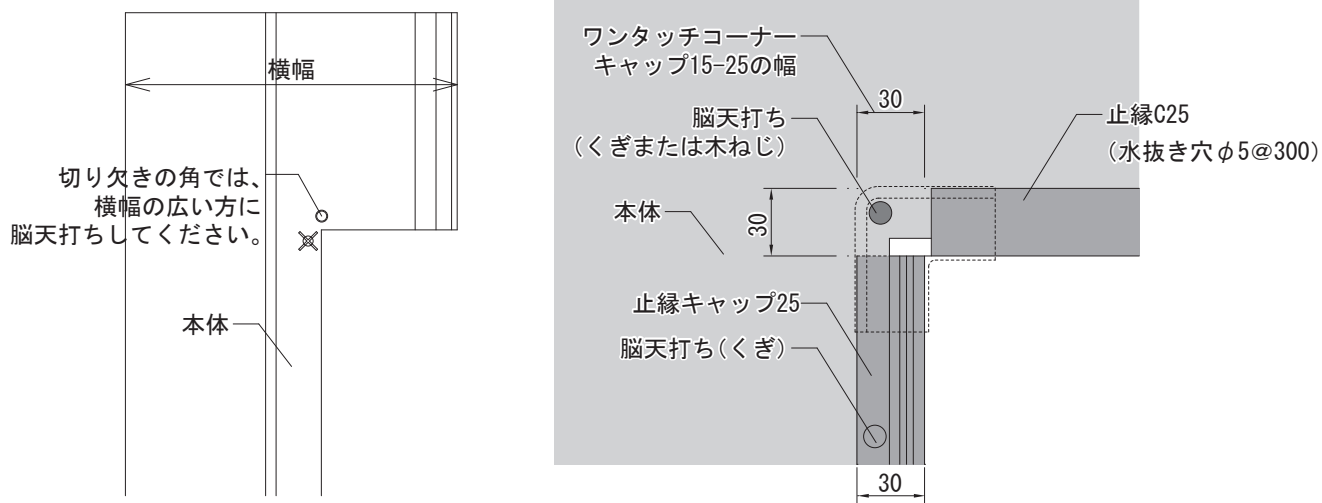
連窓中間部の上と連窓中間部の下：止縁C25（水抜き穴 $\phi 5 @ 300$ ）

連窓中間部の両脇：止縁捨板と止縁キャップ25

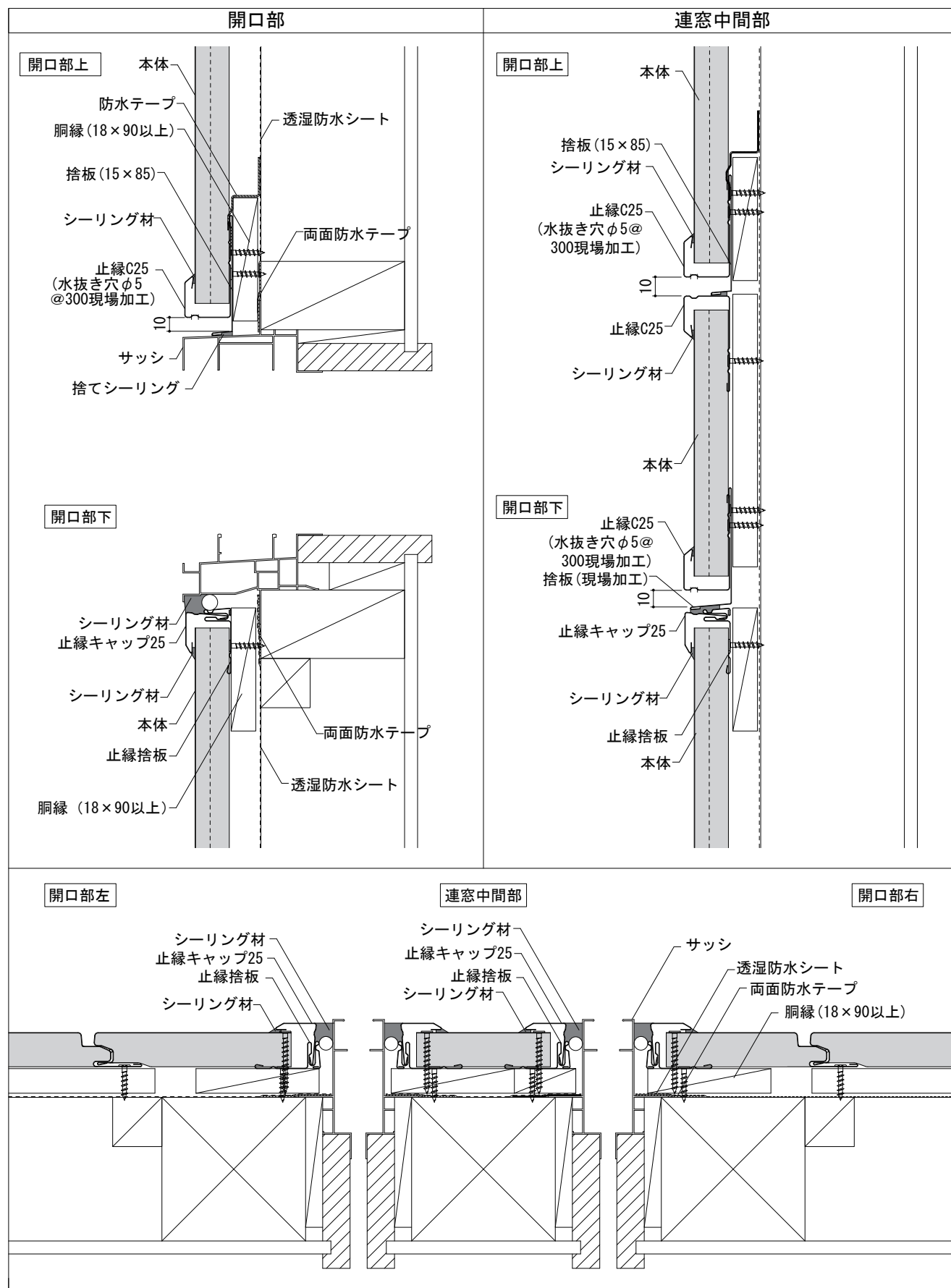


■切り欠いたSP-ガラスクエアに脳天打ちをする位置

- ・角部に脳天打ちを施工する場合は、ワンタッチコーナーキャップ15-25で隠れる位置に脳天打ちしてください。
- ・本体のくぎ打ち部を切り欠いた所に脳天打ちする場合は、止縁キャップC25が隠れるよう頭の小さなくぎを使用し留め付けてください。



4. 連窓の施工について

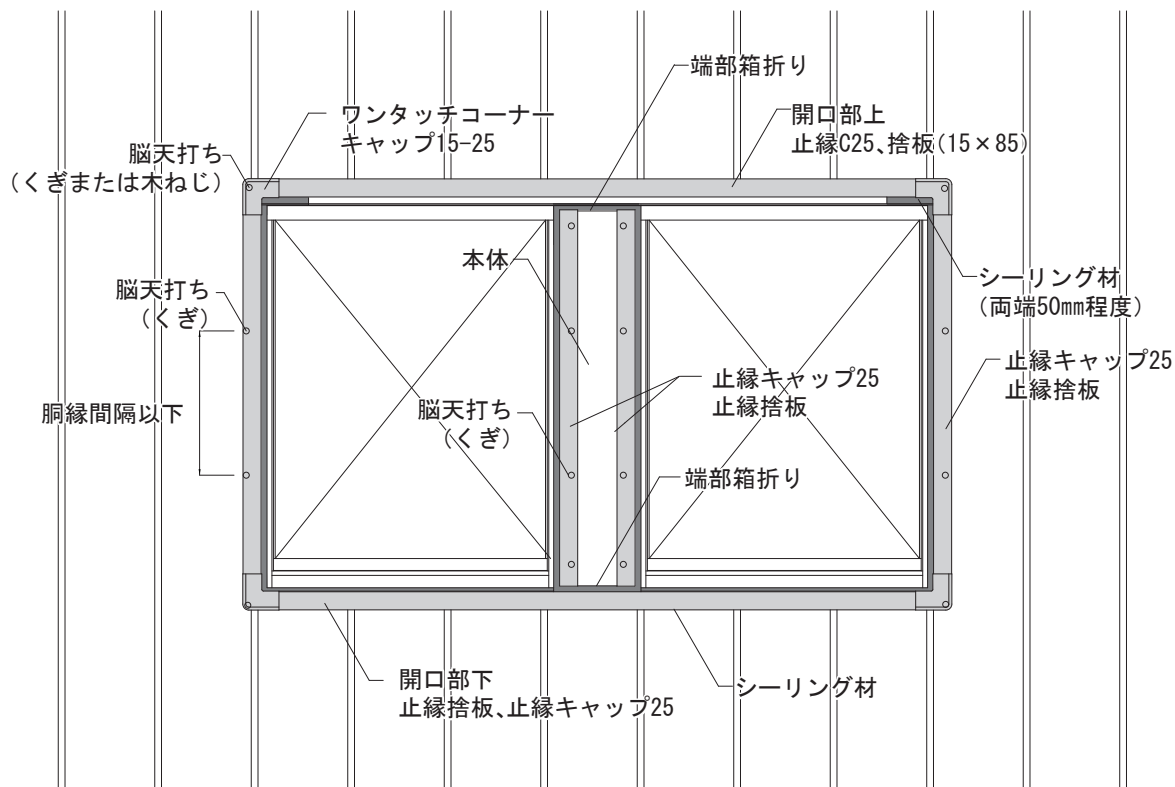


4. 連窓の施工について

2) 本体を箱折し、部材で納める場合

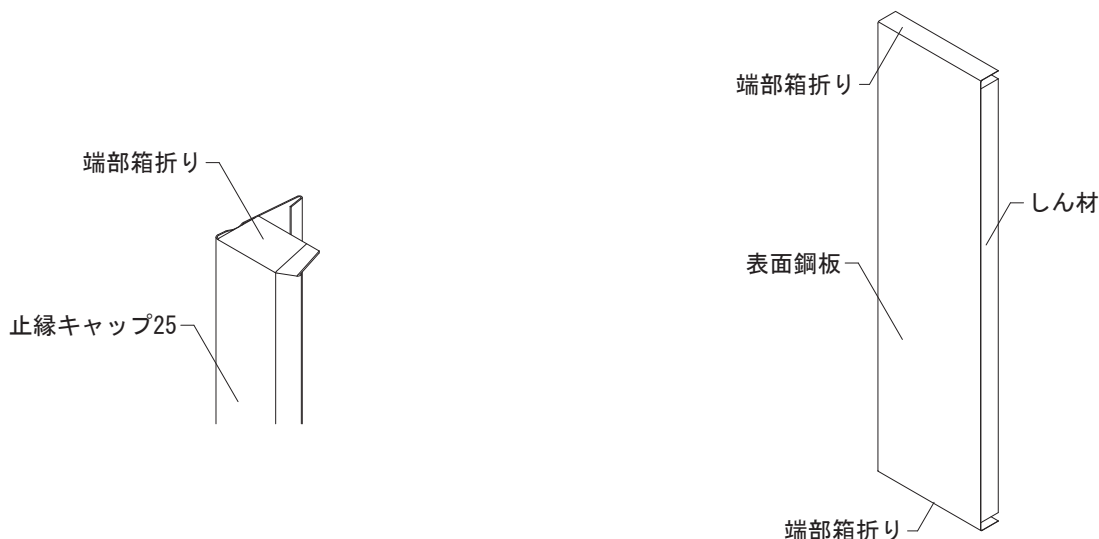
連窓中間部の両脇：止縁捨板と止縁キャップ25

連窓中間部の上下：本体箱折（止縁キャップ25の端部は箱折加工）

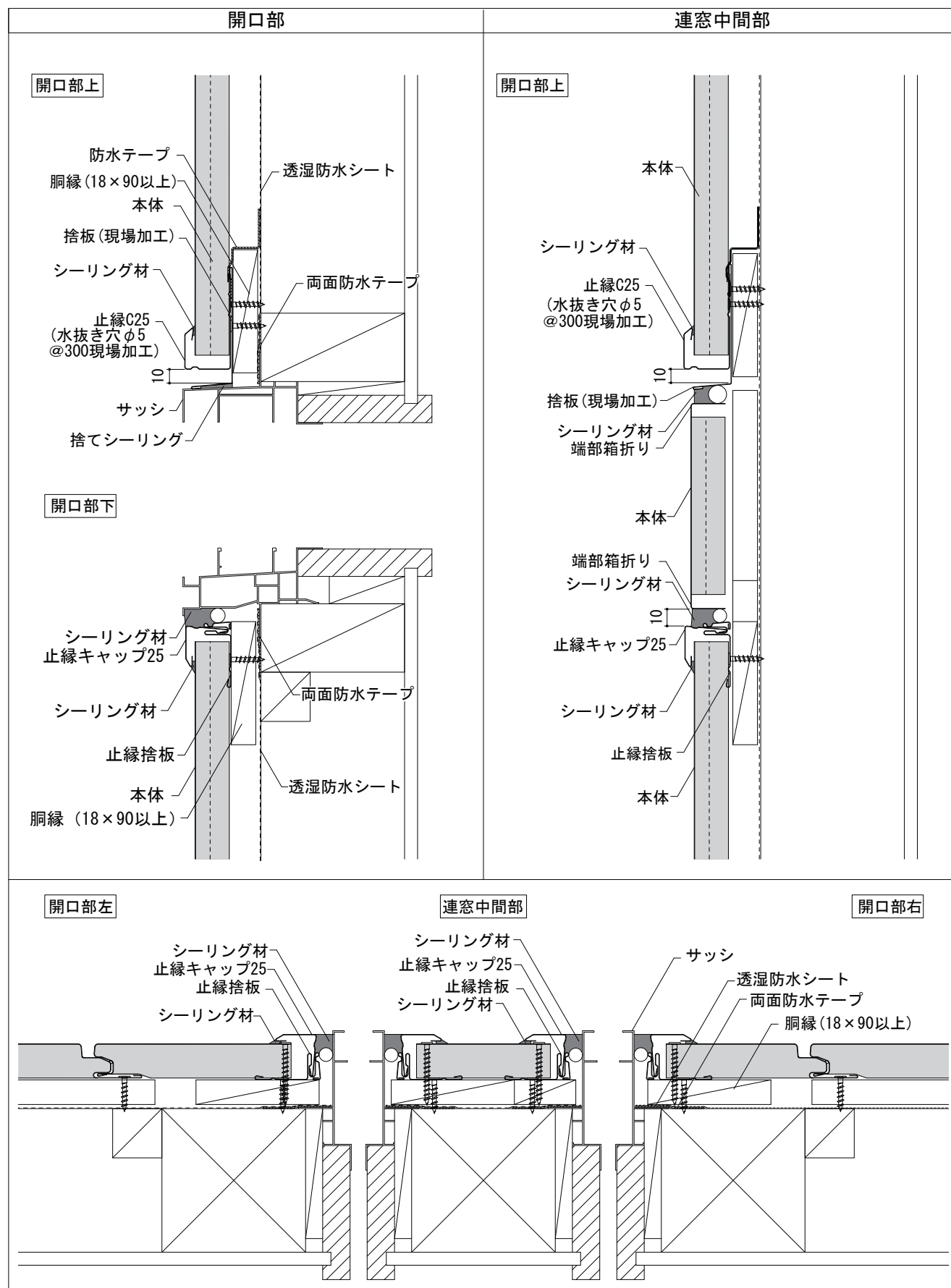


■端部箱折について

連窓中間部の本体を施工する際は、表面鋼板を折り曲げ箱折加工を施してください。しん材には、シーリング材が接着しませんので注意してください。止縁キャップ25も同じく端部箱折し、シーリング幅を確保してください。サッシと部材、本体と部材の間には、シーリング材を施工してください。



4. 連窓の施工について

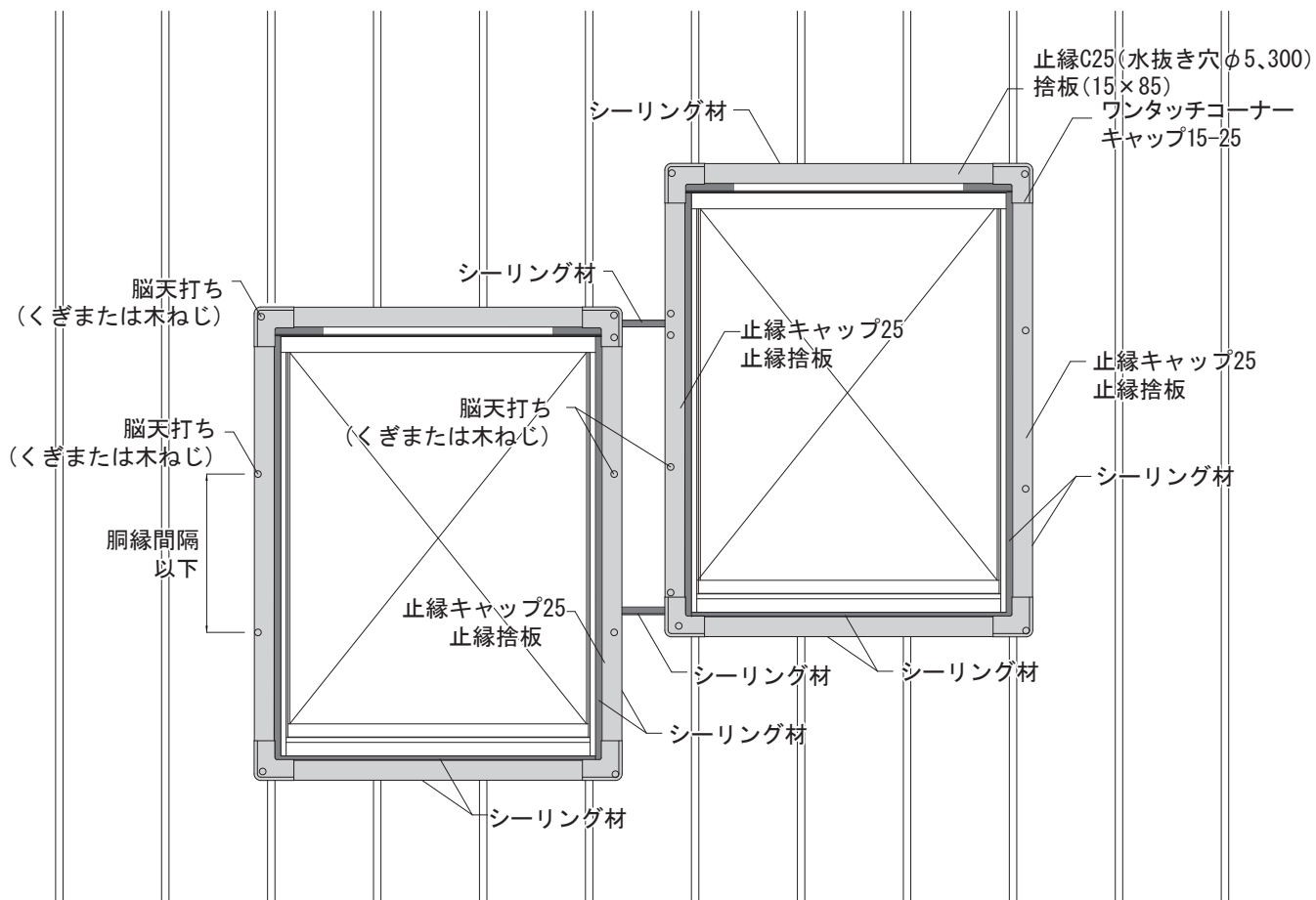


4. 連窓の施工について

3) 連窓が段違いの場合

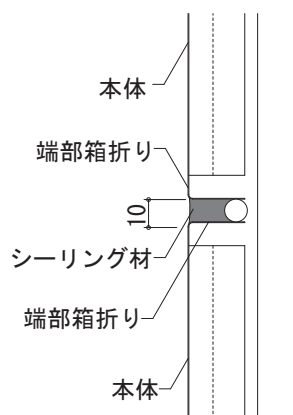
連窓が段違いの場合は、中間部の本体の端部を箱折りし、シーリング材を施工してください。

サッシと部材、本体と部材の間には、シーリング材を施工してください。



しん材には、シーリング材が接着しませんので、本体の箱折加工を施してください。

サッシと部材、本体と部材の間には、シーリング材を施工してください。



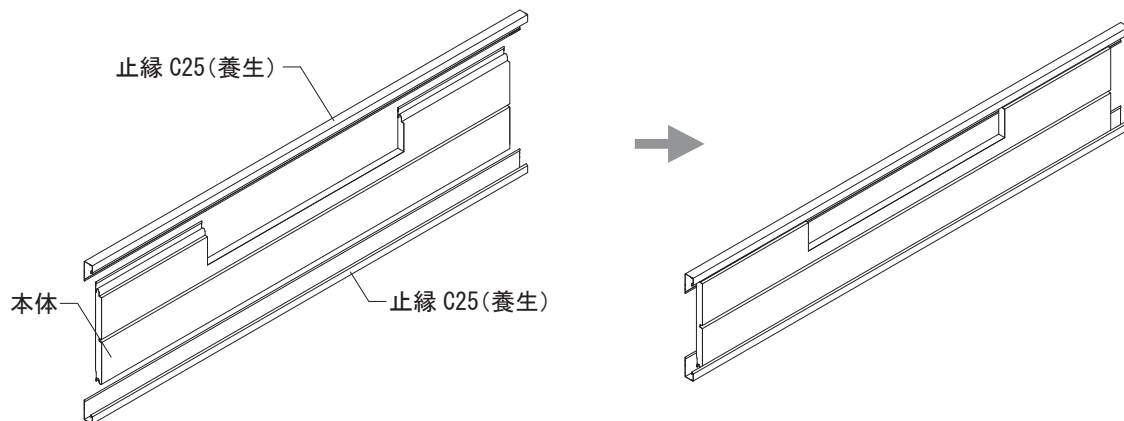
3. 本体、部材の施工

■切り欠いた本体を運搬するときの取り扱い方法

- ・切り欠いた本体を運ぶときや立てるときは、切り欠いた部分が折れたり変形する可能性がありますので、補強材をあてて運搬してください。
 - ・補強材が本体の表面に当たる部分には、表面鋼板にキズが付かないよう養生し、砂粒、ほこり、切粉などを清掃してからセットしてください。
- (推奨 長さ4m以上の長尺品を立てるときの作業人数は3～4人としてください。)

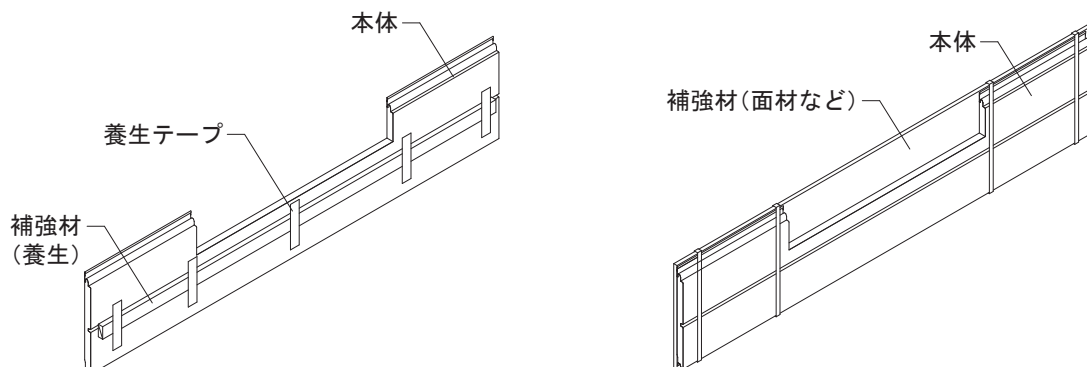
1) 本体の両側を止縁C25で挟み込んで 運搬する方法

- ・本体にキズが付ないように止縁C25は養生してから本体にはめてください。本体から脱落しないよう、止縁C25は固定してください。

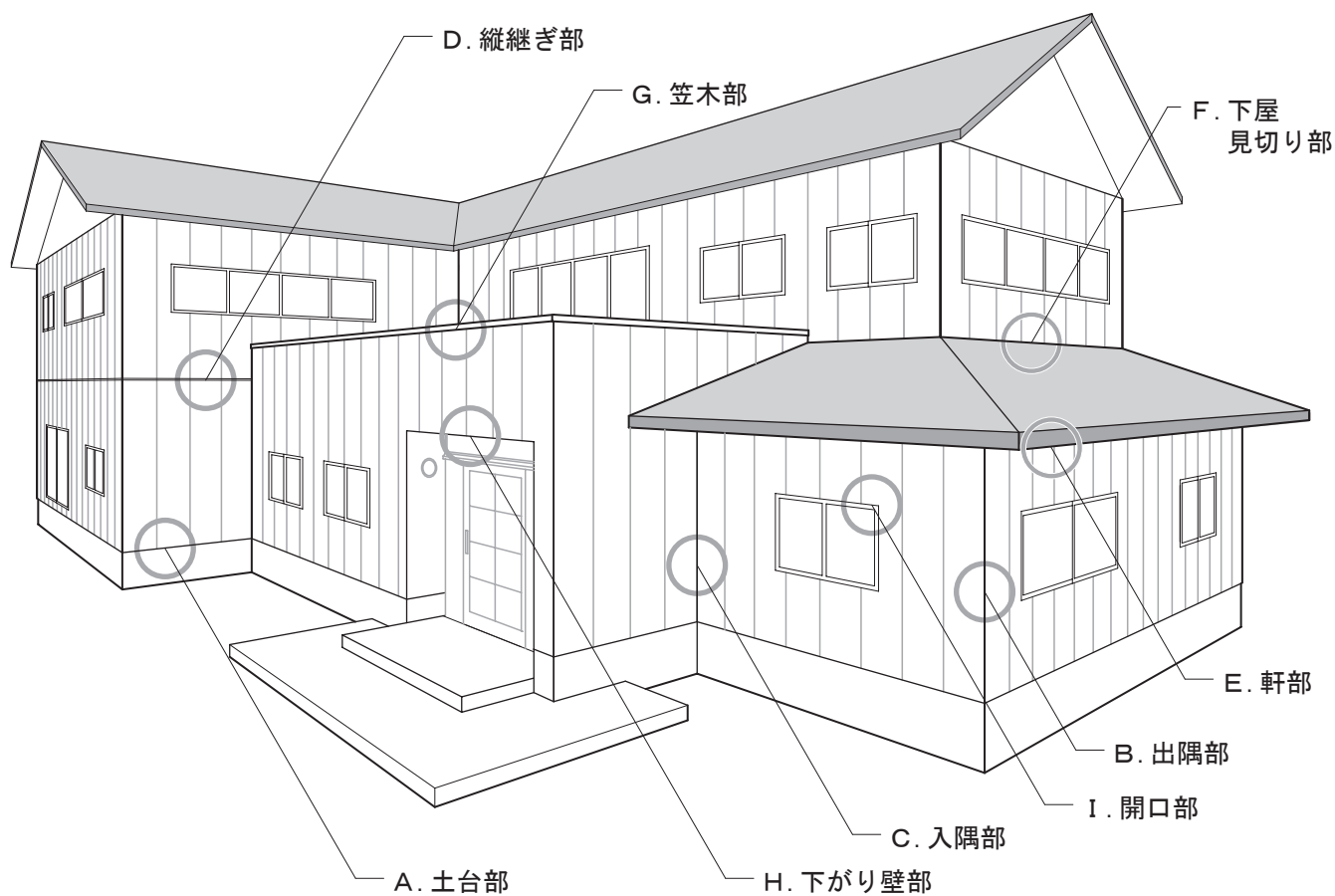


2) 補強材を使用する方法

- ・補強材は胴縁などの細長く、剛性が高く曲がりにくいものを使用してください。
- ・本体にキズが付ないように養生をした補強材を本体の表面鋼板にクロス素材の養生テープ（幅60mm以上）で貼り付けて運搬してください。運搬後、養生テープは慎重に剥がしてください。
- ・補強材は、面材などでも使用可能です。



6 各部位の納まり図



納まり図

A. 土台部	P34
B. 出隅部	P35
C. 入隅部	P36
D. 縦継ぎ部	P37
E. 軒部	P38
F. 下屋見切り部	P40
G. 笠木部	P41
H. 下がり壁部	P42
I. 開口部	P43

8. シーリング軽減工法の8-3. 各部位の納まり図はP79～を参照してください。

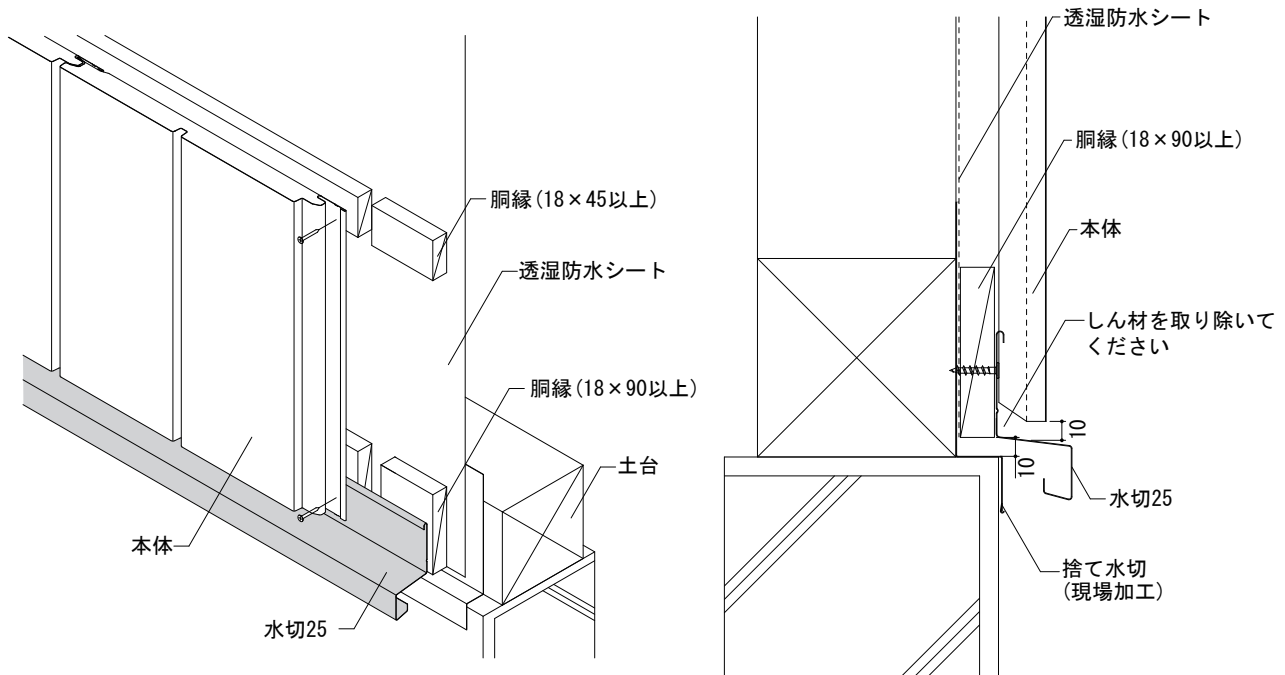
6. 各部位の納まり図

単位：mm

A. 土台部（１）

- ・本体の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・本体の下端は、水切25の上に留め付けてください。
- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。水切25の下に当て木などを入れるなどの対処をしてください。

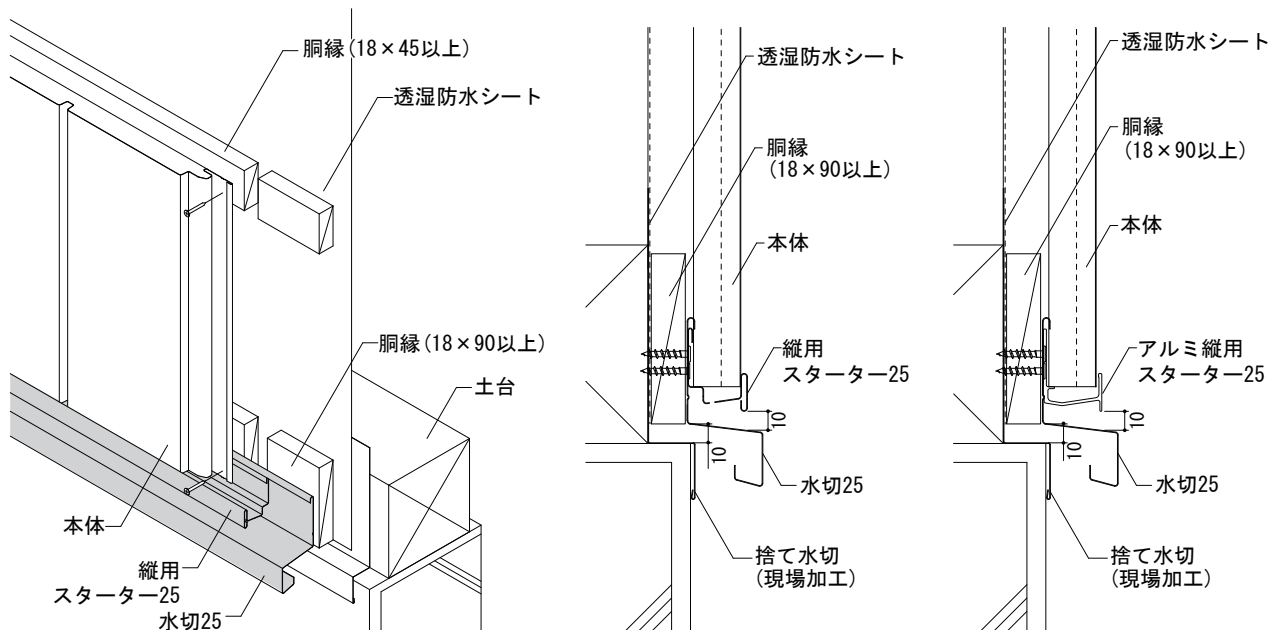
使用部材：水切25



A. 土台部（２）

- ・縦用スターター25またはアルミ縦用スターター25の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・本体の下端は、縦用スターター25またはアルミ縦用スターター25の上に留め付けてください。
- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。水切25の下に当て木などを入れるなどの対処をしてください。縦用スターター25は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター25の使用をお勧めします。
- ・施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

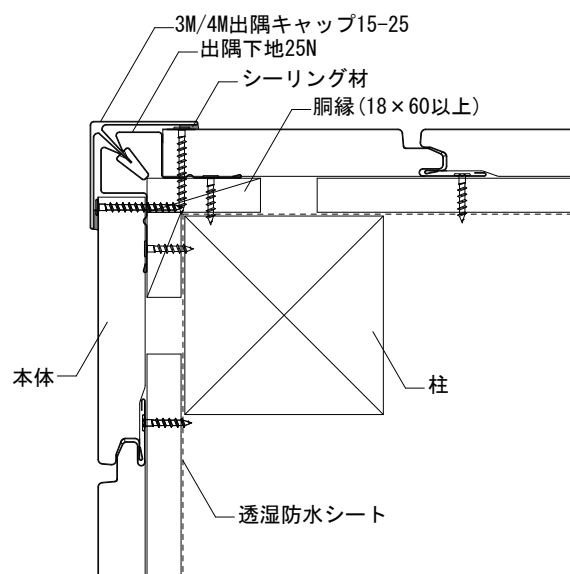
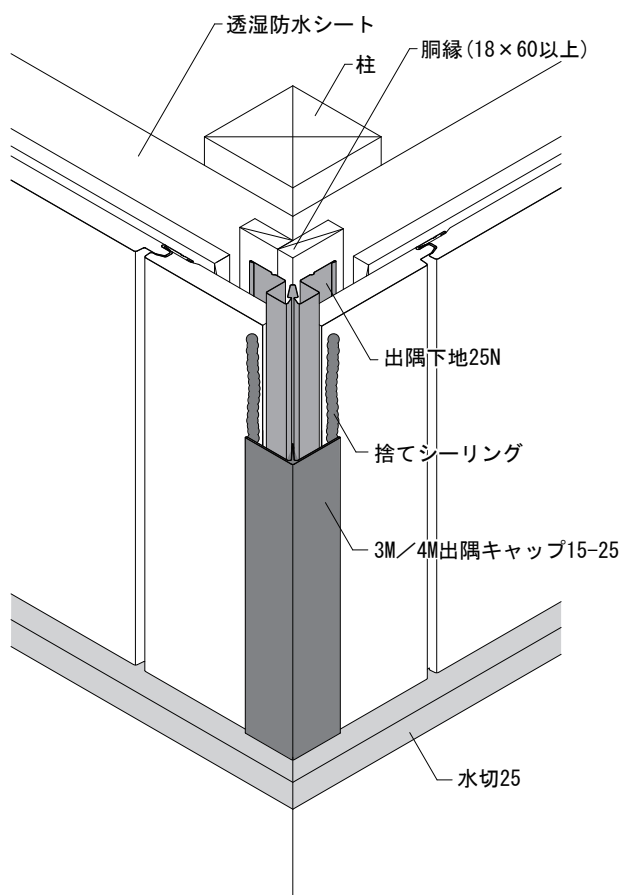
使用部材：水切25・縦用スターター25またはアルミ縦用スターター25



B. 出隅部

- ・ 本体の張り終わりと張り始めを留め付ける場合は、下穴をあけてから留め具（スクリークぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
- ・ 3M/4M出隅キャップ15-25は、出隅下地25Nに確実ににはめてください。完全にはまらないと脱落するおそれがあります。

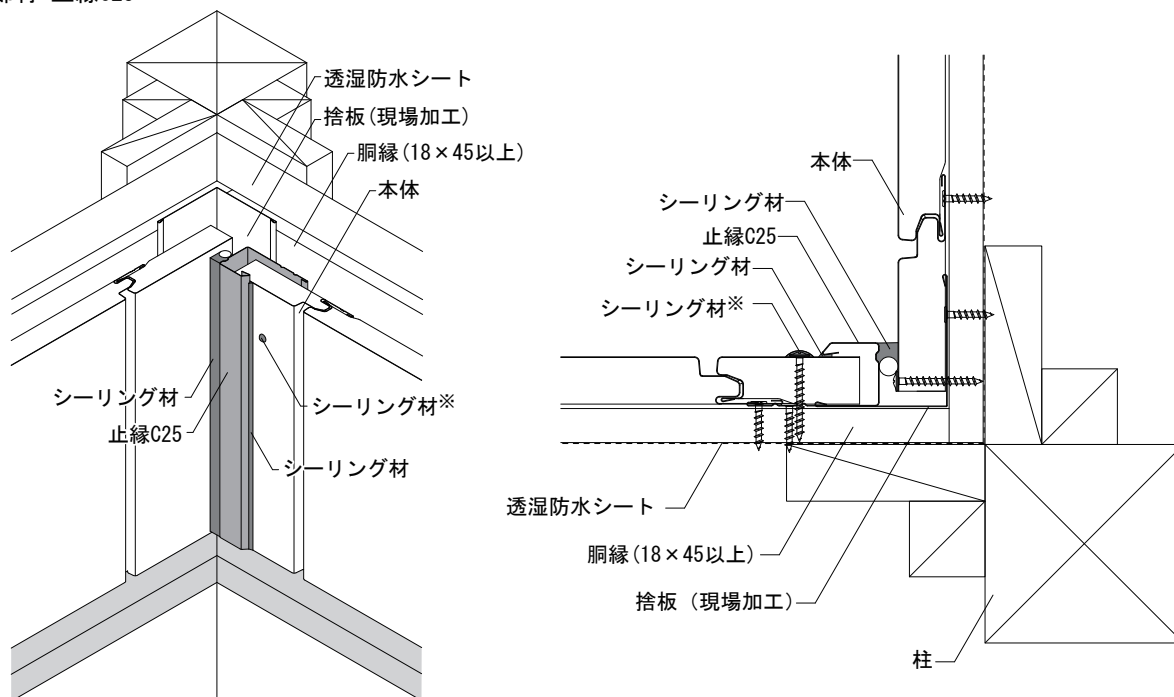
使用部材：3M／4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N



C. 入隅部（１）

- ・ 本体の端部は必ずスクリークぎまたは木ねじで、直接下地に留め付けてください。
- ※ 脳天打ちをしたくぎやねじ頭には、シーリング材の施工またはタッチアップペイントで塗装してください。

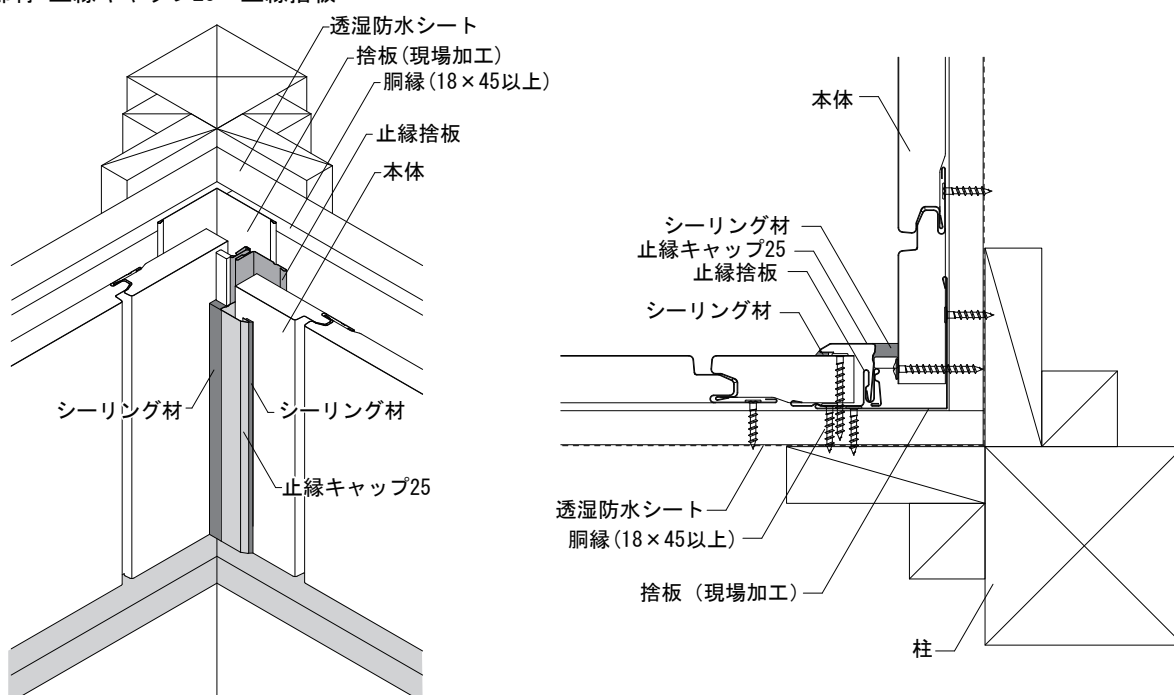
使用部材：止縁C25



C. 入隅部（２）

- ・ 本体の端部は必ずスクリークぎまたは木ねじで、直接下地に留め付けてください。

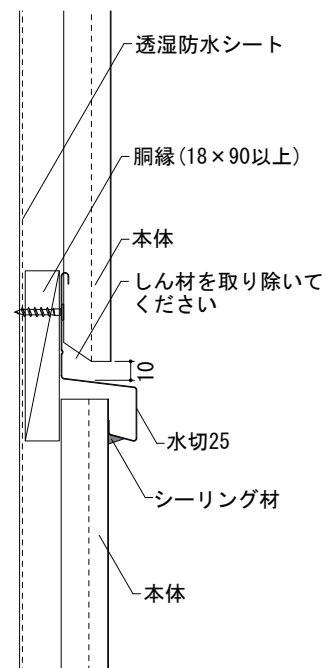
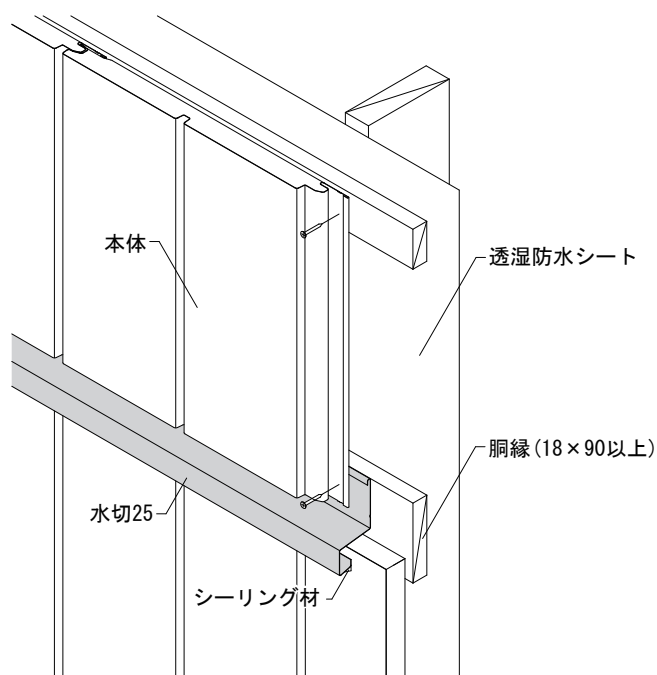
使用部材：止縁キャップ25・止縁捨板



D. 縦継ぎ部（１）

- ・ 本体の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。

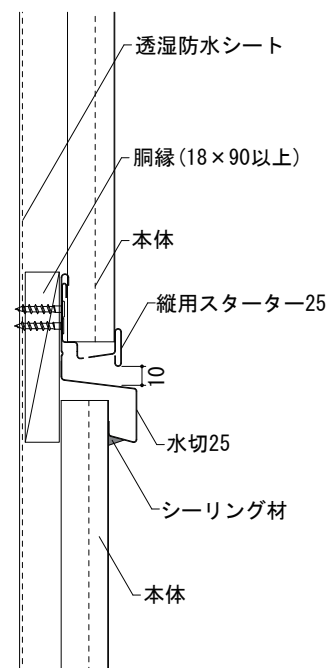
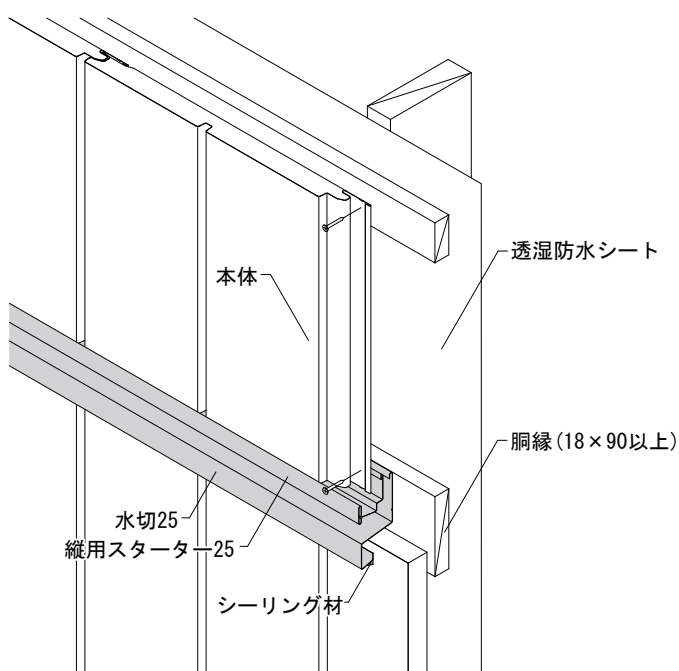
使用部材：水切25



D. 縦継ぎ部（２）

- ・ 縦用スターター25の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・ 本体の下端は、縦用スターター25の上に留め付けてください。
- ・ 施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。切粉はさびや汚れの原因となります。

使用部材：水切25・縦用スターター25



6. 各部位の納まり図

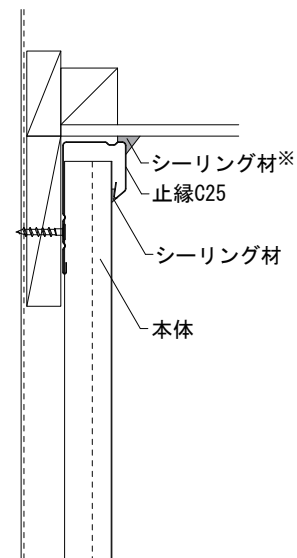
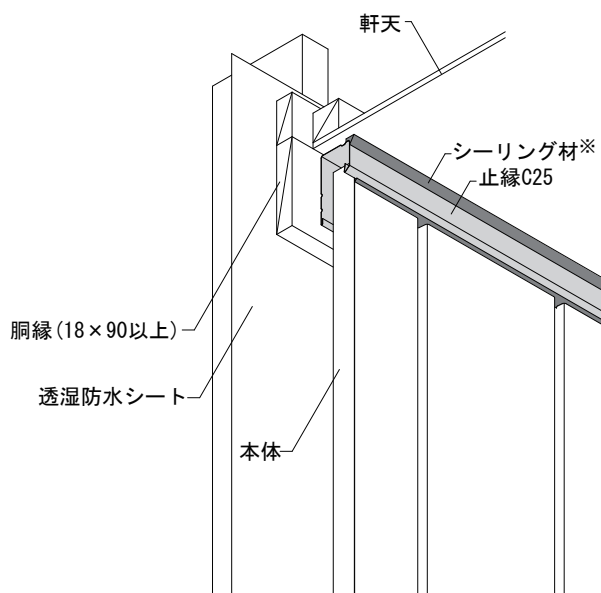
単位：mm

E. 軒部（１）

・軒裏や小屋裏への通気経路を確保してください。軒裏や小屋裏への通気を行わない場合は、通気軒見切15-25を使用することで通気構法が可能となります。

※ 軒の出が外壁表面から300mm以上の場合は、軒天と部材の間のシーリング材は無しも可。

使用部材：止縁C25

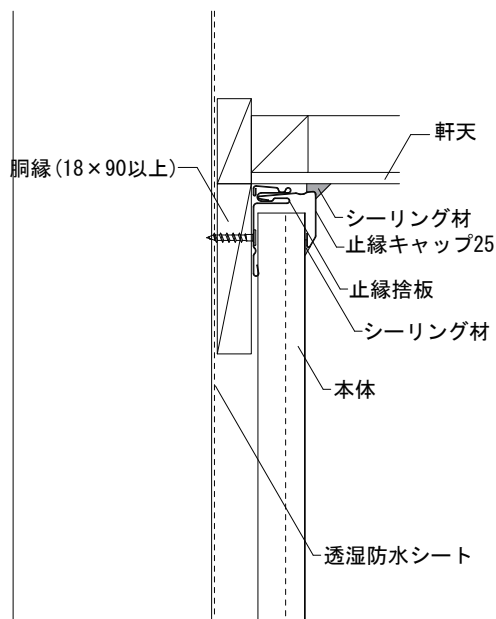
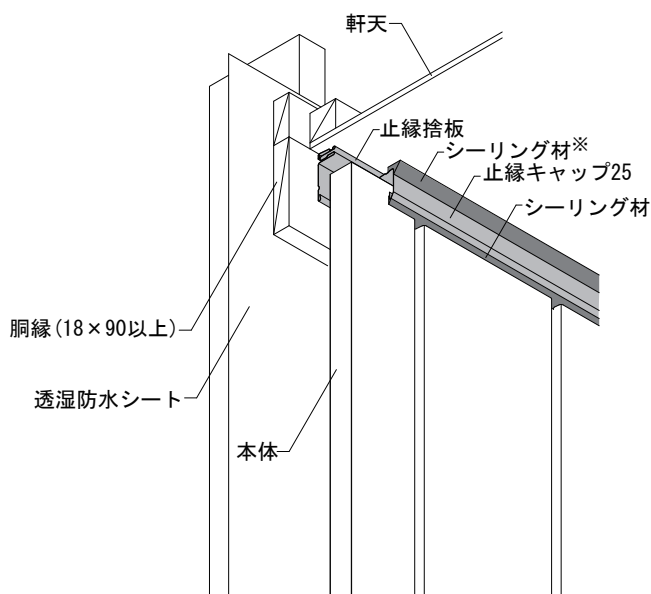


E. 軒部（２）

・軒裏や小屋裏への通気経路を確保してください。軒裏や小屋裏への通気を行わない場合は、通気軒見切15-25を使用することで通気構法が可能となります。

※ 軒の出が外壁表面から300mm以上の場合は、軒天と部材の間のシーリング材は無しも可。

使用部材：止縁キャップ25・止縁捨板



6. 各部位の納まり図

単位：mm

E. 軒部（3）

- ・軒ゼロ住宅に施工する場合の参考例です。
- ・軒裏45分準耐火構造の換気材として使う場合の構造仕様の詳細は、「日本住環境株式会社」のカタログをご確認ください。
- ※ 通気材とサイディング本体の取り合い部はシーリング材で防水してください。

通気材の参考例

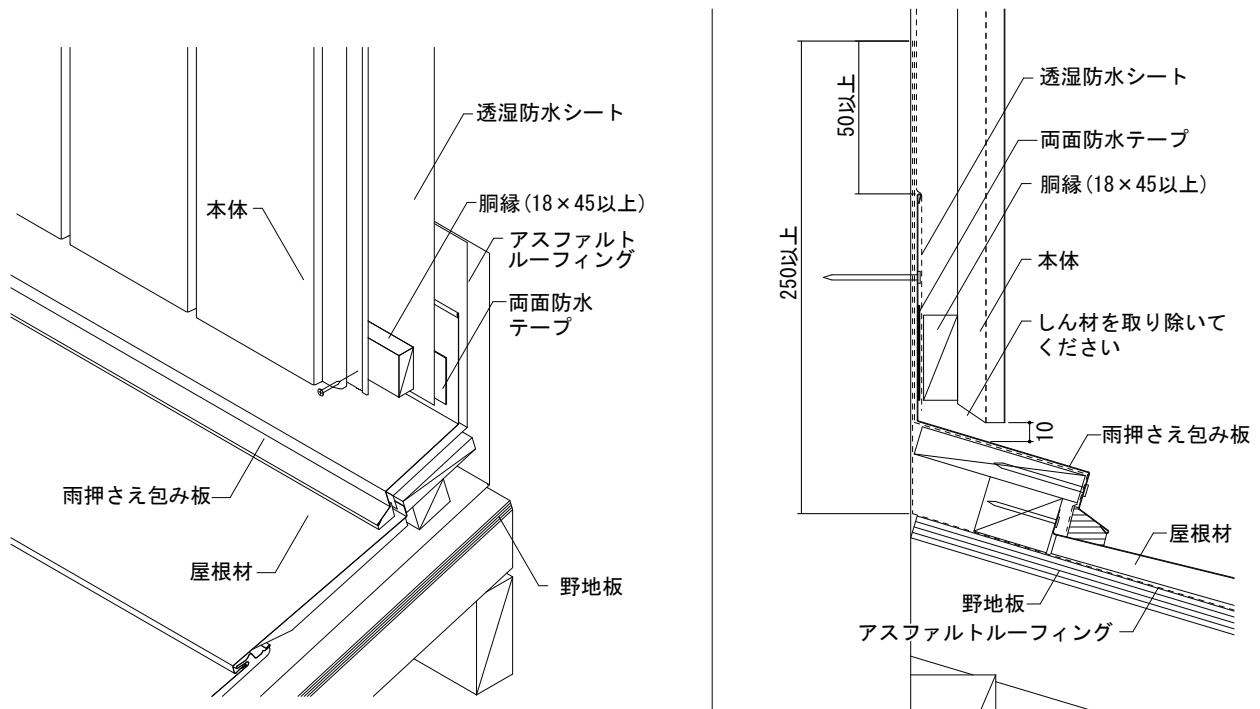
メーカー	日本住環境株式会社品	
商品名	ep45軒ゼロSⅡ	ep45軒ゼロSG
商品図		
防耐火認定	軒裏45分準耐火構造適合品	軒裏45分準耐火構造適合品

納まり図参考例

ep45軒ゼロSⅡ	ep45軒ゼロSG

F. 下屋見切り部（１）

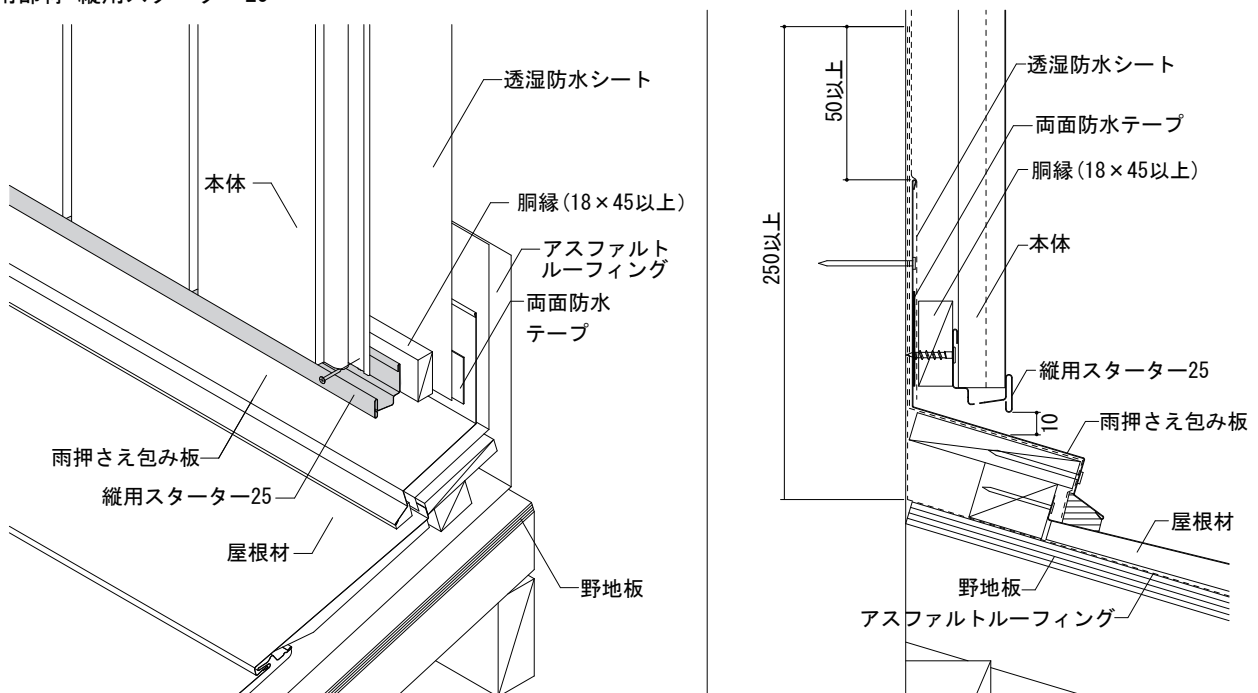
- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。
- ・本体の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。



F. 下屋見切り部（２）

- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、縦用スターター25を使用しない納め方としてください。
- ・縦用スターター25の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・本体の下端は、縦用スターター25の上に留め付けてください。
- ・施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

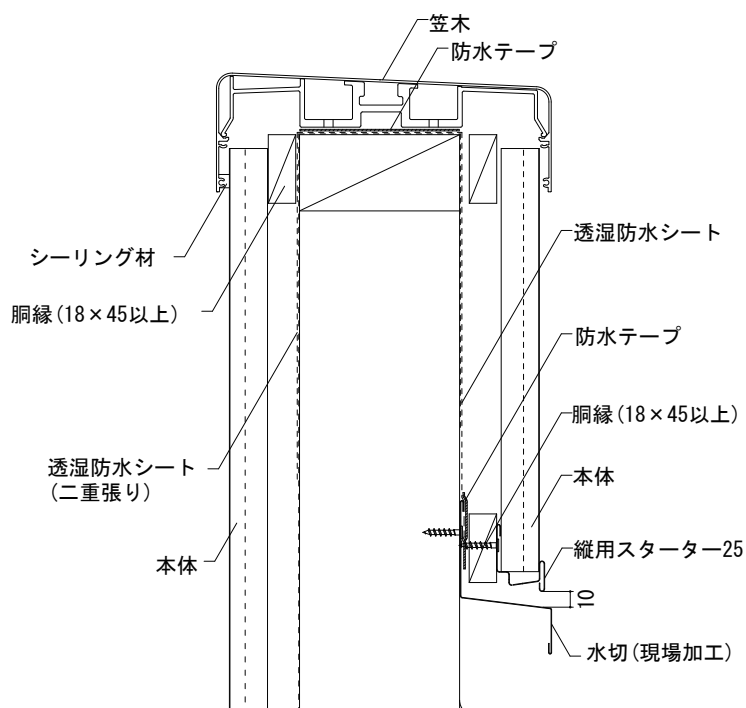
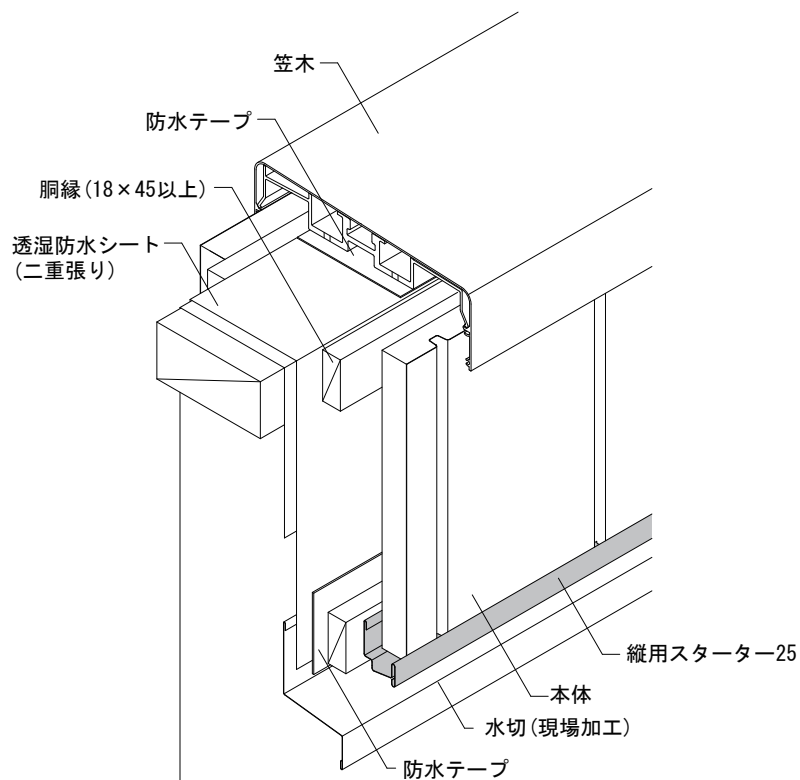
使用部材：縦用スターター25



G. 笠木部

- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処し、縦用スターター25を使用しない納め方としてください。
- ・防水上万全を期すため、透湿防水シートを二重張りにしてください。
- ・通気経路を確保してください。・施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

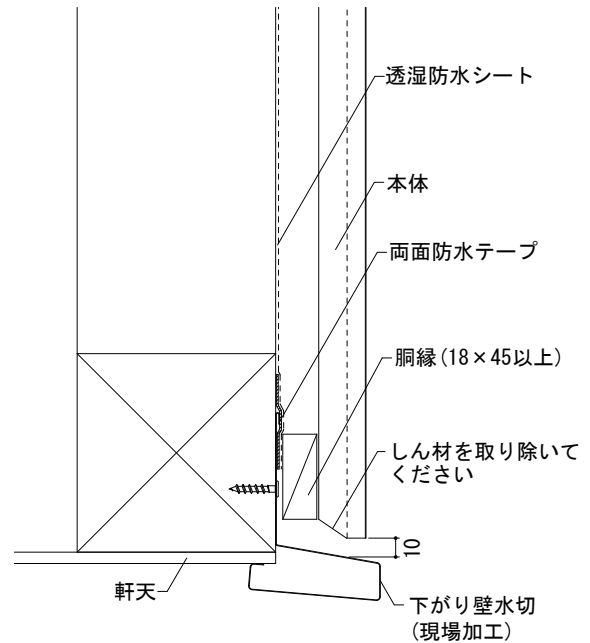
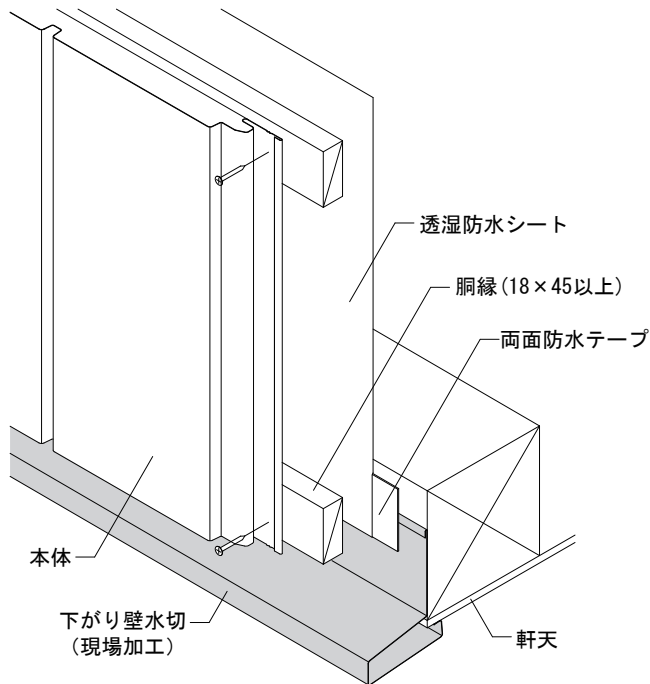
使用部材：縦用スターター25



H. 下がり壁部（１）

- ・ 本体の下端と下がり壁水切（現場加工）の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。

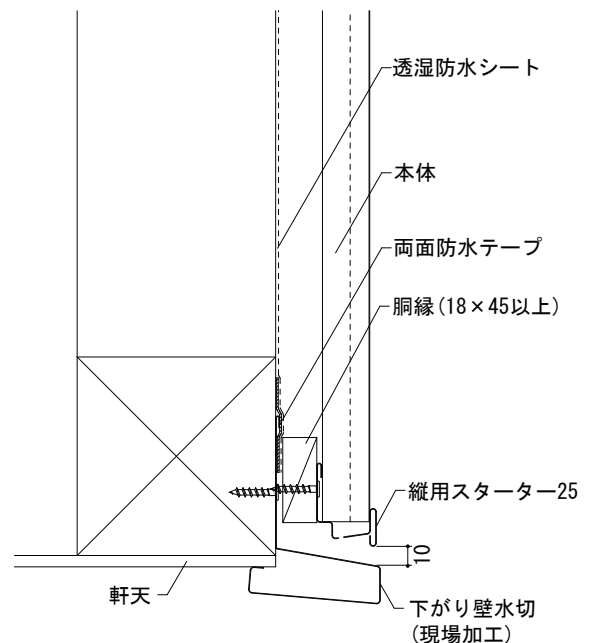
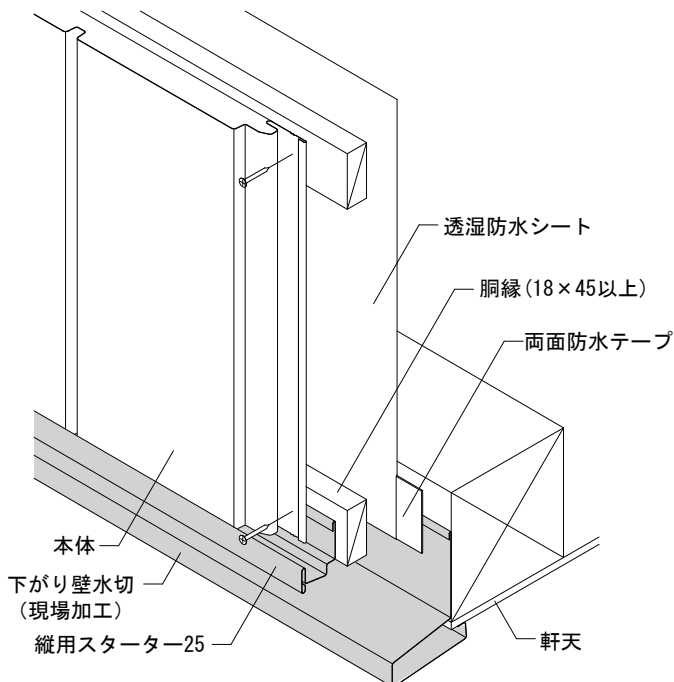
使用部材：下がり壁水切（現場加工）



H. 下がり壁部（２）

- ・ 縦用スターター25の下端と下がり壁水切（現場加工）の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・ 本体の下端は、縦用スターター25の上に留め付けてください。
- ・ 施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

使用部材：下がり壁水切（現場加工）・縦用スターター25



I. 開口部（共通）

サッシと部材の取り合いのシーリングの施工について

- ・サッシと部材の取り合いでシーリングを施工する場合は、図1、図2のいずれかのようにシーリング材を施工してください。
- ・図2の場合は、接着断面の長さは5mm以上とし、両面が薄くならないように均一に施工してください。
- ・シーリング材が薄い箇所は劣化が早く進みシーリング切れの原因となります。シーリング材のこまめな点検、補修が必要です。
- ・次ページより、図1を代表して記載しています。

※くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

図1

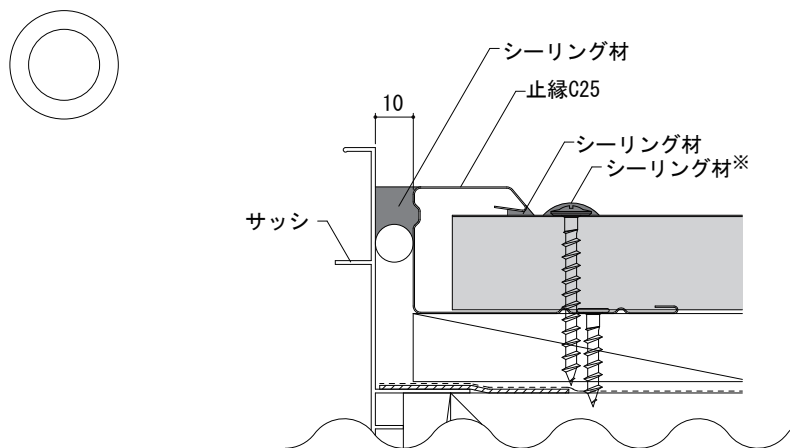
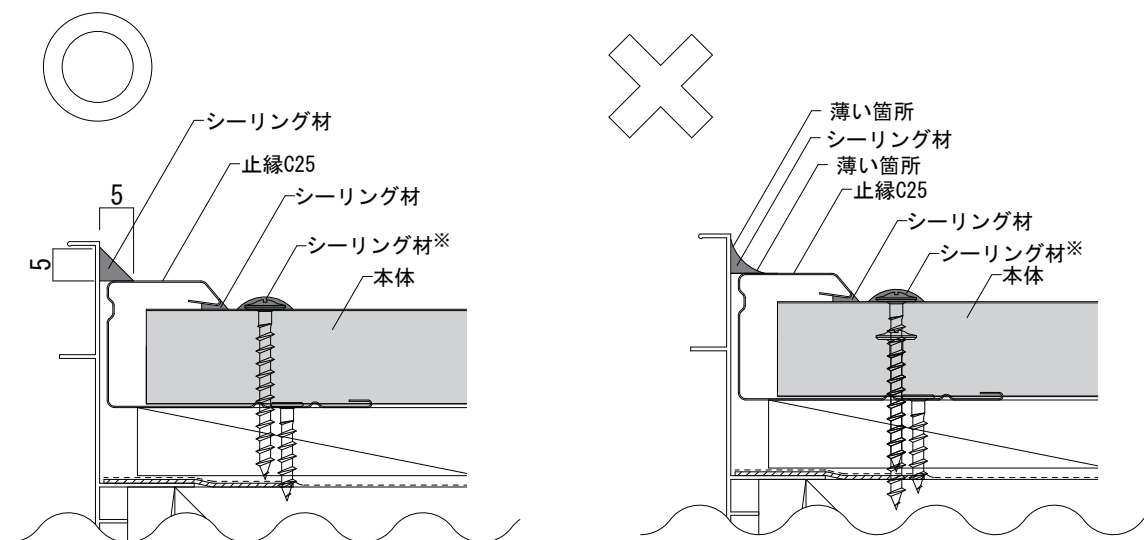


図2



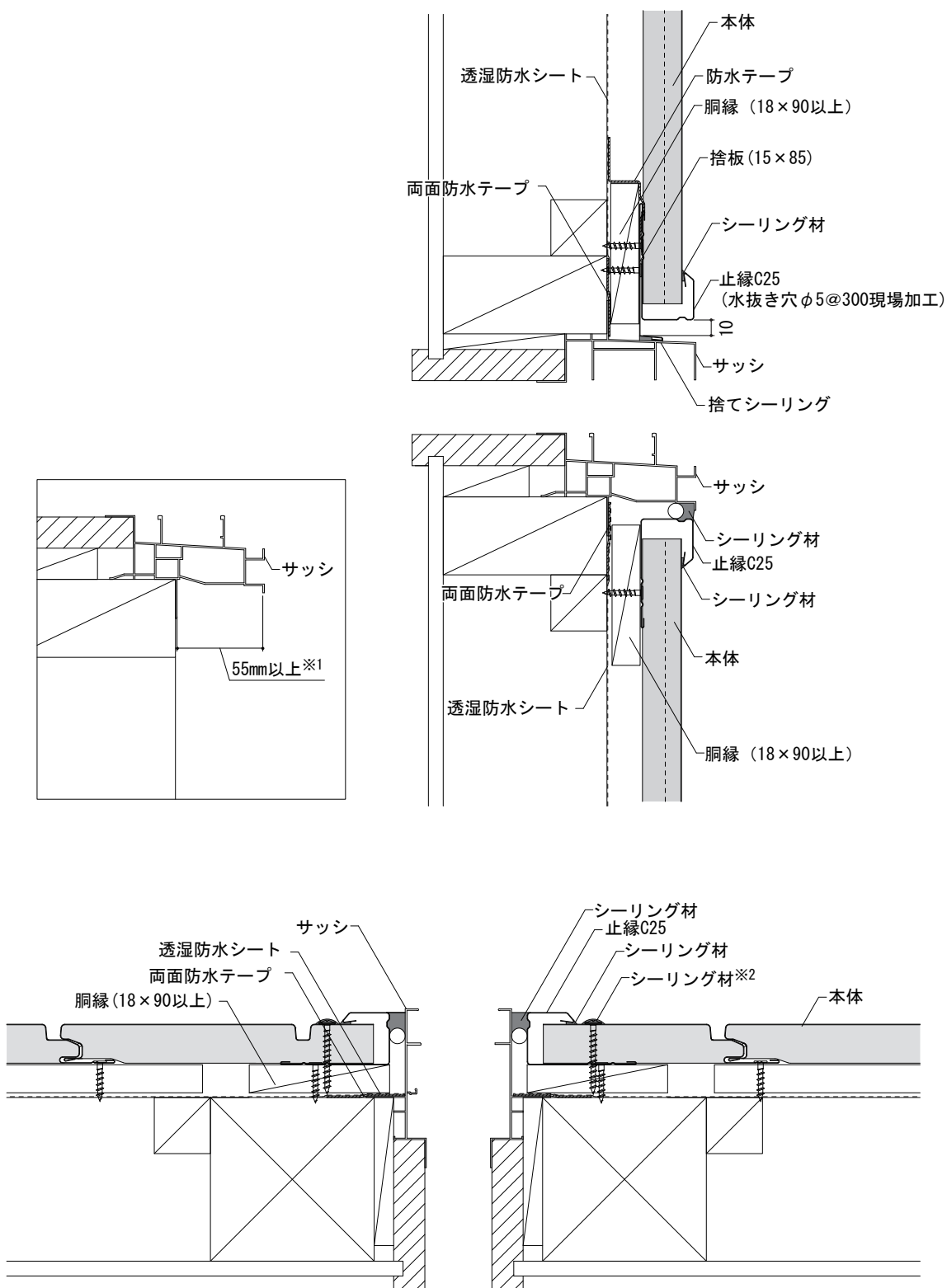
I. 開口部（1）

・止縁C25をサッシ上部に取り付ける際は、あらかじめ水抜き穴をあけてから取り付けてください。

※1 下地表面からサッシの出幅が55mm以上の場合に、施工できます。

※2 くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

使用部材：止縁C25・捨板(15×85)

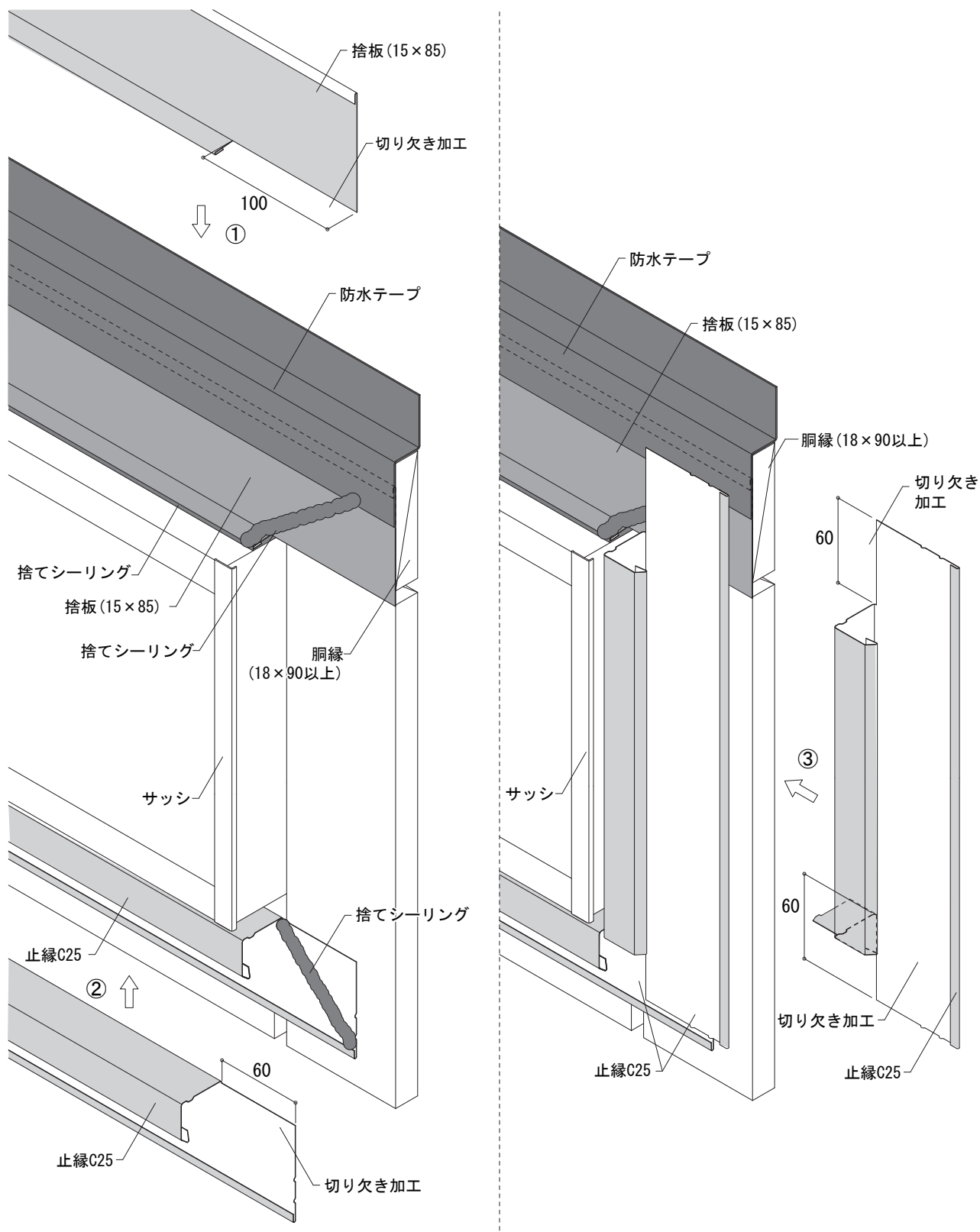


I. 開口部（1）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ① 捨板（15×85）とサッシの間には、捨てシーリングを施工してから取り付けてください。捨板（15×85）の上から防水テープを図の位置に施工してください。
- ② 開口部下、③ 開口部左右の順に止縁C25を取り付けてください。なお、各部材同士の重なり位置には捨てシーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・捨板（15×85）



6. 各部位の納まり図

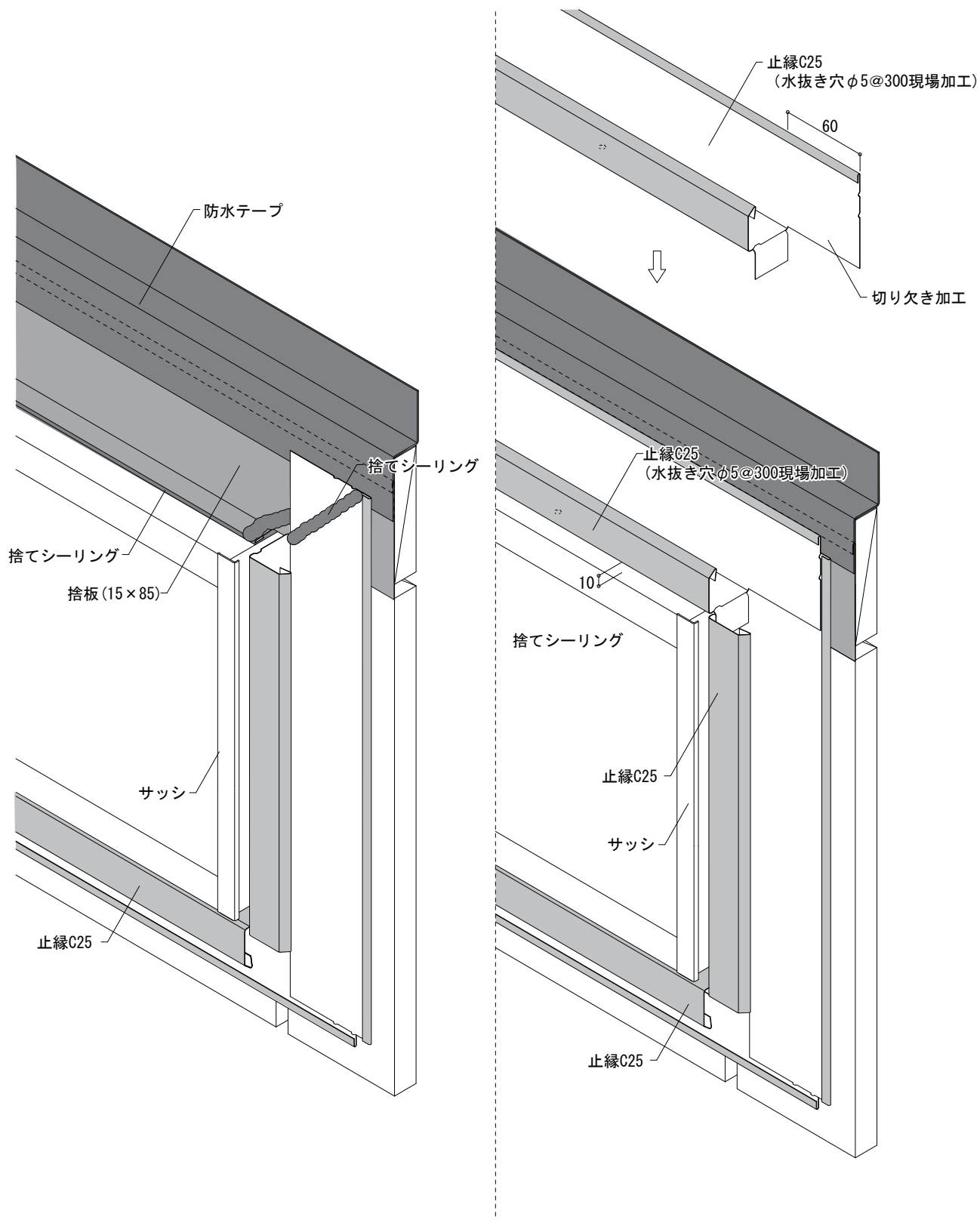
単位：mm

I. 開口部（1）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ・ 開口部上には、止縁C25（水抜き穴φ5@300現場加工）の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけて取り付けてください。

使用部材：止縁C25・捨て板（15×85）

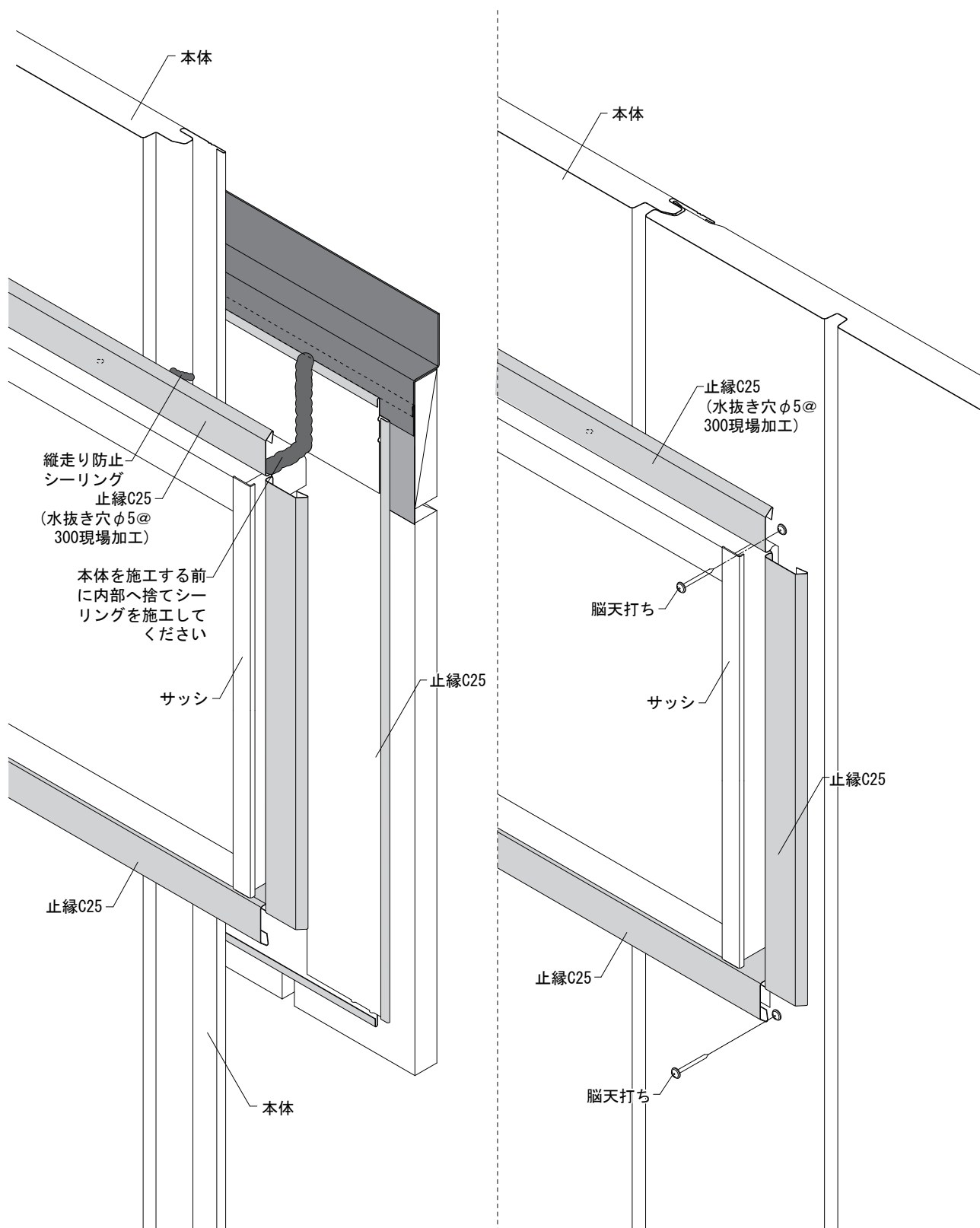


I. 開口部（1）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ・ 本体を施工する前に止縁C25の左右両端の内部には、捨てシーリングを施工してください。
- ・ 開口部上に施工する本体1枚ごとに、縦走り防止シーリングを施工してください。
- ・ ワンタッチコーナーキャップ15-25の隠れる位置に脳天打ちをし、本体を確実に留め付けてください。

使用部材：止縁C25・捨板(15×85)

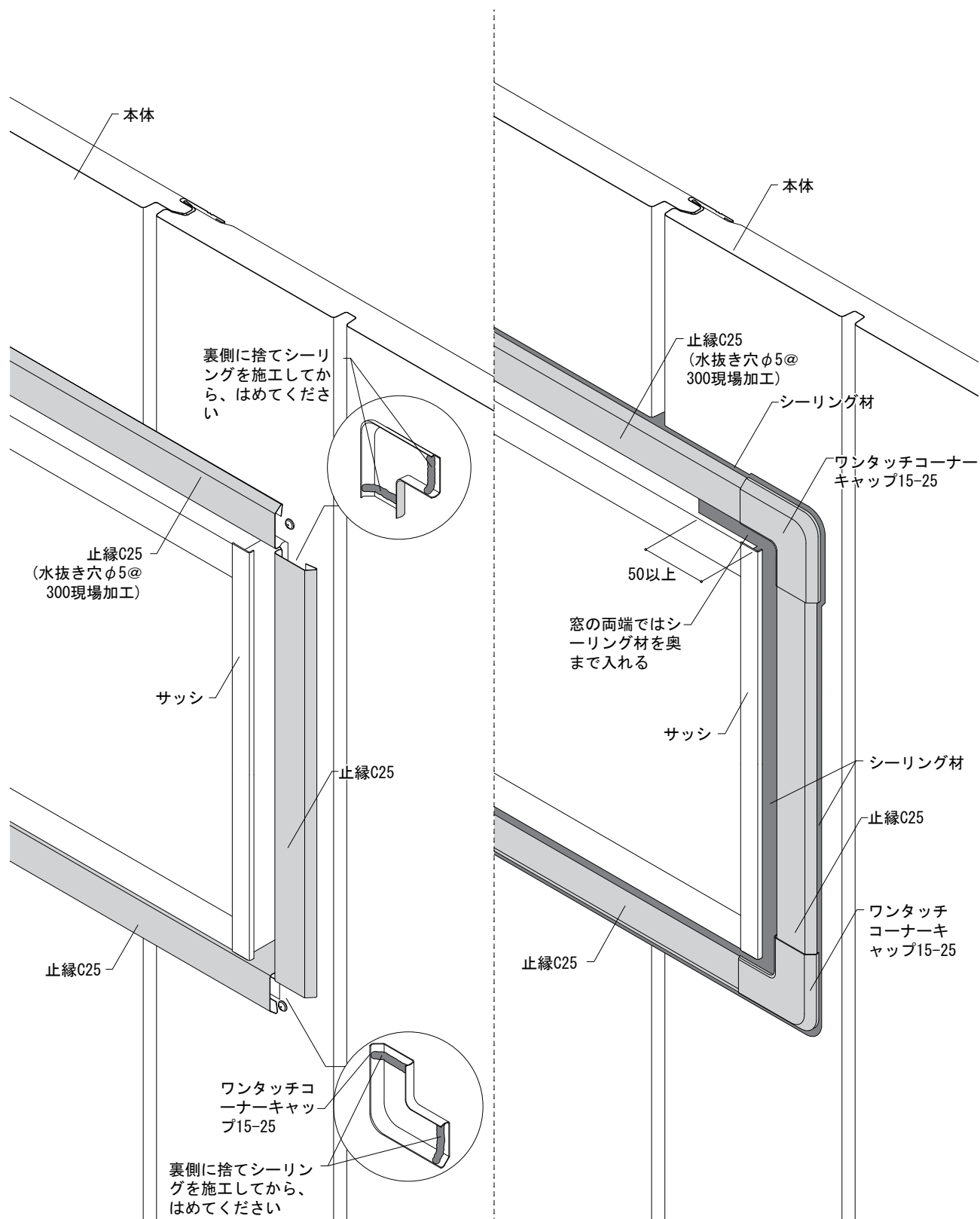


I. 開口部（1）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ・開口部上では、止縁C25の下端とサッシの間に左右両端50mm程度のシーリング材を奥まで入れてください。
- ・脳天打ちをしたくぎやねじ頭には、シーリング材の施工またはタッチアップペイントで塗装してください。

使用部材：止縁C25・捨板(15×85)



6. 各部位の納まり図

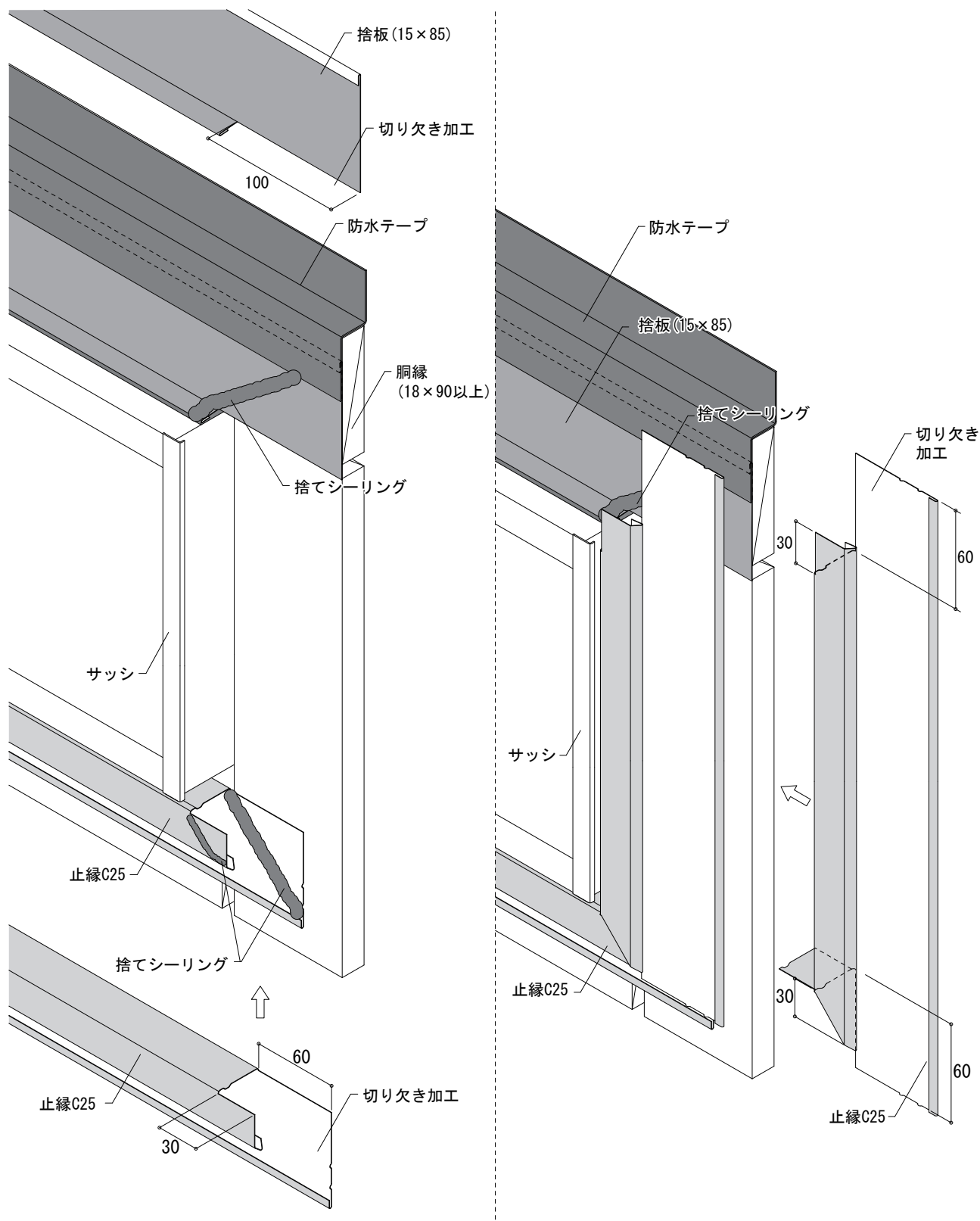
単位：mm

I. 開口部（1）

隅角部を加工する場合

- ・ 捨板（15×85）とサッシの間には、捨てシーリングを施工してから取り付けてください。捨板（15×85）の上から防水テープを図の位置に施工してください。
- ・ 開口部下、開口部左右の順に止縁C25を取り付けてください。なお、各部材同士の重なり位置には捨てシーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・捨板（15×85）



6. 各部位の納まり図

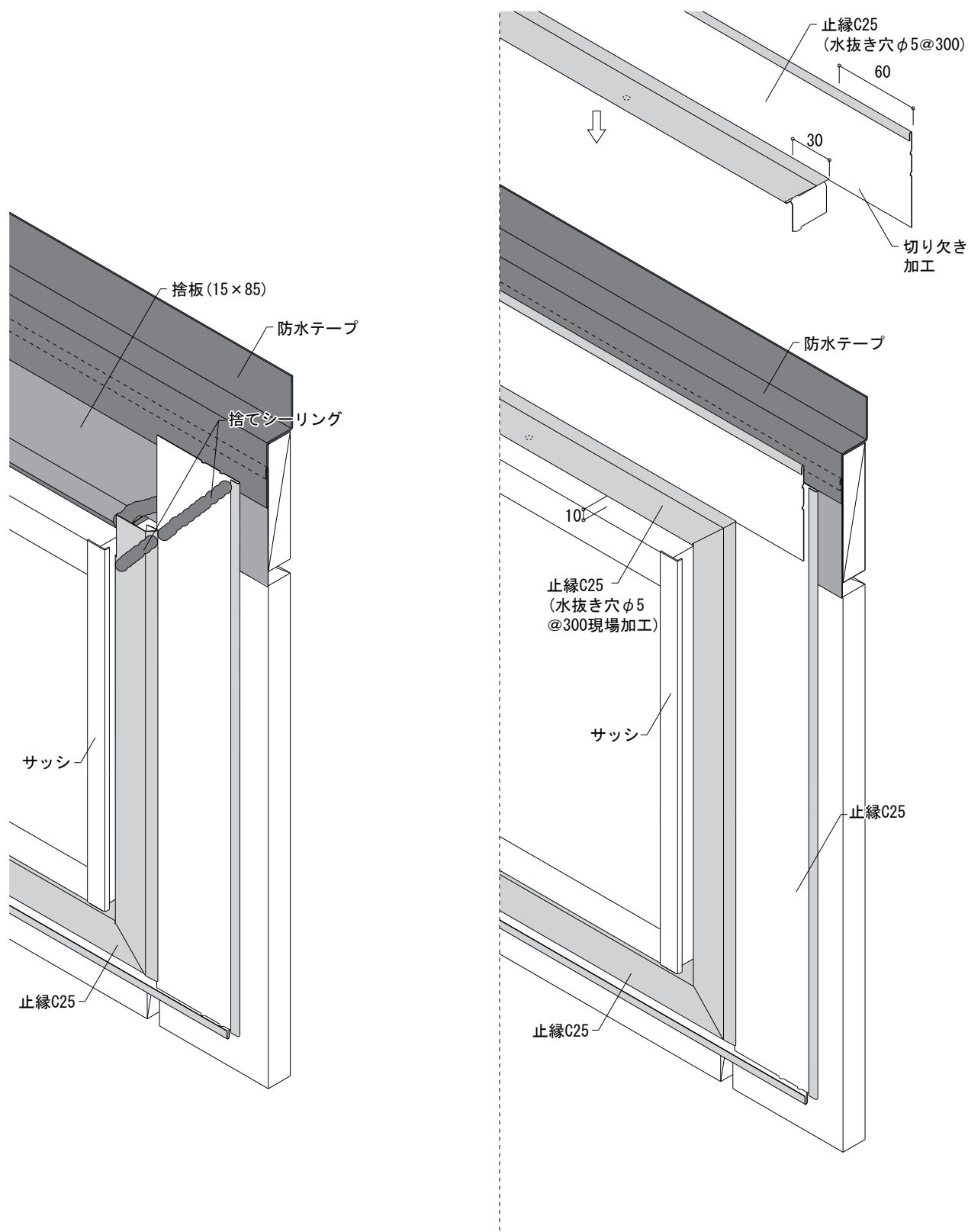
単位：mm

I. 開口部（１）

隅角部を加工する場合

- ・ 開口部左右に施工した止縁C25同士が重なる箇所は、捨てシーリングを施工してからと開口部上の止縁C25を施工してください。
- ・ 開口部上には、止縁C25（水抜き穴φ5@300現場加工）の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけて取り付けてください。

使用部材：止縁C25・捨て板（15×85）

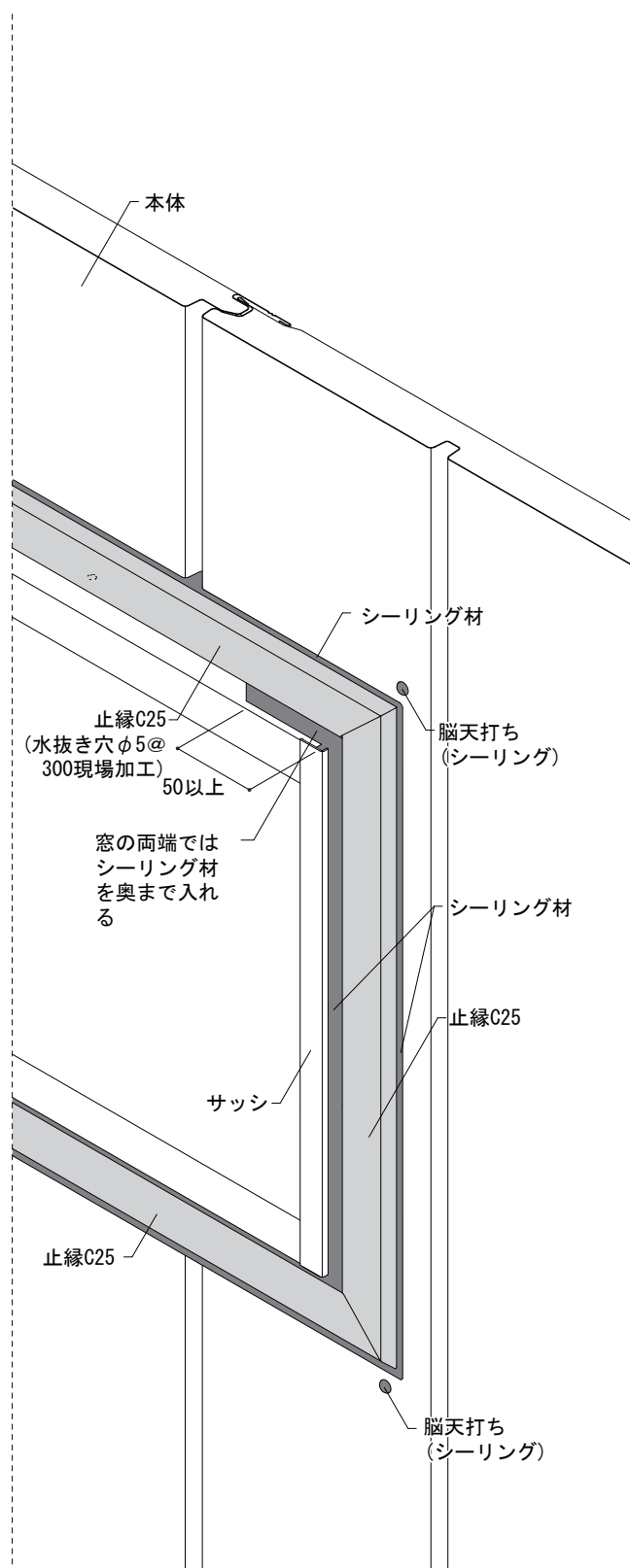
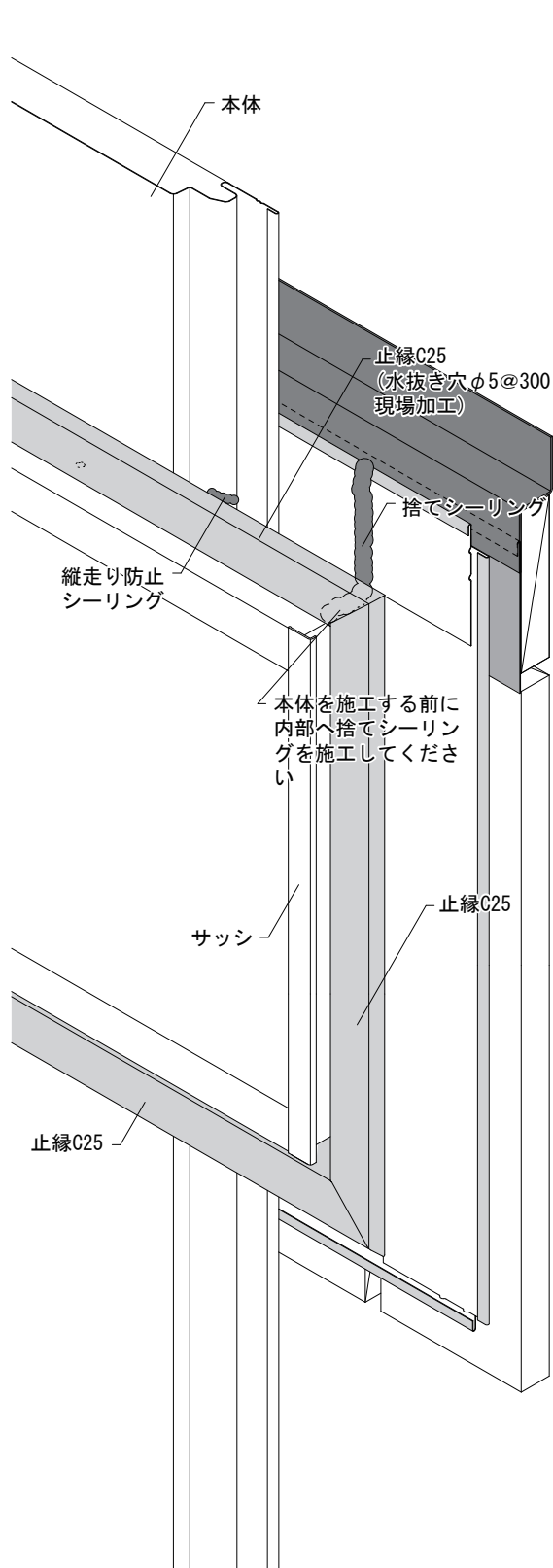


I. 開口部（1）

隅角部を加工する場合

- ・ 本体を施工する前に止縁C25の内部に捨てシーリングを施工してください。
- ・ 開口部上に施工する本体1枚ごとに、縦走り防止シーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・捨て板(15×85)

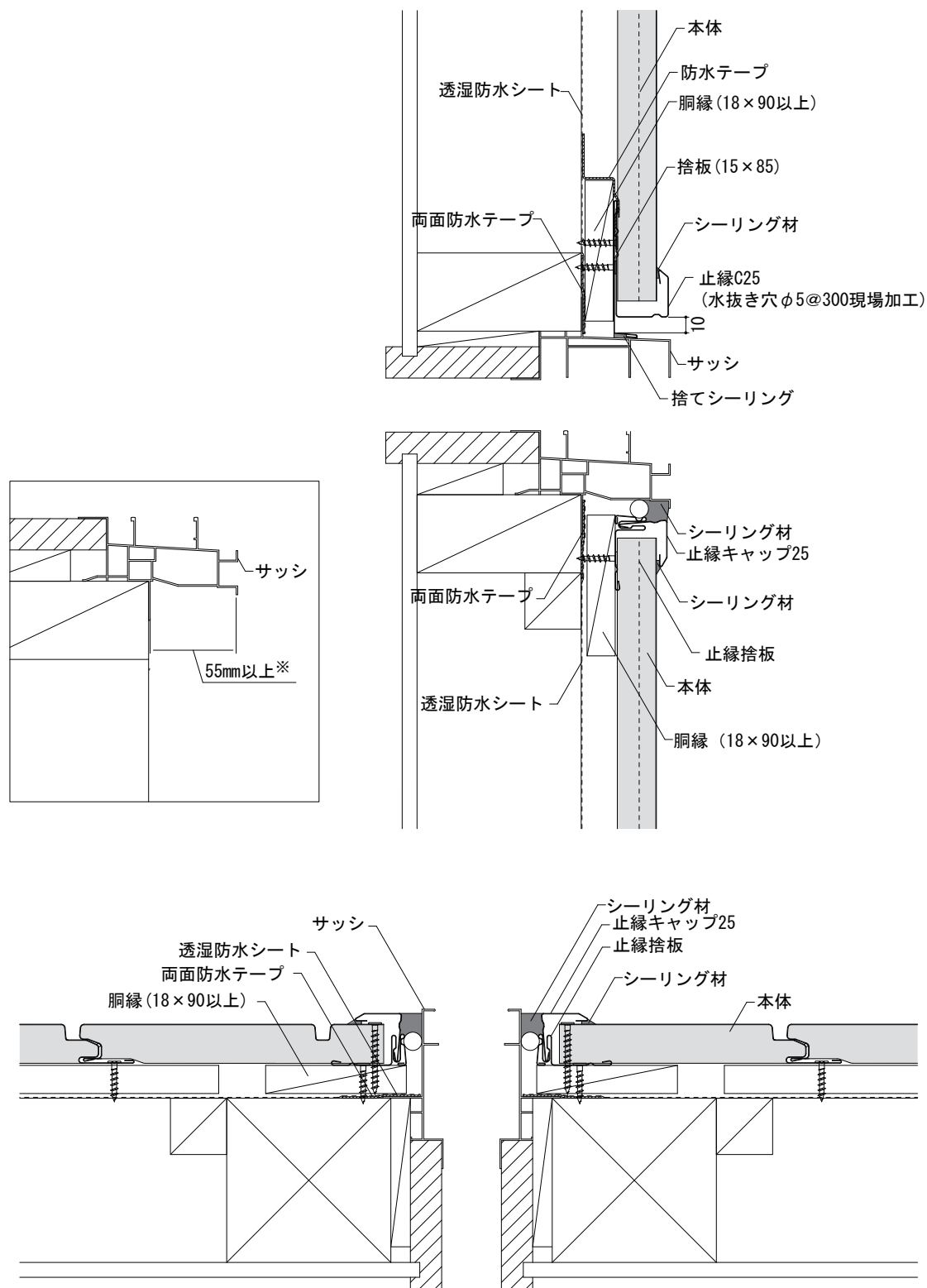


I. 開口部（2）

- ・止縁C25をサッシ上部に取り付ける際は、あらかじめ水抜き穴をあけてから取り付けてください。
- ・本体の端部は必ず留め具（スクリークぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。

※ 下地表面からサッシの出幅が55mm以上の場合に、施工できます。

使用部材：止縁C25・止縁キャップ25・止縁捨板・捨板(15×85)

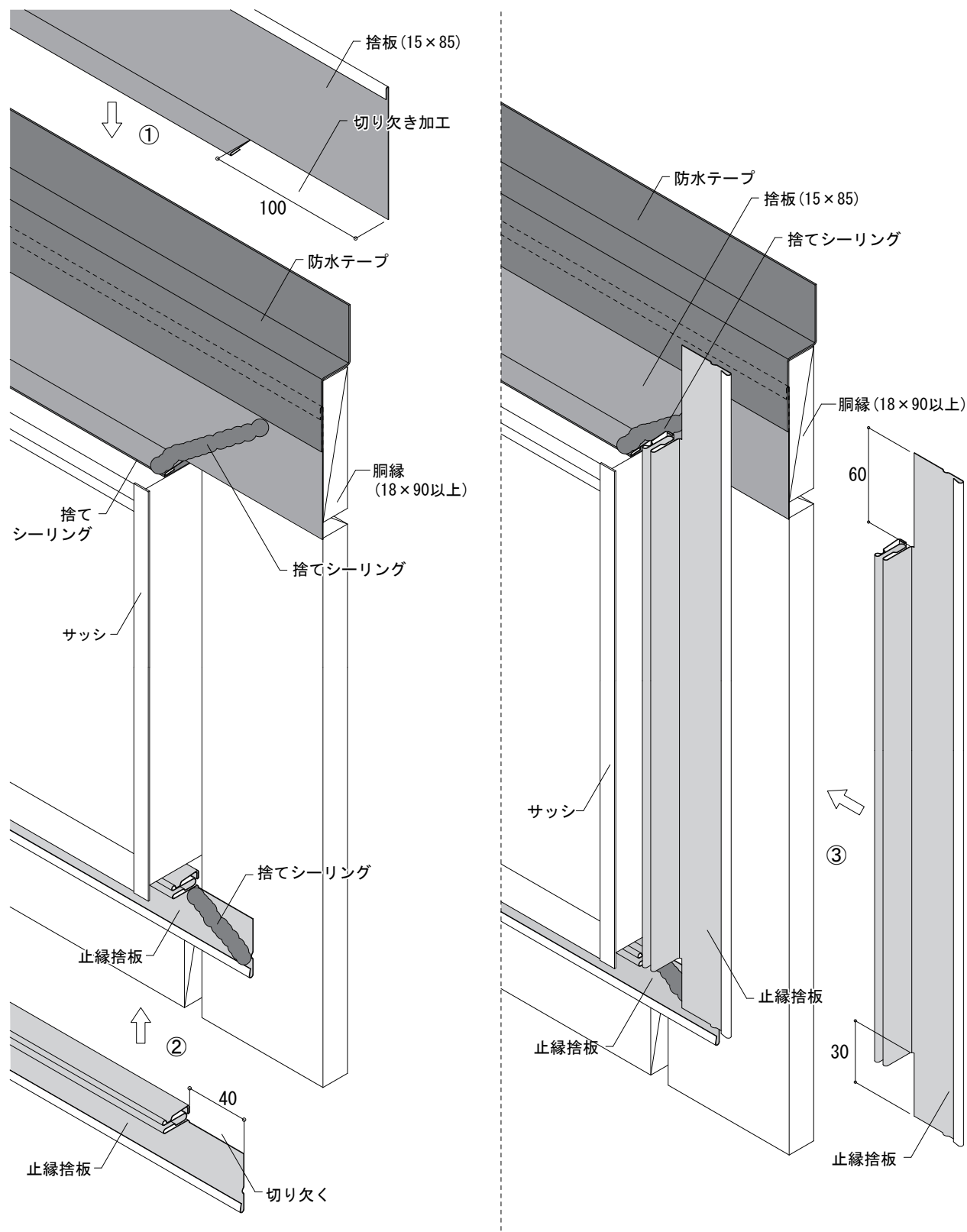


I. 開口部（2）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ① 捨板（15×85）とサッシの間には、捨てシーリングを施工してから取り付けてください。捨板（15×85）の上から防水テープを図の位置に施工してください。
- ② 開口部下、③ 開口部左右の順に止縁捨板を取り付けてください。なお、各部材同士の重なり位置には捨てシーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・捨板（15×85）・止縁キャップ25・止縁捨板



6. 各部位の納まり図

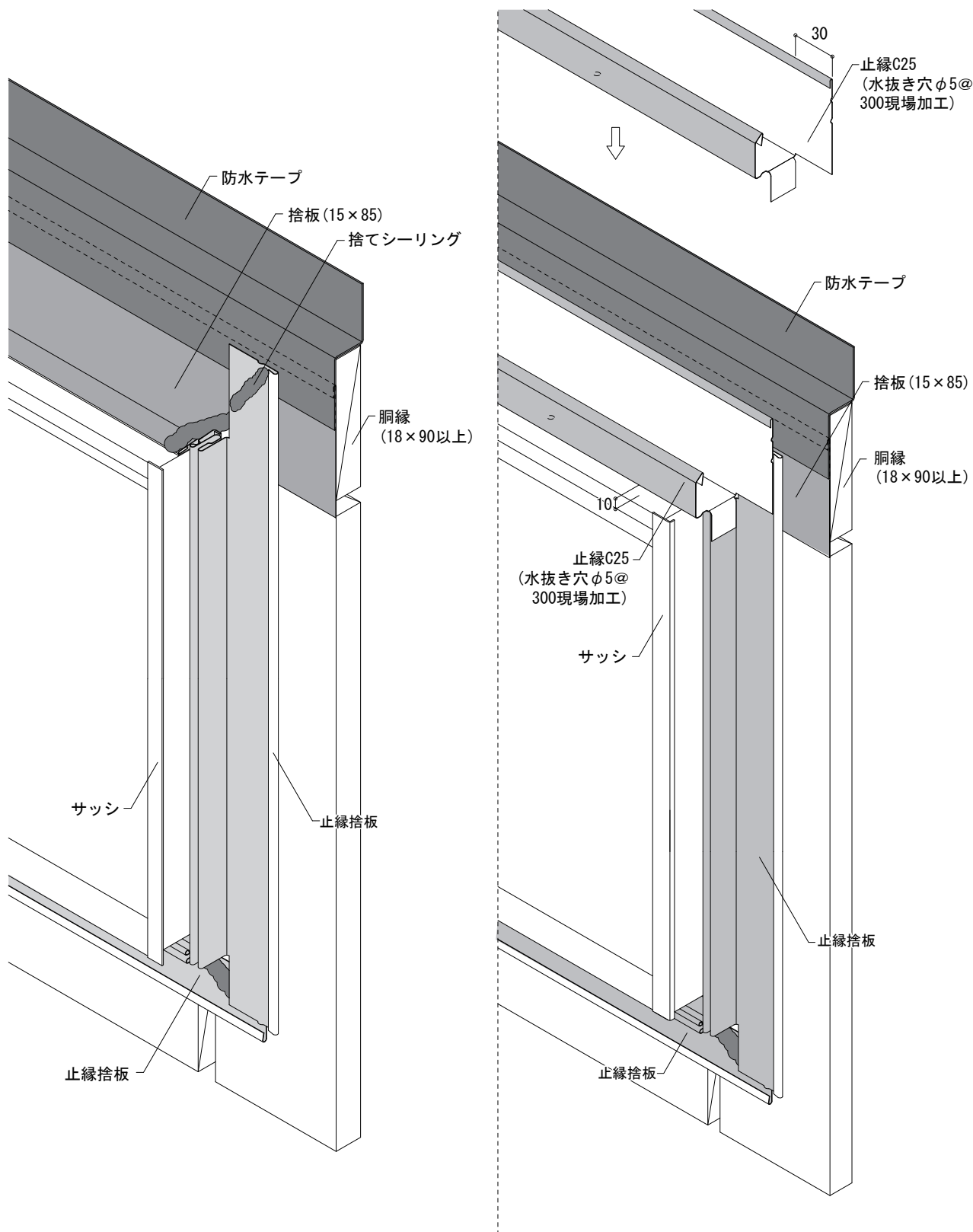
単位：mm

I. 開口部（2）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ・ 開口部左右に、止縁捨板を取り付けてください。
- ・ 開口部上には、止縁C25（水抜き穴φ5@300現場加工）の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけて取り付けてください。止縁C25の左右両端の内部には、捨てシーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・捨板（15×85）・止縁キャップ25・止縁捨板

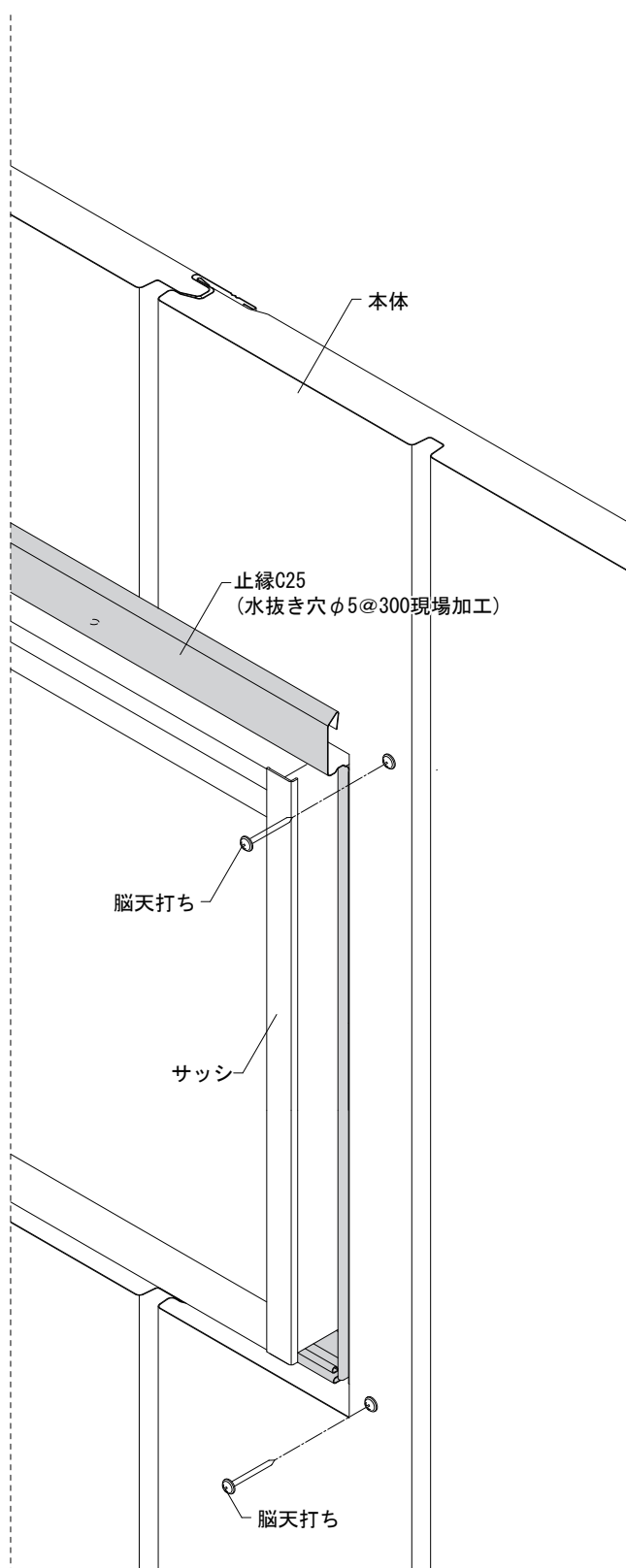
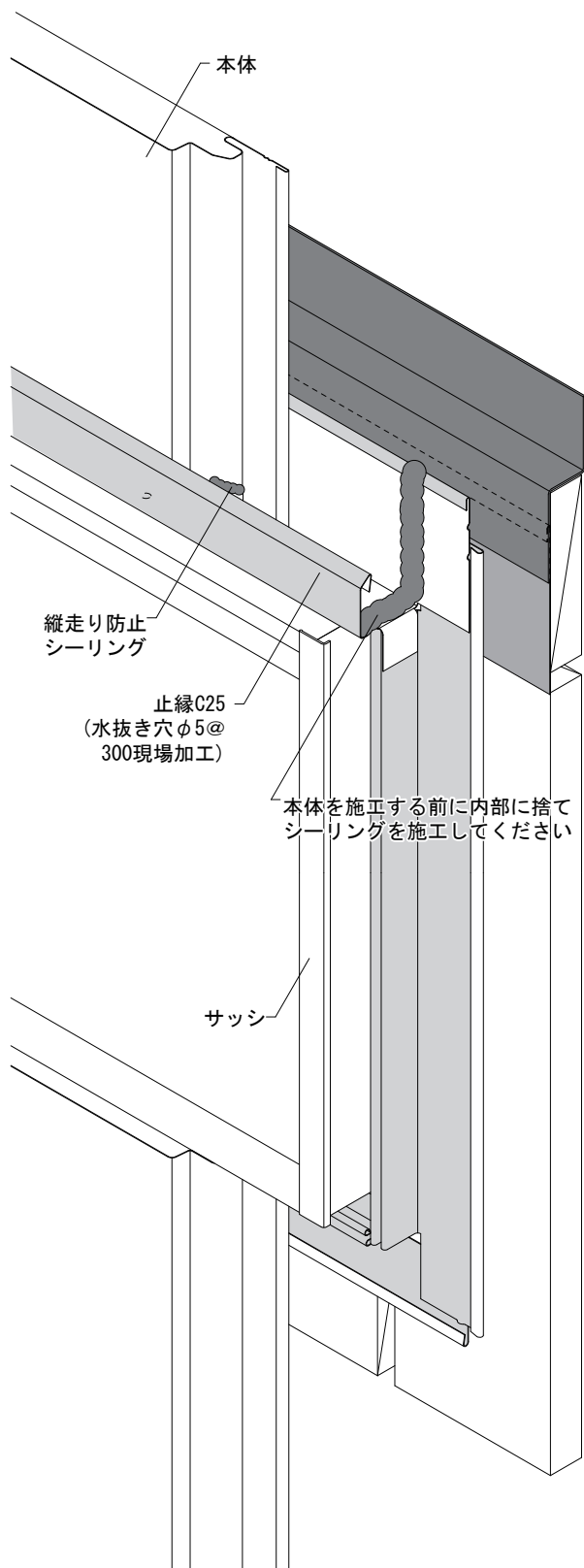


I. 開口部（2）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ・ 本体1枚ごとに、縦走り防止シーリングを施工してください。
- ・ ワンタッチコーナーキャップ15-25の隠れる位置に脳天打ちをし、本体を確実に留め付けてください。

使用部材：止縁C25・捨て板(15×85)・止縁キャップ25・止縁捨て板

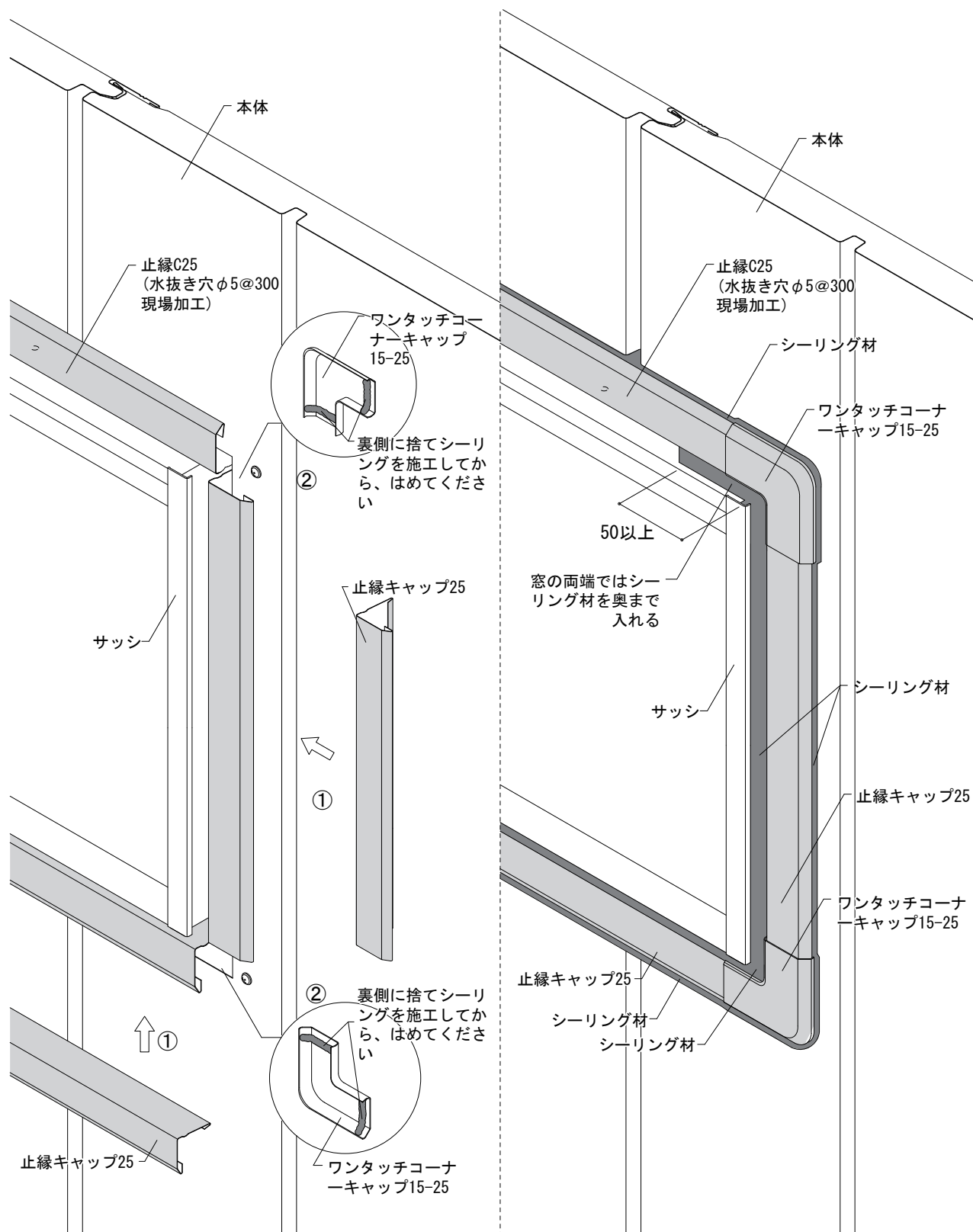


I. 開口部（2）

隅角部にワンタッチコーナーキャップ15-25を施工する場合

- ・ 本体1枚ごとに、縦走り防止シーリングを施工してください。
 - ・ ワンタッチコーナーキャップ15-25の隠れる位置に脳天打ちをし、本体を確実に留め付けてください。
- ① 開口部左右および開口部下に、止縁キャップ25を施工してください。
- ② ワンタッチコーナーキャップ15-25の裏側に捨てシーリングを施工してから、はめてください

使用部材：止縁C25・捨て板(15×85)・止縁キャップ25・止縁捨て板

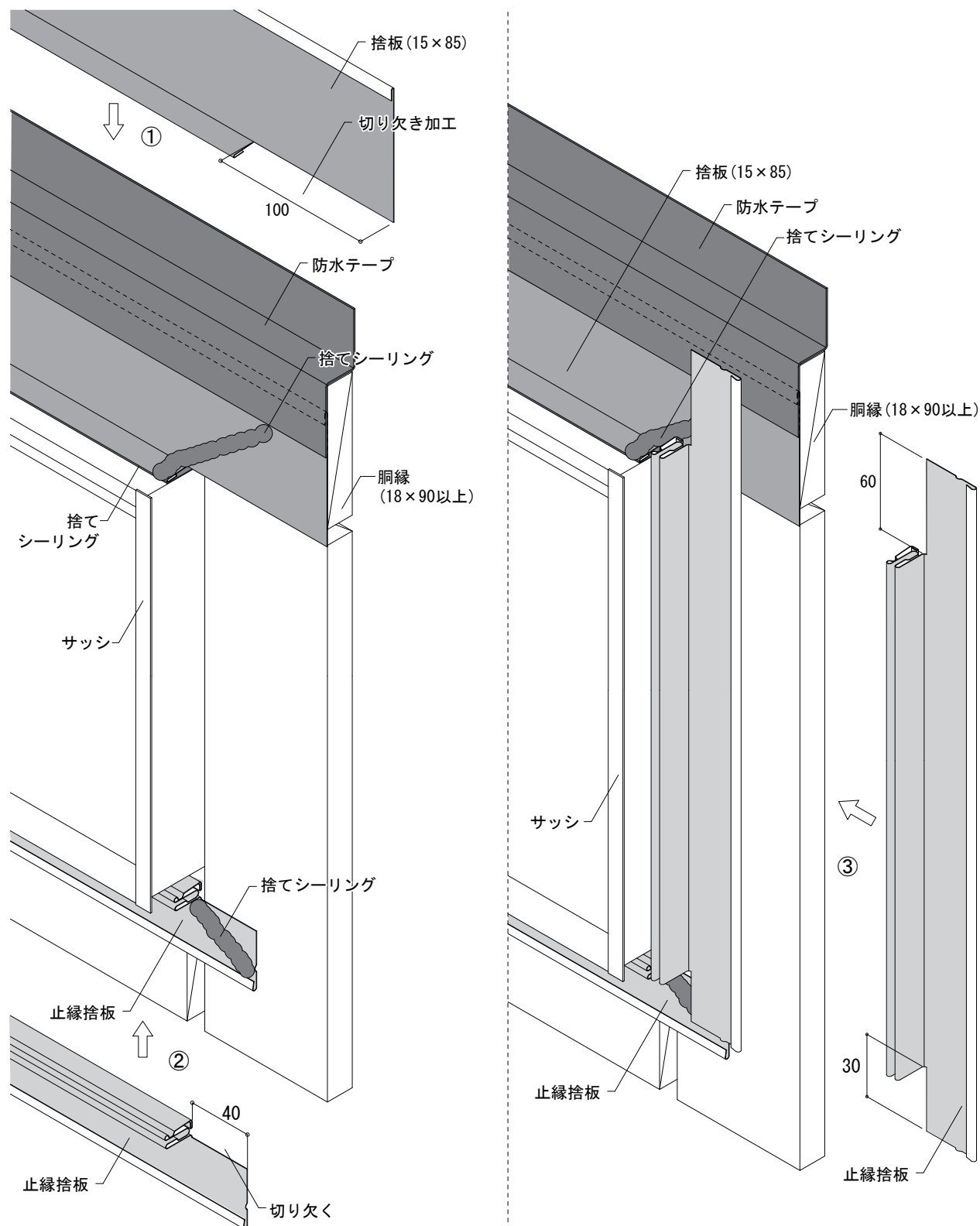


I. 開口部（2）

隅角部を加工する場合

- ① 捨板（15×85）とサッシの間には、捨てシーリングを施工してから取り付けてください。捨板（15×85）の上から防水テープを図の位置に施工してください。
- ② 開口部下、開口部左右の順に止縁捨板を取り付けてください。なお、各部材同士の重なり位置には捨てシーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・捨板（15×85）・止縁キャップ25・止縁捨板



6. 各部位の納まり図

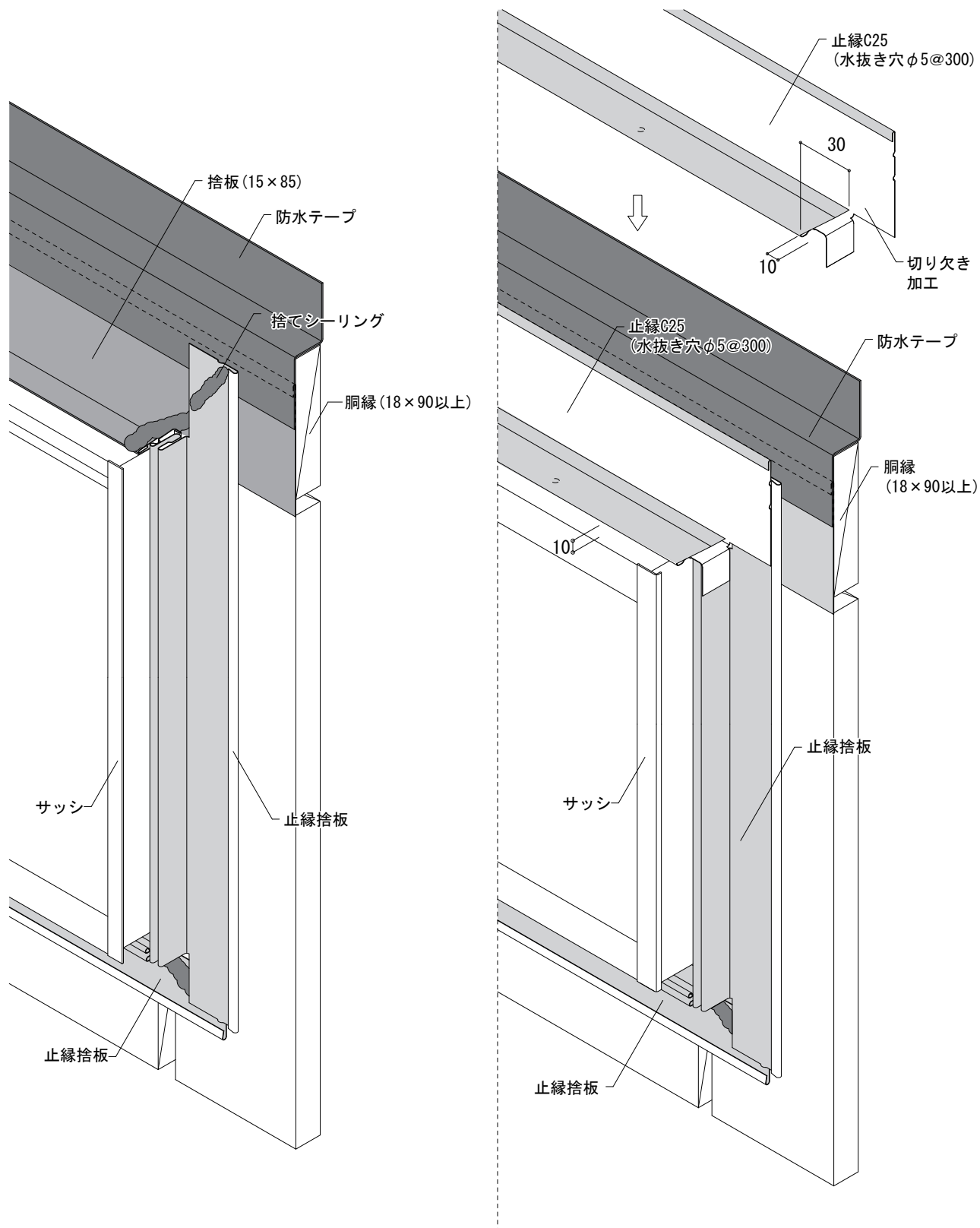
単位：mm

I. 開口部（2）

隅角部を加工する場合

・開口部上には、止縁C25（水抜き穴φ5@300現場加工）の下端とサッシの間は雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけて取り付けてください。

使用部材：止縁C25・捨板(15×85)・止縁キャップ25・止縁捨板

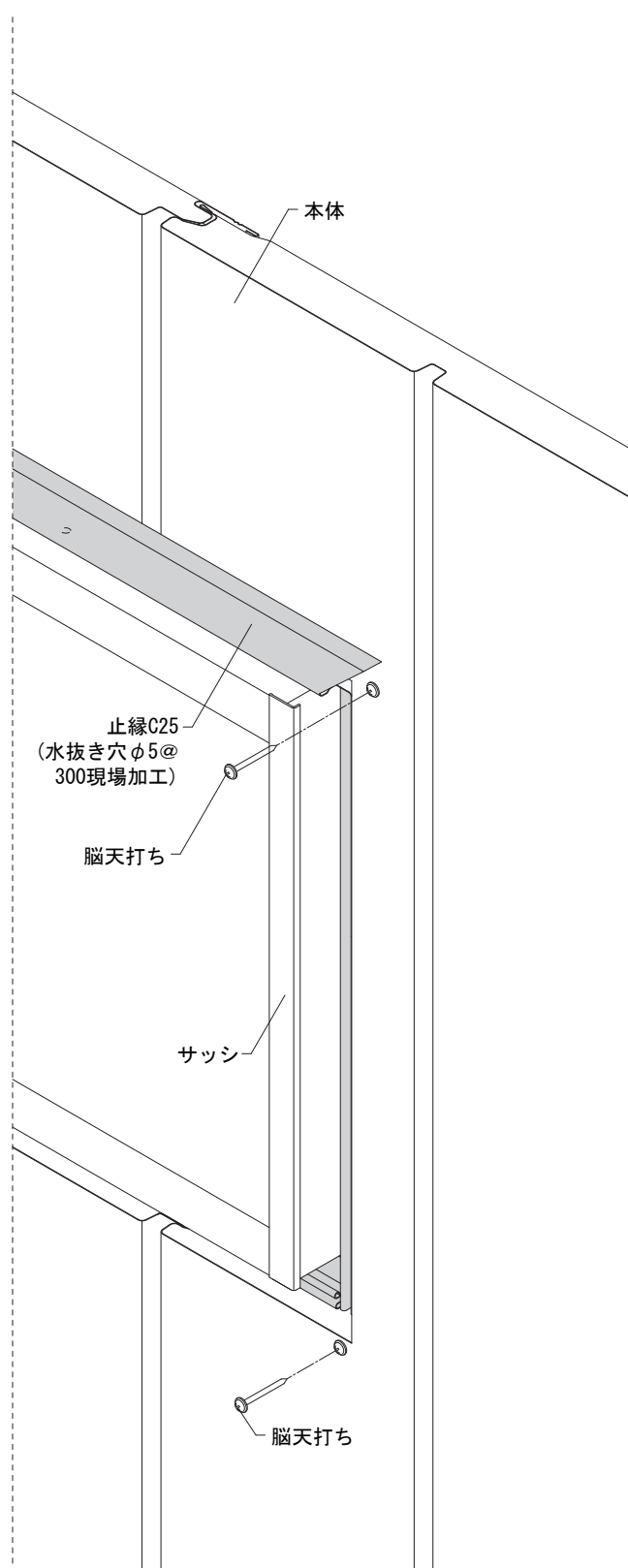
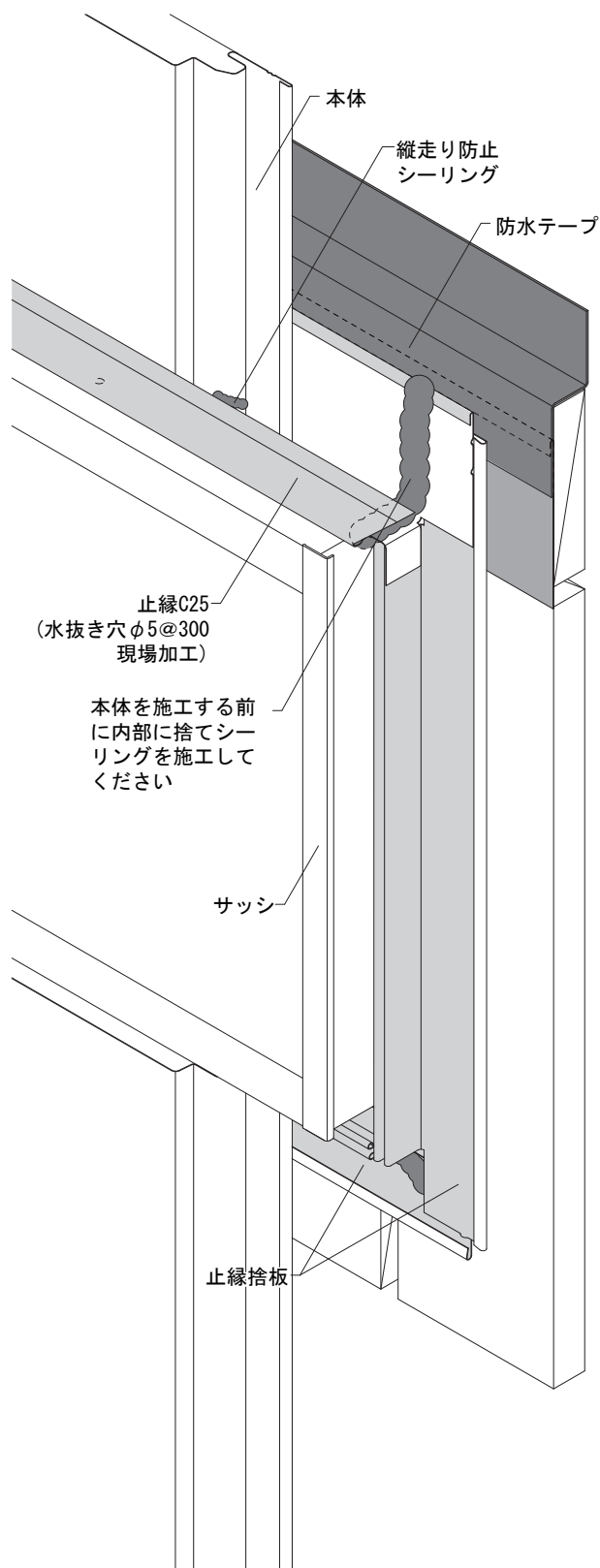


1. 開口部（2）

隅角部を加工する場合

- ・ 開口部上に施工する本体1枚ごとに、縦走り防止シーリングを施工してください。
- ・ 本体を施工する前に止縁C25の内部に捨てシーリングを施工してください。
- ・ 脳天打ちをし、本体を確実に留め付けてください。

使用部材：止縁C25・捨て板(15×85)・止縁キャップ25・止縁捨て板

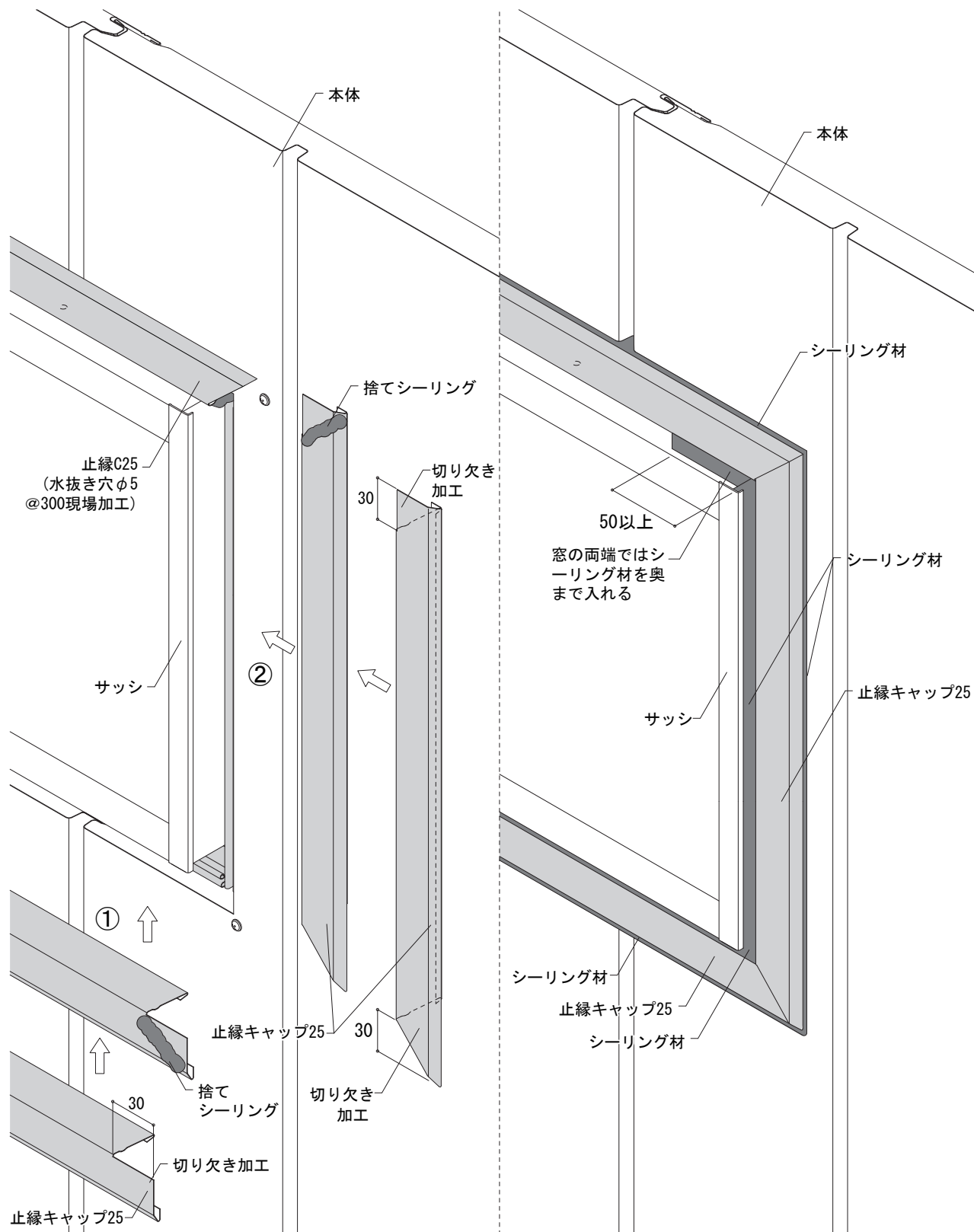


I. 開口部（2）

隅角部を加工する場合

- ・ 開口部上では、止縁C25の下端とサッシの間に左右両端50mm程度のシーリング材を奥まで入れてください。
- ・ 脳天打ちをしたくぎやねじ頭には、シーリング材の施工またはタッチアップペイントで塗装してください。

使用部材：止縁C25・捨板(15×85)・止縁キャップ25・止縁捨板



7 部材の加工例とつなぎ方

7－1．部材の加工例	．．．．P62
7－2．部材のつなぎ方	．．．．P68

7. 部材の加工例とつなぎ方

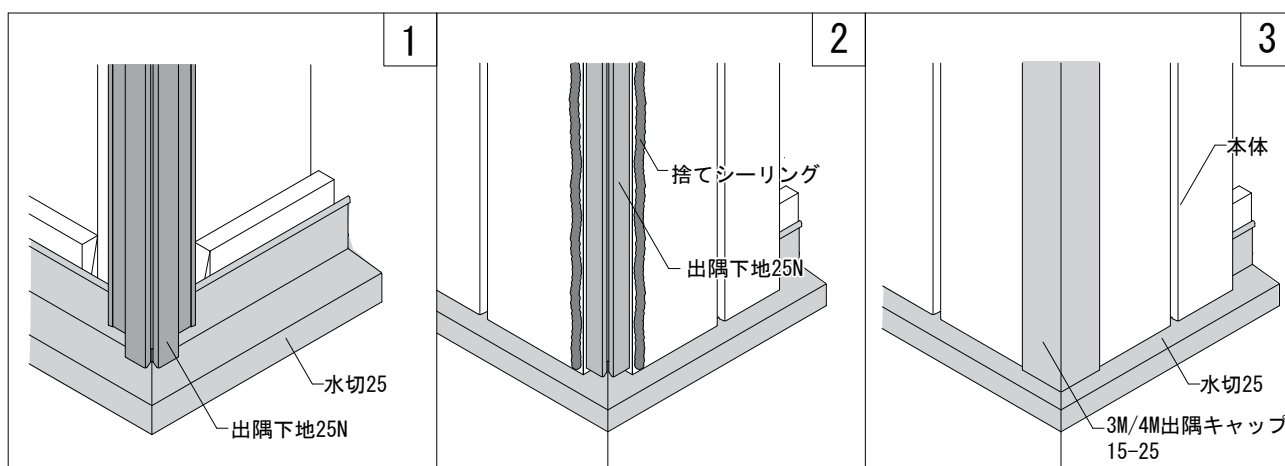
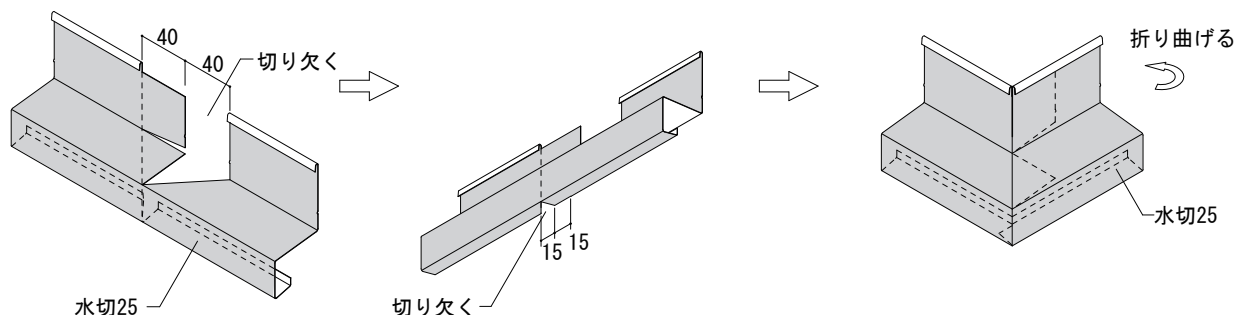
7-1. 部材の加工例

単位：mm

土台部[出隅部]（１）

使用部材：水切25・3M/4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N

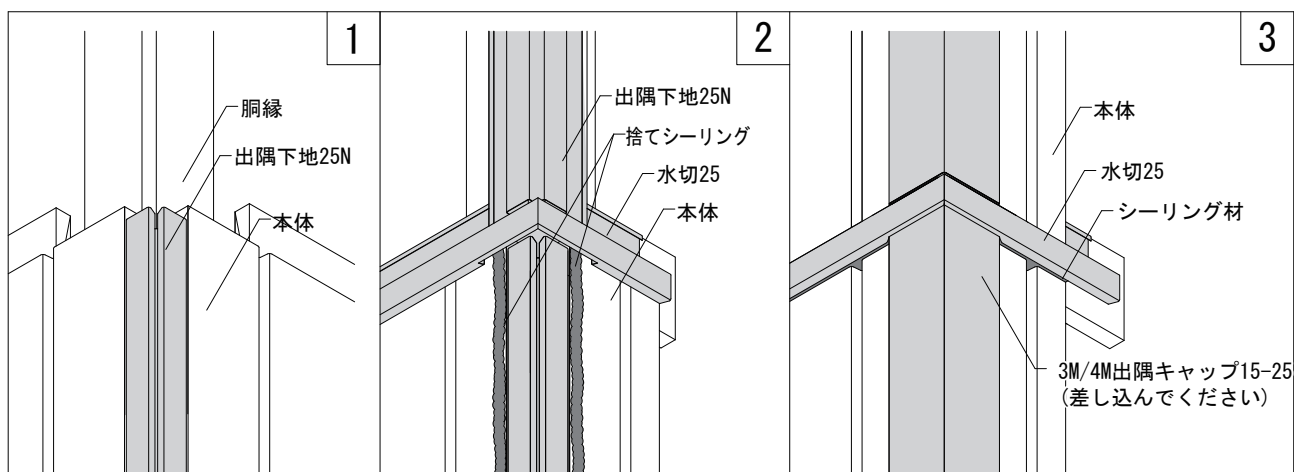
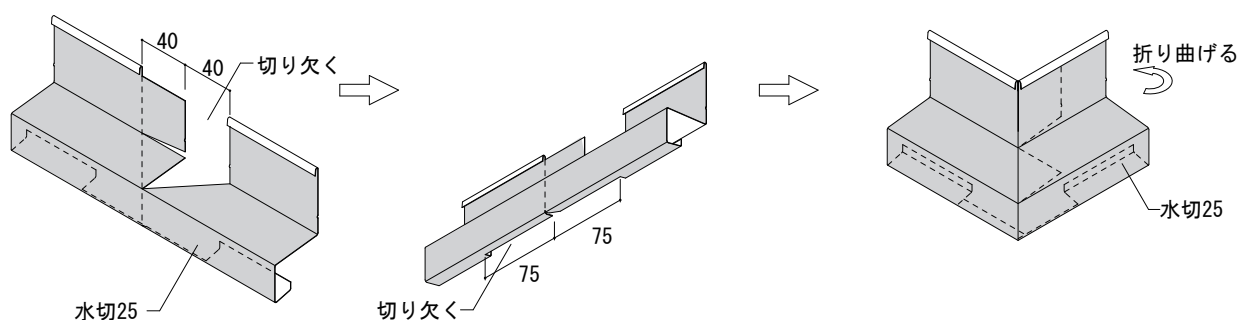
下図の方法で部材を切り欠き加工し ① ～ ③ の順序で施工してください。



縦継ぎ[出隅]

使用部材：水切25・3M/4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N

下図の方法で部材を切り欠き加工し ① ～ ③ の順序で施工してください。



7. 部材の加工例とつなぎ方

7-1. 部材の加工例

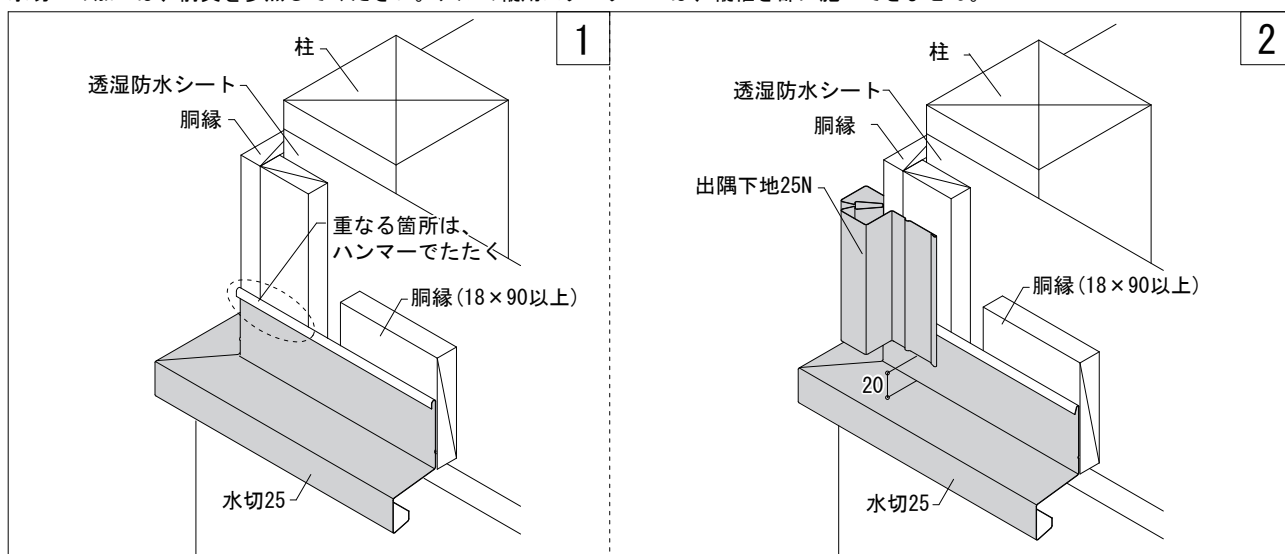
単位：mm

土台部・縦継ぎ部[出隅部]（2）

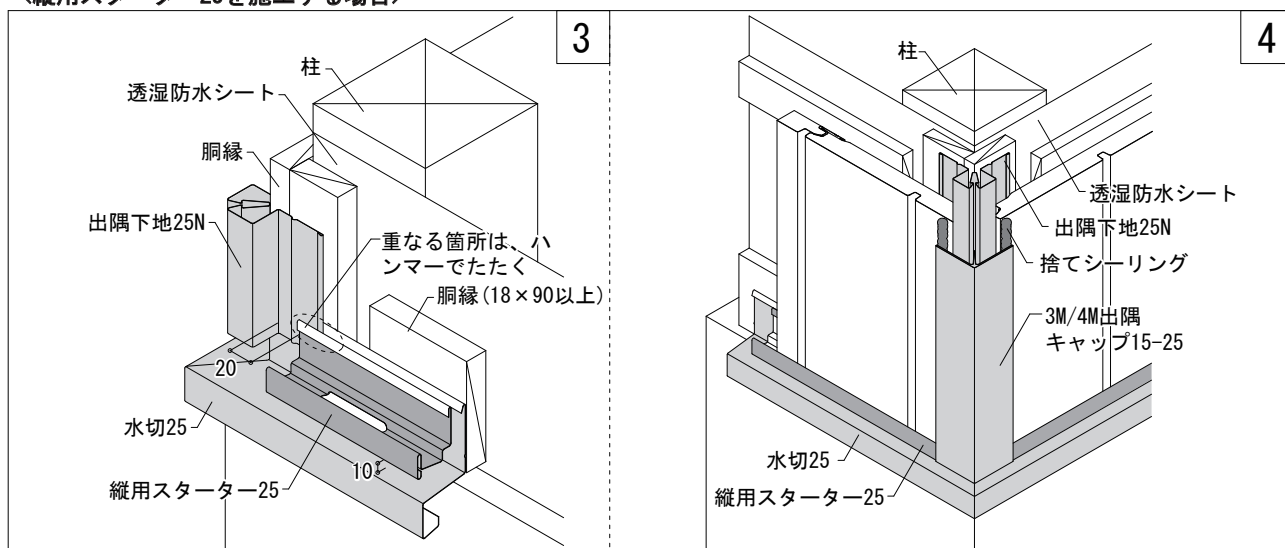
使用部材：水切25・縦用スターター25（アルミ縦用スターター25）・3M/4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N

下図の順序で施工してください。

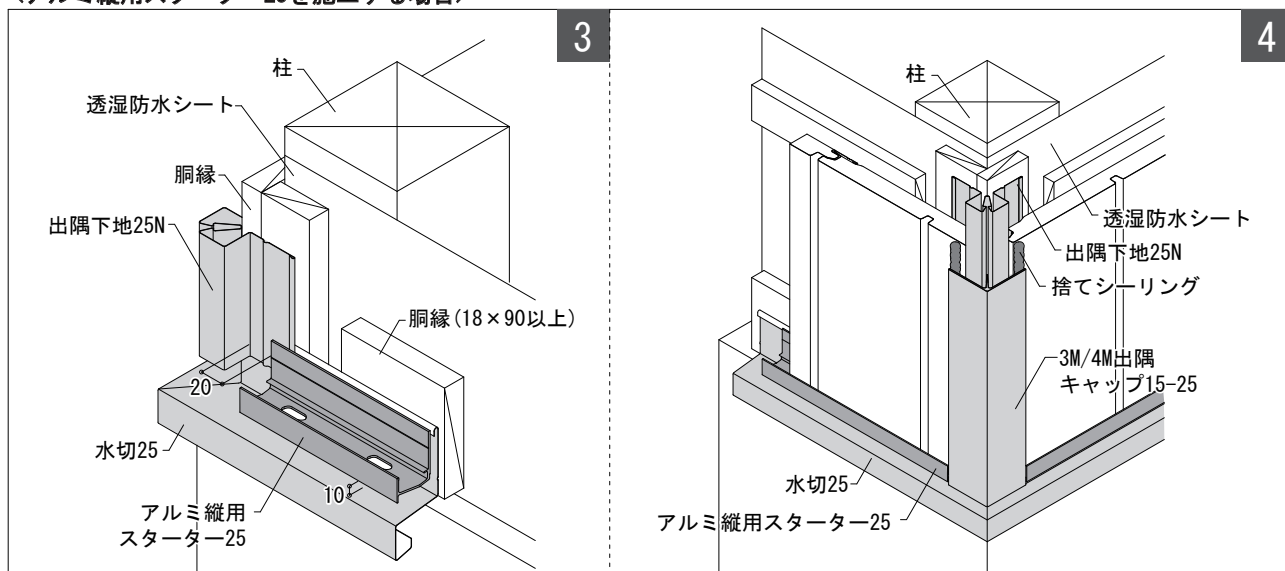
水切25の加工は、前頁を参照してください。アルミ縦用スターター25は、縦継ぎ部に施工できません。



＜縦用スターター25を施工する場合＞



＜アルミ縦用スターター25を施工する場合＞



7. 部材の加工例とつながり方

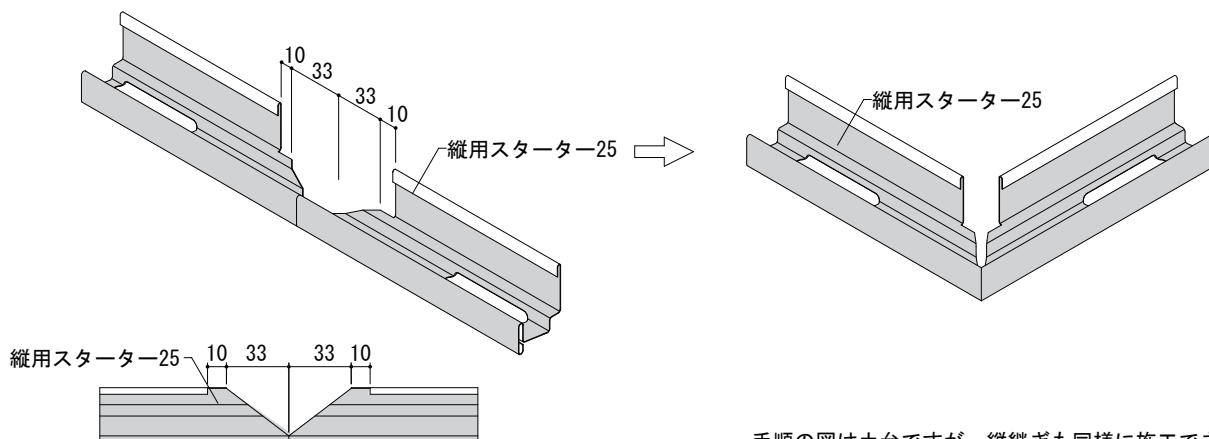
7-1. 部材の加工例

単位：mm

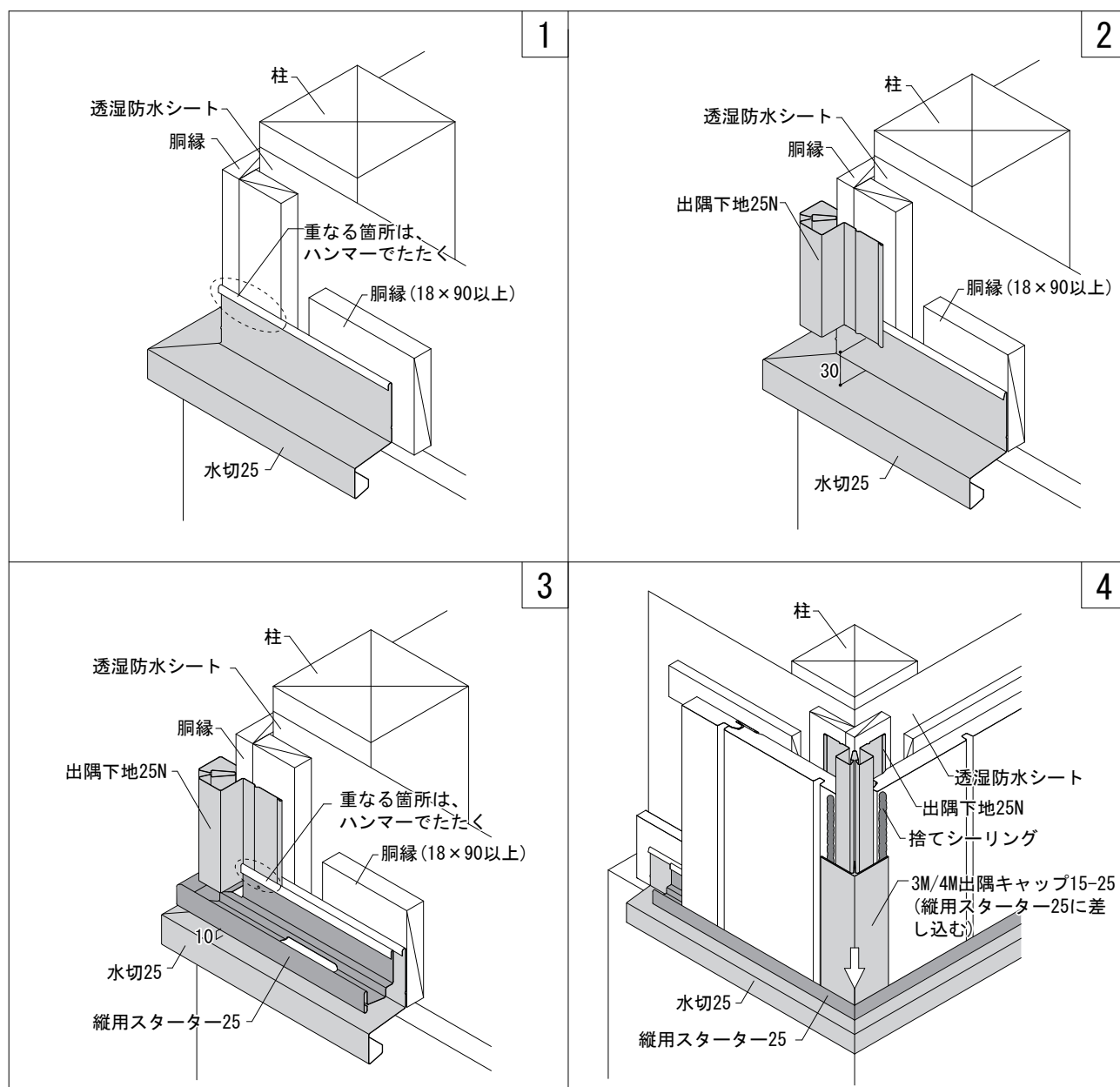
土台部・縦継ぎ部[出隅部]（2）

使用部材：水切25・縦用スターター25・3M/4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N

下図の方法で部材を切り欠き加工し ① ～ ④ の順序で施工してください。



手順の図は土台ですが、縦継ぎも同様に施工できます。



7. 部材の加工例とつなぎ方

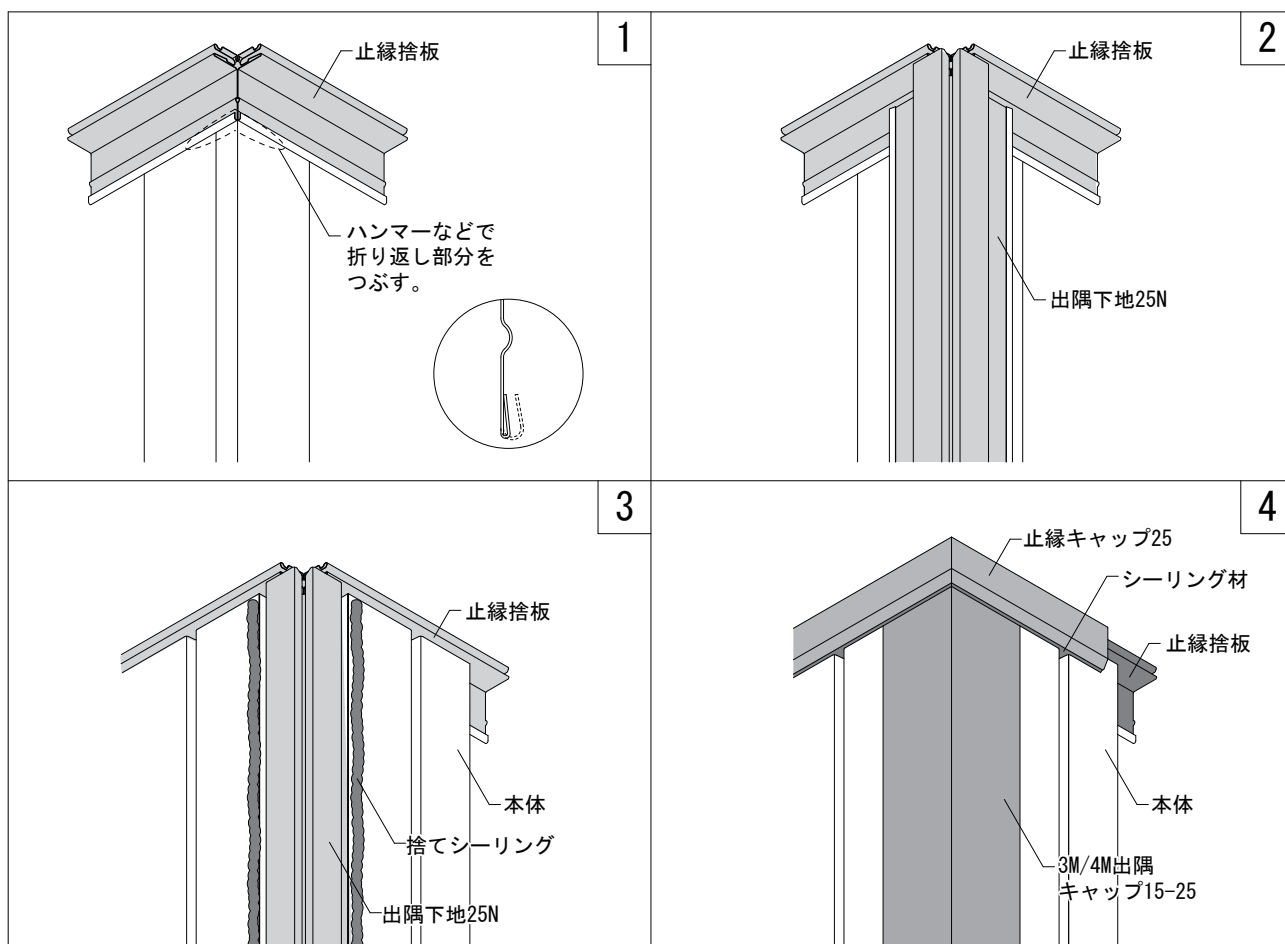
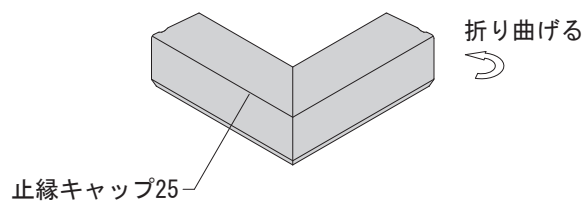
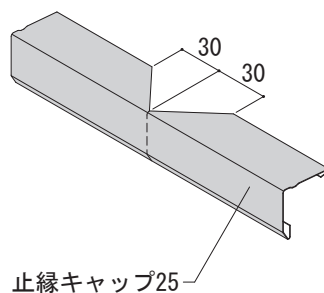
7-1. 部材の加工例

単位：mm

軒部[出隅部]①

使用部材：止縁キャップ25・止縁捨板・3M/4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N

下図の方法で部材を切り欠き加工し 1 ～ 4 の順序で施工してください。



7. 部材の加工例とつなぎ方

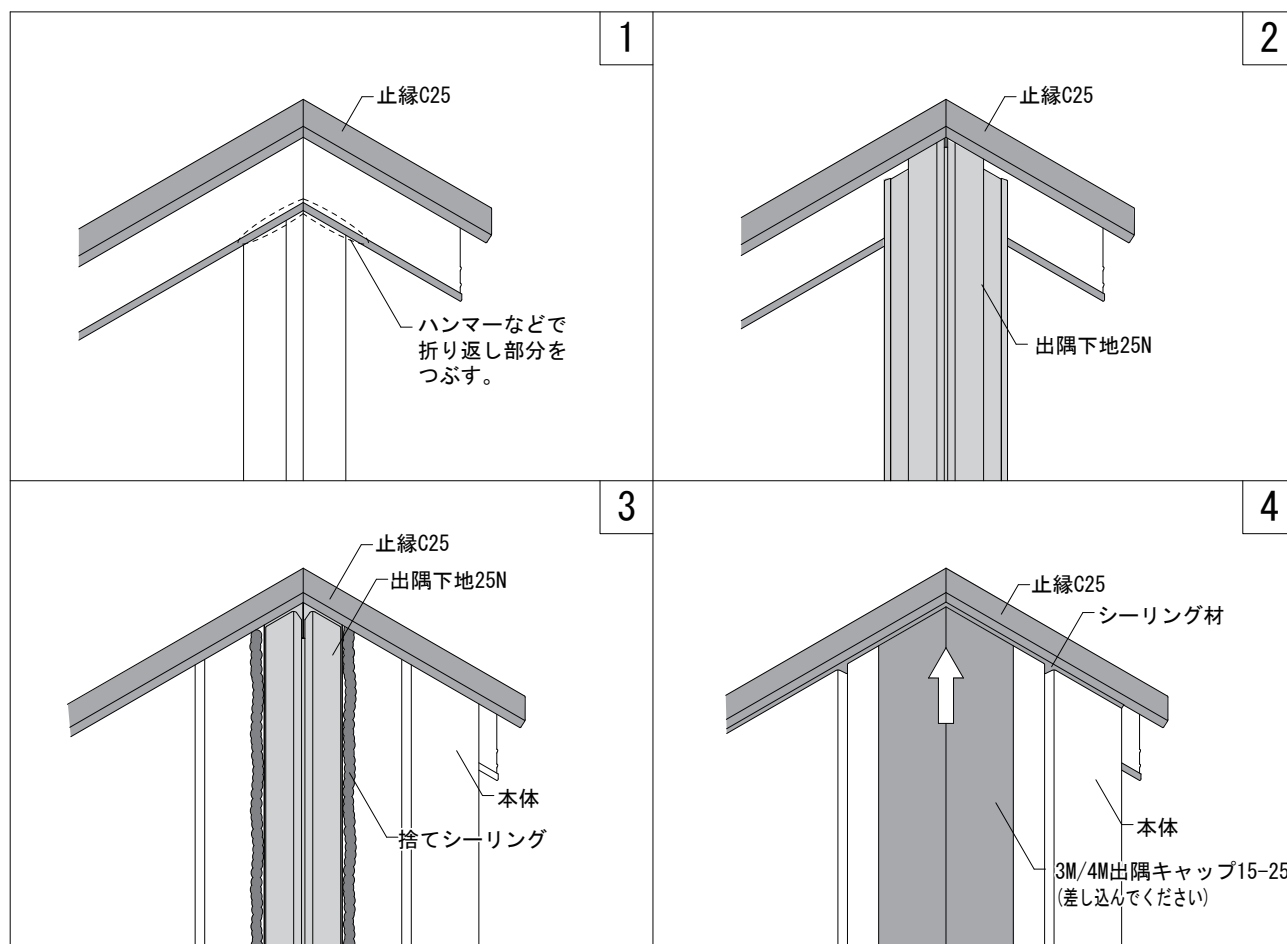
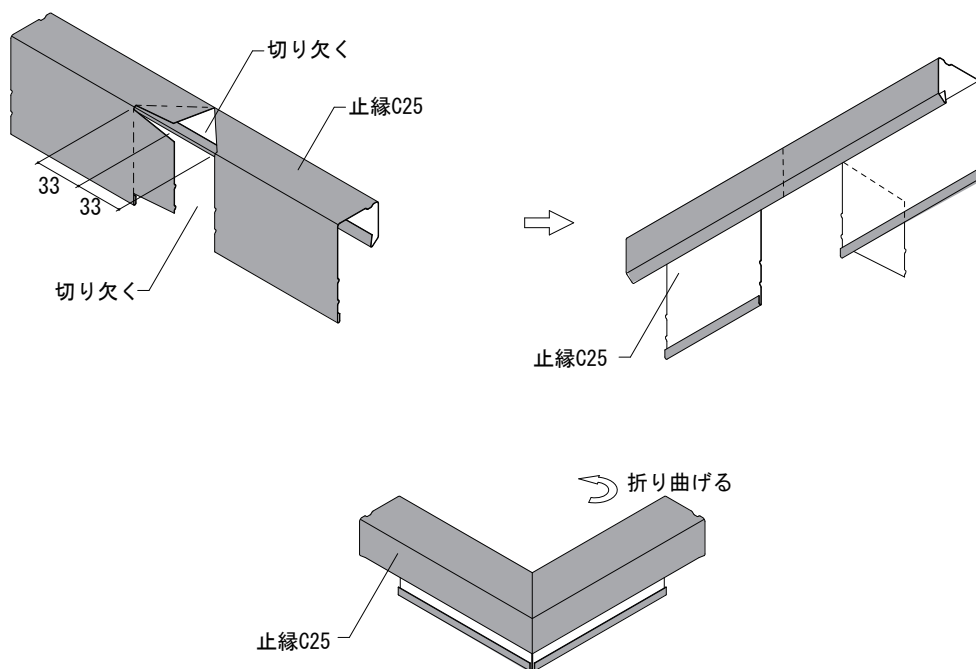
7-1. 部材の加工例

単位：mm

軒部[出隅部]②

使用部材：止縁C25・3M/4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N

下図の方法で部材を切り欠き加工し 1 ～ 4 の順序で施工してください。



7. 部材の加工例とつなぎ方

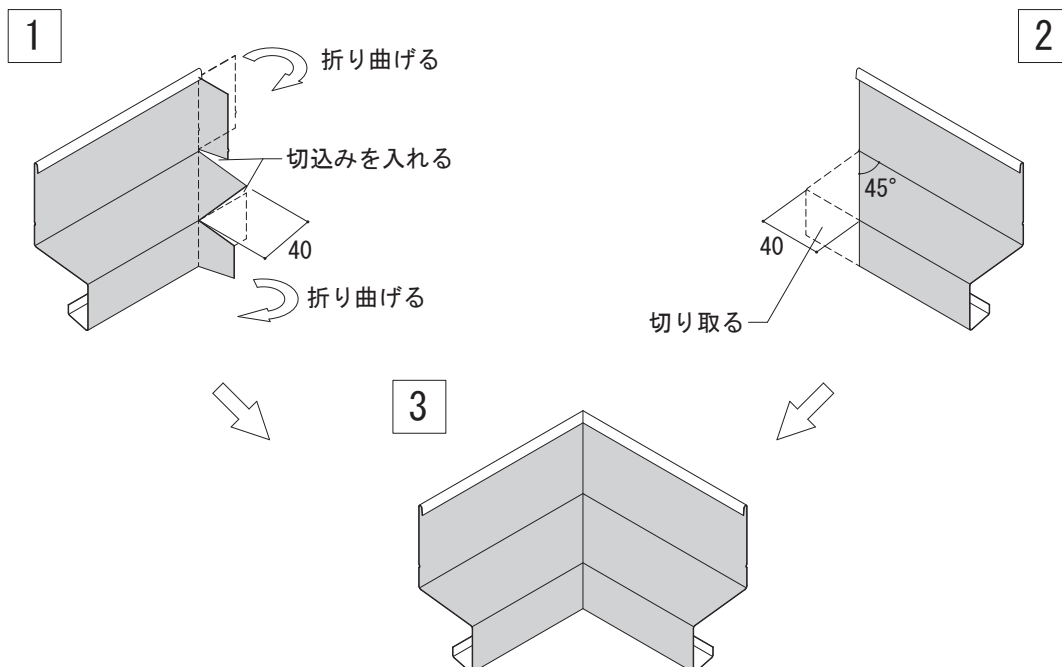
7-1. 部材の加工例

単位：mm

土台部[入隅部]

使用部材：水切25

1 ～ 3 の順序で切り欠き加工してください。

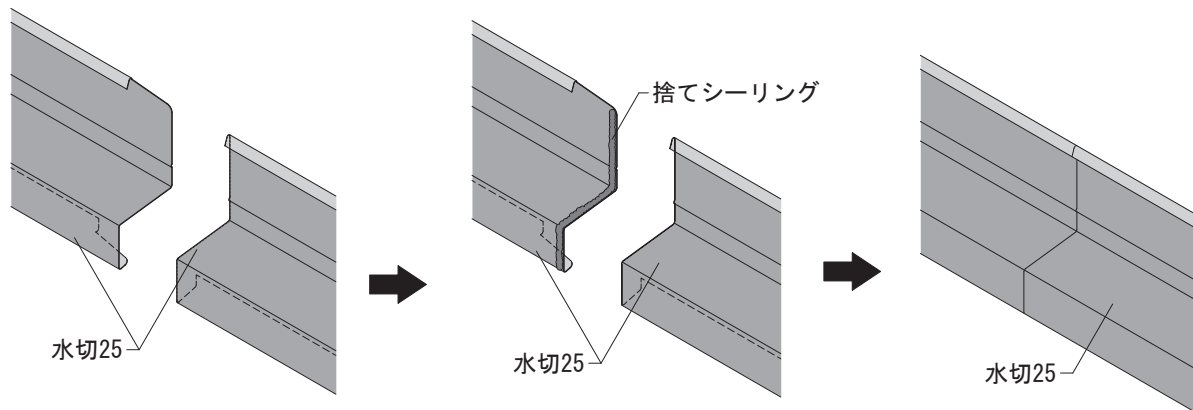


7. 部材の加工例とつなぎ方

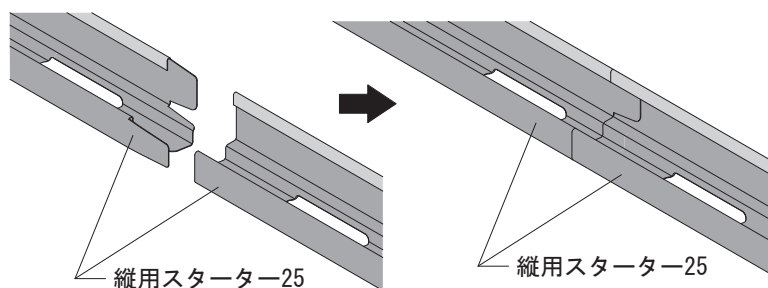
7-2. 部材のつなぎ方

単位：mm

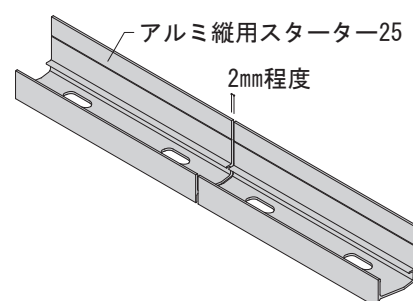
・ 水切25



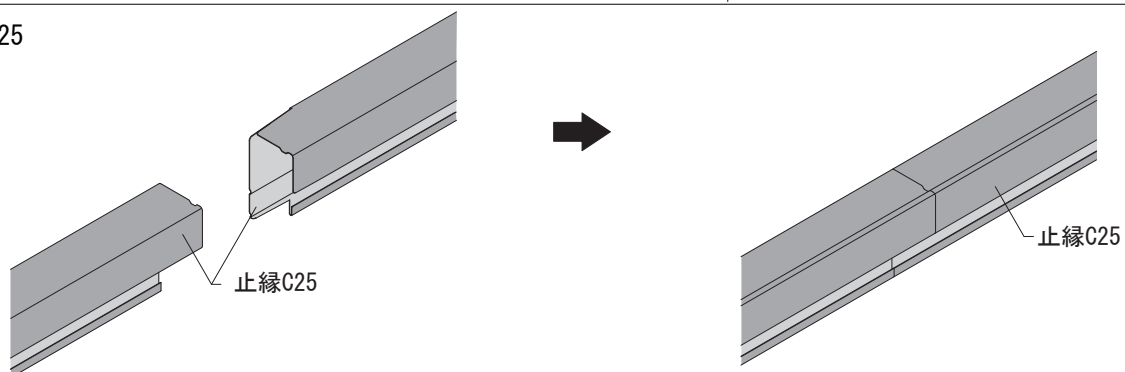
・ 縦用スターター25



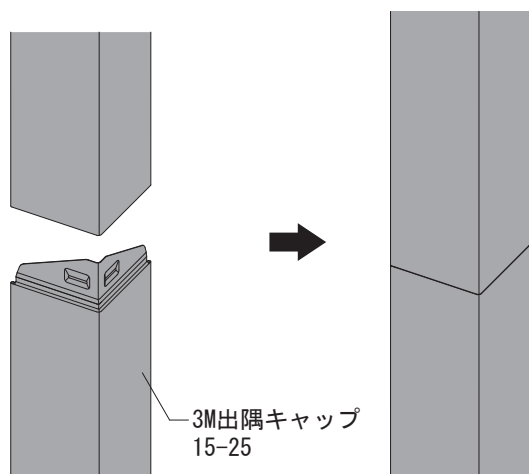
・ アルミ縦用スターター25



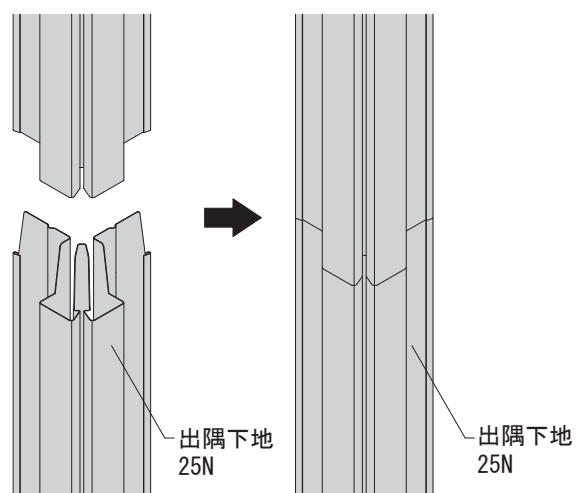
・ 止縁C25



・ 3M出隅キャップ15-25／4M出隅キャップ15-25



・ 出隅下地25N



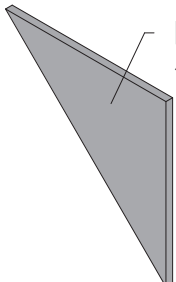
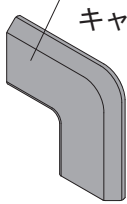
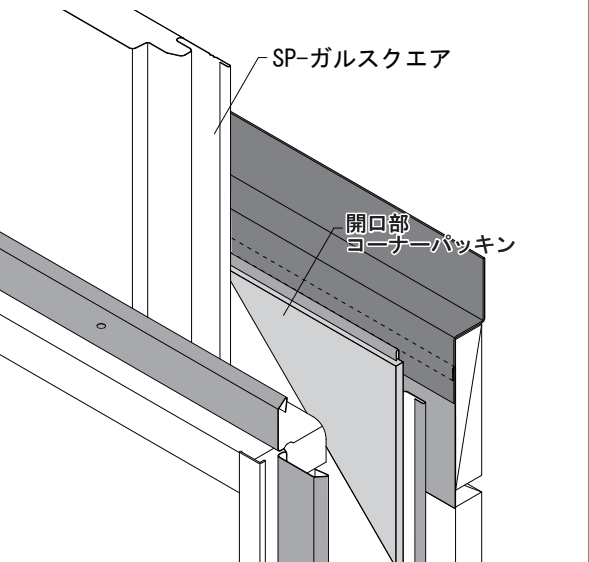
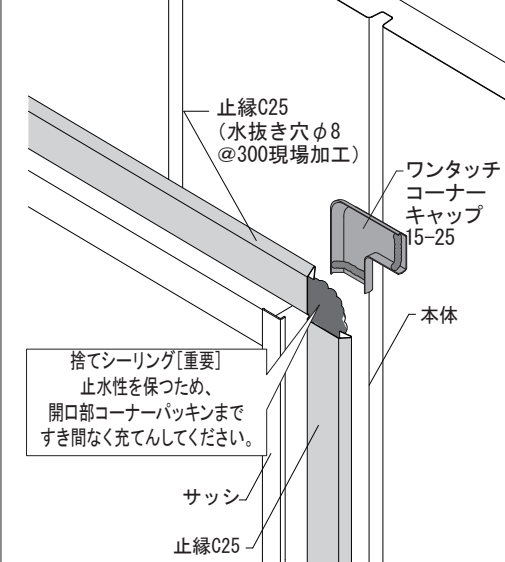
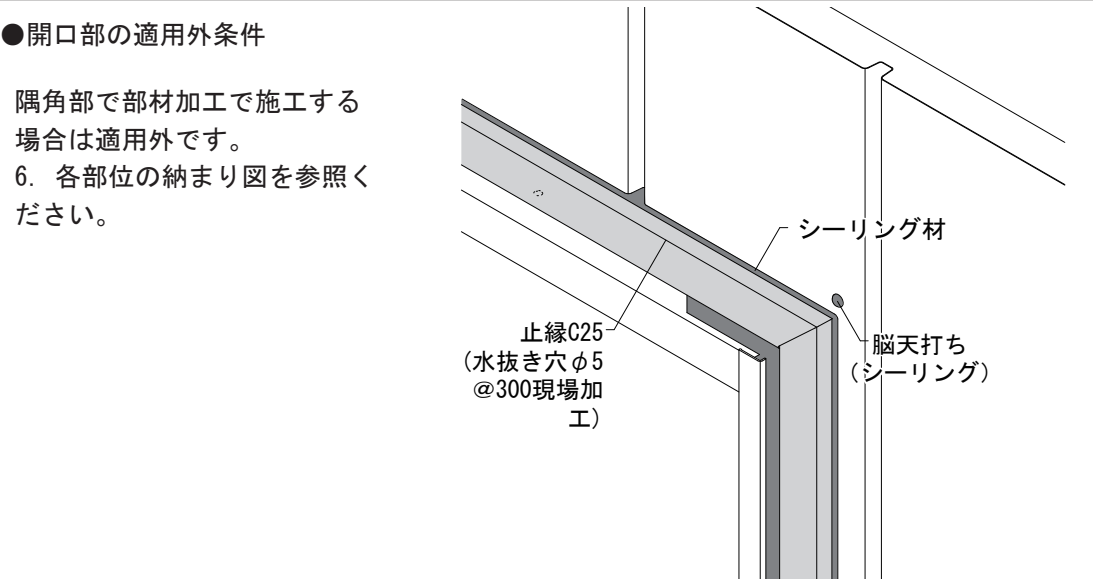
8 シーリング軽減工法

8－1． 施工前の確認事項	．．．． P70
8－2． 施工の手順とポイント	．．．． P71
8－3． 各部位の納まり図	．．．． P79

8-1. 施工前の確認事項

単位：mm

対象施工法について

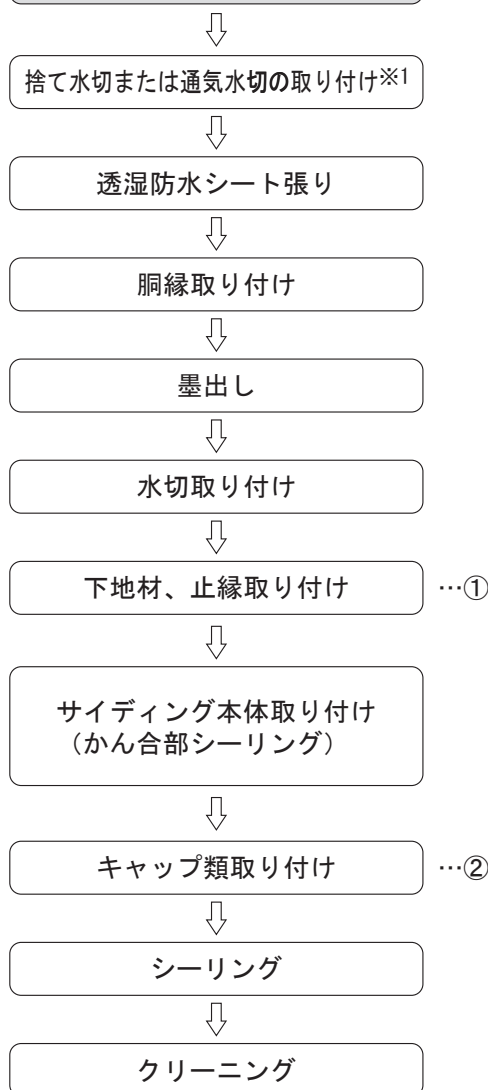
 対象工法	●開口部の適用条件 開口部の各隅(4箇所)すべてに、ワンタッチコーナーキャップ15-25と開口部コーナーパッキン、捨てシーリングの施工をすることが、シーリング軽減工法の適用条件です。  開口部コーナーパッキン  ワンタッチコーナーキャップ 15-25  SP-ガルスクエア 開口部コーナーパッキン サッシ  止縁C25 (水抜き穴φ8 @300現場加工) ワンタッチコーナーキャップ 15-25 本体 捨てシーリング[重要] 止水性を保つため、 開口部コーナーパッキンまで すき間なく充てんしてください。 サッシ 止縁C25
 対象外工法	●開口部の適用外条件 隅角部で部材加工で施工する場合は適用外です。 6. 各部位の納まり図を参照ください。  サッシ 止縁C25 (水抜き穴φ5 @300現場加工) 本体 シーリング材 脳天打ち (シーリング)

8-2. 施工の手順とポイント

単位：mm

■施工の流れ

サイディング本体施工の流れ



部位	必要部材	手順
土台部	水切25 縦用スターター25 アルミ縦用スターター25	① ① ①
出隅部	〔 出隅下地25N 3M出隅キャップ15-25 4M出隅キャップ15-25 〕	① ② ②
入隅部	〔 止縁C25 止縁捨板 止縁キャップ25 〕	① ① ②
縦継ぎ部	水切25 縦用スターター25	① ①
軒部	通気軒見切15-25 止縁C25 〔 止縁捨板 止縁キャップ25 〕	① ① ① ②
見切り下屋部	縦用スターター25	①
笠木部	水切（現場加工） 縦用スターター25	① ①
下がり壁部	下がり壁水切（現場加工） 縦用スターター25	① ①
開口部	上 捨板（15×85） 止縁C25※2	① ①
	左右・下 〔 止縁C25 止縁捨板 止縁キャップ25 〕	① ① ②
	隅角 〔 開口部コーナーパッキン ワンタッチコーナーキャップ15-25 〕	① ②

注）部材の〔 〕内は、セットで使用してください。商品毎に対応部材が異なります。
各商品の部材規格をご確認ください。

※2 水抜き穴（Φ8@300mm）の現場加工が必要です。

①先付け部材
②後付け部材

8-2. 施工の手順とポイント

1. 割り付け

<

8-2. 施工の手順とポイント

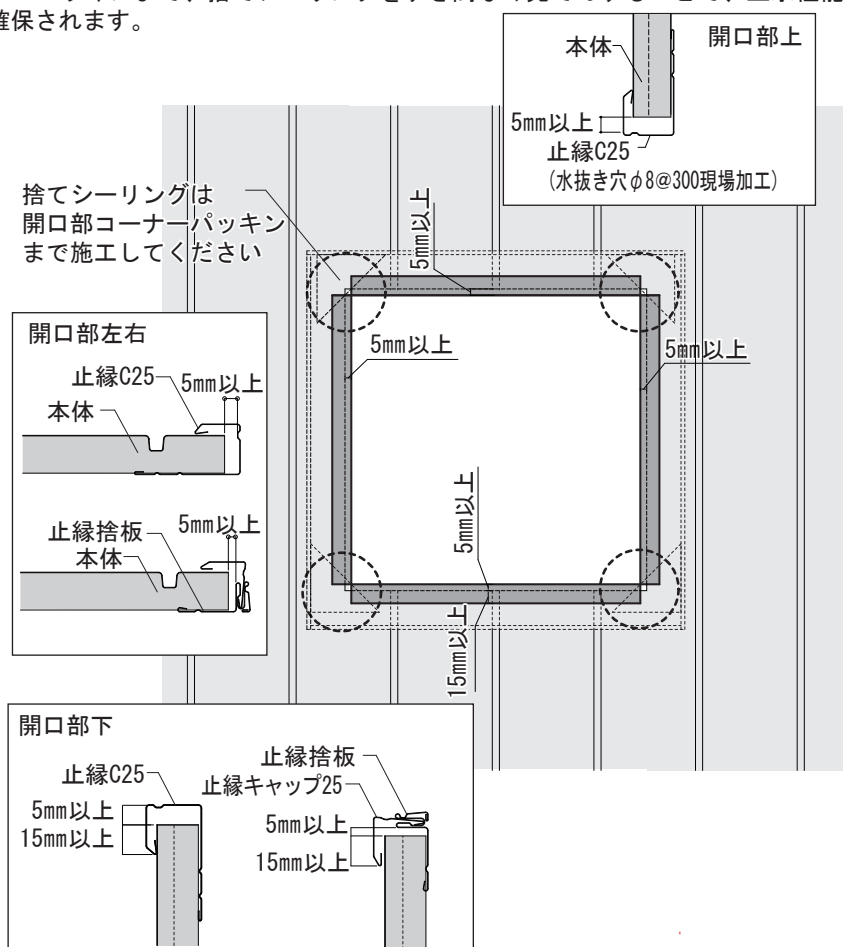
6. 本体の取り付け

①本体の切断、加工

- ・切断時に出るバリ・切り粉はさびや汚れの原因となりますので必ず除去してください。
- ・壁面の終端などでは、本体のはめ込み代が必要になります。採寸時にご留意ください。本体のかん合部を切断して施工した場合は、本体の表面から留め付けてください。

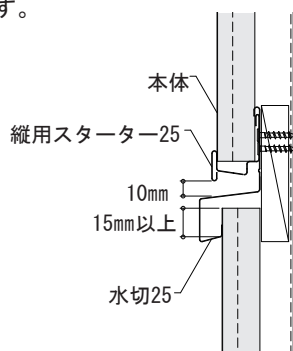
開口部

- ・開口部下の本体と止縁C25または止縁キャップ25のかかり代を15mm以上としてください。本体と止縁C25または止縁キャップ25のかかり代を15mm以上確保することで、雨水が本体を乗り越えて内部に吹き上がるのを防ぎます。
- ・開口部左右下の本体端部と部材のすき間を5mm以上あけてください。開口部コーナーパッキンまで、捨てシーリングをすき間なく充てんすることで、止水性能が確保されます。



縦継ぎ部

- ・縦継ぎ部下の本体と水切25のかかり代を15mm以上としてください。本体と水切25のかかり代を15mm以上確保することで、雨水が本体を乗り越えて内部に吹き上がる事を防ぎます。



8-2. 施工の手順とポイント

6. 本体の取り付け ②施工期間中の養生	・ 施工期間中は、雨水が本体の裏側に入らないよう養生してください。
③本体の施工	・ かん合の際は、必要以上に強く押し付けすぎると変形のおそれがありますので注意してください。 ・ 開口部などで本体を切り欠く際は、各部材の位置を確認し本体に無理な力がかからないように切り欠き寸法を設定し切断してください。また、本体を変形させるような無理なめ込みは避けてください。 ・ 本体は、働き幅で施工してください。働き幅より広い幅で施工すると、水密性や耐風圧強度などで十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります。 ・ 本体を切り欠き加工すると強度が低下し破損しやすくなります。持ち運び時には切り欠き部に当て板を当てるなどして、破損しないように注意してください。かん合部の両側を切り欠いた際は特に注意してください。採寸時にご留意ください。

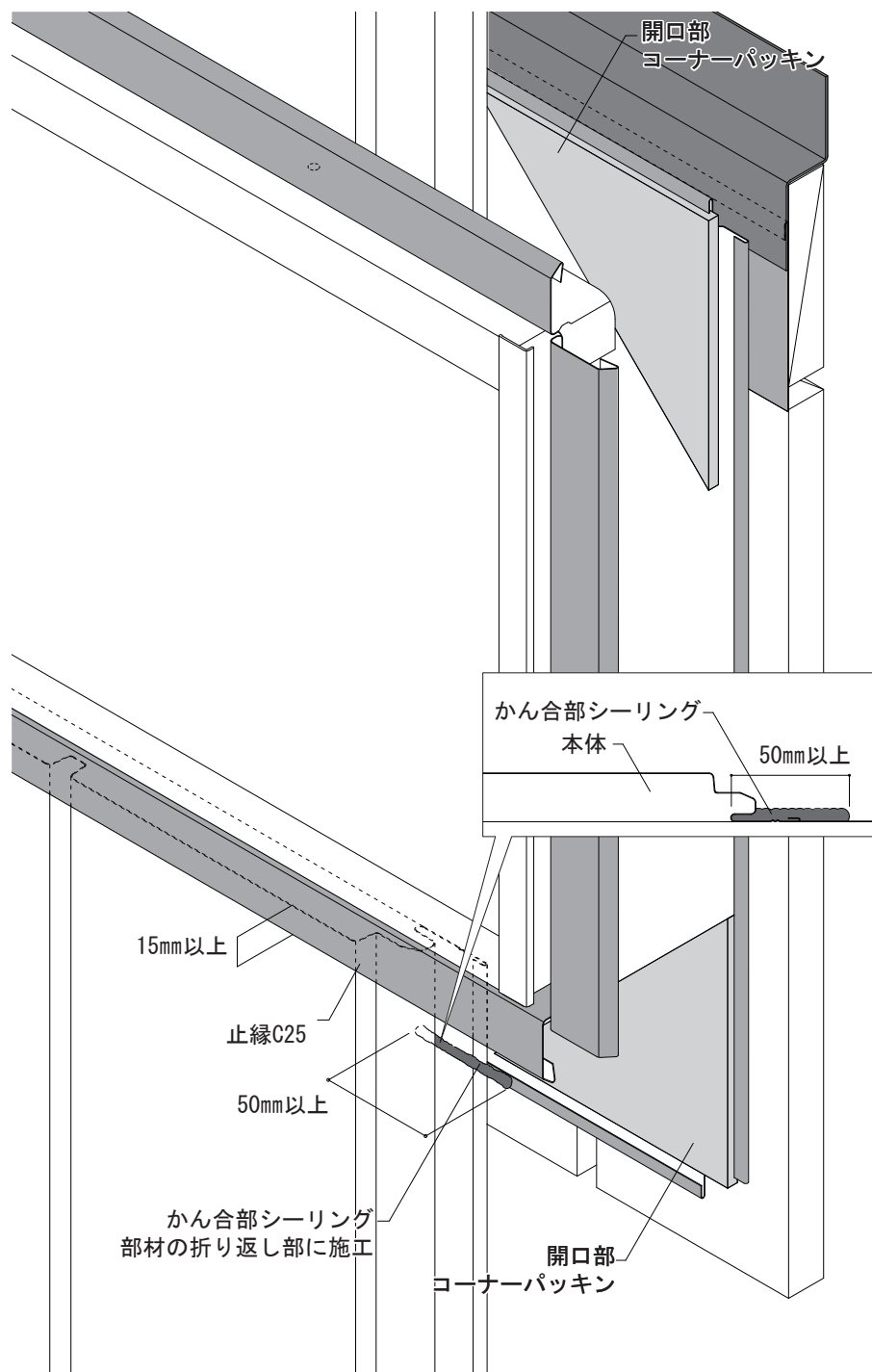
8-2. 施工の手順とポイント

④かん合部シーリングの施工

施工部位

- ・開口部（下）
- ・軒部

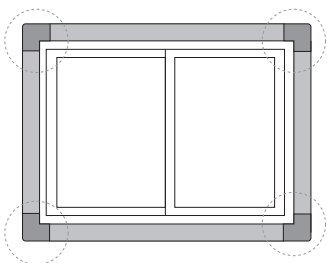
- ・ 本体1枚ごとに、かん合部シーリング（50mm以上）を部材の折り返し部に施工してください。本体かん合部にシーリングを施すことで、雨水が部材の折り返し部を乗り越えて内部に浸水する事を防ぎます。詳細は8-3. 各納まり図を参照してください。
- ・ 開口部下において、本体と止縁C25、止縁キャップ25の重なり代を15mm以上確保する事で、雨水が本体を乗り越えて内部に吹き上がり浸入する事を防ぎます。



8-2. 施工の手順とポイント

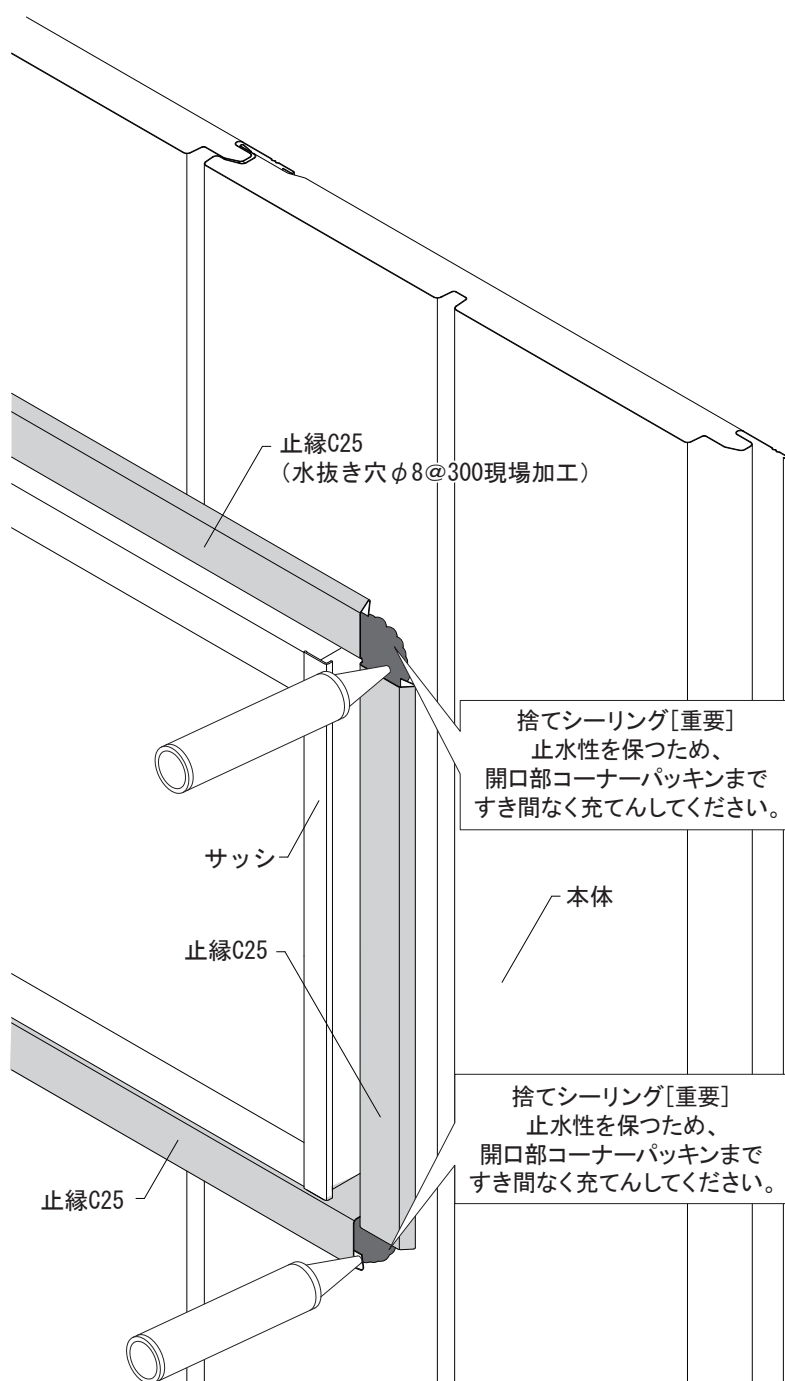
6. 本体の取り付け

⑤開口部隅角部（4箇所）の
シーリングの施工



- ・開口部の隅角部（4箇所）すべてのすき間に施工する捨てシーリングは、性能を確保するために、次の2つの目的がありますので留意ください。

I. 止水性を保つため、本体と部材の隅角部のすき間には、開口部コーナーパッキンまですき間なく捨てシーリングを充てんしてください。開口部上と下の隅角部に開口部コーナーパッキンを使用し捨てシーリングを充てんすることで、開口部の本体と止縁C25のすき間より浸入した雨水が、開口部コーナーパッキンとシーリング充てん部より内部への浸入を防ぎ外に雨水が排出されます。シーリング材が確実に充てんされず、本体、部材、開口部コーナーパッキンの間にすき間があると十分な止水性が得られませんので注意してください。



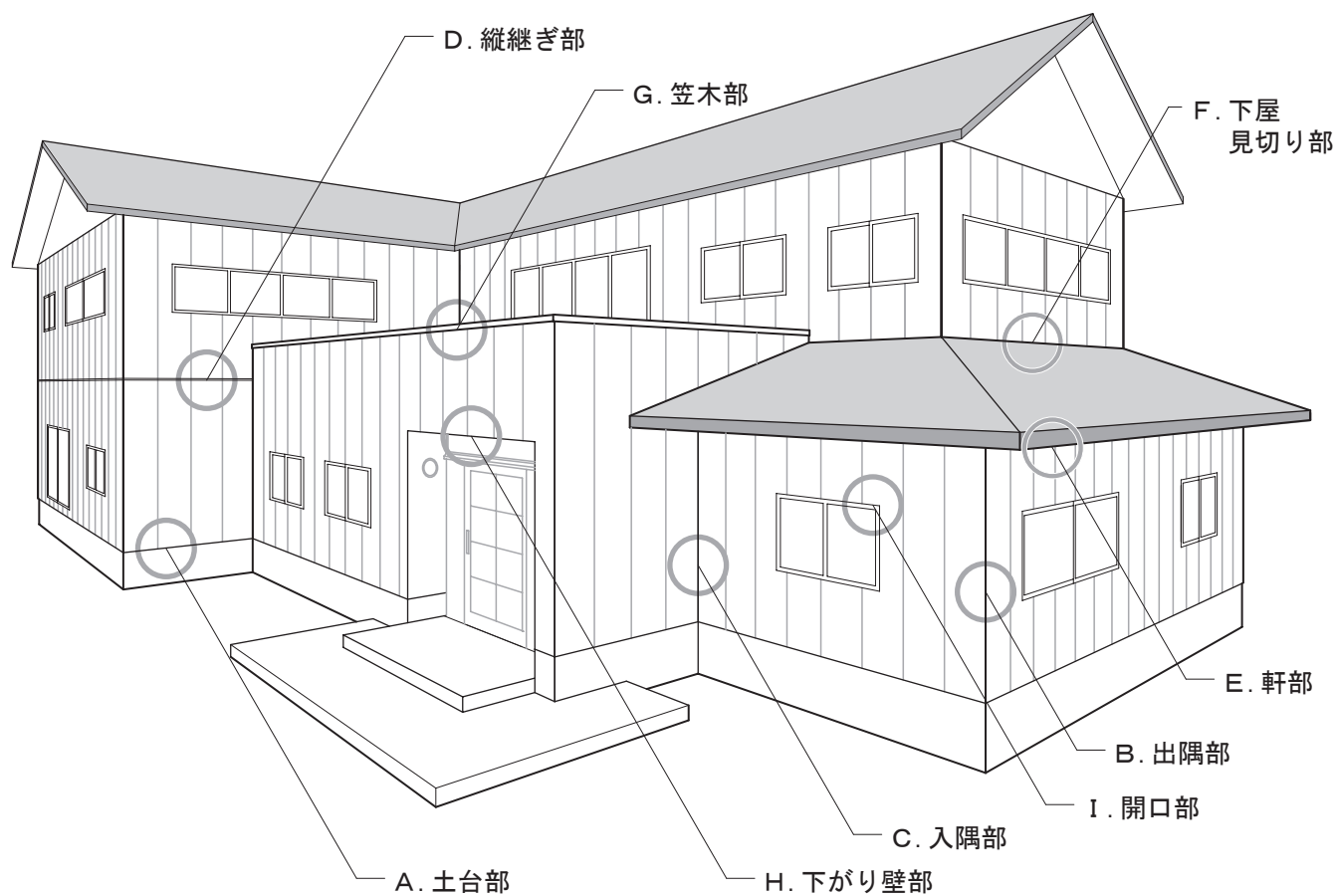
8-2. 施工の手順とポイント

7. 後付け部材の取り付け ①下地材への捨てシーリングの施工	・キャップ部材を施工する前に脱落防止のため、捨てシーリングを施工してください。施工するキャップ部材の長さにより、施工箇所が異なりますので対象部材を確認し、確実に施工してください。
●長物のキャップ部材の場合 対象部材 ・ 3M出隅キャップ15-25 ・ 4M出隅キャップ15-25 など	・ キャップ部材の脱落防止のため、下地部材の上下端部、中央部の3か所に捨てシーリングを差し込み部分に50mm以上施工してください。 出隅下地25N 捨てシーリング (50mm以上) 捨てシーリング (50mm以上) 捨てシーリング (50mm以上) 水切25

8-2. 施工の手順とポイント

7. 後付け部材の取り付け ②キャップ部材の施工	・キャップ部材は捨板とのはめ込み式になっています。確実にハマっているか確認してください。
8. シーリング・補修	・シーリング、塗料の被着面が高温の場合は施工を控えてください。また、水分、油分、ほこりなどに注意してください。
9. 清掃・廃材処理	・製品表面をクリーニングする場合は、水または中性洗剤で洗浄してください。中性洗剤は水でよく洗い流してください。この際、堅いブラシは使用しないでください。 ・包装材・残材などの廃材は、産業廃棄物として適切に処分してください。
10. 積雪の影響（雪の負荷）のある地域	・雪の積もる高さまで胴縁の間隔を狭くするなどの対処をしてください。 ・水切25は、雪の重みで変形するおそれがありますので、当て木を入れるなどの対処をしてください。 ・本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。 ・縦用スターター25は、雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター25の使用をお勧めします。

8-3. 各部位の納まり図



納まり図

A. 土台部	P80
B. 出隅部	P81
C. 入隅部	P82
D. 縦継ぎ部	P83
E. 軒部	P84
F. 下屋見切り部	P86
G. 笠木部	P87
H. 下がり壁部	P88
I. 開口部	P89

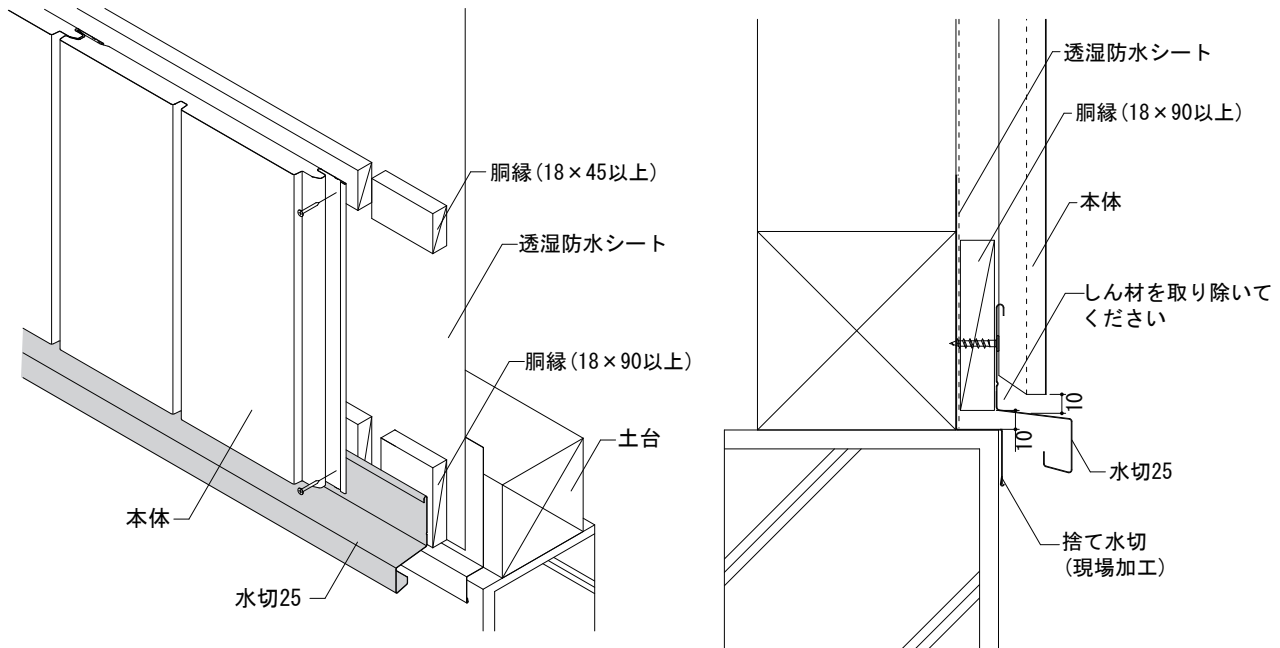
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

A. 土台部（１）

- ・ 本体の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・ 本体の下端は、水切25の上に留め付けてください。
- ・ 積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。水切25の下に当て木などを入れるなどの対処をしてください。

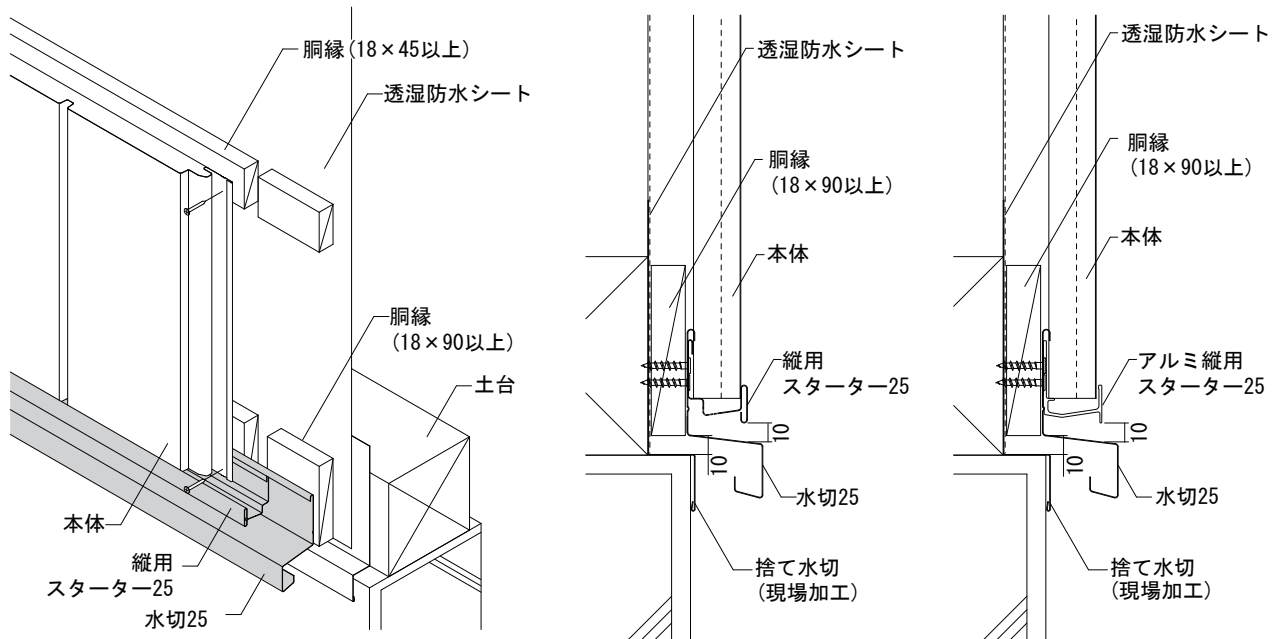
使用部材：水切25



A. 土台部（２）

- ・ 縦用スターター25（アルミ縦用スターター25）の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・ 本体の下端は、縦用スターター25（アルミ縦用スターター25）の上に留め付けてください。
- ・ 積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。水切25の下に当て木などを入れるなどの対処をしてください。縦用スターター25は雪の重みで変形するおそれがありますので、アルミ縦用スターター25の使用をお勧めします。
- ・ 施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

使用部材：水切25・縦用スターター25またはアルミ縦用スターター25



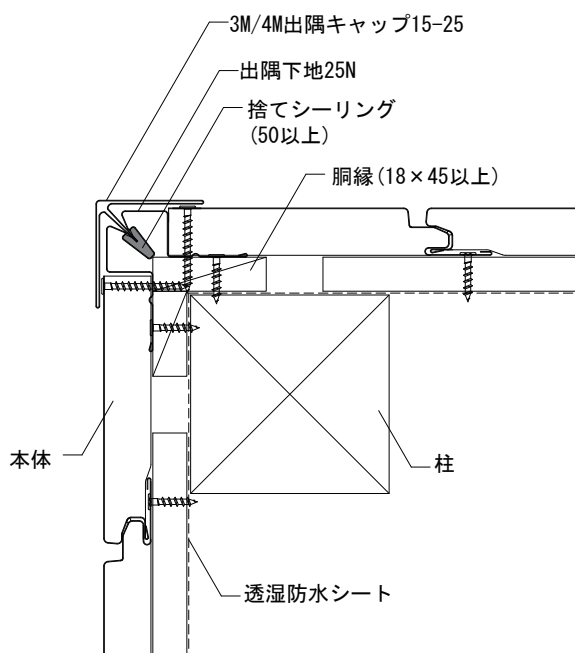
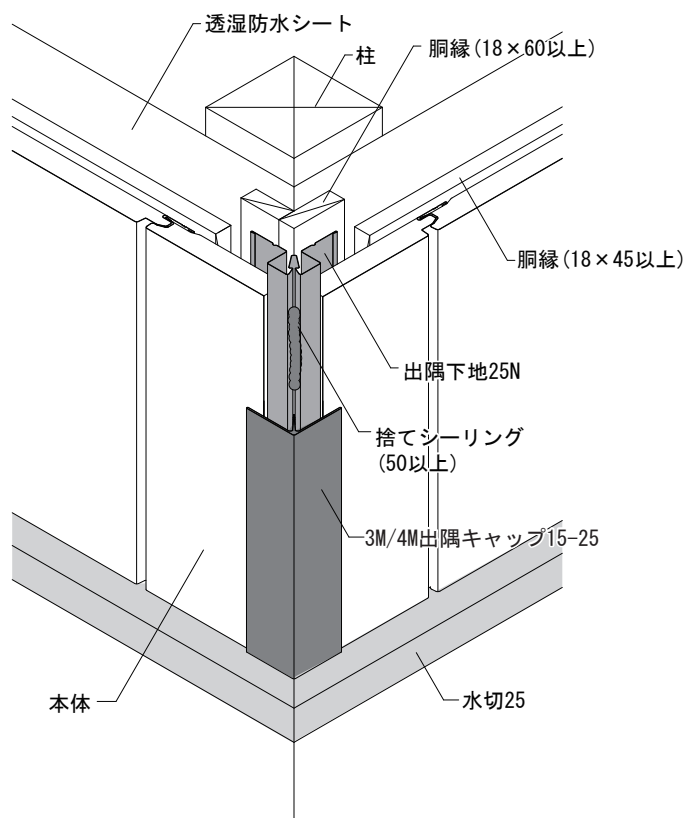
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

B. 出隅部

- ・ 本体の端部は必ず留め具（スクリークぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。
- ・ 出隅下地25Nには、3か所（上下端部、中心部に50mm以上）の捨てシーリングを施工してから、3M/4M出隅キャップ15-25を施工してください。

使用部材：3M/4M出隅キャップ15-25・出隅下地25N



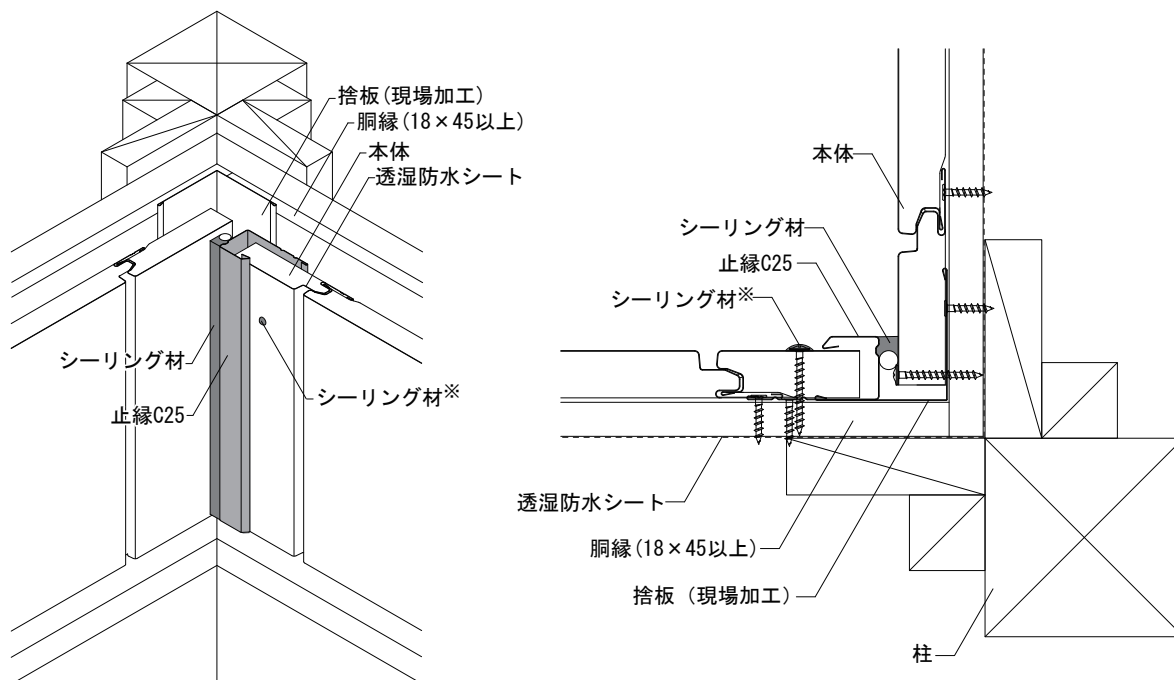
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

C. 入隅部（１）

・本体の端部は必ずスクリークぎまたは木ねじで、直接下地に留め付けてください。
※脳天打ちをしたくぎやねじ頭には、シーリング材の施工またはタッチアップペイントで塗装してください。

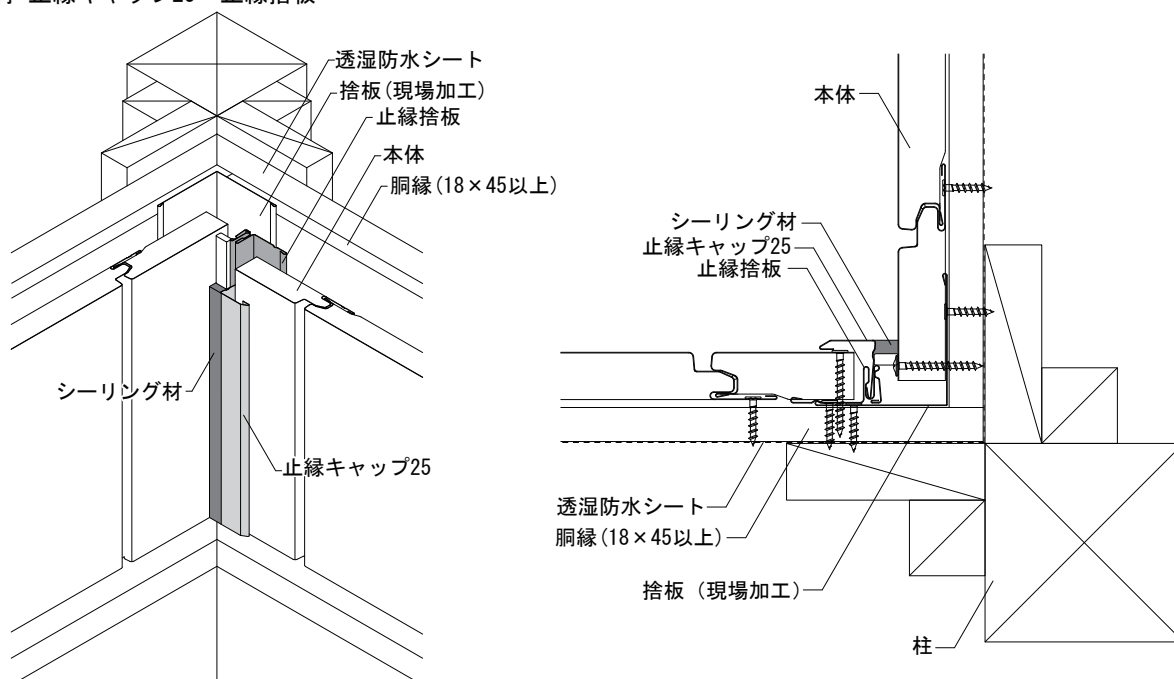
使用部材：止縁C25



C. 入隅部（２）

・本体は必ず留め具で、直接下地に留め付けてください。

使用部材：止縁キャップ25・止縁捨板



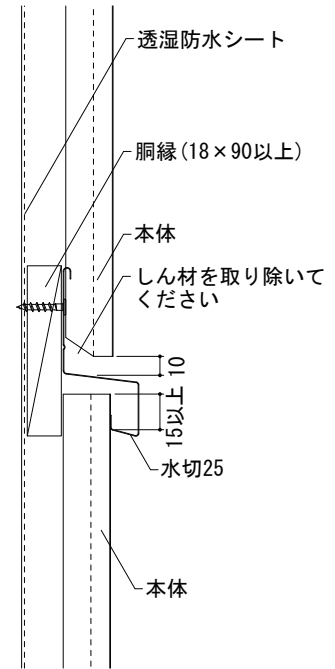
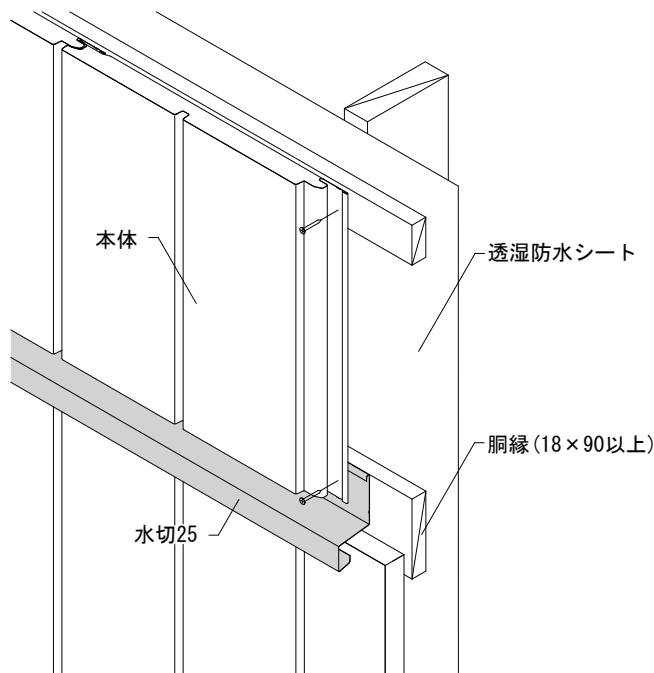
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

D. 縦継ぎ部（１）

- ・ 本体と水切25の重なり代を15mm以上確保する事で、雨水が本体を乗り越えて内部に吹き上がり浸入する事を防ぎます。
- ・ 本体の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・ 施工時に発生する切粉は、必ず取り除いてから本体を施工してください。切粉はさびや汚れの原因となります。

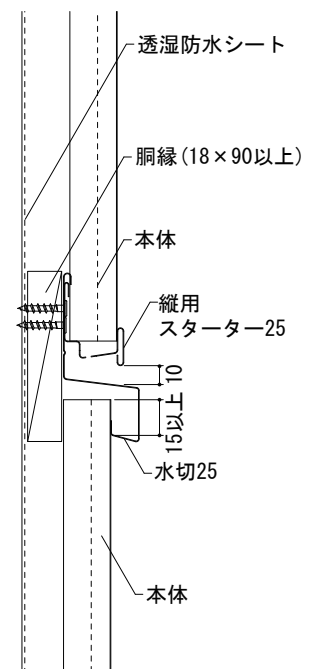
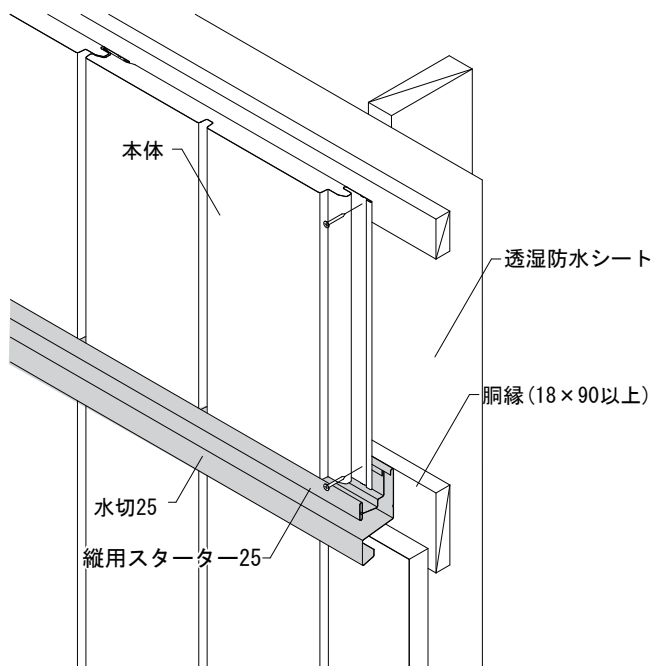
使用部材：水切25



D. 縦継ぎ部（２）

- ・ 本体と水切25の重なり代を15mm以上確保する事で、雨水が本体を乗り越えて内部に吹き上がり浸入する事を防ぎます。
- ・ 本体の下端は、縦用スターター25の上に留め付けてください。
- ・ 縦用スターター25の下端と水切25の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・ 施工時に発生する切粉は、縦用スターター25に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。切粉はさびや汚れの原因となります。
- ・ 縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると、防耐火構造認定の対象外となります。

使用部材：水切25・縦用スターター25



8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

E. 軒部（１）

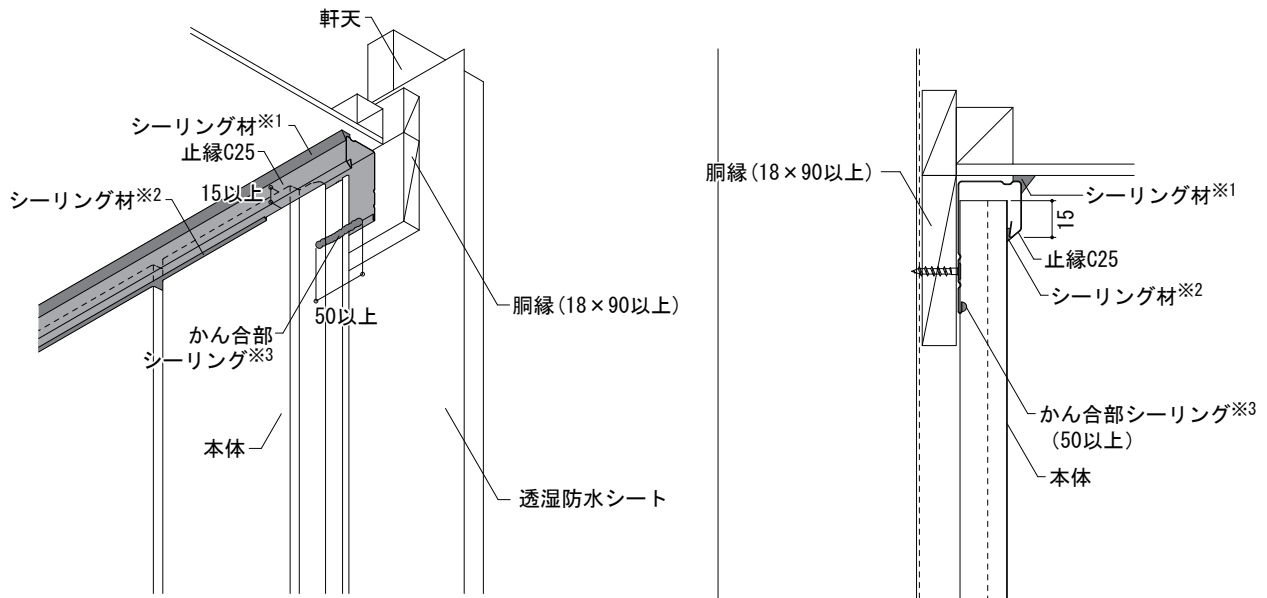
軒の出が300mm未満の場合

- ① 本体と止縁C25の重なり代を15mm以上確保し、かん合部シーリング※3を施工してください。本体と止縁C25の重なり代を15mm以上確保できない場合は、本体と止縁C25の間にシーリング材※2を施工してください。
- ② 軒天と止縁C25の間に、シーリング材※1を施工してください。

軒の出が300mm以上の場合

- ① シーリング材※1、※2、かん合部シーリング※3は、無しも可。

使用部材：止縁C25



E. 軒部（２）

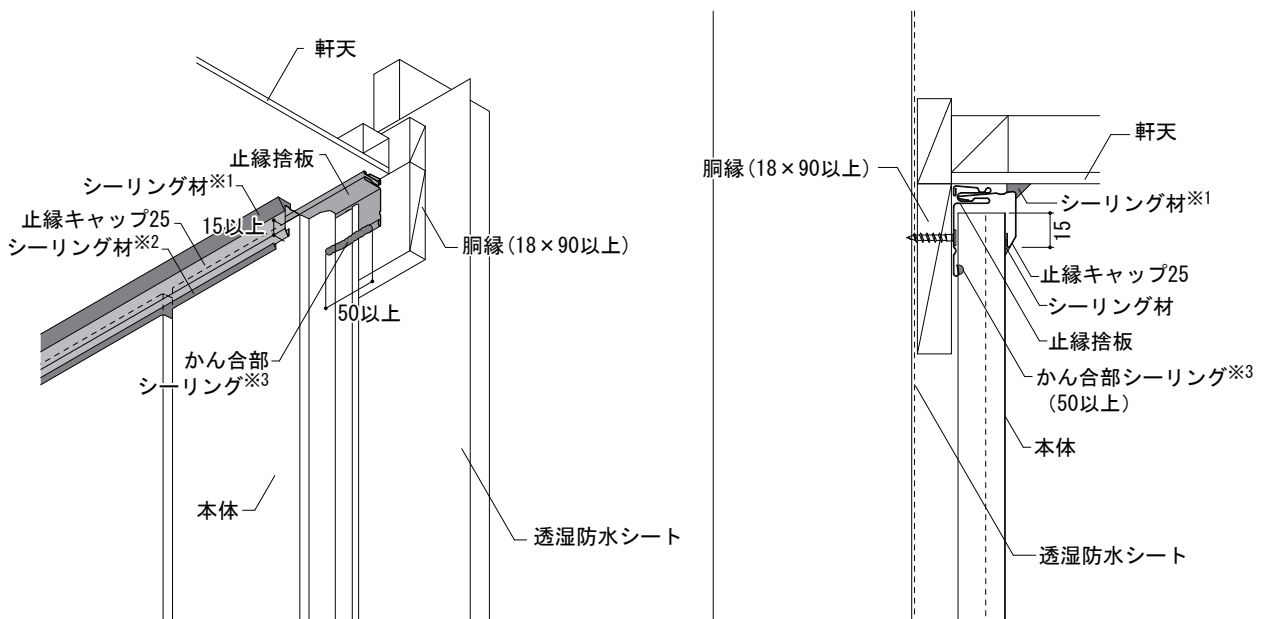
軒の出が300mm未満の場合

- ① 本体と止縁キャップ25の重なり代を15mm以上確保し、かん合部シーリング※3を施工してください。本体と止縁キャップ25の重なり代を15mm以上確保できない場合は、本体と止縁キャップ25の間にシーリング材※2を施工してください。
- ② 軒天と止縁キャップ25の間に、シーリング材※1を施工してください。

軒の出が300mm以上の場合

- ① シーリング材※1、※2、かん合部シーリング※3は、無しも可。

使用部材：止縁キャップ25・止縁捨板



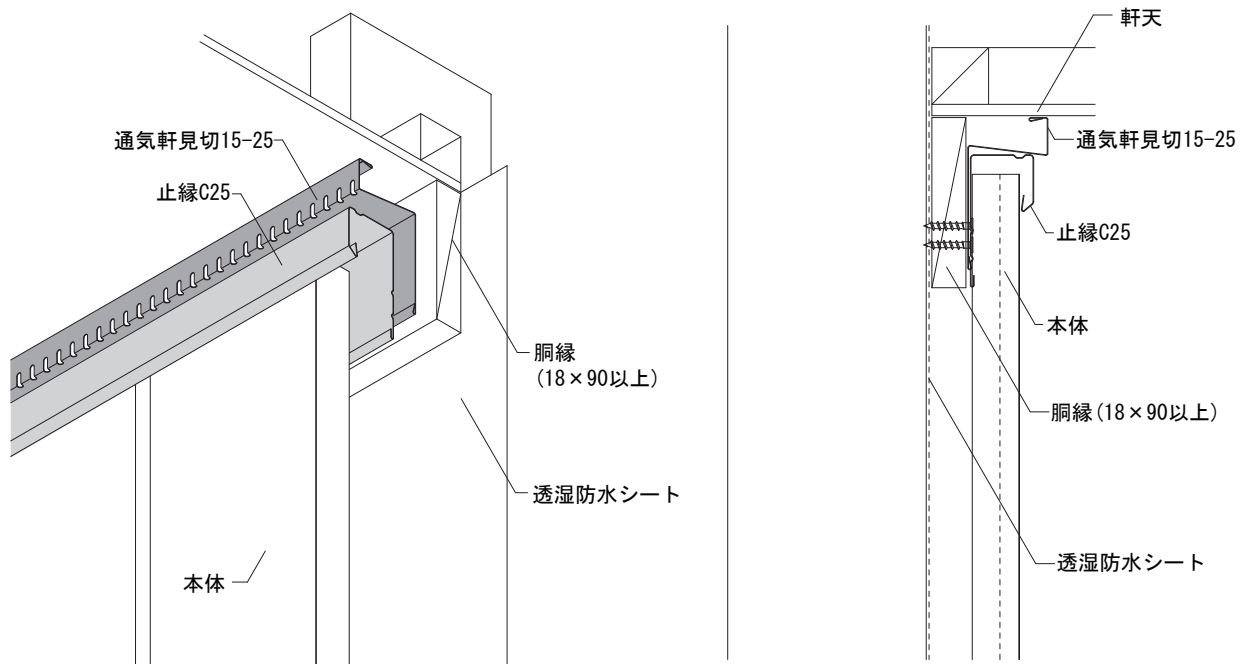
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

Ｅ．軒部（３）

- ・ 軒裏や小屋裏への通気経路を確保してください。軒裏や小屋裏への通気を行わない場合は、通気軒見切15-25を使用することで通気構法が可能となります。
- ・ 通気軒見切15-25は、軒の出が300mm以上の建物に使用してください。

使用部材：通気軒見切15-25・止縁C25

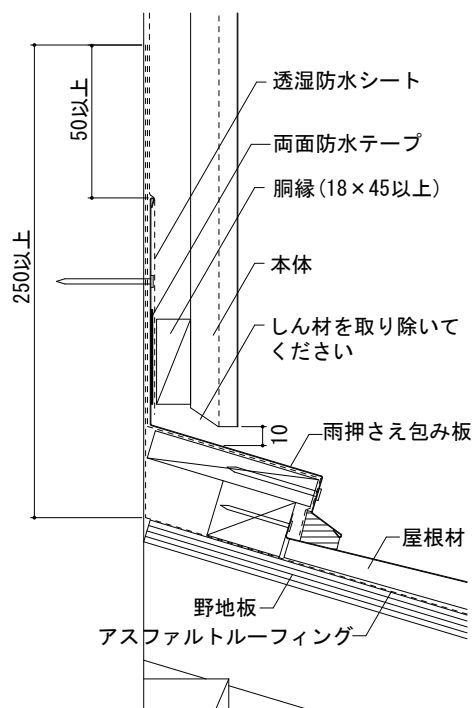
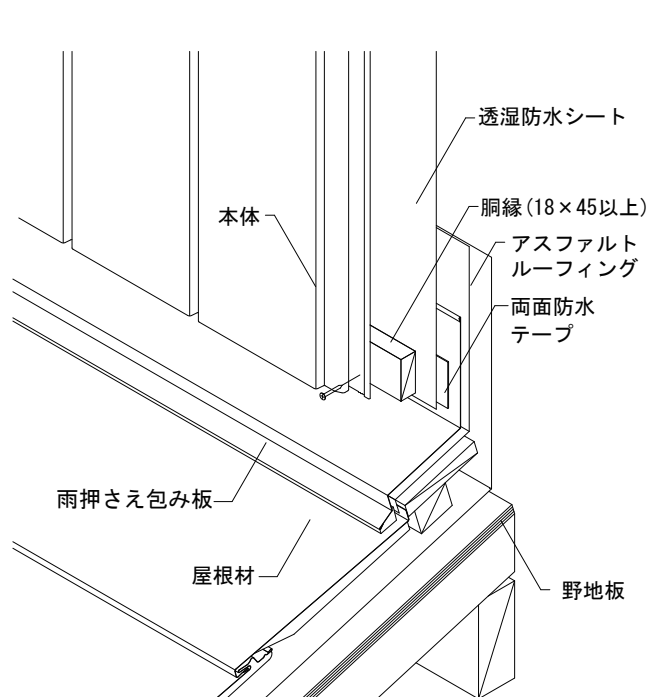


8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

F. 下屋見切り部（１）

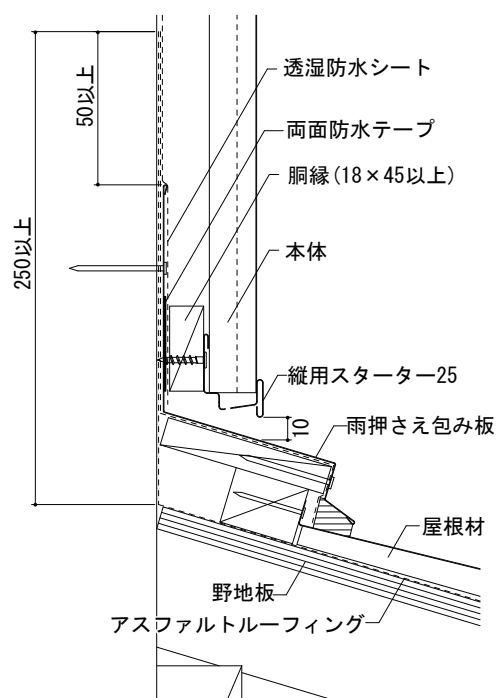
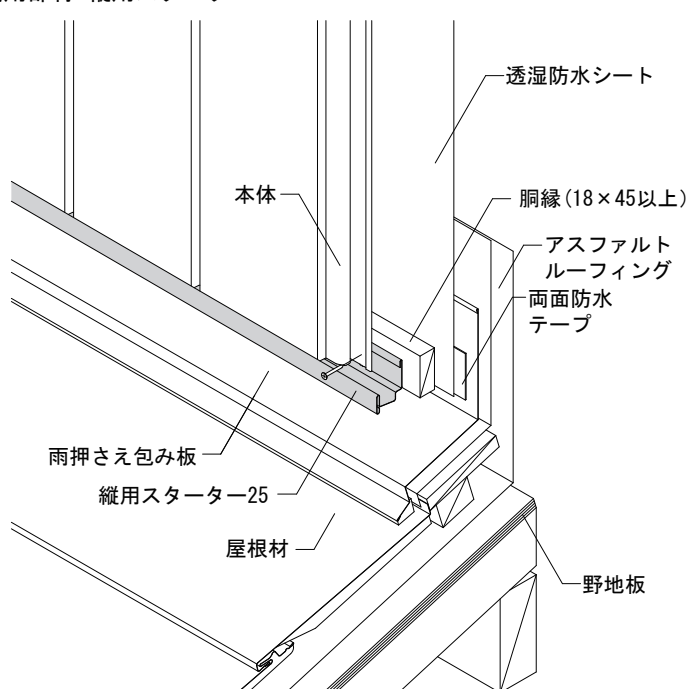
- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください。
- ・本体の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。



F. 下屋見切り部（２）

- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、縦用スターター25を使用しない納め方としてください。
- ・縦用スターター25の下端と雨押さえ包み板の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・本体の下端は、縦用スターター25の上に留め付けてください。
- ・施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

使用部材：縦用スターター25



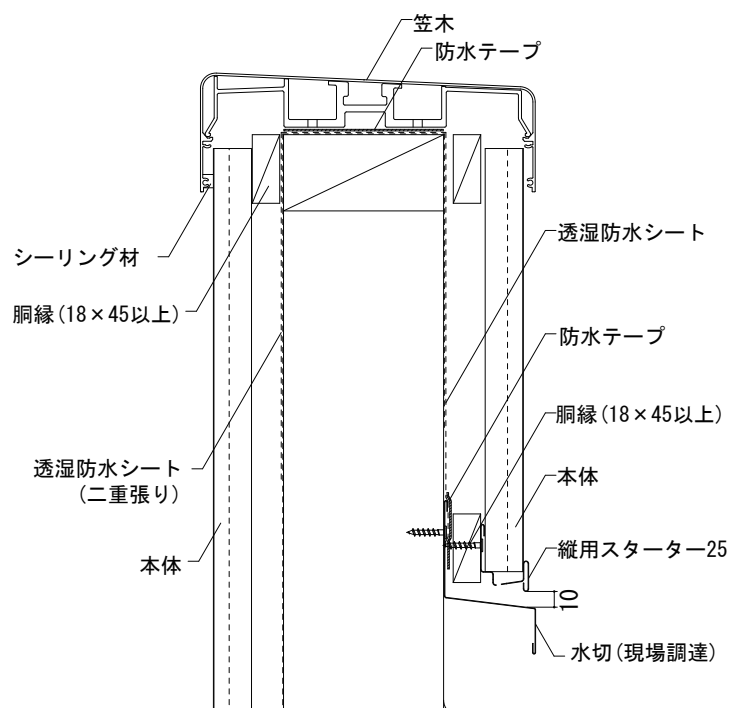
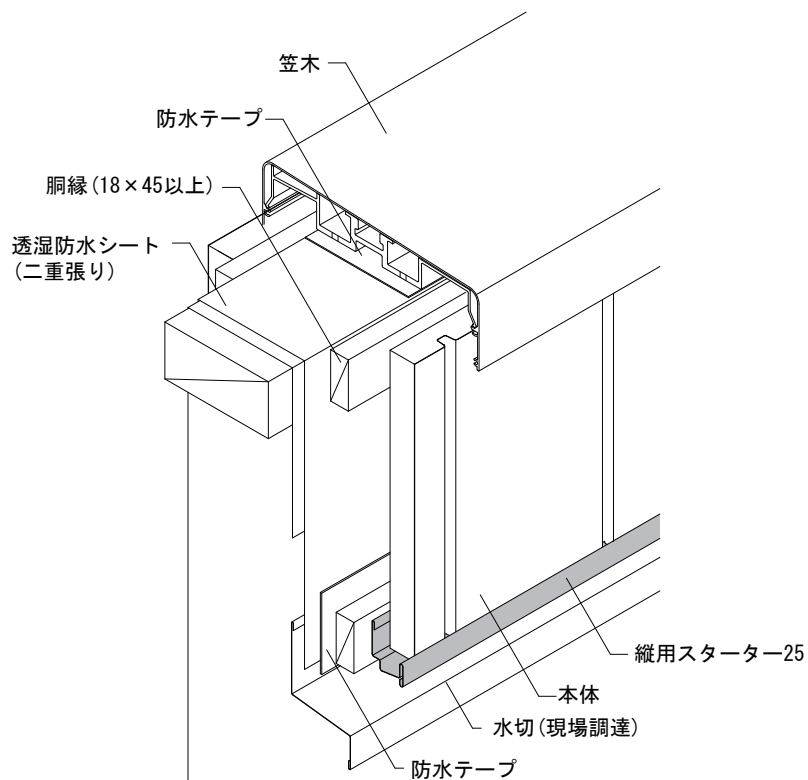
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

G. 笠木部

- ・積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、本体と部材に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処し、縦用スターター25を使用しない納め方としてください。
- ・防水上万全を期すため、透湿防水シートを二重張りにしてください。
- ・通気経路を確保してください。
- ・施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

使用部材：縦用スターター25



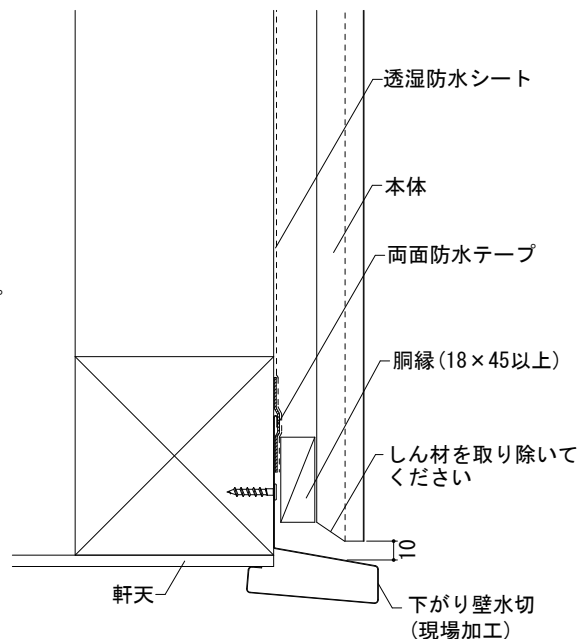
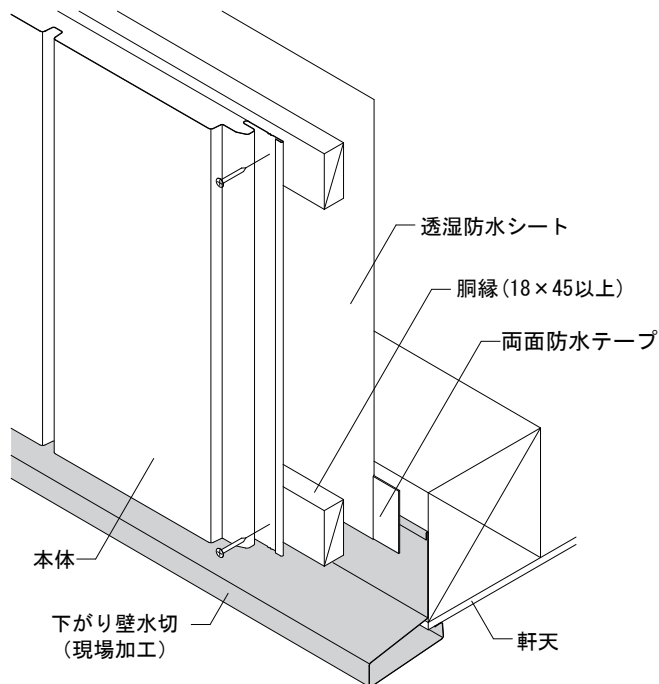
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

H. 下がり壁部（１）

- ・ 本体の下端と下がり壁水切（現場加工）の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。

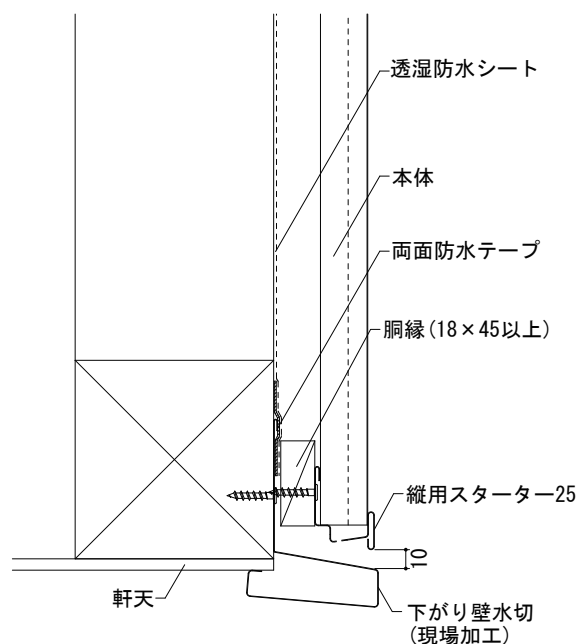
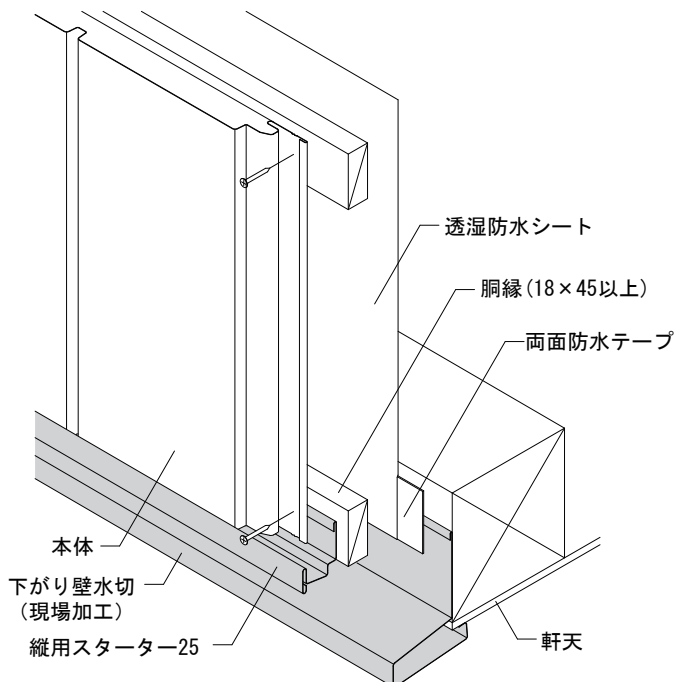
使用部材：下がり壁水切（現場加工）



H. 下がり壁部（２）

- ・ 縦用スターター25の下端と下がり壁（現場加工）の間には、雨水が滞留しないよう10mm程度のすき間をあけてください。
- ・ 本体の下端は、縦用スターター25の上に留め付けてください。
- ・ 施工時に発生する切粉は、縦用スターター25内に入らないように注意してください。切粉が入った場合は、必ず取り除いてから本体を施工してください。

使用部材：下がり壁水切（現場加工）・縦用スターター25



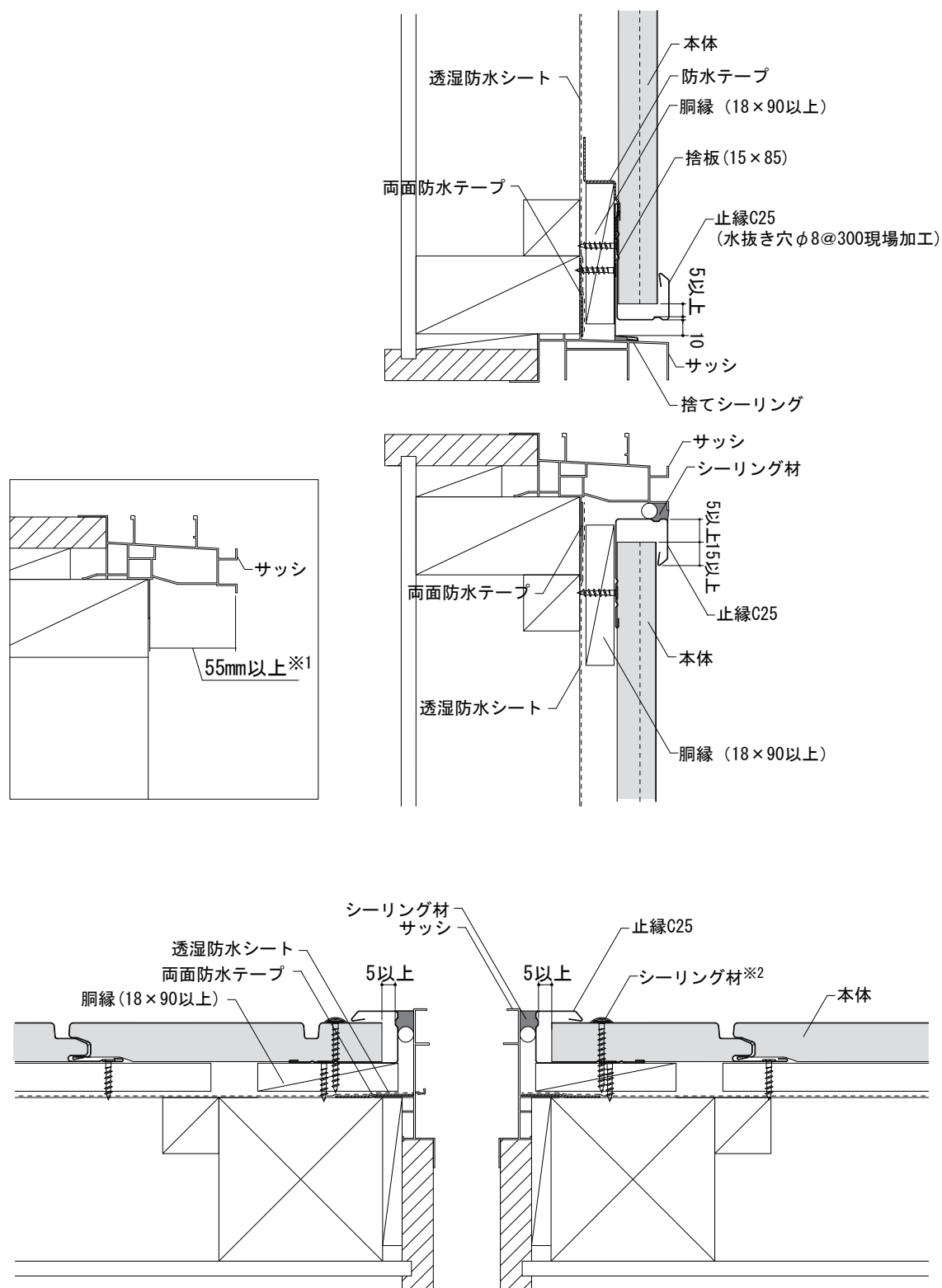
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

I. 開口部（1）

・止縁C25をサッシ上部に取り付ける際は、あらかじめ水抜き穴をあけてから取り付けてください。
 ※1下地表面からサッシの出幅が55mm以上の場合に、施工できます。
 ※2くぎまたはねじ頭には、シーリング材の代わりにタッチアップペイントでの塗装も可。

使用部材：止縁C25・捨板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



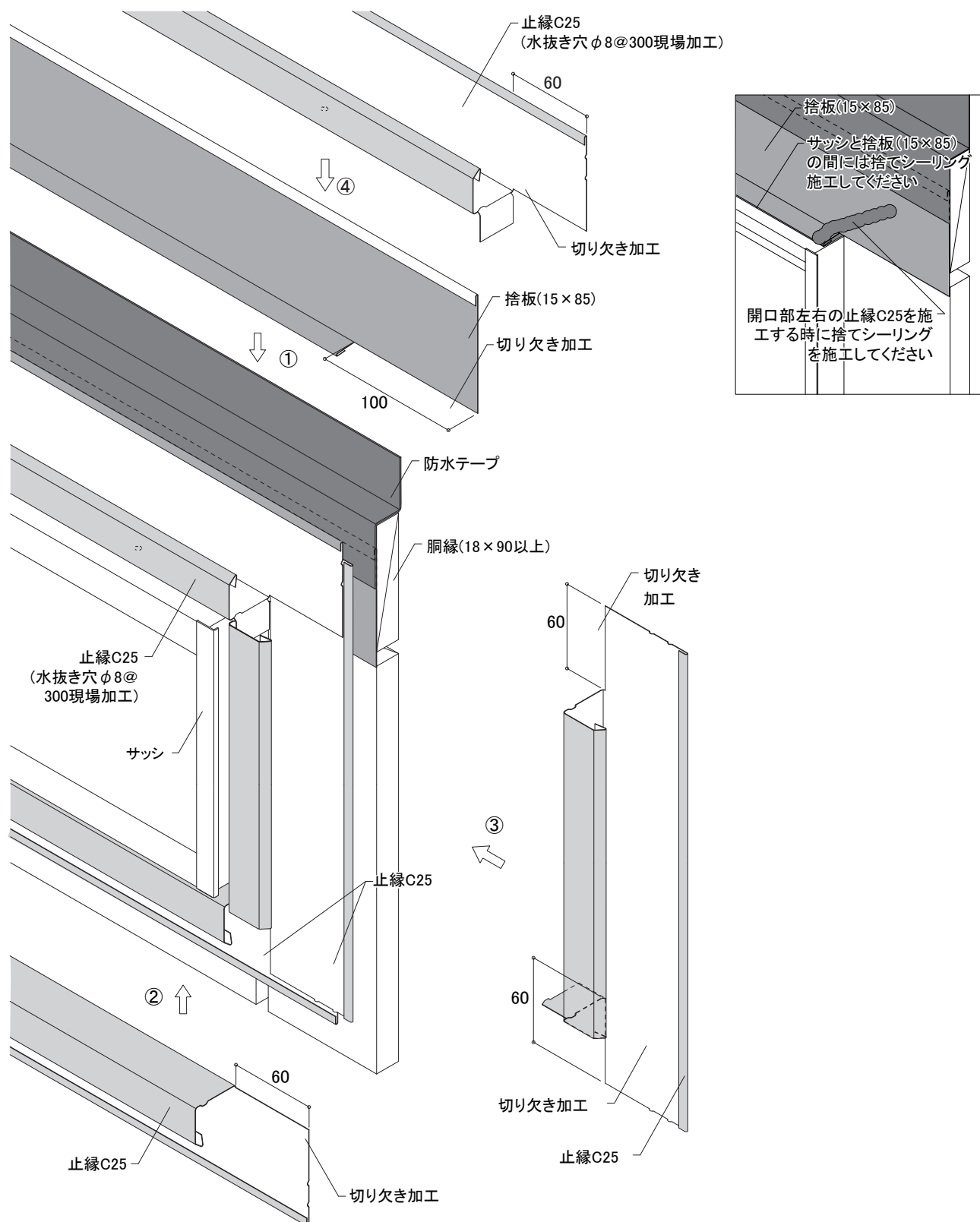
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

1. 開口部（1）

- ①サッシ上に捨板（15×85）取り付け、その上から防水テープを図の位置に施工してください。
- ②サッシ下に止縁C25を取り付けてください。
- ③サッシ左右に止縁C25を取り付けてください。
- ④捨板（15×85）に捨てシーリングを施工後、サッシ上に止縁C25を取り付けてください。

使用部材：止縁C25・捨板（15×85）・ワンタッチコーナーキャップ15-25



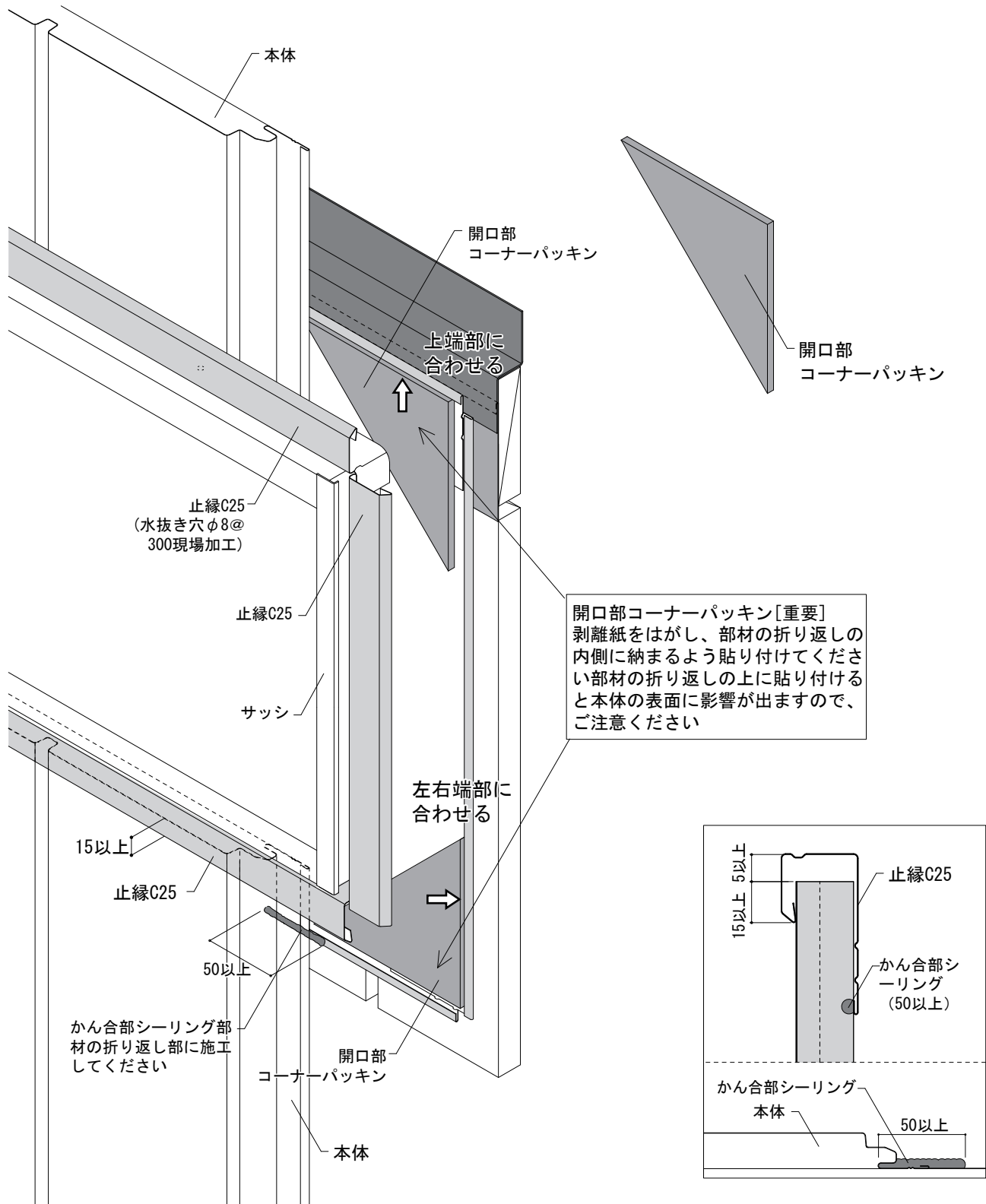
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

I. 開口部（1）

- ・ 開口部コーナーパッキンは隅角部（四隅）に施工してください。開口部コーナーパッキンは、止縁C25の折り返し部分の内側の端部に合わせて、すき間なく貼り付けて施工してください。
- ・ 部材の折り返し部分の上に、開口部コーナーパッキンを貼り付けると本体施工後の意匠と水密性能が低下するおそれがあります。
- ・ 開口部下の本体と止縁C25のかかり代を15mm以上としてください。
- ・ 本体端部と部材内部のすき間は5mm以上あけてください。止水性を保つため、隅角部では捨てシーリングを開口部コーナーパッキンまですき間なく充てんしてください。
- ・ 開口部下に施工する本体1枚ごとに、かん合部シーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・捨板（15×85）・ワンタッチコーナーキャップ15-25



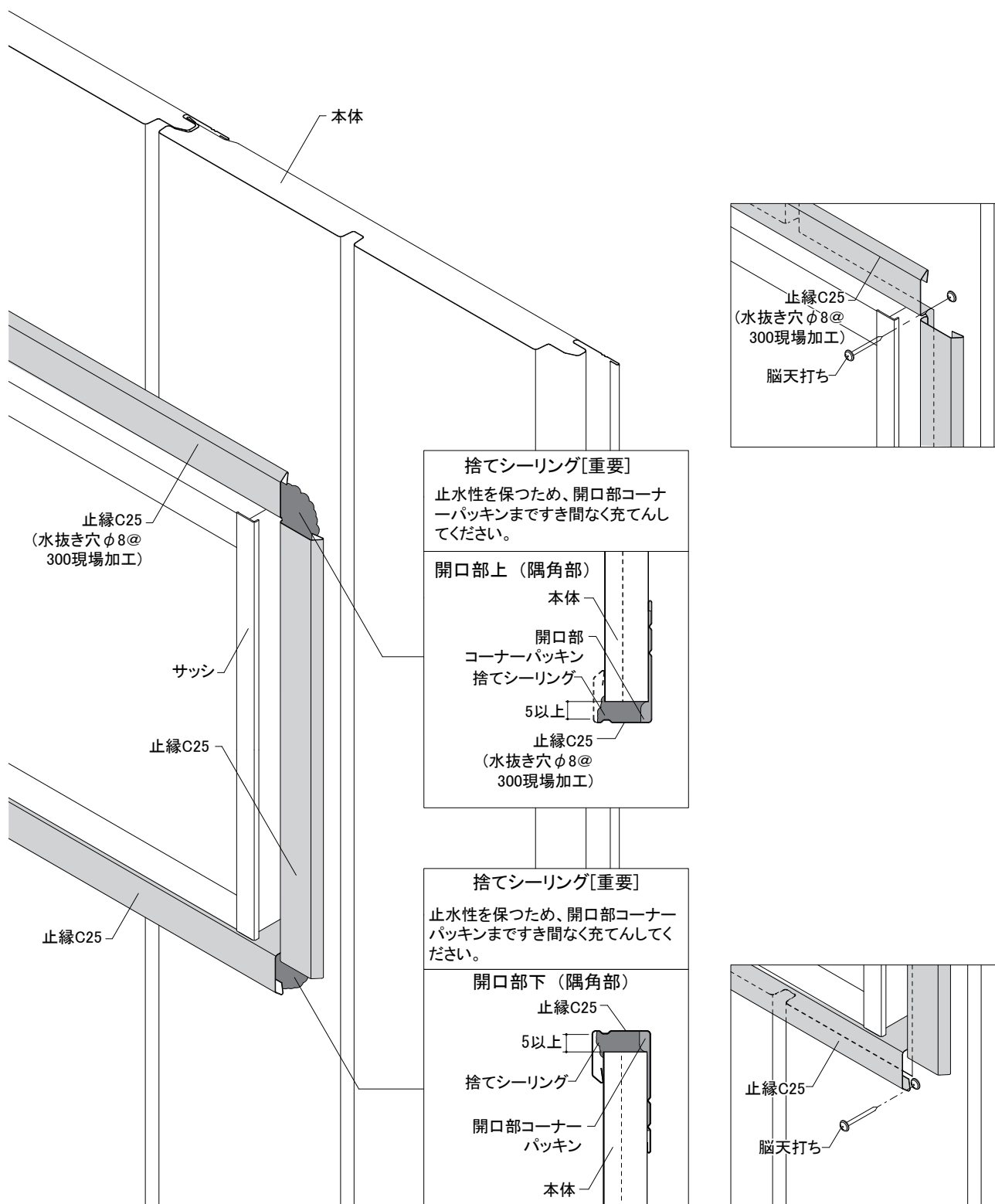
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

I. 開口部（1）

- ・ワンタッチコーナーキャップ15-25の隠れる位置に脳天打ちをし、本体を確実に留め付けてから、ワンタッチコーナーキャップ15-25を施工してください。
- ・本体の施工後、隅角部には捨てシーリングを開口部コーナーパッキン材まですき間なく入れてください。

使用部材：止縁C25・捨て板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



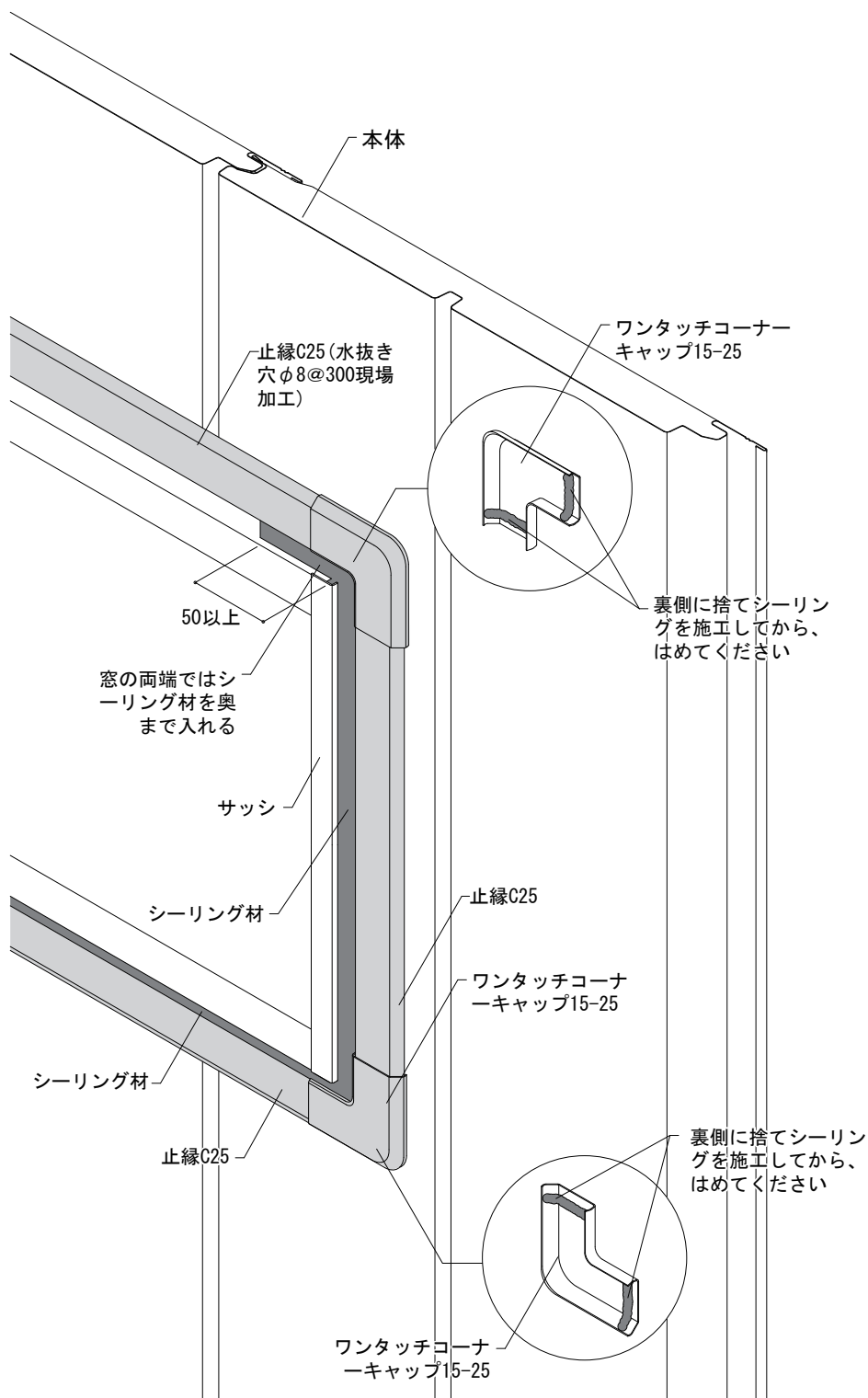
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

I. 開口部（1）

- ・ワンタッチコーナーキャップ15-25は、裏側に捨てシーリングを施工してからはめてください。
- ・開口部上では、止縁C25の下端とサッシの間に左右両端50mm程度のシーリング材を奥まで入れてください。

使用部材：止縁C25・捨板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



8-3. 各部位の納まり図

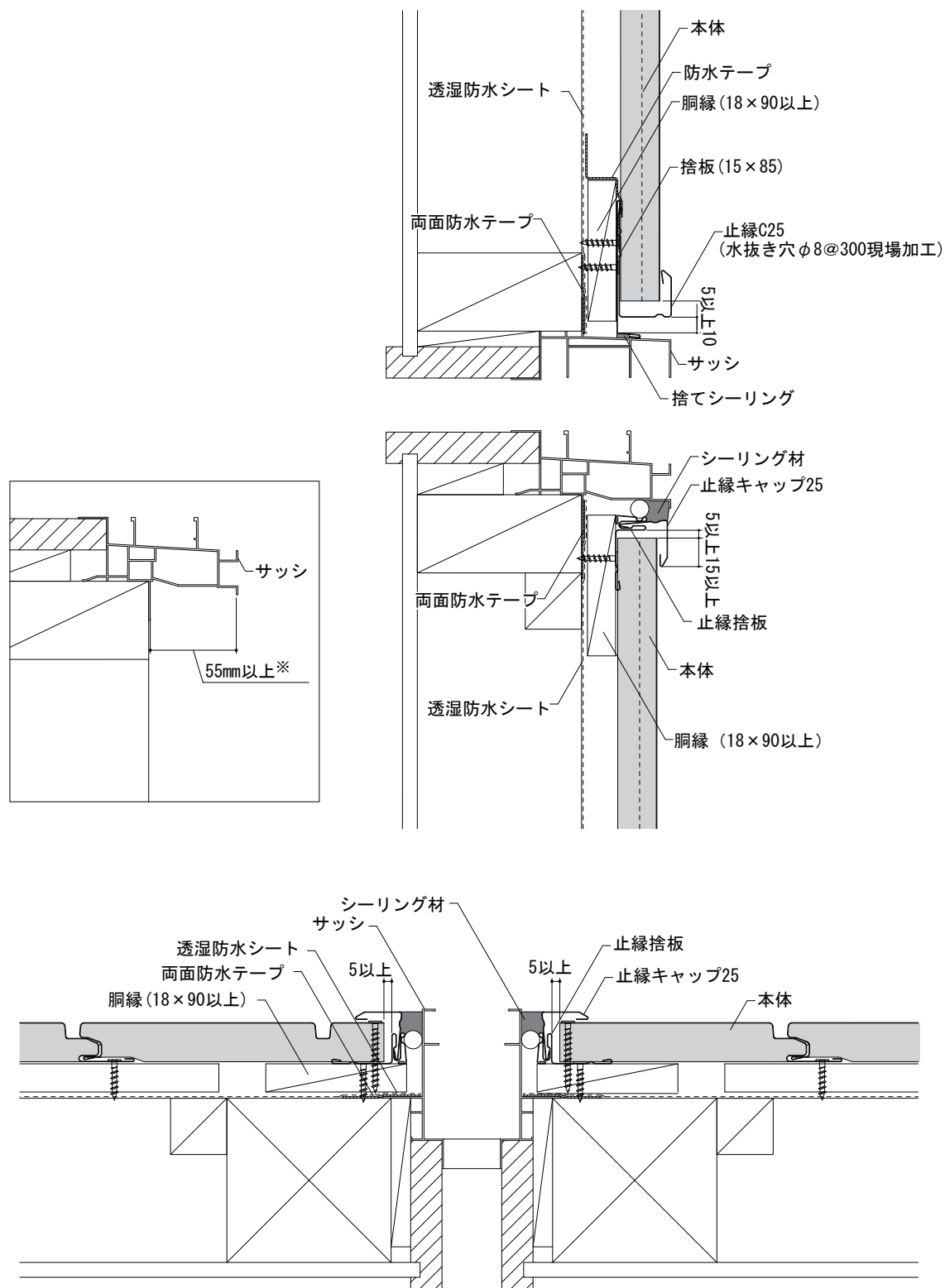
単位：mm

I. 開口部（2）

- ・ 止縁C25をサッシ上部に取り付ける際は、あらかじめ水抜き穴をあけてから取り付けてください。
- ・ 本体の端部は必ず留め具（スクリューくぎまたは木ねじ）で、直接下地に留め付けてください。

※ 下地表面からサッシの出幅が55mm以上の場合に、施工できます。

使用部材：止縁C25・止縁キャップ25・止縁捨板・捨板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



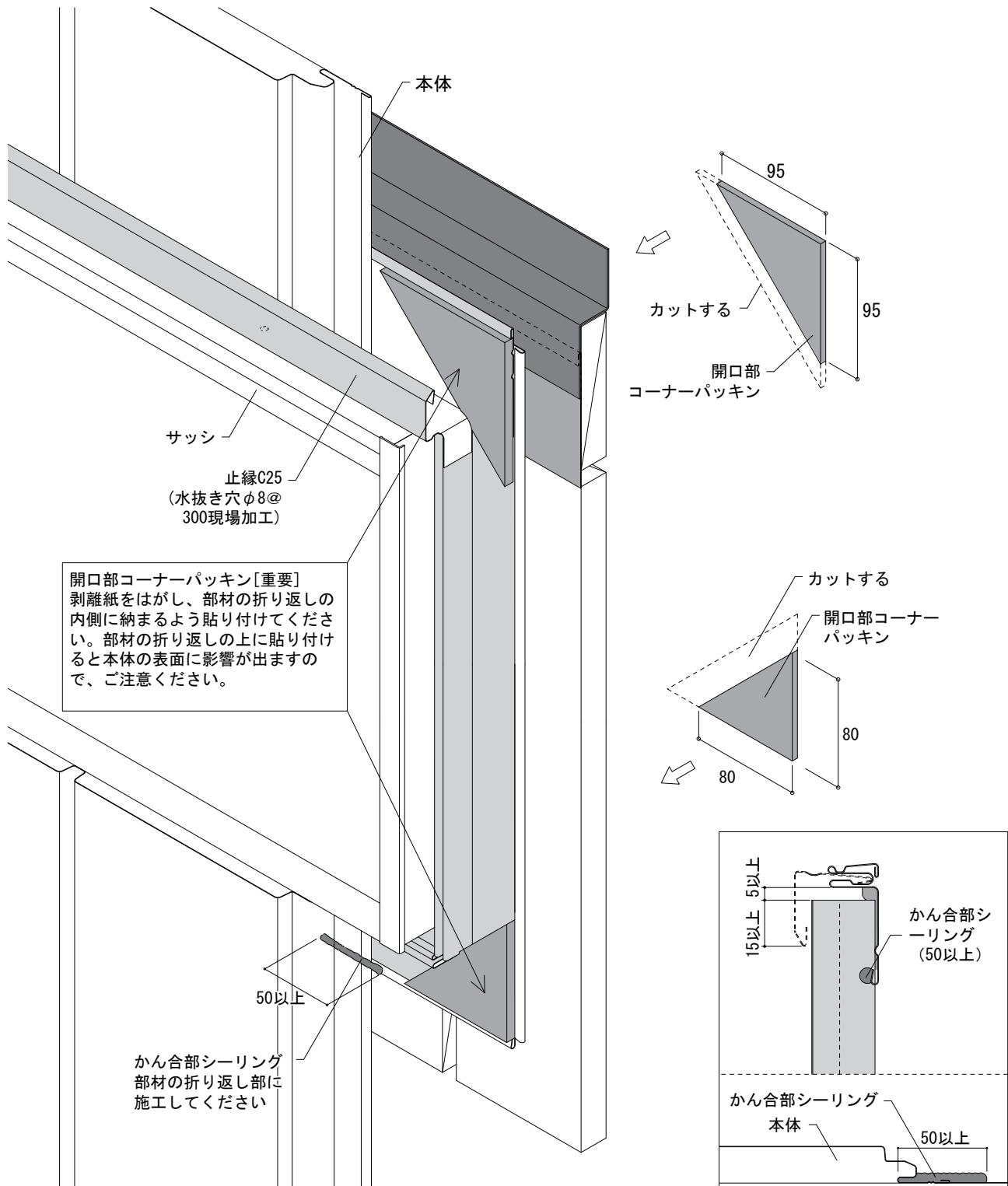
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

I. 開口部（2）

- ・施工する箇所に合わせて、開口部コーナーパッキンをカットしてから隅角部（四隅）に施工してください。開口部コーナーパッキンは、止縁C25または止縁捨板の折り返し部分の内側の端部に合わせて、すき間なく貼り付けて施工してください。
- ・部材の折り返し部分の上に、開口部コーナーパッキンを貼り付けると本体施工後の意匠と水密性能が低下するおそれがあります。
- ・開口部下の本体と止縁C25のかかり代を15mm以上としてください。
- ・本体端部と部材内部のすき間は5mm以上あけてください。止水性を保つため、隅角部では捨てシーリングを開口部コーナーパッキンまですき間なく充てんしてください。
- ・開口部下に施工する本体1枚ごとに、かん合部シーリングを施工してください。

使用部材：止縁C25・止縁キャップ25・止縁捨板・捨板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



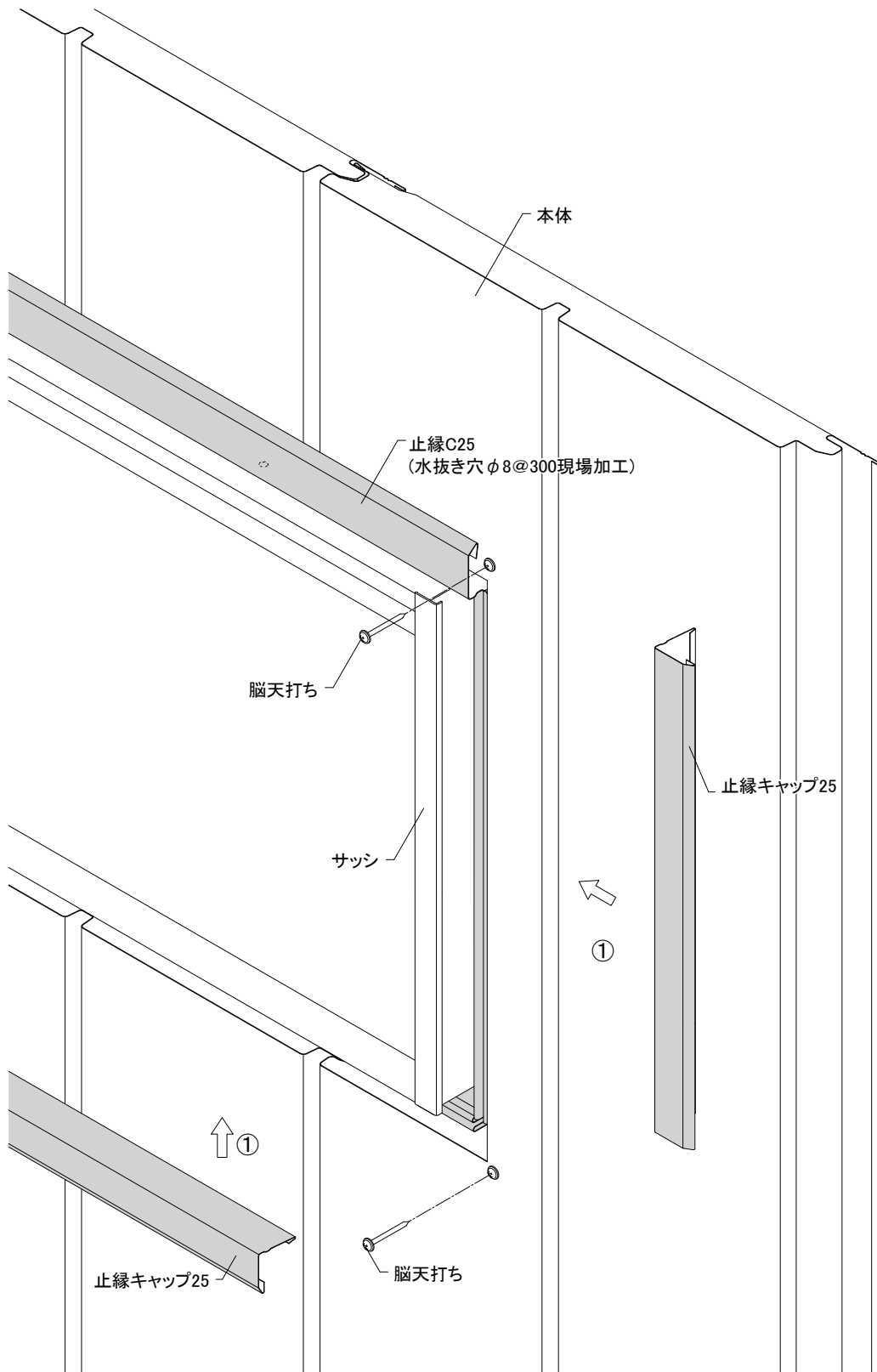
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

I. 開口部（2）

- ・ワンタッチコーナーキャップ15-25の隠れる位置に脳天打ちをし、本体を確実に胴縁へ留め付けてください。
- ・止縁キャップ25を施工してください。

使用部材：止縁C25・止縁キャップ25・止縁捨板・捨板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



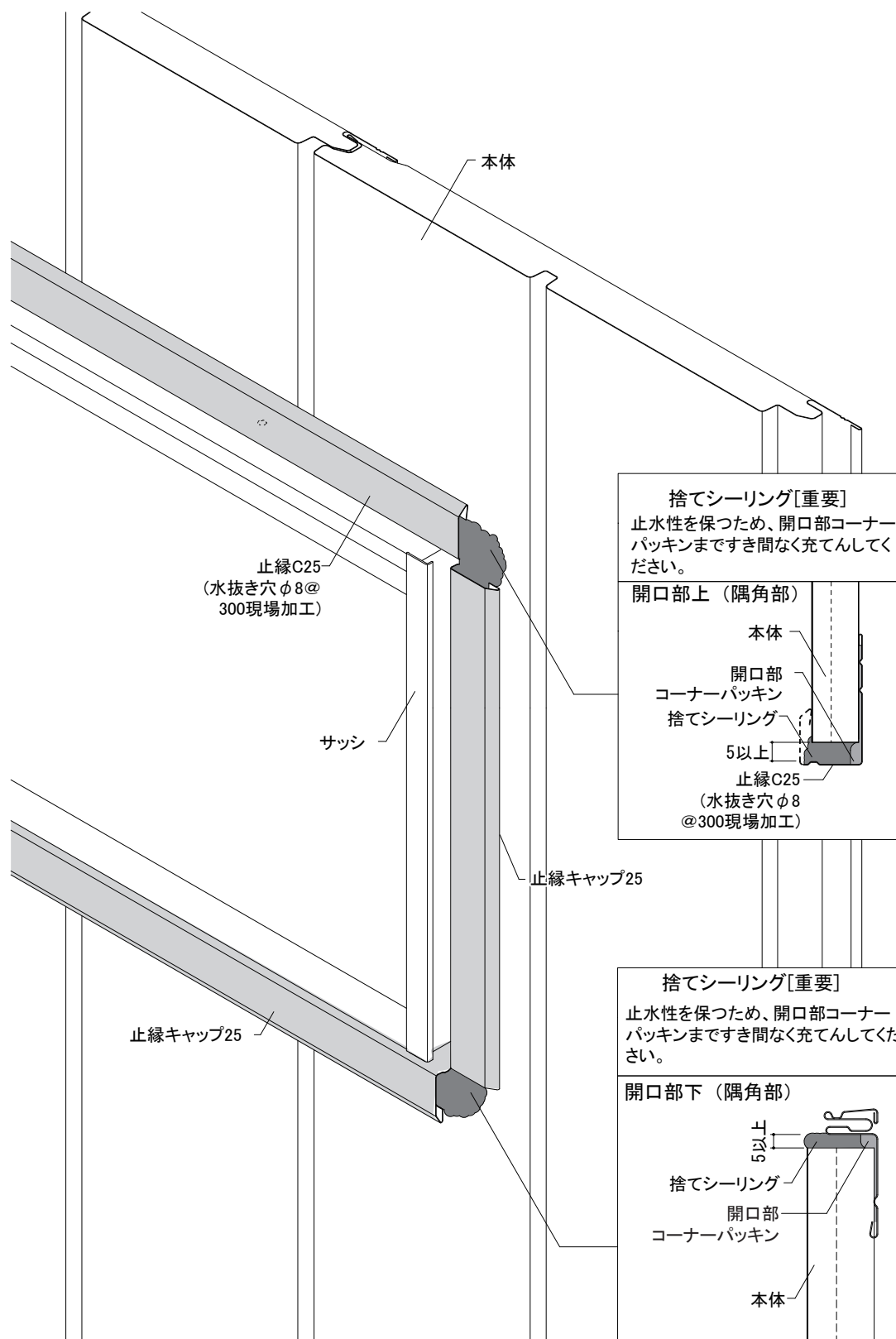
8-3. 各部位の納まり図

単位：mm

I. 開口部（2）

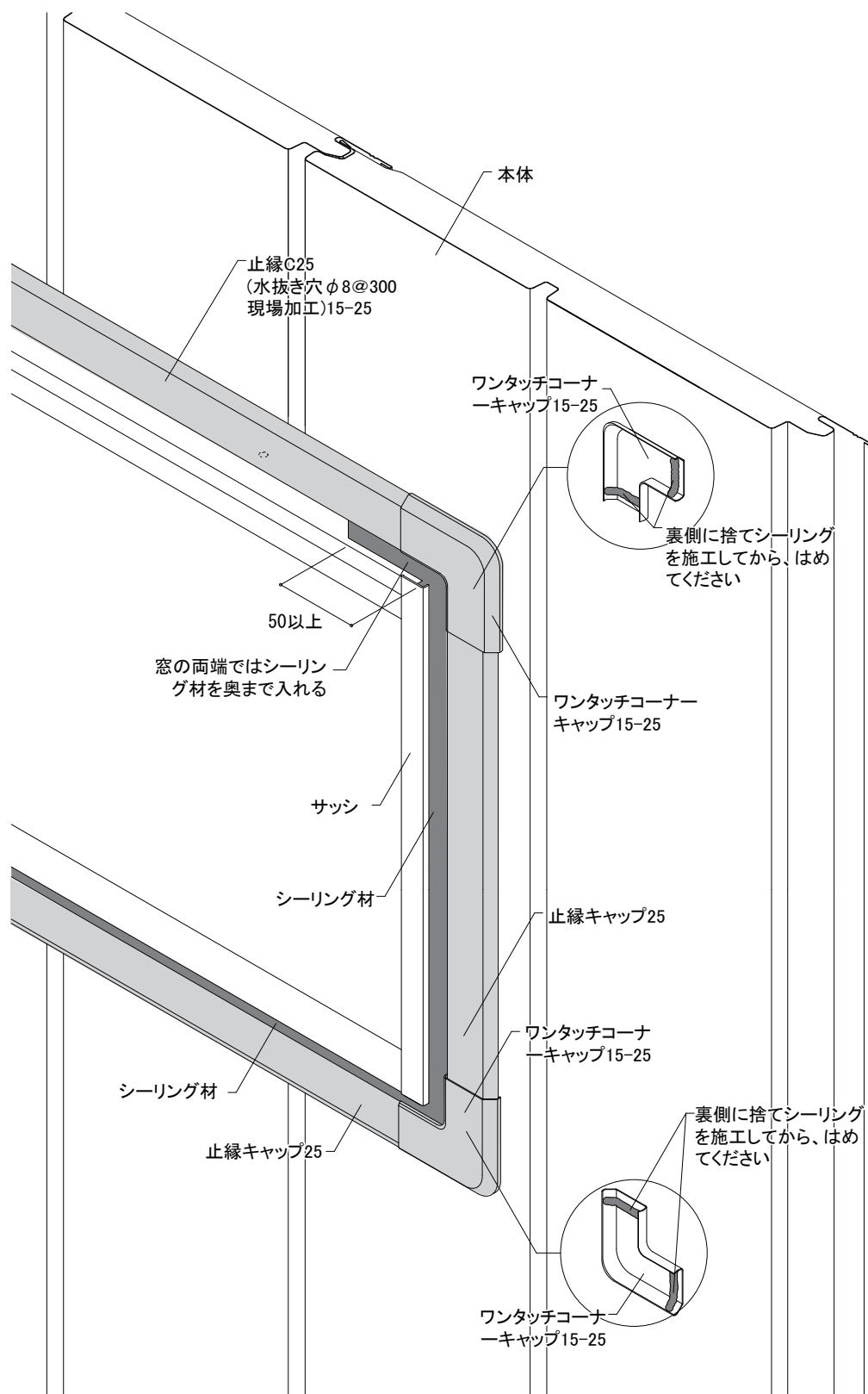
- ・止縁キャップ25の施工後、隅角部には捨てシーリングを開口部コーナーパッキンまですき間なく入れてください。
- ・ワンタッチコーナーキャップ15-25の隠れる位置に脳天打ちをし、本体を確実に留め付けてください。

使用部材：止縁C25・止縁キャップ25・止縁捨板・捨板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



- ・開口部上のサッシと止縁G25の間は、50mm以上シーリング材を奥まで施工してください。
- ・サッシと止縁キャップ25の間は、シーリング材を施工してください。
- ・ワンタッチコーナーキャップ15-25の隠れる位置に脳天打ちをし、本体を確実に留め付けてから、ワンタッチコーナーキャップ15-25を施工してください。

使用部材: 止縁C25・止縁キャップ25・止縁捨板・捨板(15×85)・ワンタッチコーナーキャップ15-25



9 防耐火認定

- 9－1． 建築基準法の制限 P101
- 9－2． 防耐火構造認定 P103

9. 防耐火認定

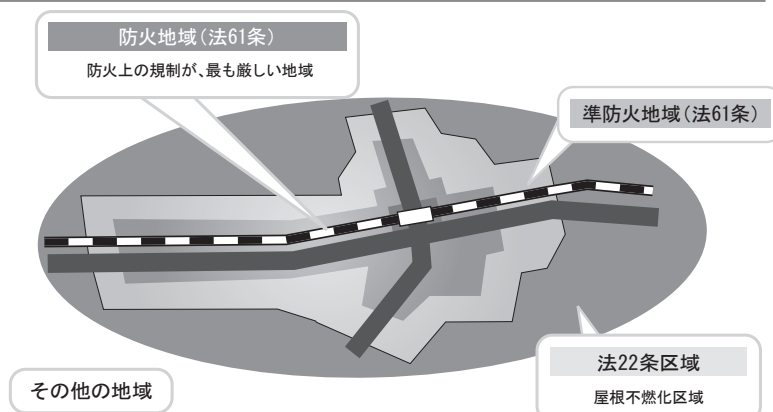
9-1. 建築基準法の制限

ご検討の際は最新の建築基準法をご確認いただくようお願いします。

1. 地域の制限

建築基準法では、個々の建築物の火災による延焼を防止するために、第22条に基づいた地域（22条区域）を定めています。

また、都市計画により市街地における火災の拡大を防ぐために、大きな都市の駅周辺など、建築物が密集している地域を防火地域、その周囲に準防火地域が指定されており、各地域、規模及び用途などに応じ、建築物の防耐火構造が規定されています。



2. 外壁に求められる防耐火性能とアイジーサイディング認定取得範囲

商品により取得している認定番号が異なります。使用する商品の認定番号をご確認ください。

■木造下地

用途	地域	延床面積 (S)㎡ 階数	S≦100	100<S≦500	500<S≦1000	1000<S≦1500	1500<S≦3000	3000<S	
共同住宅	防火地域	3階建	耐火構造(法61条)						
		1, 2階建							45分準耐火構造 (法61条)
	準防火地域	3階建	1時間準耐火構造(法27条、令115条2の2)					耐火構造(法61条)	
		1, 2階建	防火構造※ ¹ (法61条)	2階が300㎡以上 (法27条)	45分準耐火構造(法61条)				
	22条区域	3階建	1時間準耐火構造(法27条、令115条2の2)						耐火構造 (法21条2項)
		1, 2階建	準防火構造※ ¹ (法23条)	45分準耐火構造(法27条) 2階が300㎡以上					
				防火構造※ ¹ (法25条)					
	戸建住宅	防火地域	3階建	耐火構造(法61条)					
1, 2階建			45分準耐火構造 (法61条)						
準防火地域		3階建	準防火3階建仕様(法61条、令136条の2) 防火構造かつ内装側のせっこうボード12mm以上	45分準耐火構造 (法61条)			耐火構造 (法61条)		
		1, 2階建	防火構造※ ¹ (法61条)						
22条区域		3階建	準防火構造※ ¹ (法23条)			防火構造※ ¹ (法25条)		耐火構造 (法21条2項)	
		1, 2階建							

■鉄骨下地

用途	地域	階数 延床面積 (S)㎡	S ≤ 100	100<S ≤ 500	500<S ≤ 1000	1000<S ≤ 1500	1500<S ≤ 3000	3000<S
事務所・工場・戸建住宅など（特殊建築物以外）	防火地域	3階建以上	耐火構造（法61条）					
		1, 2階建						
	準防火地域	4階建以上	耐火構造（法61条）					
		3階建	準防火3階建仕様（法62条、令136条の2） 防火構造かつ内装側のせっこうボード12mm以上	a. 45分準耐火構造〔イ準耐〕		b. 防火構造※1+準不燃材料〔ロ準耐二号〕 （法61条、令109条の3）		
		1, 2階建	制限なし					
	その他の区域	1階建以上	制限なし			a. 45分準耐火構造〔イ準耐〕（法26条、令109条の3） b. 防火構造※1+準不燃材料〔ロ準耐二号〕（法26条、令109条の3） （但し、一部45分準耐火構造必要※2※3）		
						b. 防火構造※1+準不燃材料〔ロ準耐二号〕（令112条、令109条の3） （但し、一部45分準耐火構造必要※2※3） 制限なし（但し、一部45分準耐火構造必要※2※3）		

アイジーサイディングの認定取得範囲です。（銘壁は、木造下地45分準耐火構造認定を取得していません。）

SP-ガルスパンのみの認定取得範囲です。

SP-ガルプライトⅡ、SP-ガルスパン、SF-ガルスステージシャインのみの認定取得範囲です。

アイジーサイディングの準不燃材料認定商品のみ適用しています。

※1 「延焼のおそれのある部分」のみが対象になります。「延焼のおそれのある部分」、「イ準耐」、「ロ準耐二号」については、次のページを参照してください。

※2 防火区画と接する部分を含み幅90cm以上の部分を準耐火構造としなければなりません。（令112条）

※3 45分準耐火構造が必要な部分には使用できません。

・高さ16mを超えるもの（車庫、倉庫は高さ13mを超えるもの）、または階数が4以上の木造建築物は、地域にかかわらず1時間準耐火構造以上の性能が求められます。（法21条）

9-1. 建築基準法の制限

3. 防火区画

建築物内部で火災が発生したときに火災が急激に燃え広がることを防ぐため、建築物の構造、用途、規模に応じて防火区画が必要になる場合があります。

● 代表的な例

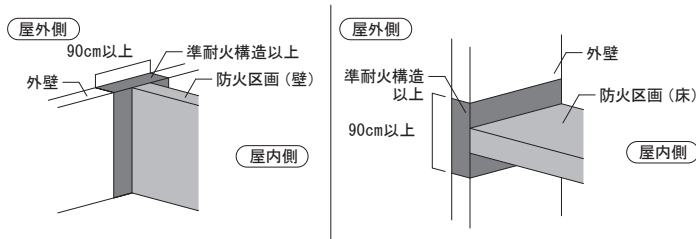
耐火建築物または準耐火建築物で、延床面積が1,500m²を超えるものは、1,500m²以内ごとに防火区画を設けなければなりません。
(建基法令第112条第1項)

準耐火建築物の場合

防火区画に接する外壁は、接する部分を含む幅90cm以上の部分を準耐火構造以上にしなければなりません。

(建基法令第112条第16項)

■ 防火区画に接する外壁の構造



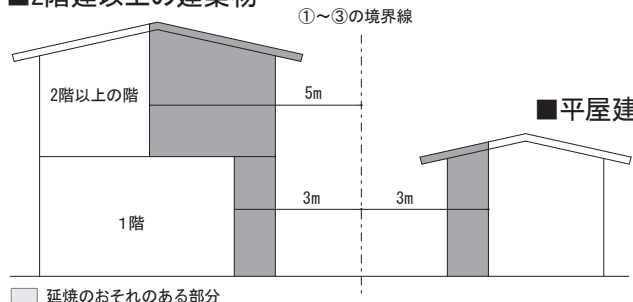
(注) 以上は、外壁のみに関する建築基準法の大まかな制限を表しています。建築基準法ではこれより詳細な制限を設けている条項があります。
また、自治体の条例などで建築基準法より厳しい制限が設けられている場合がありますので、計画の際は前もって管轄の行政庁にご確認ください。

4. 延焼のおそれのある部分（法2条六号）

防火地域など各地域の指定は、火災が周囲に広がるのを防ごうとするもので、特に延焼のおそれのある部分については、防耐火構造が強化されます。

延焼のおそれのある部分とは、①道路中心線、②隣地境界線または③同一敷地内にある2つ以上の建築物（延床面積の合計が500m²以内であれば1つの建築物とみなされる）の相互の外壁間の中心線から、1階については3m以下、2階以上については5m以下の建築物の部分指します。
但し、防火上有効な公園、広場や耐火構造の壁などに面している部分は除かれます。

■ 2階建以上の建築物



5. 耐火建築物、準耐火建築物の仕様

耐火建築物… 主要構造部を耐火構造としなければならない建築物です。(法2条九の二号)

準耐火建築物… 次の3種類のいずれかの構造としなければならない建築物です。(法2条九の三号、令109条の3)

① イ準耐(令107条の2)

主要構造部を準耐火構造としたもの

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	準耐火構造	
柱・はり	準耐火構造	
床	準耐火構造	
屋根	準耐火構造	
階段	準耐火構造	
開口部	防火戸など	—

② ロ準耐一号(令109条の3一号)

外壁を耐火構造としたもの

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	耐火構造	
柱・はり	—	
床	—	
屋根	準耐火構造など	不燃材料
階段	—	
開口部	防火戸など	—

③ ハ準耐二号(令109条の3二号)

主要構造部を不燃材料または準不燃材料で造ったもの

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	防火構造+準不燃材料	準不燃材料
柱・はり	不燃材料	
床	準不燃材料(3階以上は準耐火構造など)※	
屋根	不燃材料	
階段	準不燃材料	
開口部	防火戸など	—

上表は、準耐火建築物の大まかな仕様であり、詳細は建築基準法をご確認ください。

※最下階の床は除く

せっこうボードについて

せっこうボードの目地部については、火災時の安全性向上のため、せっこうボードメーカーの推奨する適切な目地処理(乾式壁目地処理工法など)をお勧めします。

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造軸組

認定番号: QP020BE-0038

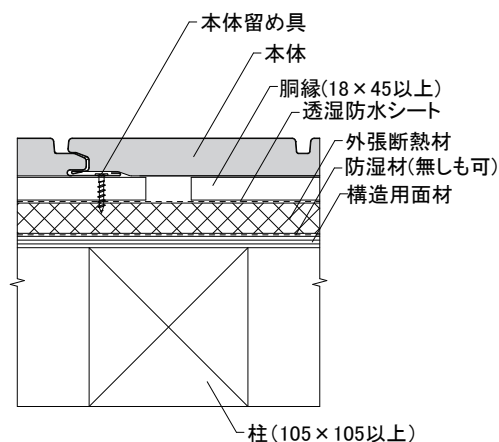
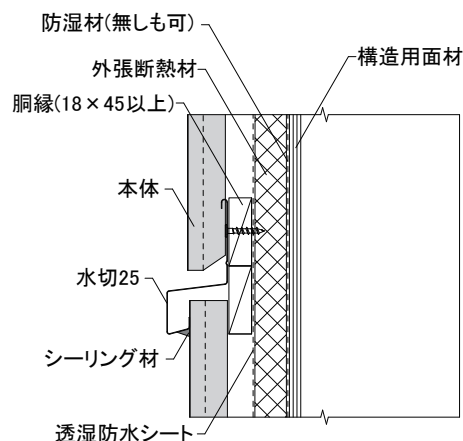
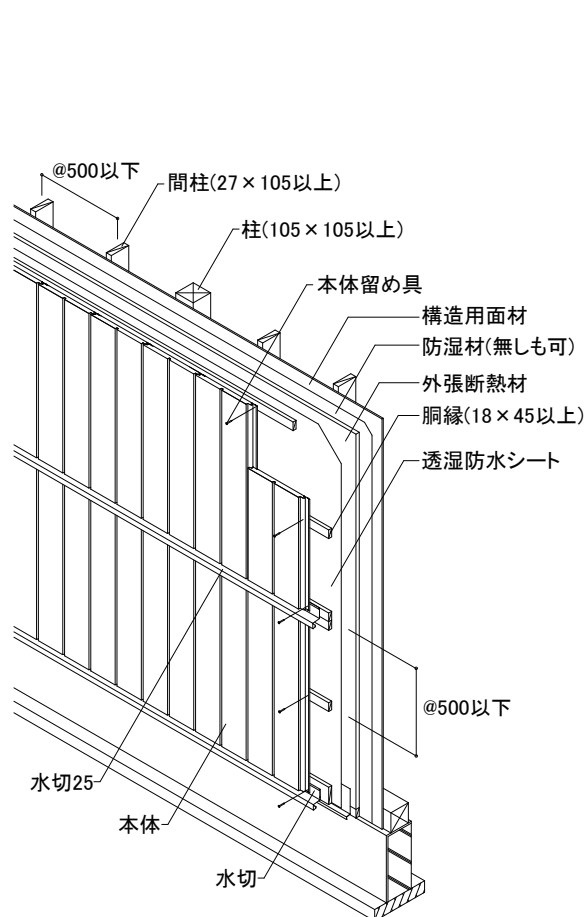
準防火

通気

外張断熱

ボード状断熱材の外張断熱工法に対応した準防火構造認定です。
せっこうボードなどの、内装材の制限がありません。真壁(内装側)にも対応します。

単位:mm



本体留め具

・スクルー<ぎ>(φ2.15×L38以上)またはねじ(φ3.1×L22以上)

外張断熱材

発泡プラスチック系

- ①フェノールフォーム保温板
- ②押出法ポリスチレンフォーム保温板
- ③硬質ウレタンフォーム保温板など

無機系

- ④グラスウール保温板
- ⑤ロックウール保温板

厚さ20mm以上105mm以下

構造用面材

- ・構造用合板
- ・構造用パネル(OSB)
- ・火山性ガラス質複層板HⅢ(JIS A 5440:2003)
- ・MDF
- ・パーティクルボード
- ・せっこうボード(JIS A 6901)など

厚さ7.5mm以上
厚さ9mm以上
厚さ9mm以上
厚さ7.5mm以上

・構造用面材用留め具
くぎまたはねじφ1.90×L32以上

・留め付け間隔
外周部150mm以下、中間部等200mm以下

内装材

・内装フリーに対応しています。

備考

・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造軸組

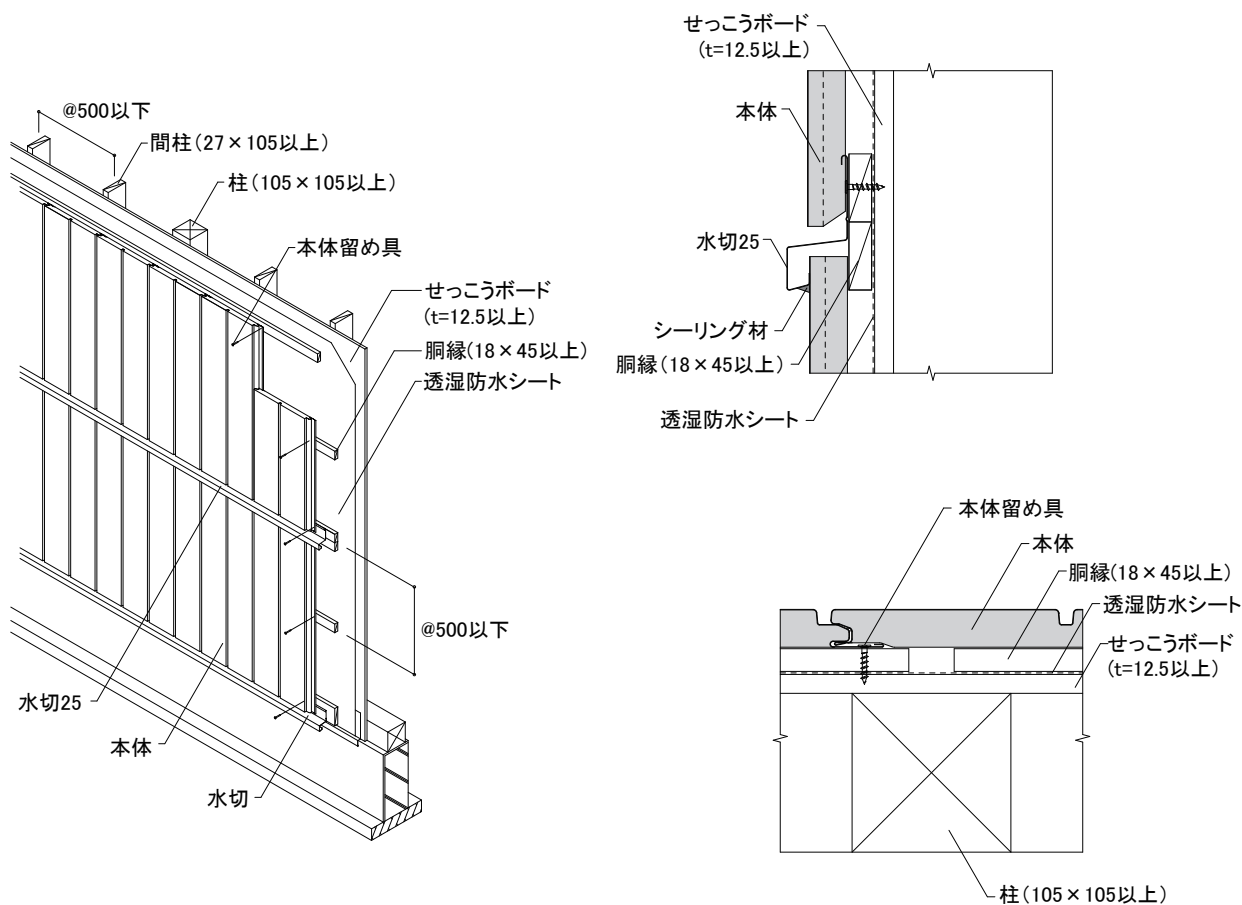
認定番号: QP020BE-0038

準防火

通気

構造用面材としてせっこうボードを使用する場合は、外張断熱材無しで使用できます。
真壁(内装側)にも対応します。

単位: mm



本体留め具		
・スクリューくぎ(φ2.15×L38以上)またはねじ(φ3.1×L22以上)		
構造用面材		
・せっこうボード(JIS A 6901)	厚さ12.5mm以上	・せっこうボード目地部には、せっこうボードメーカーが推奨する目地処理材を使用してください。
・構造用面材用留め具	くぎまたはねじ(φ1.90×L32以上)	
・留め付け間隔	外周部150mm以下、中間部等200mm以下	
内装材		
・内装フリーに対応しています。		
備考		
・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。		

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造軸組

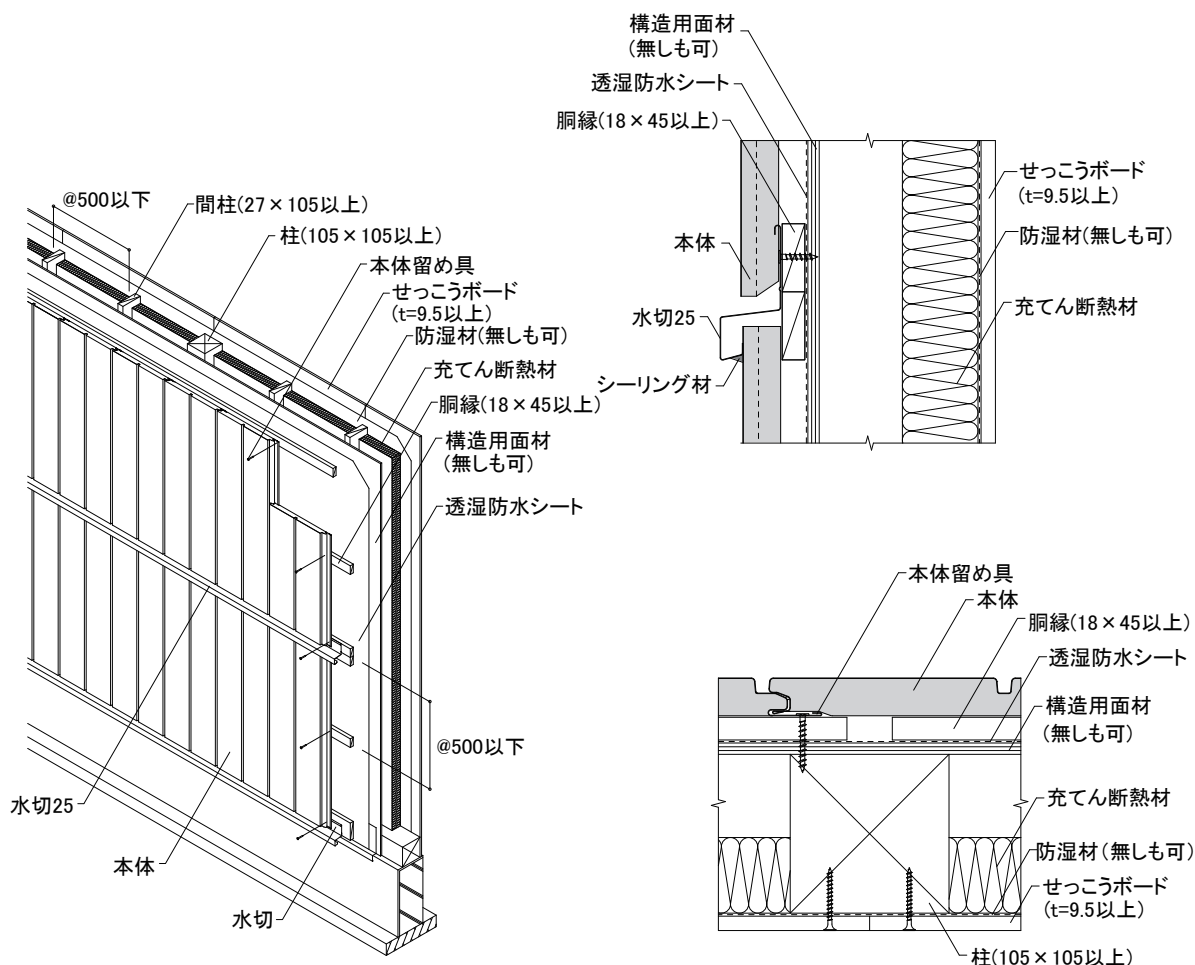
認定番号:PC030BE-0703

防火

通気

充てん断熱 無機繊維系

単位:mm



本体留め具		
・スクリークぎまたはねじ(φ2.15×L38以上)		
構造用面材		充てん断熱材
・なし	・火山性ガラス質複層板	・グラスウール ・ロックウール
・構造用合板	・MDFなど	
・構造用パネル(OSB)		
内装材		
・せっこうボード(JIS A 6901)	厚さ9.5mm以上	・せっこうボード目地部には、せっこうボードメーカーが推奨する目地処理材を使用してください。
・内装材用留め具	くぎまたは木ねじφ2.34×L38.7以上	
・留め付け間隔	外周150mm以下、中間部200mm以下	
備考		
・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。		

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造軸組

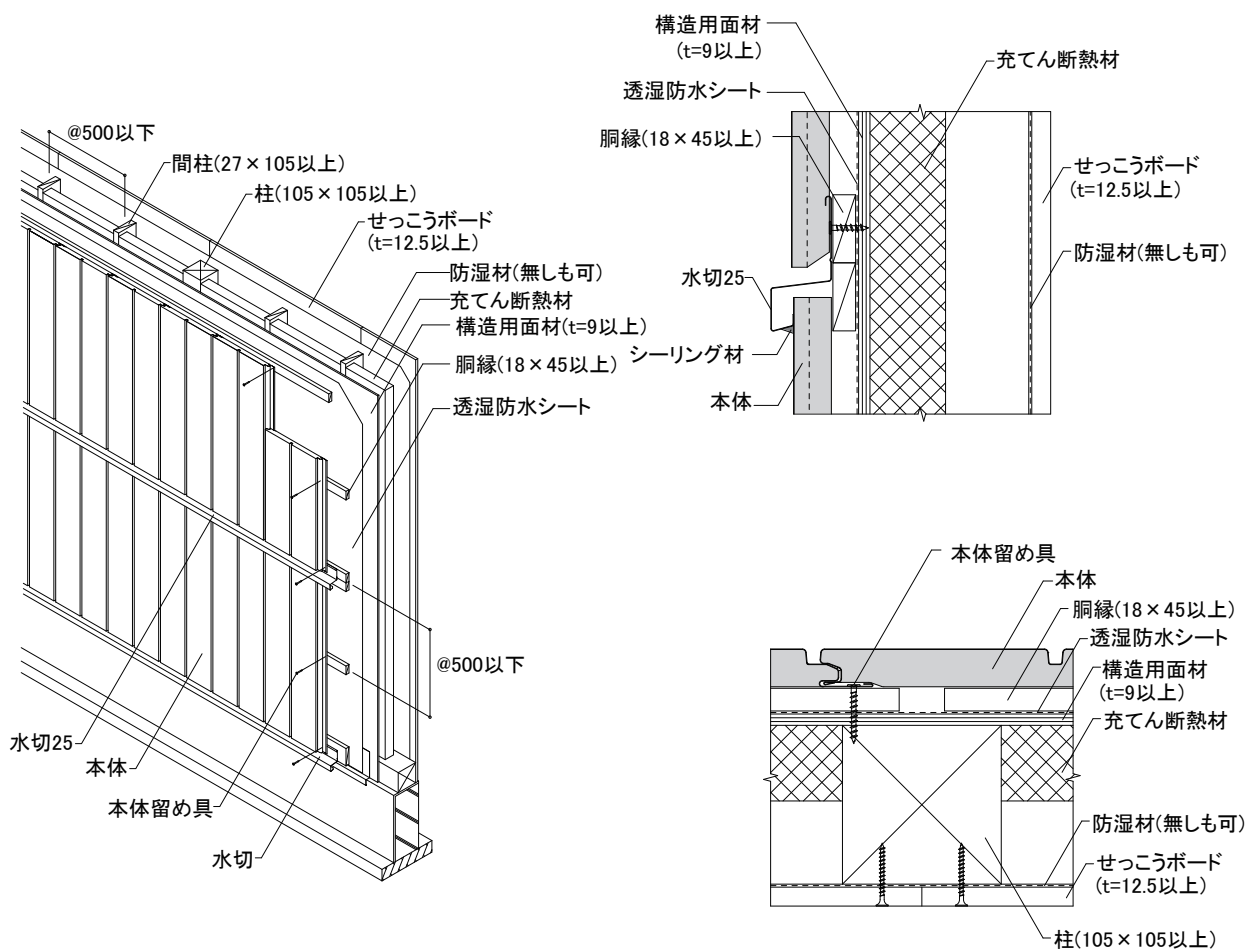
認定番号:PC030BE-0558

防火

通気

充てん断熱 発泡プラスチック系/無機繊維系

単位:mm



本体留め具

・スクリークぎまたはねじ(φ2.15×L38以上)

外張断熱材

・なし
・フェノールフォーム保温板
・押出法ポリスチレンフォーム保温板
・硬質ウレタンフォーム保温板など

構造用面材

・構造用合板
・構造用パネル(OSB)
・火山性ガラス質複層板
・MDF

・パーティクルボード
・せっこうボード(JIS A 6901)など

厚さ9mm以上

充てん断熱材

・フェノールフォーム保温板
・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材
・押出法ポリスチレンフォーム保温板
・硬質ウレタンフォーム保温板など

厚さ15mm以上105mm以下
または柱の見込み寸法以下

内装材

・せっこうボード(JIS A 6901)
・内装材用留め具
・留め付け間隔

厚さ12.5mm以上
くぎまたはねじ(φ2.34×L38.7以上)
外周部150mm以下、中間部200mm以下

・グラスウール
・ロックウール

密度10kg/m³以上
厚さ50mm以上

・せっこうボード目地部には、せっこうボードメーカーが推奨する目地処理材を使用してください。

備考

・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造軸組

認定番号:PC030BE-0536

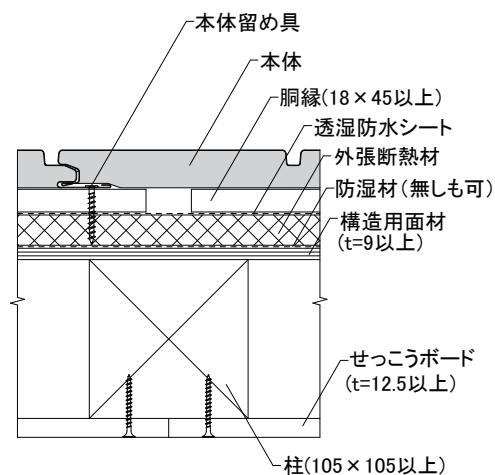
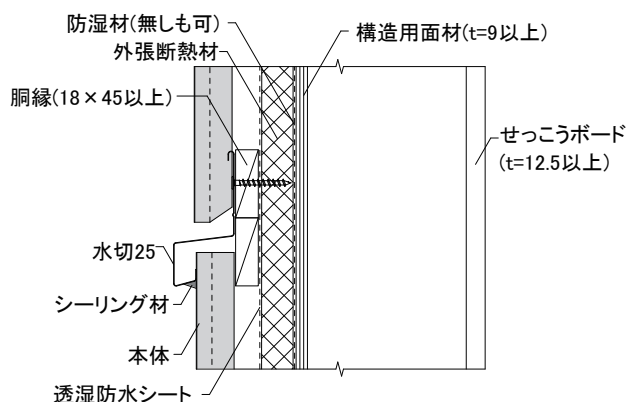
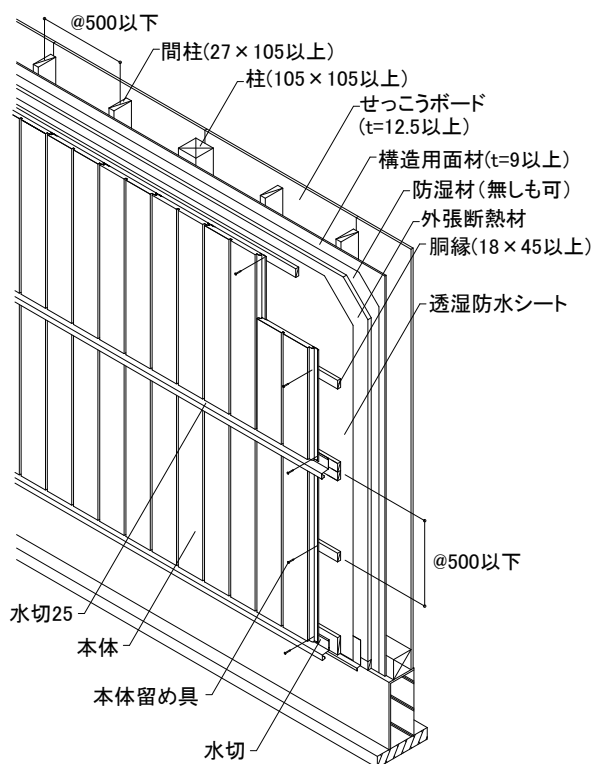
防火

通気

外張断熱

発泡プラスチック系断熱材の外張断熱工法に対応した防火構造認定です。
充てん断熱材も併用できます。真壁(内装側)にも対応します。

単位:mm



本体留め具			
・スクリークぎまたはねじ（φ2.15×L38以上）			
外張断熱材		構造用面材	
・フェノールフォーム保温板 ・押出法ポリスチレンフォーム保温板 ・硬質ウレタンフォーム保温板など	厚さ15mm以上105mm以下	・構造用合板 ・構造用パネル（OSB） ・火山性ガラス質複層板 ・MDF ・パーティクルボード ・せっこうボード（JIS A 6901）など	厚さ9mm以上 ・構造用面材用留め具 くぎまたはねじ（φ1.5×L19以上）
充てん断熱材		内装材	
・なし ・フェノールフォーム保温板 ・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム保温板 ・硬質ウレタンフォーム保温板など ・グラスウール ・ロックウール	・せっこうボード（JIS A 6901） ・内装材用留め具 ・留め付け間隔		厚さ12.5mm以上 くぎまたはねじ（φ2.34×L38.7以上） 外周部150mm以下、中間部200mm以下
		・せっこうボード目地部には、せっこうボードメーカーが推奨する目地処理材を使用してください。	
備考			
・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。			

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造枠組

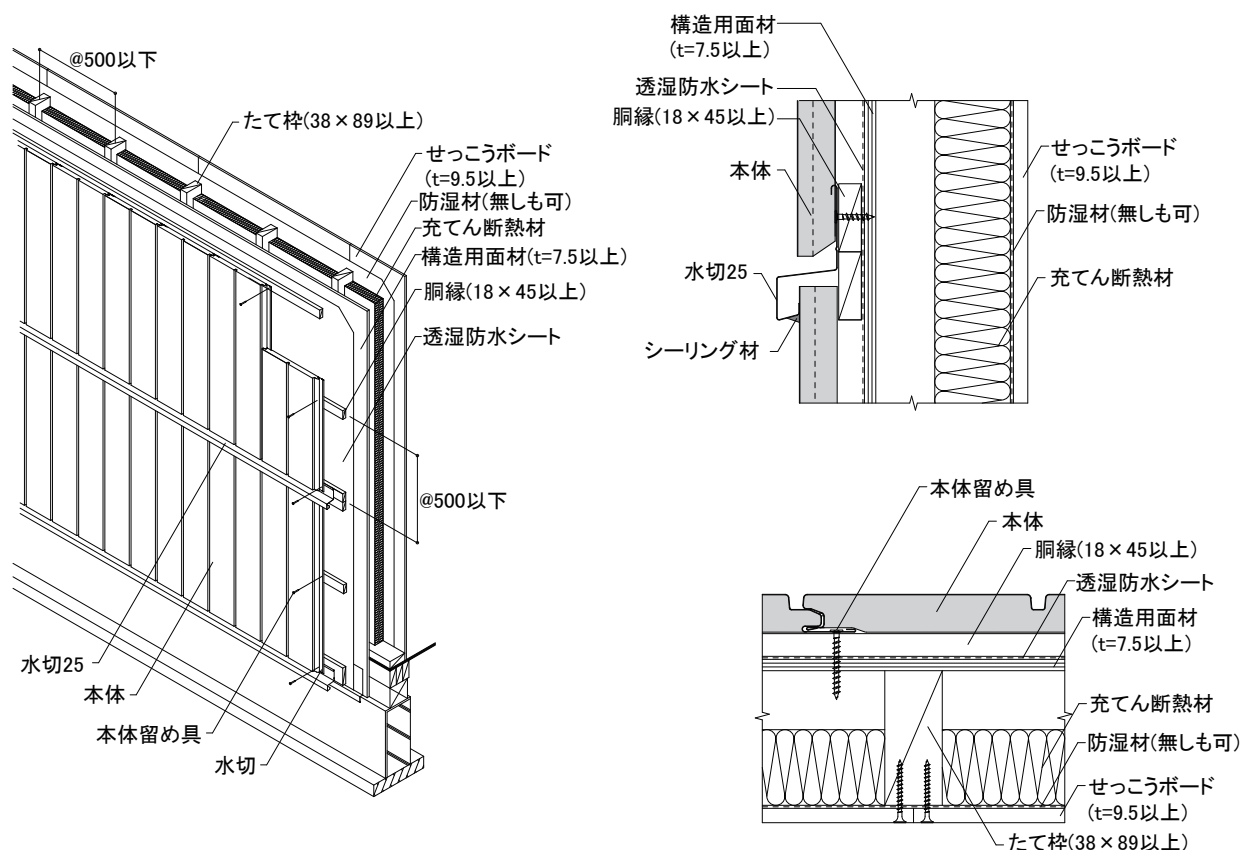
認定番号:PC030BE-0704

防火

通気

充てん断熱 無期繊維系

単位:mm



本体留め具			
・スクリークぎまたはねじ(φ2.15×L38以上)			
構造用面材		充てん断熱材	
・構造用合板 ・構造用パネル(OSB) ・火山性ガラス質複層板 ・パーティクルボード など	厚さ7.5mm以上	・グラスウール ・ロックウール	密度10kg/㎡以上 厚さ50mm以上
内装材			
・せっこうボード(JIS A 6901) ・内装材用留め具 ・留め付け間隔	厚さ9.5mm以上 くぎまたはねじφ2.34×L38.7以上 外周150mm以下、中間部200mm以下	・せっこうボードの目地部には、せっこうボードメーカーが推奨する目地処理材を施工してください。	
備考			
・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。			

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造枠組

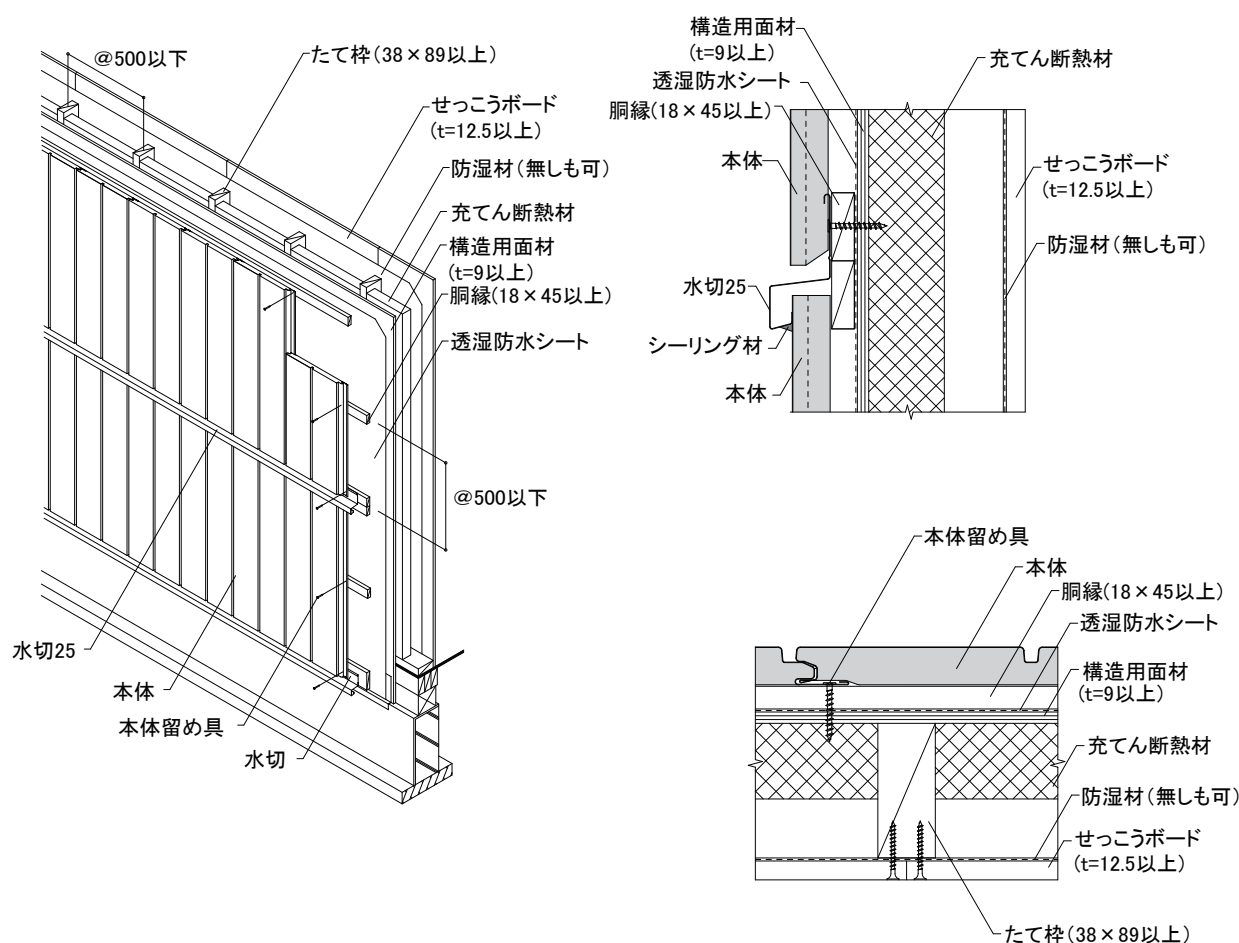
認定番号:PC030BE-0559

防火

通気

充てん断熱 発泡プラスチック系/無機繊維系

単位:mm



本体留め具

・スクリークぎまたはねじ (φ 2.15 × L38以上)

外張断熱材

・なし
・フェノールフォーム保温板
・押出法ポリスチレンフォーム保温板
・硬質ウレタンフォーム保温板など

構造用面材

・構造用合板
・構造用パネル (OSB)
・火山性ガラス質複層板
・MDFなど

厚さ9mm以上

充てん断熱材

・フェノールフォーム保温板
・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材
・押出法ポリスチレンフォーム保温板
・硬質ウレタンフォーム保温板など

厚さ15mm以上89mmまたは
たて枠の見込み寸法以下

内装材

・内装材用留め具
・せっこうボード (JIS A 6901)
・留め付け間隔

厚さ12.5mm以上
くぎまたはねじ (φ 2.34 × L38.7以上)
外周部150mm以下、中間部200mm以下

・グラスウール
・ロックウール

密度10kg/m³以上
厚さ50mm以上

・せっこうボードの目地部には、せっこうボードメーカーが推奨する目地処理材を施工してください。

備考

・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。

9. 防耐火認定

9-2. 防耐火構造認定

木造枠組

認定番号:PC030BE-0537

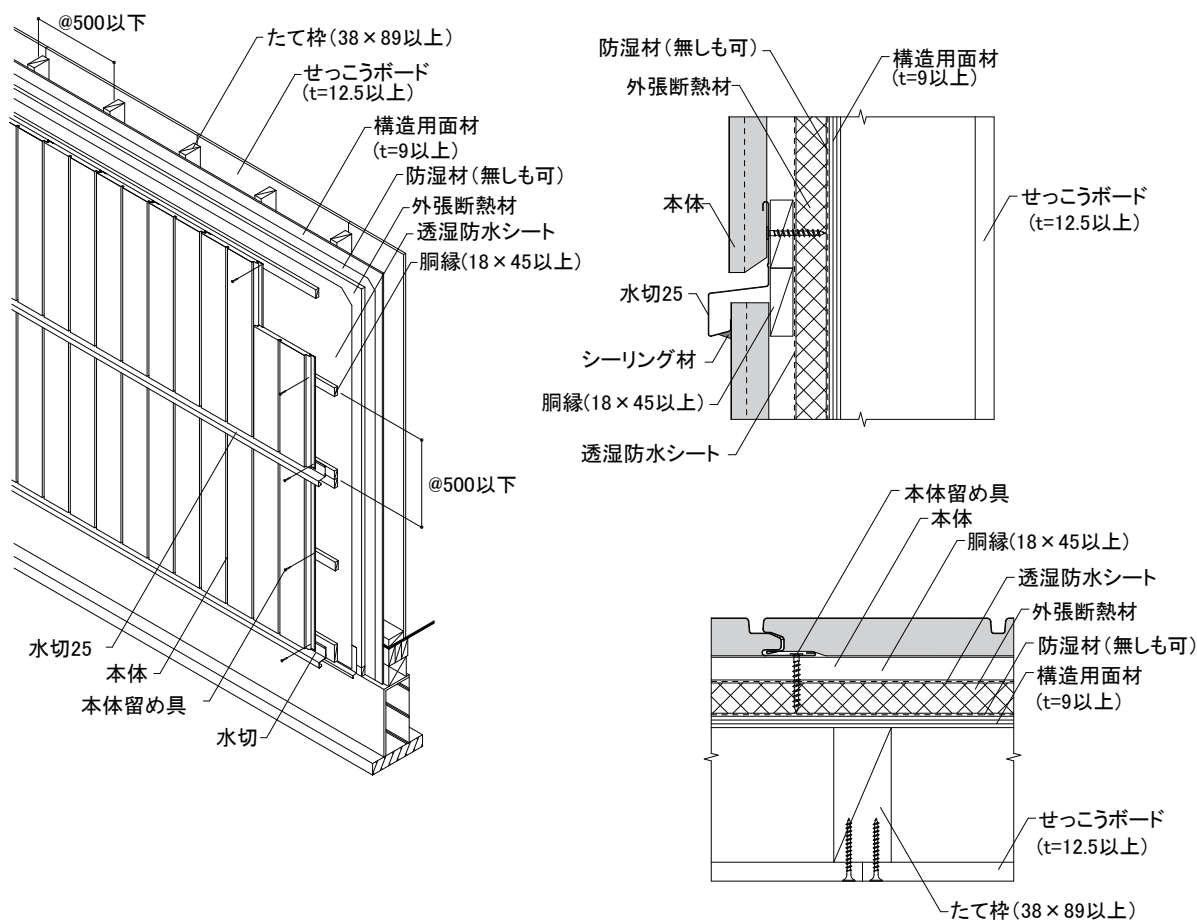
防火

通気

外張断熱

発泡プラスチック系断熱材の外張断熱工法に対応した防火構造認定です。
充てん断熱材も併用できます。

単位:mm



本体留め具		外張断熱材	
・スクリューくぎまたはねじ（φ2.15×L38以上）		・フェノールフォーム保温板 ・押出法ポリスチレンフォーム保温板 ・硬質ウレタンフォーム保温板など	厚さ15mm以上、105mm以下
構造用面材	充填断熱材	内装材	
・構造用合板 ・構造用パネル（OSB） ・火山性ガラス質複層板 ・パーティクルボード など	厚さ9mm以上 ・なし ・フェノールフォーム保温板 ・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム保温板 ・硬質ウレタンフォーム保温板など ・ロックウール ・グラスウール	・せっこうボード（JIS A 6901） ・せっこうボード用留め具 ・留め付け間隔	厚さ12.5mm以上 くぎまたはねじ（φ2.34×L38.7以上） 外周部150mm以下、中間部200mm以下
備考		・せっこうボードの目地部には、せっこうボードメーカーが推奨する目地処理材を施工してください。	
・縦継ぎ部にアルミ縦用スターター25を使用すると防耐火構造認定の対象外となります。			

10 物性一覧

「耐風圧試験」※1	木造下地	たて張り	Pa (kgf/m ²)	正圧:3,000(305)以上 負圧:4,000(407)
		たて張り (縦用スターター25使用時)	Pa (kgf/m ²)	正圧:3,000(305)以上 負圧:4,000(407)
		支持間隔	mm	500
		本体留め具	mm	木ねじφ4.8×L25※2
断熱性※3	しん材熱伝導率 [JIS A 1412-2]		W/mK (kcal/mh°C)	0.032 (0.027)
	熱貫流率 [JIS A 1420]		W/m ² K (kcal/m ² h°C)	1.39 (1.20)
	熱抵抗 [JIS A 1420]		m ² K/W (m ² h°C/kcal)	0.57 (0.66)
水密性(一般部) [JIS A 1414]		Pa (kgf/m ²)	平均圧力差 550 (56) で漏水なし	
音響透過損失(1,000Hz時) [JIS A 1416]		dB		23.9
耐食性(塩水噴霧) [JIS Z 2371]		hr		800以上

(1Pa=1N/m²)

・上記物性値データは参考値です。環境によって異なる数値になる場合があります。

※1 耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。

※2 スクリューくぎでの性能値は、別途お問い合わせください。

※3 熱伝導率、熱貫流率は数値が小さい方、熱抵抗は数値が大きい方が断熱性に優れています。熱抵抗は熱貫流率から算出した値です。

木造下地胴縁：18×45 mm

11 免責事項

次のような場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

- ・ 施工店様による、施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
- ・ 所有者、入居者、管理者の維持管理の不注意・装置の取り付け・改修・改築により不具合が生じた場合。
- ・ 所有者、入居者、管理者または第三者の故意・過失などにより不具合が生じた場合。
- ・ 天変地異・周囲環境・大気汚染・塩害などの特殊環境下で不具合が生じた場合。
- ・ 通常の経年変化による変色・汚れなどが生じた場合。
- ・ 建物の構造体に起因した変形・変位が原因で不具合が生じた場合。
- ・ シーリング部及び、現場塗装により不具合が生じた場合。
- ・ サイディング本体及び部材に付着した切粉・加工屑・落ち葉・動物の排出物・粉塵などが原因で不具合が生じた場合。
- ・ 水が滞留する部分の塗膜損傷及び電食作用が原因で不具合が生じた場合。
- ・ くぎ部のさびまたはもらいさび、及びカビによる汚染などが生じた場合。
- ・ 建築基準法及び、関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
- ・ 外壁以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。

その他ご不明な点などありましたら弊社にご相談ください。



アイジー工業株式会社

本 社	〒999-3716	山形県東根市蟹沢上縄目1816-12	TEL. 0237-43-1810	FAX. 0237-41-1810
東 京 営 業 所	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル6F	TEL. 03-3556-0341	FAX. 03-3556-0342
札 幌 営 業 所	〒003-0026	北海道札幌市白石区本通19丁目南2-7 食糧ビル5F	TEL. 011-863-0303	FAX. 011-860-2084
盛 岡 営 業 所	〒020-0022	岩手県盛岡市大通3-3-10 七十七日生盛岡ビル7F	TEL. 019-605-8050	FAX. 019-605-8051
仙 台 営 業 所	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-12 L.Biz仙台5F	TEL. 022-292-5405	FAX. 022-292-5406
宇都宮営業所	〒320-0811	栃木県宇都宮市大通り2-1-5 明治安田生命宇都宮大通りビル7F	TEL. 028-611-3483	FAX. 028-637-3005
新 潟 営 業 所	〒950-0912	新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54 日生南笹口ビル6F	TEL. 025-240-6718	FAX. 025-240-6719
富 山 営 業 所	〒930-0004	富山県富山市桜橋通り1-18 北日本桜橋ビル3F	TEL. 076-443-8621	FAX. 076-443-8622
名古屋営業所	〒460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内1-8-24 綿常第5ビル4F	TEL. 052-218-7885	FAX. 052-218-7886
大 阪 営 業 所	〒564-0051	大阪府吹田市豊津町9-1 EDGE江坂11F	TEL. 06-6310-9076	FAX. 06-6310-9077
福 岡 営 業 所	〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前3-30-23 博多管絃ビル2F	TEL. 092-474-5564	FAX. 092-474-5574

この施工説明書に掲載の商品は専門施工を必要とします。施工は専門施工店にご依頼ください。
商品改良などにより、予告なく仕様の一部を変更する場合がありますので、ご了承ください。

www.igkogyo.co.jp

